

# 青 森 県 の 教 育

—令和 3 年度の実績—

青 森 県 教 育 委 員 会



# 青 森 県 の 教 育

—令和 3 年度の実績—

青 森 県 教 育 委 員 会



青森県教育委員会 (R4.3.31現在)

教育長  
和嶋延寿



委員・教育長職務代理者  
野澤正樹



委員  
杉澤廉晴



委員  
平間恵美



委員  
戸塚学



委員  
新藤幸子





# も く じ

## 第1部 教育行財政

1章 青森県教育委員会	1
1節 青森県教育施策の方針	1
2節 教育長・教育委員	1
3節 事務局の機構・分掌事務	2
4節 附属機関	7
5節 会議の記録	12
6節 規則の制定改廃	15
2章 教育財政	16
1節 当初予算	16
2節 補正予算	28
3章 企画・調査・広報・情報化推進	29
1節 企画	29
2節 調査・統計	30
3節 広報・広聴	31
4節 教育行政における情報化の推進	32
4章 叙勲、表彰	35
1節 職員福利課関係	35
2節 学校教育課関係	37
3節 生涯学習課関係	37
4節 スポーツ健康課関係	38

## 第2部 教 職 員

1章 教職員の配置	49
1節 教職員の配置基準	49
2節 学級編制の基準	53
2章 教職員の異動	54

1節 小・中学校	54
2節 県立学校	56
3章 採用・昇任・退職	58
1節 採用・昇任	58
2節 退職勸奨	63
4章 給与等	64
5章 免許	65
6章 教職員研修・教育研究	67
1節 教職員研修	67
2節 教育研究	76
7章 教職員の福利厚生	81
1節 福利厚生の概要	81
2節 福利厚生事業	85
8章 教職員の人事評価制度	88

## 第3部 学校教育

1章 学校教育指導の方針と重点	89
2章 幼稚園教育	91
1節 幼稚園の概況	91
2節 幼保連携型認定こども園の概況	92
3節 教育課程・保育指導	92
3章 小・中学校教育	93
1節 学校の概況	93
2節 施設・設備	96
3節 生徒指導	98
4節 道徳教育	101
5節 へき地教育	102
6節 教科書採択	103
4章 高等学校教育	105



1節	学校の概況	105
2節	施設・設備	105
3節	教育課程	107
4節	学習指導	111
5節	生徒指導	112
6節	道徳教育	113
7節	進路指導	114
8節	産業教育	118
9節	定時制・通信制教育	118
10節	文化活動支援	120
11節	高等学校入学者選抜	123
12節	ドリカム人づくり推進事業	126
13節	高校から取り組む人口減少対策プロジェクト事業	126
14節	高等学校教育改革	127
<b>5章</b>	<b>特別支援教育</b>	<b>131</b>
1節	学校の概況	131
2節	障害のある子どもの早期からの一貫した支援	132
3節	施設・設備	133
4節	教育課程	134
5節	学習指導	135
6節	生徒指導	135
7節	道徳教育	135
8節	進路指導	136
<b>6章</b>	<b>情報教育</b>	<b>137</b>
<b>7章</b>	<b>国際理解教育</b>	<b>138</b>
1節	日本語指導が必要な児童生徒等の受入	138
2節	外国語教育	138
3節	在学教育施設への教員派遣	140

8章 私学教育	141
1節 私学教育の現状	141
2節 私立学校に対する助成	142
3節 私立学校審議会	145
9章 育英・奨学	146
1節 青森県育英奨学会	146

## 第4部 社会教育

1章 社会教育行政の方針と重点	149
2章 事業の概要	150
1節 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	150
2節 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成	164
3節 生涯を通じた学びと社会参加の推進	168
4節 社会教育推進のための基盤整備	170
3章 施設と職員の状況	174
1節 社会教育施設の状況	174
2節 社会教育関係職員の状況	176

## 第5部 体育・スポーツ

1章 体育・健康・スポーツ行政の方針と重点	179
2章 体        育	180
1節 学校体育	180
2節 学校保健	183
3節 学校安全	185
4節 学校における食育・学校給食	186
3章 スポーツ	188
1節 スポーツ活動の拡充	188
2節 スポーツ団体	190
3節 体育・スポーツ施設	191

## 第6部 文 化

1章 文化財保護行政の方針と重点	195
2章 文 化 財	196
1節 文化財の指定等	196
2節 文化財の調査	198
3節 文化財の公開・文化財保護思想の普及等	200
4節 文化財の修理・環境整備等	202
3章 博 物 館 等	203

## 第7部 教育機関等

1章 青森県立図書館・青森県近代文学館	207
2章 県立少年自然の家	223
1節 梵珠少年自然の家	223
2節 種差少年自然の家	228
3章 青森県総合社会教育センター	233
4章 青森県総合学校教育センター	252
5章 青森県営体育施設	277
6章 青森県立郷土館	295
7章 青森県埋蔵文化財調査センター	302
8章 三内丸山遺跡センター	305



# 第1部 教育行財政



# 第1部 教育行財政

## 1章 青森県教育委員会

### 1節 青森県教育施策の方針

青森県教育委員会は、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く<sup>ひら</sup>人づくりを目指します。このため、  
夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育  
学びを生かし、つながりをつくり出す社会教育  
次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用  
活力、健康、感動を生み出すスポーツ  
を、市町村教育委員会、家庭や地域社会との連携を図りながら推進します。  
平成26年1月8日決定

### 2節 教育長・教育委員

(令和4年3月31日現在)

	(氏名)	(任年月日)
教 育 長	和 嶋 延 寿	平成30年4月1日
委員・教育長職務代理者	野 澤 正 樹	令和元年10月10日
委 員	杉 澤 廉 晴	平成30年12月20日
委 員	平 間 恵 美	令和2年10月1日
委 員	戸 塚 学	令和2年10月1日
委 員	新 藤 幸 子	令和3年12月27日

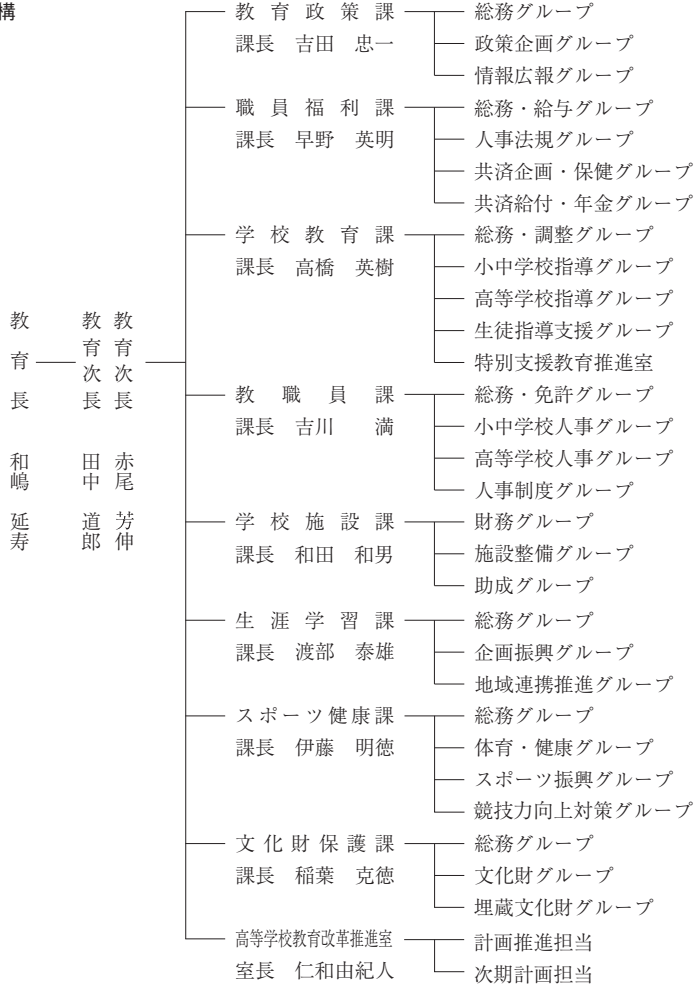
(委員の異動)

・令和3年12月27日付けで、新藤幸子氏が委員に任命された。

任期は令和3年12月27日から令和7年12月26日まで

### 3節 事務局の機構・分掌事務

#### 1 機 構



(出先機関)

東青教育事務所	所長 外崎 学
西北教育事務所	所長 木村 秀樹
中南教育事務所	所長 小館 孝浩
上北教育事務所	所長 福士 浩司
下北教育事務所	所長 白戸 克幸
三八教育事務所	所長 赤石 光弘
青森県埋蔵文化財調査センター	所長 葛西 浩一

(教育機関)

青森県立図書館	館長 佐藤 禎人
青森県立梵珠少年自然の家	所長 川村 和夫
青森県総合社会教育センター	所長 大館 利章
青森県総合学校教育センター	所長 三戸 延聖
青森県立郷土館	館長 佐藤 久常
三内丸山遺跡センター	教育次長(所長) 田中 道郎



## 2 分 掌 事 務

本庁及び出先機関並びに学校以外の教育機関の分掌事務は、次のとおりである。

### (1) 本 庁 教 育 政 策 課

- 総務グループ 教育委員会会議、秘書、課内総務、課予算・決算・監査、地球にやさしい青森県行動プラン総括、災害対策総括、県議会との連絡調整、教育庁議、総合教育会議
- 政策企画グループ 教育の全体計画、政策立案・調整、知事部局等との連絡調整、青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦、政策点検、行財政改革、「選ばれる青森」への挑戦重点枠事業、教育委員会の事務の点検・評価、予算・決算総括、監査総括
- 情報広報グループ 調査統計、教育行政情報化の総合調整、教育行政情報システムの企画調整・運用・管理・保守、教育行政情報の処理、教育委員会ホームページの管理・運営、広報・広聴（教育行政相談含む）

### 職 員 福 利 課

- 総務・給与グループ 課内庶務、県予算・決算、財形貯蓄、個人型確定拠出年金、教職員給与費・旅費、給与制度、恩給、給与電算処理
- 人事法規グループ 事務局職員の人事・組織・サービス・公務災害・研修、地教委指導助言、栄典、公益法人、法規・文書審査、文書収受・発送、定期健康診断・安全衛生管理（学校職員を除く。）
- 共済企画・保健グループ 共済組合予算・決算・掛金・負担金、生涯生活設計支援事業、住宅資金等貸付、保健事業、健康相談、健康意識啓発事業
- 共済給付・年金グループ 共済組合員証の認定・取消、短期給付(医療関係)、長期給付(年金関係)

### 学 校 教 育 課

- 総務・調整グループ 課内予算・決算、課内庶務、教科書無償給与、補助金、総合学校教育センターとの連絡調整
- 小中学校指導グループ 市町村立幼稚園、小学校及び中学校並びに県立中学校の教育課程、学習指導、キャリア教育・進路指導並びに学校教育に関する専門的事項の指導、教科用図書採択、県立中学校入学者選抜、教科用図書選定審議会
- 高等学校指導グループ 県立高等学校の教育課程、学習指導、キャリア教育・進路指導並びに学校教育に関する専門的事項の指導、教科用図書採択、県立高等学校入学者選抜、全国産業教育フェア
- 生徒指導支援グループ 市町村立幼稚園、小学校及び中学校並びに県立中学校及び高等学校の生徒指導に関する専門的事項の指導、いじめ防止対策審議会
- 特別支援教育推進室 特別支援学校の設置・管理・廃止、定数・任免・服务等、特別支援学校の教育課程、学習指導、生徒指導及びキャリア教育・進路指導並びに特別支援教育に関する専門的事項の指導、教科用図書採択、就学奨励、医療的ケア

## 教 職 員 課

- 総務・免許グループ 課内庶務、課内予算・決算、教職員表彰、教員免許状、免許法認定講習、青森県育英奨学会
- 小中学校人事グループ 公立小・中学校の設置・廃止、学級編制、定数、人事、事務の共同実施、管理運営の指導・助言、公立幼稚園の設置・廃止、在外教育施設派遣
- 高等学校人事グループ 高等学校の人事、北海道・北東北3県人事交流、管理職選考、再任用、定数、管理運営の指導・助言、定時制通信制課程修学奨励金
- 人事制度グループ 学校職員の服務・勤務条件・分限・懲戒、公務災害、教職員団体との連絡調整、教職員の人事評価制度、指導改善研修、精神性疾患休職等審査会

## 学 校 施 設 課

- 財 務 グ ル ー プ 課内庶務、事務局費、県立学校の管理費・実習費、産業教育・理科教育等設備、県立高等学校授業料、庁内物品調達・管理、県立学校の財務事務、県立高等学校等就学支援金、奨学のための給付金
- 施設整備グループ 県立学校施設の整備・建築計画、財産の取得、教育財産の維持管理、県立学校の大規模改修、閉校校舎等の利活用、教職員住宅の整備、県立学校施設の建築工事・設備工事・土木工事の調査設計及び施工監理、県立学校施設の災害復旧
- 助 成 グ ル ー プ 公立学校施設整備費国庫負担（交付）金、市町村立学校施設の調査、市町村立学校施設整備事業の建築工事・設備工事・土木工事の指導助言、市町村立学校施設の災害復旧の指導助言

## 生 涯 学 習 課

- 総 務 グ ル ー プ 課内庶務、課内予算・決算、県有社会教育施設の管理運営、中学校卒業程度認定試験、高等学校卒業程度認定試験
- 企画振興グループ 生涯学習振興のための総合的な企画・調整及び施策の推進、県生涯学習審議会、県社会教育委員、公民館及び図書館の設置及び管理の指導、視聴覚教育、社会教育主事資格認定
- 地域連携推進グループ 学校・家庭・地域社会の連携による教育の推進、青少年・女性・成人及び家庭教育、社会教育関係団体及び社会教育を行う者に対する指導助言

## ス ポ ー ツ 健 康 課

- 総 務 グ ル ー プ 課内庶務、予算・決算、県有体育施設の管理・運営、市町村体育施設及び学校給食施設国庫補助、独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金及び給付、県有体育施設の整備
- 体育・健康グループ 教育課程（体育、保健体育）、学校体育関係事業、運動部活動関係事業、健康教育推進事業、学校環境衛生指導、学校安全指導、学校医の委嘱、学校における食育、学校給食に関する指導、学校職員の健康管理、学校給食関係補助事業
- スポーツ振興グループ 生涯スポーツの推進、競技スポーツの推進、県スポーツ協会連絡調整、市町村スポーツ行政に係る事項、県スポーツ推進審議会、県スポーツ推進委員協議会、県広域スポーツセンター
- 競技力向上対策グループ 第80回国民スポーツ大会に向けた競技力の向上、県スポーツ科学センター運営

## 文化財保護課

- 総務グループ 課内庶務、予算・決算、郷土館連絡調整、青森県ユネスコ協会
- 文化財グループ 有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物等の保護、文化財保護審議会、銃砲刀剣類登録審査会、博物館関係
- 埋蔵文化財グループ 埋蔵文化財の保護、埋蔵文化財調査センター連絡調整、三内丸山遺跡センター連絡調整

## 高等学校教育改革推進室

県立高等学校教育改革、県立中学校及び高等学校の設置・廃止、課程・学科の設置・廃止、学級編制

### (2) 出先機関

- |  |   |      |  |
|--|---|------|--|
| 東青教育事務所<br>西北教育事務所<br>中南教育事務所<br>上北教育事務所<br>下北教育事務所<br>三八教育事務所 | } | ○総務課 | 所内庶務、小・中学校教職員の人事・給与、免許、小・中学校の設置・廃止、学級編制、公務災害 |
|  |   | ○教育課 | 学校教育に関する専門的な事項の指導、生涯学習及び社会教育                 |

## 埋蔵文化財調査センター

- 総務グループ 所内庶務、予算経理、施設設備の管理
- 調査第一グループ 埋蔵文化財の発掘調査、埋蔵文化財の研究及び報告書の刊行、埋蔵文化財の調査・保存に関する市町村支援、埋蔵文化財の情報収集、埋蔵文化財保護の啓発
- 調査第二グループ 埋蔵文化財の発掘調査、埋蔵文化財の研究及び報告書の刊行、埋蔵文化財の調査・保存に関する市町村支援、埋蔵文化財の情報収集、埋蔵文化財保護の啓発
- 調査第三グループ 埋蔵文化財の発掘調査、埋蔵文化財の研究及び報告書の刊行、出土品の整理・保存・活用、埋蔵文化財の調査・保存に関する市町村支援、埋蔵文化財の情報収集、埋蔵文化財保護の啓発

### (3) 教育機関

#### 図書館

- 企画支援課 図書館運営の企画、協力用・館外奉仕用図書資料の収集・整理・保存・除籍、市町村図書館等の援助・協力、図書館資料の相互貸借、館内庶務、行政・産業支援、予算経理、財産及び物品管理、コンピュータシステム運用・管理、総合社会教育センターとの連絡調整、アウトリーチサービス、図書館協議会
- 奉仕課 図書館資料の収集・整理・保存・除籍・寄託、図書館資料の利用提供、参考事務、館内奉仕
- 近代文学館 文学資料の収集・整理・保存・除籍・寄託、文学資料の展示・利用提供、文学資料の調査研究、特別展・企画展の企画・開催

- |                      |   |      |                   |
|----------------------|---|------|-------------------|
| 梵珠少年自然の家<br>種差少年自然の家 | } | ○総務課 | 所内庶務、予算経理         |
|                      |   | ○研修課 | 研修団体の指導、利用研修の企画調整 |

### 総合社会教育センター

- 総務課 所内庶務、予算経理、施設管理、総合社会教育センター運営協議会
- 育成研修課 社会教育に関する調査・研究、社会教育に関する指導者等の養成、視聴覚教育指導者の研修・養成、社会教育に関する情報の収集・提供
- 教育活動支援課 社会教育に関する学習方法の研究、社会教育の担当者、支援者等の研修・支援、家庭教育及び子育てに関する研修・相談、視聴覚教材の作成・提供、社会教育に関する教材及び事業の開発

### 総合学校教育センター

- 総務課 所内庶務、予算経理、施設管理
- 義務教育課 幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校及び中学校における教育内容、教育方法、学校経営等に関する研修・研究  
幼稚園、小学校及び中学校における教育に関する資料及び情報の収集・提供
- 高校教育課 高等学校における教育内容、教育方法、学校経営等に関する研修・研究  
高等学校における教育に関する資料及び情報の収集・提供
- 特別支援教育課 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に係る教育内容、教育方法、学校経営等に関する研修・研究  
特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に係る教育相談、特別支援教育に関する資料及び情報の収集・提供
- 産業教育課 産業教育及び情報教育に関する研修・研究、資料及び情報の収集・提供
- 教育相談課 生徒指導・教育相談に関する研修・研究、資料及び情報の収集・提供  
教育相談及び不登校の児童生徒に係る適応指導

### 郷土館

- 総務課 館内庶務、予算経理、財産管理・保全
- 学芸課 郷土館資料の調査研究、資料の収集及び整理、展示の企画と実施、展示資料の案内・解説

### 三内丸山遺跡センター

- 総務課 所内庶務、予算経理、施設管理、許認可事務、広報、普及啓発
- 保存活用課 三内丸山遺跡の発掘調査、関連する調査研究、遺跡・出土品の保存、資料の展示と説明、体験学習の実施、図録等の作成

## 4節 附 属 機 関

### 1 青森県教科用図書選定審議会委員

(令和3年5月17日現在)

号	氏 名	所 属 ・ 職 名
一 号 委 員	赤 坂 裕 子	青森市立浪打小学校 校長
	神 和 宏	青森市立戸山中学校 校長
	小笠原 一 恵	青森県立青森第一養護学校 校長
	武 井 まゆみ	青森市立荒川中学校金浜分教室 教頭
	田 中 優 子	青森市立浪打小学校 教諭
	今 川 香 織	十和田市立三本木小学校 教諭
二 号 委 員	成 田 一 二 三	青森市教育委員会 教育長
	吉 崎 博	蓬田村教育委員会 教育長
	平 川 公 明	つがる市教育委員会 指導課長
	赤 石 光 弘	三八教育事務所 所長
	芋 田 智 恵 子	青森県総合学校教育センター 副所長
三 号 委 員	安 田 奈 津 子	中南教育事務所 主任指導主事
	佐 藤 三 三	青森公立大学 特別教授
	甲 田 隆	弘前大学教育学部 教授
	山 子 泰 典	青森県P T A連合会 理事
	栩 内 伸 治	青森県P T A連合会 理事
	小 向 香 織	青森県P T A連合会 理事

任期：令和3年5月17日～令和3年8月31日

### 2 青森県いじめ防止対策審議会委員

(令和2年7月30日現在)

No.	氏 名	所 属 等
1	沼 田 徹	沼田法律事務所
2	田 中 治	青森県立精神保健福祉センター所長
3	内 海 隆	青森公立大学特別教授
4	関 谷 道 夫	青森県公認心理師・臨床心理士協会顧問
5	鳴 海 春 輝	青森県社会福祉士会会長
6	加 川 香 寿 美	青森県高等学校P T A連合会

任期：令和2年7月30日～令和4年7月29日

### 3 第15期青森県生涯学習審議会委員

(令和4年3月31日現在)

No.	氏名	所 属 等
1	越戸 順子	八戸市立白銀南小学校 校長
2	齋藤 郁子	青森県立三沢高等学校 校長
3	小寺 将太	一般社団法人tsumugu 代表理事
4	米田 大吉	特定非営利活動法人プラットフォームあおもり 理事長
5	中村 奈津世	八戸市立小中野中学校 学校支援コーディネーター
6	吉川 康久	前公益社団法人青森青年会議所 特別顧問
7	永澤 正己	板柳町教育委員会 教育長
8	小向 香織	青森県PTA連合会 副会長
9	工藤 貴子	あおもり家庭教育アドバイザー
10	柏谷 至	青森大学社会学部 教授
11	深作 拓郎	弘前大学教育学部 講師
12	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 准教授
13	山崎 結子	外ヶ浜町 町長
14	小笠原 秀樹	特定非営利活動法人あおもりラジオクラブ 理事
15	岩本 美和	青森市地域学校協働活動推進員

任期：令和2年10月19日～令和4年10月18日

### 4 第35期青森県社会教育委員

(令和4年3月31日現在)

No.	氏名	所 属 等
1	越戸 順子	八戸市立白銀南小学校 校長
2	吉川 康久	前公益社団法人青森青年会議所 特別顧問
3	永澤 正己	板柳町教育委員会 教育長
4	工藤 貴子	あおもり家庭教育アドバイザー
5	深作 拓郎	弘前大学教育学部 講師
6	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 准教授
7	小笠原 秀樹	特定非営利活動法人あおもりラジオクラブ 理事
8	岩本 美和	青森市地域学校協働活動推進員

任期：令和2年10月19日～令和4年10月18日

### 5 青森県立図書館協議会委員

(令和4年3月31日現在)

No.	氏名	所 属 等
1	大里 公子	藤崎町立常盤小学校 校長

No.	氏 名	所 属 等
2	竹 浪 廣 美	青森県立五所川原高等学校教諭
3	松 井 京 子	(一社)八戸市読書団体連合会理事
4	須 藤 紀 子	五所川原市立図書館次長
5	玉 川 玲 子	おいらせ町家庭教育支援チームしるくはあと代表
6	相 木 麻 季	東奥日報社編集局生活文化部長
7	宇 藤 裕 夫	田子町教育委員会教育長
8	生 島 美 和	帝京大学教育学部准教授
9	佐 藤 宰	青森市在住 (公募委員)
10	平 井 美 史	むつ市在住 (公募委員)

任期：令和2年5月13日～令和4年5月12日

## 6 青森県スポーツ推進審議会委員

(令和4年3月31日現在)

No.	氏 名	所属先における役職等
1	小山内 陸 子	南地方小学校教育研究会体育部会副会長
2	川 畑 智 子	青森県スポーツ推進委員協議会委員 (女性委員会副委員長)
3	澤 田 孝 頼	青森県中学校体育連盟 会長
4	鹿 内 葵	NPO法人スポネット弘前 理事長
5	下川原 堅 藏	青森県高等学校体育連盟 会長
6	津 田 英 一	青森県スポーツドクターの会 理事
7	中 嶋 亜 弥	あおもりアスリートネットワークメンバー
8	成 田 一二三	青森県市町村教育委員会連絡協議会教育長会 会長
9	迫 祐 子	青森県空手道連盟強化委員会委員
10	東 山 国 男	一般財団法人青森県身体障害者福祉協会 会長
11	船 場 亜 希	青森県スケート連盟強化委員
12	法 官 新 一	学校法人光星学院 理事長
13	本 間 正 行	弘前大学 名誉教授
14	増 田 あけみ	青森県女子体育連盟 会長
15	目 澤 伸 一	青森県スポーツ推進委員協議会 会長
16	六 角 正 人	青森観光コンベンション協会 専務理事
17	大 野 智 子	青森県立保健大学健康科学部栄養学科准教授

任期：令和3年11月13日～令和5年11月12日

7 青森県文化財保護審議会委員

(令和4年3月31日現在)

氏名	分野	備考
岡田俊治	建造物	
斎藤政人	建造物	
石川善朗	工芸品	
山田泰子	絵画	
福井敏隆	歴史資料	
藤田俊雄	歴史資料	
下田雄次	芸能	
外崎純一	有形・無形民俗	
山田巖子	有形・無形民俗	
工藤竹久	史跡	
兵藤勝幸	名勝	
岡田あゆみ	動物	
山岸洋貴	植物	
柴田真理子	学校教育	

任期：令和2年4月9日～令和4年4月8日

8 銃砲刀剣類登録審査委員

(令和4年3月31日現在)

氏名	備考
杉本孝	
竹内正光	
細越敬喜	
山内正勝	

任期：令和2年5月13日～令和4年5月12日



## 9 青森県立郷土館協議会委員

(令和4年3月31日現在)

氏名	分野	備考
長根 朋子	学校教育	
工藤 規正	学校教育	
長尾 眞理	学校教育	
鹿内 亜理	学校教育	
大鷹 依子	社会教育	
石岡 有佳子	社会教育	
葛西 貢造	社会教育	
川村 優子	社会教育	
工藤 清泰	学識経験	(考古)
葉山 茂	学識経験	(博物館・人文)
安田 勝寿	学識経験	(博物館)
齋藤 信夫	学識経験	(自然)

任期：令和3年10月21日～令和5年10月20日

## 5 節 会議の記録

### 1 令和3年度教育委員会会議

#### ○第867回定例会（R3.4.2教育委員会室）

- 報告第1号 青森県公立学校教員採用候補者選考試験における改善事項等について  
報告第2号 特別国民体育大会冬季大会スケート競技会及びアイスホッケー競技会の本県開催について
- 議案第1号 青森県立図書館協議会委員の人事について（決定）  
そ の 他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画の構成及び方向性（学校・学科の充実及び魅力ある高校づくり）等について

#### ○第868回定例会（R3.5.12教育委員会室）

- 議案第1号 令和3年度青森県教科用図書選定審議会委員の人事について（決定）  
議案第2号 青森県スポーツ推進審議会委員の人事について（決定）  
議案第3号 県名勝の指定解除について（決定）  
そ の 他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画の方向性（学校規模・配置）について

#### ○第869回定例会（R3.6.2教育委員会室）

- 議案第1号 令和4年度青森県立高等学校入学者選抜基本方針案（決定）  
議案第2号 令和4年度青森県立特別支援学校高等部入学者選抜基本方針案（決定）  
議案第3号 青森県立図書館協議会委員の人事について（決定）  
そ の 他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画の方向性（各地区の学校規模・配置等）について

#### ○第320回臨時会（R3.6.11教育委員会室）

- 陳情第1号 県立高等学校教育改革に係る件について  
議案第1号 令和4年度青森県立中学校入学者選抜基本方針案（決定）  
議案第2号 議案に対する意見について（決定）  
そ の 他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画の方向性（各地区の学校規模・配置等）について

#### ○第870回定例会（R3.7.7教育委員会室）

- そ の 他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）について  
そ の 他 職員の懲戒処分状況について

#### ○第871回定例会（R3.8.4教育委員会室）

- 陳情第1号 県立高等学校教育改革に係る件について  
議案第1号 押印を求める手続の見直し等のための関係規則の一部を改正する規則案（決定）  
そ の 他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）に関するパブリック・コメント及び地区懇談会の実施状況について  
そ の 他 職員の懲戒処分状況について

○第872回定例会 (R3.9.1教育委員会室)

- 陳情第1号 県立高等学校教育改革に係る件について  
議案第1号 令和3年度青森県教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書について(決定)  
その他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)に関する地区懇談会における意見等について

○第873回定例会 (R3.10.6教育委員会室)

- 報告第1号 議案に対する意見について  
報告第2号 行政文書一部開示決定処分に対する審査請求に係る裁決について  
陳情第1号 県立高等学校教育改革に係る件について  
議案第1号 青森県立郷土館協議会委員の人事について(決定)  
その他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)に関する地区懇談会における意見等について

○第321回臨時会 (R3.10.21教育委員会室)

- 報告第1号 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について  
陳情第1号 県立高等学校教育改革に係る件について  
議案第1号 令和4年度青森県教育委員会事務局及び教育機関(学校を除く。)の職員人事異動方針案(決定)  
議案第2号 令和4年度県費負担教職員人事異動方針案(決定)  
議案第3号 令和4年度県立学校職員人事異動方針案(決定)  
議案第4号 令和4年度青森県立高等学校及び青森県立中学校入学者募集人員について(決定)  
議案第5号 令和4年度青森県立特別支援学校高等部及び専攻科入学者募集人員について(決定)  
その他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)に関する地区懇談会における意見等について

○第874回定例会 (R3.11.4教育委員会室)

- 陳情第1号 県立高等学校教育改革に係る件について  
議案第1号 青森県スポーツ推進審議会委員の人事について(決定)  
その他 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)に関する地区懇談会における意見等について  
その他 職員の懲戒処分の状況について

○第322回臨時会 (R3.11.12教育委員会室)

- 陳情第1号 県立高等学校教育改革に係る件について  
議案第1号 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画について(決定)

○第875回定例会 (R3.12.8教育委員会室)

- 報告第1号 議案に対する意見について  
報告第2号 行政文書一部開示決定に対する審査請求に係る青森県情報公開・個人情報保護審査会への諮問について  
その他 職員の懲戒処分の状況について

○第876回定例会（R4.1.5教育委員会室）

- 報告第1号 市町村立学校職員の人事について  
議案第1号 市町村立学校職員の人事について（決定）  
その他 職員の懲戒処分状況について

○第877回定例会（R4.2.17教育委員会室）

- 報告第1号 議案に対する意見について  
議案第1号 青森県教育委員会と国立大学法人東京学芸大学との先導的教育プログラム研究開発における連携協力に関する協定について（決定）  
議案第2号 青森県教育委員会の事務の委任等に関する規則の一部を改正する規則案（決定）  
議案第3号 青森県教育委員会事務局及び教育機関（学校を除く。）の職員の人事について（決定）  
議案第4号 市町村立学校職員の人事について（決定）  
議案第5号 県立学校職員の人事について（決定）

○第878回定例会（R4.3.25教育委員会室）

- 報告第1号 議案に対する意見について  
報告第2号 行政文書不開示決定に対する審査請求に係る青森県情報公開・個人情報保護審査会への諮問について  
議案第1号 青森県文化財保護審議会委員の人事について（決定）  
議案第2号 青森県古式銃砲刀剣類の登録審査委員の人事について（決定）  
議案第3号 青森県立学校学則の一部を改正する規則案（決定）  
議案第4号 青森県立学校管理規則の一部を改正する規則案（決定）  
議案第5号 青森県三内丸山遺跡センター規則の一部を改正する規則案（決定）  
議案第6号 県重宝及び県無形民俗文化財の指定について（決定）  
その他 県立高等学校における全国からの生徒募集の導入について  
その他 職員の懲戒処分状況について

2 令和3年度総合教育会議

○第14回会議（R3.5.21第三応接室）

- 議 事 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画策定に向けた対応について

○第15回会議（R3.10.19第三応接室）

- 議 事 本県教育の現状と課題を踏まえた教育施策の方向性について

## 6節 規則の制定改廃

規則番号	施行年月日	規 則 名	主 な 改 正 内 容
第1号	3.4.1	青森県立学校学則の一部を改正する規則	青森県立三本木農業恵拓高等学校等の設置、青森県立青森東高等学校平内校舎等の廃止並びに青森県立八戸工業高等学校等の学科の設置及び廃止に伴う所要の整備を行った。
第2号	3.8.25	押印を求める手続の見直し等のための関係規則の一部を改正する規則	県教育委員会が所管する行政手続のうち、県民・事業者等に押印を求める手続の見直し等に伴う所要の整備を行った。

## 2章 教育財政

### 1節 当初予算

#### 1 教育予算の概要

令和3年度の当初予算においては、「青森県教育施策の方針」及び「青森県教育振興基本計画」に基づき編成した結果、青森県教育委員会関係予算額は、

**1,248億7,299万7千円となり、一般会計予算総額の17.4%**

を占めることになった。この額を令和2年度当初予算額と比較すると、43億5,314万6千円の減額となり、その伸び率は3.4%の減となる。

#### (1) 当初予算総括表

(単位：千円、%)

区 分	令和3年度		令和2年度		前年度との比較	
	予算額	A 構成割合	予算額	B 構成割合	増減額 (A - B)	伸び率
一般会計予算総額	718,600,000	100.0	681,600,000	100.0	37,000,000	5.4
教育費(教育委員会所管分)	124,872,997	17.4	129,226,143	19.0	△ 4,353,146	△ 3.4

#### (2) 目的別予算内訳

(単位：千円、%)

区 分	令和3年度		令和2年度		前年度との比較		
	予算額	A 構成割合	予算額	B 構成割合	増減額 (A - B)	伸び率	
歳 入	使用料及び手数料	2,797,629	2.2	2,965,173	2.3	△ 167,544	△ 5.7
	国庫支出金	22,252,622	17.8	23,336,094	18.0	△ 1,083,472	△ 4.6
	財産収入	229,087	0.2	236,742	0.2	△ 7,655	△ 3.2
	寄附金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	繰入金	730,822	0.6	8,194	0.1	722,628	8,819.0
	諸収入	328,901	0.3	425,940	0.3	△ 97,039	△ 22.8
	県債	1,864,000	1.5	2,365,000	1.8	△ 501,000	△ 21.2
入 一般財源	96,669,936	77.4	99,889,000	77.3	△ 3,219,064	△ 3.2	
計	124,872,997	100.0	129,226,143	100.0	△ 4,353,146	△ 3.4	
歳 出	教育総務費	5,368,070	4.3	5,436,671	4.2	△ 68,601	△ 1.3
	小学校費	43,242,190	34.6	45,410,595	35.1	△ 2,168,405	△ 4.8
	中学校費	27,224,651	21.8	28,079,600	21.8	△ 854,949	△ 3.0
	高等学校費	32,461,411	26.0	33,660,593	26.1	△ 1,199,182	△ 3.6
	特別支援学校費	11,869,429	9.5	11,924,857	9.2	△ 55,428	△ 0.5
	社会教育費	2,634,370	2.1	2,758,133	2.1	△ 123,763	△ 4.5
	保健体育費	2,072,876	1.7	1,955,694	1.5	117,182	6.0
計	124,872,997	100.0	129,226,143	100.0	△ 4,353,146	△ 3.4	

## (3) 課(室)別予算内訳

(単位:千円、%)

区 分	令和3年度		令和2年度		前年度との比較	
	予算額	A 構成割合	予算額	B 構成割合	増減額(A-B)	伸び率
教育政策課	82,225	0.1	68,391	0.1	13,834	20.2
職員福利課	107,374,000	86.0	111,126,291	86.0	△ 3,752,291	△ 3.4
学校教育課	1,840,823	1.5	1,649,794	1.3	191,029	11.6
教職員課	70,058	0.1	168,446	0.1	△ 98,388	△ 58.4
学校施設課	10,785,963	8.6	11,486,476	8.9	△ 700,513	△ 6.1
生涯学習課	1,595,819	1.2	1,516,120	1.1	79,699	5.3
スポーツ健康課	2,072,876	1.6	1,955,694	1.5	117,182	6.0
文化財保護課	1,038,551	0.8	1,242,013	0.9	△ 203,462	△ 16.4
高等学校教育改革推進室	12,682	0.1	12,918	0.1	△ 236	△ 1.8
計	124,872,997	100.0	129,226,143	100.0	△ 4,353,146	△ 3.4

## (4) 性質別予算内訳

(単位:千円、%)

区 分	令和3年度		令和2年度		前年度との比較		
	予算額	A 構成割合	予算額	B 構成割合	増減額(A-B)	伸び率	
義務的経費	人件費	108,352,892	86.8	112,096,732	86.8	△ 3,743,840	△ 3.3
	扶助費	1,425,822	1.1	1,335,400	1.0	90,422	6.8
	小計	109,778,714	87.9	113,432,132	87.8	△ 3,653,418	△ 3.2
投資的経費 (普通建設事業費)	4,628,016	3.7	4,888,464	3.8	△ 260,448	△ 5.3	
その他の経費	物件費	6,577,726	5.3	6,836,970	5.3	△ 259,244	△ 3.8
	維持修繕費	782,547	0.6	819,079	0.6	△ 36,532	△ 4.5
	補助費等・貸付金等	3,105,994	2.5	3,249,498	2.5	△ 143,504	△ 4.4
	小計	10,466,267	8.4	10,905,547	8.4	△ 439,280	△ 4.0
計	124,872,997	100.0	129,226,143	100.0	△ 4,353,146	△ 3.4	

## 第5 令和3年度 施策別主要事業の概要

### 1 あおもりの未来をつくる人財の育成

「生活創造社会」の実現に向けて、未来の青森県の基盤となる人財の育成に取り組みます。  
子どもたちが、ふるさとあおもりに対する誇りと愛着を持ち、新しい価値を創造する力や国際感覚を身に付け、多様性を認め、人権を尊重し、心身ともに健康で自立した人財として成長するよう、学校・家庭・地域が連携・協働して取り組みます。

#### (1) 青森を理解し、世界に向かってチャレンジできる人づくり

子どもの頃から、身近な大人や地域との関わり、異文化交流などを通して、ふるさとへの理解や愛着を深め、将来、青森から世界に向かってチャレンジできる人財の育成に、学校・家庭・地域が連携して取り組みます。

- |  |                              |
|--|------------------------------|
| ① エネルギーに関する教育支援事業費補助   | 8,103千円(学校教育課)               |
| ② こども民俗芸能大会  | 4,378千円(文化財保護課)              |
| ③ 運営管理事業(郷土館)  | 85,553千円(文化財保護課)             |
| ④ 小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業【新規重点】  | (3(1)に掲載)<br>2,738千円(文化財保護課) |
| ⑤ ドリカム人づくり推進事業   | 9,972千円(学校教育課)               |
| ⑥ 高校から取り組む人口減少対策プロジェクト事業【継続重点】   | (1(5)に掲載)<br>48,760千円(学校教育課) |
| ⑦ 少年自然の家運営管理事業   | 200,171千円(生涯学習課)             |
| ⑧ 小・中学校外国語教育充実支援事業【新規】   | 1,821千円(学校教育課)               |
| ⑨ グローバル社会を主体的に生き抜く人財育成事業【継続重点】   | 15,730千円(学校教育課)              |
| 新学習指導要領における高等学校英語教育への対応と国際社会で活躍できる実践力を持った人財育成に向け、英語教育推進リーダーの育成及び海外研修プログラムの作成を行うとともに、台湾の高校との相互交流による協働学習を実施する。 |                              |
| ⑩ 済州国際青少年フォーラム派遣事業   | 972千円(学校教育課)                 |
| ⑪ 高校生国際交流推進事業  | 1,920千円(学校教育課)               |
| ⑫ 外国語指導助手設置事業  | 140,123千円(学校教育課)             |
| ⑬ 英語力を強化する指導改善事業   | 2,267千円(学校教育課)               |

#### (2) 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成

確かな学力の向上に取り組むほか、主権者教育や情報教育などにより、新しい時代に求められる資質・能力の育成に取り組みます。

また、人権を尊重し、他者を思いやる心を育成するとともに、将来にわたって健康に暮らすための知識の習得や意識の醸成、生活習慣の定着に取り組みます。

- |                           |                              |
|---------------------------|------------------------------|
| ① あおもり教育フォーラム開催事業         | 593千円(教育政策課)                 |
| ② 学習状況調査                  | 4,283千円(学校教育課)               |
| ③ ICTを活用した確かな学力向上事業【新規重点】 | (1(4)に掲載)<br>25,302千円(学校教育課) |
| ④ 教育課程研究会(小学校・中学校・特別支援学校) | 2,223千円(学校教育課)               |
| ⑤ 高等学校新教育課程説明会(県内説明会等)    | 766千円(学校教育課)                 |
| ⑥ 特別支援教育新教育課程説明会(県内説明会)   | 214千円(学校教育課)                 |
| ⑦ 進学力を高める高校支援事業           | 7,189千円(学校教育課)               |



⑧	小・中学校外国語教育充実支援事業【新規】	1,821千円(学校教育課)
	<p>小・中学校における外国語教育の充実及び本県外国語担当教員等の英語力向上を図るため、研究協議会、小・中学校外国語教育充実支援訪問の実施や中学校英語教育推進教員を育成する。</p>	
⑨	グローバル社会を主体的に生き抜く人財育成事業【継続重点】	15,730千円(学校教育課)
⑩	外国語指導助手設置事業	140,123千円(学校教育課)
⑪	英語力を強化する指導改善事業	2,267千円(学校教育課)
⑫	済州国際青少年フォーラム派遣事業	972千円(学校教育課)
⑬	高校生国際交流推進事業	1,920千円(学校教育課)
⑭	医師を志す高校生支援事業	22,270千円(学校教育課)
⑮	スーパーサイエンスハイスクール支援事業	3,610千円(学校教育課)
⑯	科学の甲子園関係事業	647千円(学校教育課)
⑰	ドリカム人づくり推進事業	9,972千円(学校教育課)
⑱	青森県中学校文化連盟支援事業	1,700千円(学校教育課)
⑲	青森県高等学校文化連盟支援事業	891千円(学校教育課)
⑳	県高等学校総合文化祭	2,888千円(学校教育課)
㉑	外部人材活用による教科指導等充実事業	27,987千円(教職員課)
㉒	学校図書館活用推進事業	336千円(学校教育課)
㉓	学校図書館活動支援事業	6,601千円(教職員課)
㉔	道徳教育地域支援事業	1,710千円(学校教育課)
㉕	学校の教育相談体制充実を支援する外部専門家活用事業	137,262千円(学校教育課)
㉖	居場所づくり・絆づくり推進事業	3,081千円(学校教育課)
㉗	ソーシャルメディア等監視員配置事業	2,866千円(学校教育課)
㉘	24時間いじめ等電話相談事業	9,905千円(学校教育課)
㉙	青森県いじめ防止対策審議会費(人件費)	147千円(学校教育課)
㉚	安心できる学校づくり推進事業	2,155千円(学校教育課)
㉛	いじめ防止対策事業	877千円(学校教育課)
㉜	いじめ防止キャンペーン推進事業	7,441千円(生涯学習課)
㉝	命を守る防災教育推進事業【新規重点】	4,099千円(スポーツ健康課)
	<p>児童生徒が自然災害発生時に適切に対応できる資質・能力の向上を図るため、地域と連携した防災訓練等指定校でのモデル事業や研修会を実施する。</p>	
㉞	定期健康診断費	90,434千円(スポーツ健康課)
㉟	いきいき青森つ子健康づくり事業	2,983千円(スポーツ健康課)
㊱	楽しさアップ子どもの健康づくり事業【継続重点】	4,127千円(スポーツ健康課)
	<p>本県の児童生徒の体力向上及び肥満傾向児出現率の低下に向け、「楽しい体育」に向けた授業改善を推進するため体育の楽しさアップ研修会を開催するとともに、小学校低学年向けの運動プログラムを作成する。</p>	
㊲	がん教育総合支援事業	817千円(スポーツ健康課)
㊳	学校体育実技講習会	895千円(スポーツ健康課)
㊴	体力向上推進事業	1,609千円(スポーツ健康課)
㊵	地域部活動推進事業【新規】	2,818千円(スポーツ健康課)
	<p>令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むため、実践研究を実施する。</p>	

(3) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

障害のある児童生徒の自立や社会参加を促進するため、個に応じた適切かつ専門性の高い指導・支援に取り組みます。

- |  |                  |
|--|------------------|
| ① 地域における特別支援教育相談体制強化事業【継続重点】   | 4,480千円(学校教育課)   |
| 〔 特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する教育相談体制を充実させるため、関係機関との連携強化に向けた検討会議を開催するとともに、理学療法士及び言語聴覚士等外部人材の活用による教員の専門性向上研修等を行う。〕 |                  |
| ② 高等学校における通級指導関連経費   | 108千円(学校教育課)     |
| ③ 訪問教育指導事業   | 490千円(学校教育課)     |
| ④ 特別支援教育相談事業(総合学校教育センター)   | 7,449千円(学校教育課)   |
| ⑤ 特別支援学校就学奨励費  | 240,356千円(学校教育課) |
| ⑥ 特別支援学校における障害者スポーツ推進事業  | 4,171千円(学校教育課)   |
| ⑦ 特別支援学校技能検定事業   | 4,352千円(学校教育課)   |
| ⑧ 特別支援学校生徒の夢や志を支援する就労促進事業  | 51,262千円(学校教育課)  |
| ⑨ 特別支援学校におけるコミュニティ・スクール導入モデル事業   | 880千円(学校教育課)     |
| ⑩ 特別支援学校における家庭教育支援事業   | 683千円(生涯学習課)     |
| ⑪ 障害者の生涯学習支援事業   | 1,014千円(生涯学習課)   |
| ⑫ 特別支援学校教室不足対策事業   | 1,802千円(学校施設課)   |

(4) 子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばす教育環境の整備

安全・安心な教育環境の確保や、教員の実践的な指導力の向上、ICTの効果的活用など、時代や社会環境の変化に対応した、質の高い教育を受けられる持続可能な環境づくりに取り組みます。

- |   |                     |
|---|---------------------|
| ① 老朽改築(校舎等建築)事業   | 2,385,279千円(学校施設課)  |
| 〔 学校施設の安全・安心の確保及び機能向上等を図るため、老朽化が進行している三沢高校、八戸工業高校の校舎等の改築等を実施する。<br>また、県立盲学校について、青森聾学校に移転することとし、青森聾学校の校舎等を盲聾併設校として全面改築するための基本計画を策定する。〕                 |                     |
| ② 県立学校長寿命化・重点改良事業   | 298,201千円(学校施設課)    |
| 〔 校舎等の長寿命化により学校施設の安全・安心の確保及び機能向上等を図るため、老朽化が進行している野辺地高校、弘前実業高校、八戸水産高校の改修工事等を実施する。<br>また、黒石養護学校について、令和3年度末に閉校となる黒石商業高校に移転することとし、校舎等の整備を行うための基本計画を策定する。〕 |                     |
| ③ 県立学校大規模改修費  | 628,752千円(学校施設課)    |
|   | (うち2月補正分 377,930千円) |
| ④ 特別支援学校教室不足対策事業  | 1,802千円(学校施設課)      |
| 〔 既存校舎の教室再配置等による教室不足の解消が困難であると考えられる特別支援学校について、増築など、教室不足解消に係る方策を検討するための調査を実施する。〕   |                     |
| ⑤ 県立学校施設環境整備事業  | 134,488千円(学校施設課)    |
| 〔 統合及び学科設置に伴い必要となる教室の再配置や実習室整備のため、転用改修等を実施する。〕  |                     |

- ⑥ 県立学校空調設備整備事業【新規】（2月補正分） 3,317,237千円(学校施設課)  
 [ 新しい生活様式に対応した学校教育活動を推進するため、県立学校の寄宿舎や職員室等に空調設備を整備する。 ]
- ⑦ 実習船青森丸代船建造費【新規】（2月補正分） 843,451千円(学校施設課)  
 [ 八戸水産高校実習船「青森丸」の代船を建造する。 ]
- ⑧ 産業教育設備整備関連事業【新規】（2月補正分） 2,649,021千円(学校施設課)  
 [ 地域の産業を支える人財を育成するため、職業教育を実施する県立学校の産業教育設備等を整備する。  
 ・ 産業教育設備整備事業 560,393千円  
 ・ デジタル化産業教育設備整備事業 2,047,776千円  
 ・ 特別支援学校職業教育設備整備事業 40,852千円 ]
- ⑨ 被災児童生徒就学支援等事業 1,841千円(学校教育課・スポーツ健康課)
- ⑩ 高等学校定時制・通信制教科書学習書給与事業 2,607千円(学校教育課)
- ⑪ 特別支援学校就学奨励費 240,356千円(学校教育課)
- ⑫ 高校奨学金貸与事業費補助 16,922千円(教職員課)
- ⑬ 高等学校定時制・通信制課程修学奨励金貸与事業 5,640千円(教職員課)
- ⑭ 県立高等学校等就学支援金 2,318,159千円(学校施設課)  
 [ 家庭の教育費負担を軽減するため、県立高校等の一定の所得未満の世帯の生徒に対し、授業料に充てるための支援金を支給する。 ]
- ⑮ 奨学のための給付金事業 580,344千円(学校施設課)  
 [ 低所得世帯の授業料以外の教育費負担を軽減するため、県立高校等の生徒の保護者等に対し奨学のための給付金を給付する（第1子、第2子及び通信制・専攻科の給付額増額）。 ]

【給付額(年額)】

区 分		令和2年度	令和3年度
生活保護受給世帯	全日制・定時制・通信制	32,300円	32,300円
	専攻科	36,500円	48,500円
道府県民税所得割	全日制・定時制（第1子）	84,000円	110,100円
及び市町村民税所得割非課税世帯	全日制・定時制（第2子以降）	129,700円	141,700円
	通信制・専攻科	36,500円	48,500円

- ⑯ 特別支援教育就学奨励費システム保守委託経費 990千円(学校教育課)
- ⑰ 学校給食衛生管理事業 7,604千円(スポーツ健康課)
- ⑱ 県立学校給食設備整備事業 3,387千円(スポーツ健康課)
- ⑲ 県立学校給食委託事業 28,799千円(スポーツ健康課)

⑳ あおもりっ子育みプラン21事業 994,617千円(教職員課)

きめ細かな学習指導や生活指導を実施するため、これまで小学校1年生から4年生及び中学校1年生を対象に実施してきた33人学級編制等を小学校5年生まで拡充し実施する。また、これまで小学校1年生又は2年生を含む複式学級の一定の児童数以上で配置している非常勤講師について、小学校4年生まで拡充し、指導の充実を図る。

対象学年	実施方法	学校数・人数	所要額(千円)
小学校 1年生	33人学級編制 学年2学級以上(少人数学級編制) 学年1学級(非常勤講師配置)	19(8)校・人	80,079
小学校 2年生			
小学校 3年生	1年生は7～8人又は2～4年生は15～16人の人数の多い学級 (非常勤講師配置)	46(25)校・人	190,034
小学校 4年生		43(19)校・人	185,582
小学校 5年生 【拡充】		36(15)校・人	137,847
小学校 複式学級 【拡充】	1年生は7～8人又は2～4年生は15～16人の人数の多い学級 (非常勤講師配置)	25校・人	50,850
中学校 1年生	33人学級編制 学年2学級以上(少人数学級編制)	50校・人	291,962
合計		232(72)校・人	994,617

※( )は小学校の学年1学級規模における少人数指導の実施校で内数

㉑ 外部人材活用によるスクールサポートスタッフ配置事業

91,600千円(学校教育課・教職員課)

教職員の業務の負担軽減を図るため、小・中学校、高等学校及び特別支援学校に教職員の事務的補助を行うスクールサポートスタッフの配置を拡充する。拡充に当たっては、障害者を雇用することとし、県教育委員会における障害者雇用を推進する。

R2 小・中学校14校、特別支援学校15校

→ R3 小・中学校24校、高等学校6校、特別支援学校20校

㉒ 学校等における法務相談体制整備事業【新規】 1,988千円(教職員課)

深刻な児童生徒間トラブルや外部からの過剰な要求等に対応する教職員の負担軽減を図るとともに、児童生徒にとって最適な教育環境を維持するため、県弁護士会と連携してスクールロイヤーを配置し、学校からの法務相談に対応できる体制を整備する。

㉓ スクールライフサポーター配置事業 4,364千円(教職員課)

㉔ 学校における運動部活動推進事業 11,419千円(スポーツ健康課)

適切な運動部活動の実現及び教職員の運動部活動指導の負担軽減を図るため、市町村立中学校及び県立学校の運動部活動指導員の配置を拡充する。

㉕ 学校における文化部活動推進事業【新規】 1,177千円(学校教育課)

適切な文化部活動の実現及び教職員の文化部活動指導の負担軽減を図るため、県立学校の文化部に文化部活動指導員を配置する。

㉖ 教員等資質向上推進協議会 252千円(学校教育課)

- ⑳ 初任者研修 17,323千円(学校教育課)
- ㉑ 教職員研修関係経費 2,442千円(学校教育課)
- ㉒ 幼稚園新規採用教員研修 507千円(学校教育課)
- ㉓ 日本語指導が必要な児童生徒担当教員等連絡協議会 31千円(学校教育課)
- ㉔ 研修講座(総合学校教育センター) 11,338千円(学校教育課)
- ㉕ 長寿命化改修費(総合学校教育センター) 170,341千円(学校教育課)
- ㉖ 県立学校システム管理者連絡協議会 343千円(学校教育課)
- ㉗ 教育課程研究集会(小学校・中学校・特別支援学校) 2,223千円(学校教育課)
- ㉘ 高等学校新教育課程説明会(県内説明会等) 766千円(学校教育課)
- ㉙ 特別支援教育新教育課程説明会(県内説明会) 214千円(学校教育課)
- ㉚ 学校安全指導者研修 302千円(スポーツ健康課)
- ㉛ 養護教諭研修(新規採用研修、経験者研修) 8,014千円(スポーツ健康課)
- ㉜ 栄養教諭・学校栄養職員研修(新規採用研修、経験者研修) 1,230千円(スポーツ健康課)
- ㉝ 学校給食調理従事員衛生管理講習会【新規】 307千円(スポーツ健康課)
- 〔学校給食における食中毒等を未然に防ぐため、県立学校に勤務する調理従事員等に対して、衛生管理の専門的知識と技術の習得に向けた講習会を実施する。〕
- ㉞ ICTを活用した確かな学力向上事業【新規重点】 25,302千円(学校教育課)
- 〔
- ・ 小・中学校における教員のICT活用指導力向上事業 5,147千円  
教員のICT活用指導力や児童生徒の学びの質の向上を図るため、授業体験型の研修会の開催やデジタル教材等、各種コンテンツの活用を促進する。
  - ・ 高等学校におけるICTを活用した確かな学力向上事業 13,110千円  
ICTを活用した各教科の授業改善や教科外の教育活動を充実させ、確かな学力の向上や自立した人材の育成を図るため、全ての県立高等学校においてICT活用のための推進体制を構築し、実践研究や事例を蓄積・共有するシステムを構築する。
  - ・ 特別支援学校におけるICTを活用した確かな学力向上事業 7,045千円  
教員のICT活用指導力や特別支援学校の児童生徒の学力、社会性の向上を図るため、教員のICT活用に関する基礎的知識や技能向上を図るとともに、ICT活用のアイデアを蓄積・共有するシステムを構築する。
- 〕
- ㉟ 授業目的公衆送信補償金【新規】 10,497千円(学校教育課)
- 〔県立学校の授業等で著作物の公衆送信をする際、著作権者の許諾なく使用できるようにするため、補償金を支払うもの。〕
- ㊱ 県立高等学校教育改革推進事業 12,682千円(高等学校教育改革推進室)
- (5) 「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進
- 小・中・高等学校から大学等そして就職までのつながりや将来の生き方を意識したキャリア教育を社会全体で推進し、社会的・職業的自立のために必要な能力・態度を育成します。
- 地域や大学・企業等と連携し、子どもや若者の地域に対する貢献意欲の向上や創造力の育成を図るなど、県内定着促進も意識したキャリア形成支援に取り組みます。
- ① 高校生の就職総合支援プロジェクト事業 26,584千円(学校教育課)
- ② 医師を志す高校生支援事業 22,270千円(学校教育課)
- ③ グローバル社会を主体的に生き抜く人財育成事業【継続重点】 15,730千円(学校教育課)
- ④ 特別支援学校技能検定事業 4,352千円(学校教育課)
- ⑤ 青森で生きる未来人財育成事業(総合社会教育センター) 1,000千円(生涯学習課)
- ⑥ 高校生スキルアッププログラム推進事業(総合社会教育センター) 190千円(生涯学習課)

- ⑦ 大学生とカタルキキャリアサポート形成事業（総合社会教育センター）  
995千円(生涯学習課)
- ⑧ 元気青森人を創造するeラーニング推進事業（総合社会教育センター）  
987千円(生涯学習課)
- ⑨ 高校から取り組む人口減少対策プロジェクト事業【継続重点】 48,760千円(学校教育課)
- 高校生の県内就職率の向上を図るため、県内企業等と連携した郷土と県内就職に対する理解を深める学習を行うとともに、県内就職に関する情報提供や学校と県内企業の相互理解を促進するための就職支援員を増員する。  
R2 高等学校9名 → R3 高等学校12名
- ⑩ 産業教育の推進・人材育成事業【新規重点】 17,887千円(学校教育課)
- 産業界の人財育成と高校生の県内定着を図るため、令和4年度の全国産業教育フェア開催の機会を捉え、高校生による地元産業の研究、県内産業教育機関のPR、オンライン企業の紹介や小中学生を対象とした地元企業の体験や紹介などに取り組む。
- ⑪ 仕事力養成推進事業 2,822千円(学校教育課)
- (6) 学校・家庭・地域が連携し社会全体で子どもを育む仕組みづくり  
学校・家庭・地域の連携を強化し、社会全体で子どもを育む仕組みづくりを推進します。
- ① 高等学校におけるコミュニティ・スクール導入モデル事業【新規】 765千円(教職員課)
- ② 特別支援学校におけるコミュニティ・スクール導入モデル事業 880千円(学校教育課)
- ③ 学校を核とした地域づくり推進事業【継続重点】 3,298千円(生涯学習課)
- 地域学校協働本部の設置を一層推進するため、県内で設置例がない、または事例が限られている形態の地域学校協働本部のモデルを設置し、普及を図るとともに、地域学校協働活動の知識・理解を深めるため、コーディネーターや教職員等の研修を行う。
- ④ 地域学校協働活動推進事業 2,056千円(生涯学習課)
- ⑤ 学校・家庭・地域連携協働推進事業費補助 64,938千円(生涯学習課)
- 地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行う体制を構築し、未来を担う子どもたちの成長を支えるため、市町村が行う学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働に要する経費について、補助金を交付する（令和2年度までの「地域学校協働活動推進事業費補助」と「放課後子ども教室推進事業費補助」を統合）。
- ⑥ 地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修（総合社会教育センター）  
801千円(生涯学習課)
- ⑦ 子どもの読書活動推進事業 2,184千円(生涯学習課)
- ⑧ あおもり家庭教育支援総合事業 2,594千円(生涯学習課)
- ⑨ 家庭教育支援動画制作普及事業（総合社会教育センター） 3,866千円(生涯学習課)
- ⑩ あおもり家庭教育力向上事業（総合社会教育センター）【新規】 1,025千円(生涯学習課)
- 地域における家庭教育支援体制を整備するため、あおもり家庭教育アドバイザーの養成及び資質向上を図る講座を実施するとともに、「あおもり親楽（おやがく）プログラム」を活用した家庭教育に関する研修会へのアドバイザーの派遣等を行う。
- ⑪ 特別支援学校における家庭教育支援事業 683千円(生涯学習課)
- ⑫ 障害者の生涯学習支援事業 1,014千円(生涯学習課)
- ⑬ 若者の社会参加促進事業 1,011千円(生涯学習課)

## 2 あおもりの今をつくる人財の育成

地域の課題に主体的に取り組む意欲ある人財の育成、地域における持続可能な人財育成の仕組みづくり、国内外の人財の交流による地域の活性化に取り組みます。

移住の促進など多様な人財との交流によるネットワークを構築し、地域の担い手の確保・育成につなげます。

若者や女性、高齢者の活躍促進、県民が生きがいを持って生活できる環境づくりに取り組みます。

### (1) 活力ある持続可能な地域づくりのための人づくり

地域の活力が将来にわたって持続するよう、「生業」づくりや地域づくりに取り組むリーダーの育成を行うとともに、次の世代を担う人財の育成に向けた仕組みづくりに取り組みます。

国内外の人財の交流などによる地域の活性化や、多様な働き方を可能とする環境づくりに取り組みます。

- |  |                |
|--|----------------|
| ① 「地域の思いをつなぐ」若者育成事業【新規重点】                                    | 3,551千円(生涯学習課) |
| 〔 若者の県内定着及び地域の将来を担う人財の育成のため、高校生等と地域活動者との交流会及び地域活動の企画・実践を行う。〕 |                |
| ② 社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業                                    | 1,649千円(生涯学習課) |
| ③ パワフルAOMORII創造塾開催事業(総合社会教育センター)                             | 1,196千円(生涯学習課) |
| ④ 地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修(総合社会教育センター)                   | 801千円(生涯学習課)   |

### (2) 生涯を通じた学びと社会参加活動の拡大

県民の生涯を通じた学びの機会の提供や、その学習成果を生かした地域活動への参加推進、高齢者の活躍促進に取り組みます。

- |   |                   |
|---|-------------------|
| ① 特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業   | 586千円(生涯学習課)      |
| ② 学習情報の収集・提供事業(総合社会教育センター)  | 7,343千円(生涯学習課)    |
| ③ 元気青森人を創造するeラーニング推進事業(総合社会教育センター)                                      | 987千円(生涯学習課)      |
| ④ 生涯学習推進基盤整備事業  | 1,048千円(生涯学習課)    |
| ⑤ 若者の社会参加促進事業   | 1,011千円(生涯学習課)    |
| ⑥ 運営管理事業(総合社会教育センター)  | 118,369千円(生涯学習課)  |
| ⑦ 施設設備改修工事(総合社会教育センター)  | 121,921千円(生涯学習課)  |
| ⑧ 子どもの読書活動推進事業  | 2,184千円(生涯学習課)    |
| ⑨ 資料整備事業(県立図書館)   | 62,720千円(生涯学習課)   |
| ⑩ 電子図書館システム導入経費(県立図書館)  | 15,400千円(生涯学習課)   |
|   | (うち2月補正分 6,600千円) |
| 〔 県立図書館における非接触・非来館サービスの充実のため、県民が自宅等にしながら電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入する。〕 |                   |
| ⑪ 「新しい生活様式」に対応した図書館機能強化事業(県立図書館)【新規】(2月補正分)                             | 192,046千円(生涯学習課)  |
| 〔 新しい生活様式を踏まえた機能強化を図るため、各種手続きのオンライン化等を行う。〕                              |                   |

### 3 あおもりの活力をつくる文化・スポーツの振興

本県の歴史・文化を継承していくため、その適切な保存と積極的な活用に取り組みます。  
文化芸術に親しむ環境づくりと人財の育成を進めるほか、文化芸術資源を活用した地域づくりに取り組みます。

スポーツを通じた県民の健康増進や、スポーツを活用した交流人口の拡大などによるにぎわいの創出、第80回国民スポーツ大会の本県開催を見据えた競技力の向上などに取り組みます。

#### (1) 歴史・文化の継承と活用

縄文遺跡群の世界文化遺産登録をめざす取組を推進するとともに、一体的な保全と活用に取り組みます。

郷土の歴史、民俗、産業、自然等に関する資料や文化財などの適切な保存と活用を促進するとともに、伝統文化の鑑賞・体験機会の充実に取り組みます。

- ① 「選ばれる三内丸山遺跡」魅力発信推進事業【継続重点】（三内丸山遺跡センター）  
22,170千円(文化財保護課)  
〔世界遺産登録を見据え、国内外から「三内丸山遺跡が選ばれる」ために、マーケティング調査を踏まえ効果的に遺跡の価値や魅力の公開・活用を推進する。〕
- ② 特別展開催事業（三内丸山遺跡センター） 11,020千円(文化財保護課)
- ③ 三内丸山遺跡保存・活用関連事業（三内丸山遺跡センター） 88,937千円(文化財保護課)  
〔三内丸山遺跡の適切な保存と積極的な活用に向けた整備等を行う。〕
  - ・ 三内丸山遺跡史跡整備事業 36,229千円
  - 環状配石墓等の実施設計及び北の谷・南の谷の整備
  - ・ 三内丸山遺跡長寿命化事業 52,708千円
  - 高床建物の長寿命化対策工事及び縄文時遊館改修工事
- ④ 運営管理事業（郷土館） 85,553千円(文化財保護課)
- ⑤ 文化財修理費補助 5,815千円(文化財保護課)
- ⑥ 無形民俗文化財等保護費補助 1,585千円(文化財保護課)
- ⑦ 記念物環境整備費補助 594千円(文化財保護課)
- ⑧ 指定文化財管理費補助 1,811千円(文化財保護課)
- ⑨ 埋蔵文化財緊急発掘調査費補助 1,138千円(文化財保護課)
- ⑩ こども民俗芸能大会 4,378千円(文化財保護課)
- ⑪ 北海道・東北ブロック民俗芸能大会 4,949千円(文化財保護課)
- ⑫ 文化施設感染症防止等対策強化事業【新規】 4,190千円(文化財保護課)
- ⑬ 小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業【新規重点】 2,738千円(文化財保護課)  
〔文化財の保存・活用に携わる人財の育成を図るため、子どもたちが縄文遺跡等の地域の文化財に直接触れ、体験する取組を通じて、縄文文化や地域の文化財に関する理解を深めるとともに郷土愛の醸成を図る。〕

#### (2) 健康でスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上

県民が年間を通じてスポーツに取り組める環境を充実させるほか、全国大会などで活躍できる選手や指導者を育成し、県民の健康づくりやスポーツによる地域活性化を進めます。

- ① 学校体育実技講習会 895千円(スポーツ健康課)
- ② 体力向上推進事業 1,609千円(スポーツ健康課)
- ③ 全国大会派遣費補助（高等学校・中学校） 13,220千円(スポーツ健康課)
- ④ 学校における運動部活動推進事業 11,419千円(スポーツ健康課)



- ⑤ 地域部活動推進事業【新規】 2,818千円(スポーツ健康課)
- ⑥ 全国高等学校スケート競技アイスホッケー競技選手権大会開催費補助【新規】  
6,600千円(スポーツ健康課)
- 〔 令和4年1月に八戸市等で開催される第71回全国高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会の開催に要する経費を補助する。〕
- ⑦ 全国高等学校体育連盟研究大会開催費補助【新規】 500千円(スポーツ健康課)
- 〔 令和4年1月に青森市で開催される第56回全国高等学校体育連盟研究大会青森県大会の開催に要する経費を補助する。〕
- ⑧ 各種体育・スポーツ大会開催費助成 3,900千円(スポーツ健康課)
- ⑨ 県有体育施設運営管理事業 814,212千円(スポーツ健康課)
- ⑩ 県有体育施設長寿命化検討事業(県営スケート場)【新規】 2,000千円(スポーツ健康課)
- 〔 県営スケート場の施設・設備の劣化診断を行い、平成26年度に策定した長期保全計画の更新等を行う。〕
- ⑪ 県有体育施設競技用備品整備事業【新規】 7,216千円(スポーツ健康課)
- 〔 バドミントン競技の東北・全国大会(国民スポーツ大会含む)で使用するためのコートマットを整備する。〕
- ⑫ 青森県スポーツ協会補助 30,221千円(スポーツ健康課)
- ⑬ スポーツ振興事業職員費 18,000千円(スポーツ健康課)
- ⑭ 青森県民駅伝競走大会開催費 16,653千円(スポーツ健康課)
- ⑮ スポーツ科学センター運営管理費 59,567千円(スポーツ健康課)
- ⑯ 国体・東北総体派遣事業 88,015千円(スポーツ健康課)
- ⑰ スポーツ・レクリエーション振興事業 7,718千円(スポーツ健康課)
- ⑱ 広域スポーツセンター運営事業 3,335千円(スポーツ健康課)
- ⑲ みんなが主役!スポーツで健康づくり事業【継続重点】 5,367千円(スポーツ健康課)
- 〔 県民がスポーツを通じた健康づくりに継続的に取り組む環境の充実を図るため、園児と保護者向けの体操教室、学生と高齢者とのスポーツ・レクリエーション等を通じた交流会、小学生と保護者向けのスポーツ意欲を高めるためのイベントを開催する。〕
- ⑳ 競技力強化事業 351,280千円(スポーツ健康課)
- 〔 国民スポーツ大会の本県開催に向けた総合的・戦略的な選手強化を行う。〕
- ・ 競技力向上対策本部運営費 7,000千円
  - ・ 競技力向上事業 107,777千円
  - ・ 競技力向上対策特別事業 193,103千円
- 〔 競技力向上を図るため、ジュニア選手の発掘・育成・強化、指導者の養成及び公認資格の取得支援、トップレベルコーチ及びスーパーバイザーの招聘、強化拠点校や有力選手等への活動支援、競技団体間の情報共有の強化、医・科学スタッフによるサポートの強化などの各種施策を展開する。〕
- ・ スポーツ科学チームサポート事業 4,983千円
- 〔 スポーツ科学専門員による科学的分析に基づくトレーニングのサポートを行う。〕
- ・ スポーツ科学センター環境充実事業 38,417千円
- 〔 スポーツ科学チームサポート事業の実施に向け、スポーツ科学センターの組織の充実及び機器の整備等を行う。〕
- ㉑ 楽しさアップ!子どもの健康づくり事業【継続重点】 4,127千円(スポーツ健康課)

## 2節 補正予算

令和3年度における教育委員会の補正予算総額は△3億3,214万4千円で、最終予算額は1,245億4,085万3千円となり、県一般会計最終予算額8,287億5,595万3千円の15.0%を占めることとなった。

- 1 9月補正予算（補正第2号）（補正予算額 404万3千円）  
（主な事業）
  - ① 三本木農業高等学校教育植林売却事業費 415万円
- 2 11月補正予算（補正第3号）（補正予算額 1,980万4千円）  
（事業）
  - ① 県立学校修学旅行キャンセル料支援事業費 1,980万4千円
- 3 2月補正予算（補正第4号）〔国の補正予算関連分〕（補正予算額 26億7,003万6千円）  
（主な事業）
  - ① 実習船青森丸代船建造費 12億3,861万円
  - ② 県立学校情報教育推進事業費 8,043万9千円
- 4 2月補正予算（補正第5号）〔通常分〕（補正予算額 △30億2,602万7千円）  
（主な事業）
  - ① 職員給与費等の調整 △23億5,609万8千円
  - ② 県立学校修学旅行キャンセル料支援事業費 1,268万7千円
  - ③ 体育施設運営管理費 3,646万4千円

## 3章 企画・調査・広報・情報化推進

### 1節 企 画

#### 1 青森県教育委員会の「施策の柱」

教育施策の推進のため、令和4年度青森県教育委員会の「施策の柱」を設定した。

#### 2 企画調整会議の開催

企画調整会議幹事会において、青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦(青森県教育振興基本計画)、令和4年度当初予算編成等について協議した。

#### 3 国の予算及び施策に対する提案

国の令和4年度予算及び施策に反映させるべき本県教育関係の重点施策として、次の事項について提案した。

- ・人口減少社会におけるきめ細かな教育環境の充実

#### 4 災害に関する連絡調整

(1) 地 震

(2) その他の災害

(災害名等) (発生年月日) (被害件数及び状況)

○2月21日の暴風雪 4年2月21日 県立学校 一部破損 1校

#### 5 知事部局等との連絡調整

下記の事項について、関係知事部局及び庁内各課室との連絡調整を行った。

(1) 各種計画連絡調整

- ・青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦
- ・第2期まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略
- ・「選ばれる青森」への挑戦重点事業
- ・政策点検
- ・青森県行財政改革大綱
- ・青森県行財政改革行動計画
- ・あおもりを愛する人づくり戦略
- ・青森県子どもの貧困対策推進計画
- ・青森県次世代育成支援行動計画「のびのびあおもり子育てプラン」後期計画
- ・青森県観光戦略

(2) 各種会議等連絡調整

- ・市町村長会議
- ・重点事業説明会
- ・知事を囲む懇談会
- ・知事を囲む行政懇談会
- ・青森県事務権限移譲連絡会議
- ・県有不動産利活用推進会議
- ・行財政改革の推進
- ・政策調整会議

- ・東京オリンピック・パラリンピック開催に係る庁内連絡会議
- ・東京2020オリンピック聖火リレー青森県実行委員会
- ・全国知事会・北海道東北地方知事会に係る要望等
- ・日本海沿岸地帯振興連盟に係る要望等
- ・地方分権改革の推進
- ・津軽海峡交流圏形成促進庁内会議
- ・青森県人づくり戦略推進会議
- ・地域支援業務連絡会議
- ・社会保障・税番号制度推進委員会
- ・青森県男女共同参画推進本部
- ・あおもり低炭素社会づくり庁内推進本部
- ・いのち支える青森県自殺対策推進本部
- ・青森県子どもの貧困対策等推進委員会
- ・健康あおもり21推進本部
- ・青森県ドクターヘリ運行調整委員会
- ・青森県子ども・子育て支援推進本部
- ・中小企業振興庁内連絡会議
- ・青森県雇用推進本部

## 6 青森県教育委員会の事務の点検及び評価

県教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表した。

## 7 大学との連絡調整

令和4年3月11日に「青森県教育委員会と国立大学法人東京学芸大学との先導的教育プログラム研究開発における連携協力に関する協定」を締結した。

## 8 青森県教育施策の概要等

### (1) 「青森県教育施策の概要」の刊行

青森県教育施策の方針や令和3年度事業の概要などを収録した「令和3年度青森県教育施策の概要」を刊行した。(A4判 57ページ 700部)

### (2) 「青森県の教育」の刊行

令和元年度の本県教育行政の実績を年報として収録し、教育行政推進のための資料として刊行した。(A5判 326ページ 400部)

## 2節 調査・統計

### 1 地方教育費調査(文部科学省調査)

令和2会計年度における教育費を、学校教育、社会教育、教育行政の分野ごとに調査し、報告書を作成した。(昭和24年度以降毎年実施)

### 2 中学校等卒業生及び高等学校等卒業生の進路状況調査

令和3年度学校基本調査(卒業後の状況調査)の附帯調査として、進路状況を詳細に調査し、学校基本調査を含めて報告書を作成した。(昭和25年度以降毎年実施)

### 3 中学校等卒業予定者の進路志望状況調査

令和4年3月中学校等卒業予定者の進路志望の状況を、令和3年11月10日（一次）と令和3年12月9日（二次）で調査し、報告書を作成した。（昭和26年度以降毎年実施）

### 4 学 校 一 覧

学校基本調査結果に基づき、学校種類別に、在学者数、学級数、教職員数等の状況をとりまとめた冊子を刊行した。（昭和24年度以降毎年実施）

## 3節 広 報 ・ 広 聴

県教育委員会の施策や主要な事業について、県内の教職員、地域住民、市町村教育委員会、その他関係機関・団体に対して的確な情報を提供するとともに、関係者の意見・要望などを教育行政に反映させ、調和のとれた教育を実現するために、次の広報・広聴活動を行った。

#### 1 「教育広報あおもりけん」の発行

教育行政について、保護者及び教職員に幅広く積極的に情報を提供することを目的とした広報紙を発行し、保護者、教職員、市町村教育委員会等に配布した。

（B4判 4ページ／8ページ 145,800部年4回発行）

また、平成19年度から、広報紙に広告を掲載することによる財源確保のため、広告掲載事業者を募集している。

#### 2 リーフレット「青森県の教育」の発行

本県教育の現状をグラフ化したリーフレットを、国際化に対応して英訳付きで作成し、来庁者等に配布した。（A4判 8ページ 800部 年1回発行）

#### 3 知事部局で購入している広報媒体を活用した県民への情報提供

##### (1) 新聞による広報活動

「広報あおもりけん」

（東奥日報、デーリー東北、陸奥新報の3紙に同時掲載毎月1日、16日）年24回発行

##### (2) テレビによる広報活動

「大好き、青森県。」（RAB、毎月第3日曜日 17:00～17:15）

「LINK／青森県」（RAB、30秒スポット 不定期 年240回程度）

「みんなの県庁！」（ATV、毎週土曜日 16:55～17:00）

「メッセージ」（ABA、毎週土曜日 9:30～9:35）

##### (3) ラジオによる広報活動

「青森県広報タイム」（RAB、毎週月～木曜日 7:30～7:35）

「あおもり・ふあん」（エフエム青森、毎週月～金曜日 16:55～17:00）

「申吾のほっとチャンネル」（エフエム青森、毎月第1日曜日 7:00～7:30）

#### 4 知事部局の広報紙を活用した県民への情報提供

「県民だよりあおもり」（タブロイド判 8ページ 毎戸配布紙 年6回発行）

- 5 ソーシャルメディアを活用した県民への情報提供  
「ツイッター」  
「Facebook（青森県企画政策部広報広聴課）」
- 6 青森県庁ホームページを活用した県民への情報提供  
青森県庁ホームページのメインビジュアルによる情報発信
- 7 県との地域協働事業に関する包括協定に基づき行う県民への情報提供  
(株)ローソン、(株)ファミリーマート、イオン(株)、(株)セブン・イレブン・ジャパン及び(株)イトーヨーカ堂の各社の県内各店舗に、県政に係るポスター、パンフレット、チラシ等を掲示・設置
- 8 報道機関に対する情報提供  
教育記者会を通じて、随時報道機関に対して情報の提供を行い、県民の教育行政に対する理解を深めるように配慮した。  
教育記者会加盟16社〔東奥日報、デーリー東北新聞、陸奥新報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、日本経済新聞、産経新聞、青森放送、青森テレビ、日本放送協会、青森朝日放送、フジテレビ、時事通信、共同通信〕

教育記者会への発表事項

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
記者発表	1	1	0	1	0	0	3	1	0	1	2	2	12
資料配布	14	20	26	36	39	20	41	27	27	38	43	58	389
計	15	21	26	37	39	20	44	28	27	39	45	60	401

9 あおもり教育フォーラム

特定のテーマを設定し、様々な立場の方による意見交換を通して、幅広く意見を聴取し、今後の本県教育行政に反映させることを目的に、青森県PTA連合会・青森県PTA安全互助会との共催により例年実施していたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施しなかった。

## 4節 教育行政における情報化の推進

教育行政情報システムについて開発・運用・保守を行うとともに、教育行政の情報化についての総合的な企画・調整・連絡及び推進を行った。

1 教育情報化の推進

教育全般にわたる情報化の基本的方向や共通基盤の整備に係る総合的調整を図っている。令和3年度は、教育庁職員を対象にオンラインシステムの操作に係る講習を行った。

## 2 教育行政情報システムの開発・運用・保守

### (1) 学力・成績情報

令和3年度県立高等学校入学者選抜学力検査結果について、「高校入試処理結果の情報管理に関する基準」に基づき、各種集計表及び詳細分析資料の出力を行った。

### (2) 体格・体力・運動能力情報

令和3年度体格・体力・ライフスタイル調査結果について、集計分析処理を行った。なお、スポーツ健康課では、当該処理結果に基づき当該年度内に報告書を刊行した。

### (3) 児童生徒の健康管理情報

令和3年度学校保健調査結果について、集計分析処理を行った。なお、スポーツ健康課では、当該処理結果に基づき当該年度内に報告書を刊行した。

### (4) 学校属性・教育諸条件情報

学校基本調査データファイル(文部科学省マスタ)から、県内学校の基本データを蓄積し、学校一覧の作成をはじめ、進学・就職に関する情報等のシステムでデータを活用した。

### (5) 施設・設備に関する情報

学校施設課において、公立学校施設実態調査結果を基に各種情報分析と資料作成等を行った。

### (6) 進学・就職に関する情報

令和3年3月中学校等・高等学校等卒業者の進路状況及び令和4年3月中学校等卒業予定者の進路志望状況について、集計分析処理を行った。

### (7) 職員の健康管理情報

令和3年度に実施した事務局職員の健康診断受診結果について、各種集計表の出力を行った。

### (8) 銃砲刀剣情報

文化財保護課において、データの登録・更新を行いデータベースに蓄積されたデータを各種問い合わせの対応に活用した。

### (9) 人事情報(学校教職員)オンラインシステム

各担当所属において、学校教職員にかかる人事情報の入力及び人事資料の出力等を逐次行った。

### (10) 人事情報(事務局職員)オンラインシステム

職員福利課において、事務局職員にかかる人事情報の入力及び人事資料の出力等を逐次行った。

### (11) 研修オンラインシステム

各担当所属において、研修情報の入力及び集計資料の出力等を逐次行った。

## 3 教育庁コンピュータシステム

教育行政情報システム(バッチ処理システム及びオンライン処理システム)を活用するためのクライアント・サーバ及びネットワーク機器等を整備し、管理・運用した。

## 4 教育庁OAシステム

教育庁の情報基盤整備のため、平成12年度から本庁各課及び各公所へクライアント、サーバ、ネットワーク機器等を整備し、管理・運用している。

## 5 県教育委員会のホームページ

県教育委員会と県民の窓口として開設している県教育委員会ホームページについて、コンテンツの充実に取り組み、積極的な情報発信及び教育行政への県民からの意見反映等に努めた。

なお、平成20年8月からCMS（コンテンツマネジメントシステム）が導入され、各コンテンツの管理は各担当所属が行っている。

なお、平成19年度から、トップページに広告を掲載することによる財源確保のため、広告掲載事業者を募集している。

## 6 青森県教育データブックの作成

教育関係の基礎的なデータについて、学校教育、社会教育を中心に、スポーツ、文化、教育費も含めて整理し、グラフを用いて視覚的にわかりやすくあらわした資料として、「青森県教育データブック」を作成し、県教育委員会のホームページに掲載した。

## 7 研 修

「電子計算組織利用による教育行政情報システム開発基本計画」に基づき、計画的に情報広報グループ員の養成を図っている。



## 4章 叙 勲、表 彰

### 1 節 職 員 福 利 課 関 係

#### 1 叙 勲 受 章 者

##### (1) 令和3年春の叙勲

杉山 栄和 (瑞双)	元公立小学校長	初等中等教育の発展に貢献
高橋 信夫 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
村田 長年 (瑞双)	元公立中学校長	同 上
柳町 誠也 (瑞小)	元公立高等学校長	同 上
長利 允弘 (瑞双)	元公立中学校長	同 上
須郷 徹 (瑞双)	元公立養護学校長	同 上
天摩 勝三 (瑞双)	元学校薬剤師	学校保健衛生の向上発展に貢献
杉野森 清克 (瑞双)	元青森県相撲連盟会長	スポーツの振興充実に貢献

##### (2) 令和3年秋の叙勲

三浦 一美 (瑞双)	元公立小学校長	初等中等教育の発展に貢献
小松 史明 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
関合 信孝 (瑞小)	元公立高等学校長	同 上
野上 公司 (瑞双)	元公立中学校長	同 上
笹森 義男 (瑞双)	元公立中学校長	同 上
岩谷 治二 (瑞双)	元学校歯科医	学校保健衛生の向上発展に貢献
小笠原 博 (瑞双)	元学校医	同 上
久保 雅喜 (旭双)	元青森県サッカー協会会長	スポーツの振興充実に貢献
豊川 好司 (瑞中)	元青森県教育委員会委員長	地方教育行政の発展に貢献

##### (3) 高齢者叙勲

細井 茂雄 (瑞小)	元公立高等学校長	初等中等教育の発展に貢献
虻川 輝夫 (瑞双)	元公立中学校長	同 上
田口 久年 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
新岡 保夫 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
漆坂 弘隆 (瑞双)	元公立中学校長	同 上
笹森 旭 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
田畑 昭 (瑞双)	元公立中学校長	同 上
千葉 稔 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
寺嶋 武夫 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
原田 和夫 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
福井 松友 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
佐々木 信朗 (瑞双)	元公立中学校長	同 上
成田 葉子 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
野坂 忠尚 (瑞小)	元公立高等学校長	同 上
吉岡 富士雄 (瑞小)	元公立高等学校長	同 上
工藤 喜六 (瑞双)	元公立小学校長	同 上
鹿内 喜佐男 (瑞双)	学校医	学校保健衛生の向上発展に貢献

金澤時信	(瑞小)	元公立高等学校長	初等中等教育の発展に貢献
小野潤	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
田中生也	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
馬場光竹	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
米田裕	(瑞双)	元公立中学校長	同 上
山谷一郎	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
川村武	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
工藤光則	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
佐々木 劭	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
古舘繁	(瑞双)	元公立中学校長	同 上
直井 榮	(瑞小)	元公立高等学校長	同 上
梅原正年	(瑞双)	元学校歯科医	学校保健衛生の向上発展に貢献
高橋秀一	(瑞双)	元公立中学校長	初等中等教育の発展に貢献
本田 務	(瑞小)	元公立高等学校長	同 上
木村輝雄	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
佐々木 静二	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
和島 悌二	(瑞小)	元公立高等学校長	同 上
高屋敷 克巳	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
成田秀也	(瑞双)	元公立中学校長	同 上
竹内 義明	(瑞小)	元公立高等学校長	同 上
瀬川 平八郎	(瑞双)	元公立小学校長	同 上

## 2 県 褒 賞

根岸 英 樹	社会教育の振興発展に貢献
高橋 幸 江	文化の振興発展に貢献
天 摩 由 貴	体育の振興発展に貢献
田 口 鐵 治	学校保健衛生の向上発展に貢献
瀧 澤 政 夫	同 上

## 3 文部科学大臣表彰

### (1) 地方教育行政功労者表彰

中 沢 洋 子	青森県教育委員会委員
野 澤 正 樹	青森県教育委員会委員
武 井 昭 夫	蓬田村教育委員会委員
中 野 雄 臣	鶴田町教育委員会教育長
成 田 金 春	中泊町教育委員会委員
萩ノ沢 俊 明	階上町教育委員会委員

### (2) 教育者表彰

赤 井 茂 樹	青森県立青森工業高等学校長
横 山 誠 之	青森市立筒井中学校長
作 間 和 博	青森市立小柳小学校長

## 2節 学校教育課関係

### 1 年度末表彰（青森県教育委員会）

#### 【小学校】（1件1名）

前田京誠 弘前市立東小学校 6年

#### 【中学校】（3件5名）

山本永遠 弘前市立東中学校 2年

加藤龍人 青森市立南中学校 3年

田村陽樹 むつ市立大畑中学校 1年

小助川京太郎 同 上 1年

根戸内豪 同 上 1年

#### 【県立学校】（1件2名）

大川響生 県立木造高等学校 3年

三浦颯晟 同 上 3年

## 3節 生涯学習課関係

### 1 文部科学大臣表彰

#### (1) 社会教育功労者表彰

田中忠博 青森県読書団体連絡協議会会長

川村優子 青森県地域婦人団体連合会副会長

#### (2) 視聴覚教育・情報教育功労者表彰

三上敏彦 青森市立東中学校教諭

#### (3) 優良PTA表彰

弘前市立裾野小学校

八戸市立下長小学校

青森県立盲学校

#### (4) 優良公民館表彰

今別町中央公民館

#### (5) 子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）表彰

【学校】 青森市立浜田小学校  
むつ市立大平中学校  
青森県立八戸第一養護学校

【図書館】 つがる市立図書館

【団体（個人）】 八戸おはなしの会 紙風船

#### (6) 「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

小山内敬子（青森市）

#### (7) 「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰

横浜町家庭教育支援チーム（子育て応援推進委員会）

## 4節 スポーツ健康課関係

### 1 体育・スポーツ関係

#### (1) 教育長表彰

##### ① 青森県体育功労者（8名）

No.	氏名	年齢	市町村	競技団体等における主な役職	体育・スポーツに関する主な功績
1	小田桐 裕蔵	72歳	黒石市	黒石市バレーボール協会 顧問	昭和59年に黒石市体育協会常務理事に就任以来、その卓越した指導力で協会事業を遂行し、体育協会の発展はもとより、加盟している各種スポーツ団体の育成、強化に尽力した。また、体育協会の財団化を主導し協会の体制と財務の強化に貢献した。
2	工藤 忠善	74歳	南部町	南部町体育協会 顧問	平成4年に南部町（なんぶまち）体育協会理事長を10年間務めた後、平成14年からは会長を務めた。合併後の南部町（なんぶちょう）体育協会が設立されてから令和2年4月に至るまで会長を務め、長年にわたって町スポーツの普及振興及び組織の構築に多大な貢献をした。
3	後藤 秀喜	78歳	青森市	青森県アーチェリー協会 顧問	昭和54年より、青森県アーチェリー協会の役員として、同競技の普及・促進に寄与し、全日本アーチェリー選手権大会や全日本フィールドアーチェリー選手権、北東北インターハイアーチェリー競技を招致して成功させるなど、本協会の発展に多大な貢献をした。
4	鈴木 敏宏	74歳	三沢市	三沢市アイスホッケー協会 会長	昭和63年5月三沢市アイスホッケー協会の設立準備に係わり、平成3年の設立時より理事長として協会の育成指導に努めるとともに、各種大会の誘致から準備運営に尽力し、市のスポーツ普及振興に大きな貢献をした。

No.	氏名	年齢	市町村	競技団体等における主な役職	体育・スポーツに関する主な功績
5	中村 雅章	70歳	十和田市	青森県自転車競技連盟副会長	昭和54年より、青森県自転車競技連盟の役員を歴任し、本県の自転車競技の普及育成に努めるとともに、第86回全日本自転車競技選手権大会の誘致から運営に尽力し、本県の自転車競技の発展に貢献した。
6	服部 一雄	67歳	八戸市	青森県山岳連盟 会長	昭和60年より、青森県山岳連盟の役員として、本県の山岳競技の普及・促進に寄与した。現在は、同連盟の会長として、競技選手の育成にとどまらず、安全登山や遭難防止と自然保護の普及・促進活動にも尽力している。
7	増田 知幸	76歳	青森市	青森県剣道連盟 会長	昭和59年より、青森県剣道連盟の役員を務め連盟の組織体制の見直しを行うなど積極的に改革を行ってきた。現在も青森県剣道連盟の会長として本県剣道競技の競技力の向上と普及促進、組織の円滑化など幅広く活動しており、本県の剣道競技の発展に貢献した。
8	谷地 源次郎	73歳	八戸市	八戸市バドミントン協会 会長	昭和49年以来、八戸市バドミントン協会役員として、リーダーシップを発揮し、協会主催の大会の拡充、国内外トップ選手による技術指導や、ジュニア育成事業の実施により、当市におけるバドミントン競技の普及と競技力向上に積極的に取り組み、多大な貢献をした。

② 青森県社会体育優良団体（3団体）

No.	団体名	代表者氏名	実績
1	おいらせ町ママさんバレーボール協会 (おいらせ町) 昭和47年設立	会長 遠藤 洋子	おいらせ町の各種スポーツ大会で、バレーボールを通して町民への体育・スポーツの普及・振興に参加・協力をするとともに、年間を通して小学校バレーボール部のコーチとして、バレーボールの普及と技術力向上に貢献している。
2	五所川原サッカー協会 (五所川原市) 昭和44年設立	会長 秋田 幸保	各年代及びカテゴリーごとに講習会や大会などを企画し、設立より50年以上西北地域のサッカー競技普及発展に努めるとともに、中体連・高総体の地区予選へ審判を派遣し、運営を補助するなど、サッカーを通して、中学校・高校年代へのルールの遵守やマナーの向上に貢献している。
3	むつ軟式野球連盟 (むつ市) 昭和20年設立	会長 井戸端 隆雄	昭和20年4月の設立から、むつ市、下北郡内にある野球団体との融和と協調を図り、各種野球大会の主管及び審判員の技術向上や、一般・少年・学童の軟式野球の普及促進と青少年の健全育成に寄与している。

③ 青森県優良スポーツクラブ（4団体）

No.	団体名	代表者氏名	実績
1	おいらせ町バレーボール協会 (おいらせ町) 昭和48年設立	会長 澤上 光成	バレーボール教室の開催及びVリーグの大会を町に誘致・大会運営するとともに、年間を通して、中学校バレーボール部にコーチを派遣し、指導するなど、おいらせ町のバレーボール競技の普及と技術力向上に貢献している。
2	白神カヌークラブ (西目屋村) 平成10年設立	会長 三上 博文	設立当初からカヌーを通して、体育の振興と健康増進及びスポーツマン精神と人格の完成を目指すことを目的として、小学生から60代までの幅広い年代が活動しており、村民のスポーツ活動に寄与するなど、カヌーの普及や健康増進に多大なる貢献している。
3	新郷スキークラブ (新郷村) 昭和36年設立	会長 畠山 賢悦	スキー競技の普及・発展及び技術の向上を目指すとともに、新郷村の冬季スポーツの発展のため、スキー競技を愛好する者の親睦を深めるとともに、競技スポーツのみならず、生涯スポーツとしても長年にわたり普及・発展に貢献している。
4	むつ卓球会 (むつ市) 昭和56年設立	代表 船場 永敏	卓球の普及・発展及び技術の向上に努めるほか、礼儀を重んじ、人間性を高めることを目的とし、子供たちの健全な育成に寄与するとともに、卓球を通して地域スポーツの活性化に貢献している。

④ 青森県スポーツ栄誉賞

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	古川 高晴	アーチェリー	近畿大学 (青森市出身)	第32回オリンピック競技大会 (2020/東京) アーチェリー競技 男子個人 第3位 男子団体 第3位
2	天摩 由貴	ゴールボール	マイテック (八戸市出身)	東京2020パラリンピック競技大会 ゴールボール競技 第3位

⑤ 青森県スポーツ栄誉特別賞

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	水谷 隼	卓球	木下グループ (青森山田高出身)	第32回オリンピック競技大会 (2020/東京) 卓球競技 混合ダブルス 優勝 男子団体 第3位
2	丹羽 孝希	卓球	スヴェンソンホールディングス (青森山田高出身)	第32回オリンピック競技大会 (2020/東京) 卓球競技 男子団体 第3位
3	坂本 勇人	野球	読売ジャイアンツ (八戸学院光星高出身)	第32回オリンピック競技大会 (2020/東京) 野球競技 優勝

⑥ 青森県スポーツ功労賞

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	敦賀 又四郎	マスターズ 陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 (五所川原市在住)	第35回青森マスターズ陸上選手権大会 M90 男子4×100m R (1分43秒69) M90 男子4×400m R (9分56秒36)
2	工藤 勇蔵	マスターズ 陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 (五所川原市在住)	第35回青森マスターズ陸上選手権大会 M90 男子4×100m R (1分43秒69) M90 男子4×400m R (9分56秒36)
3	三ツ谷 三造	マスターズ 陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 (鯉ヶ沢町在住)	第35回青森マスターズ陸上選手権大会 M90 男子4×100m R (1分43秒69) M90 男子4×400m R (9分56秒36)

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
4	田中 博男	マスターズ 陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 (青森市在住)	第35回青森マスターズ陸上選手権大会 M90 男子4×100m R (1分43秒69) M90 男子4×400m R (9分56秒36) 第38回岩手県トラック競技記録会花巻大会 M90 男子100m (16秒86) 第5回青森マスターズ陸上競技記録会 M90 男子200m (36秒02)

⑦ 青森県スポーツ功労特別賞

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	福島 由紀	バドミントン	(株)丸杉 (青森山田高出身)	第32回オリンピック競技大会(2020/東京) バドミントン競技 女子ダブルス 第5位
2	永原 和可那	バドミントン	(株)北都銀行 (青森山田高出身)	第32回オリンピック競技大会(2020/東京) バドミントン競技 女子ダブルス 第5位

⑧ 青森県スポーツ大賞 (49名)

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	土屋 正恵	スキー	弘果弘前中央 青果(株)	第99回全日本スキー選手権大会クロスカントリー 競技 女子バシュート10kmフリー 優勝 第100回全日本スキー選手権大会クロスカントリー 競技 女子バシュート10kmフリー 優勝
2	橋本 芳彦	スケート	八戸西高校	第70回全国高等学校スケート競技選手権大会 男子1000m 優勝 JOCジュニアオリンピックカップ第44回全日本 ジュニアスピードスケート選手権大会 男子総合 優勝
3	山本 大史	スケート	明治大学	第40回全日本学生スピードスケート選手権大会 男子500m 優勝、男子1500m 優勝、男子5000m 優勝、男子総合 優勝
4	上野 恵理子	スケート	八戸学院大学	第40回全日本学生スピードスケート選手権大会 女子5000m 優勝
5	葛原 将輝	水泳	日本体育大学	第97回日本学生選手権水泳競技大会 (水球競技) 優勝
6	村上 来花	陸上	弘前実業高校	第74回全国高等学校総合体育大会陸上競技 女子ハンマー投 優勝
7	田澤 廉	陸上	駒沢大学	秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権 大会 総合1位
8	沼田 晃季	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
9	大戸 太陽	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝



No.	氏 名	競技種目	所 属	大会名及び成績
10	多久島 良紀	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
11	三輪 椋平	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
12	丸山 大和	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
13	宇野 禪斗	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
14	松木 玖生	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
15	藤森 颯太	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
16	田澤 夢積	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
17	名須川 真光	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
18	渡邊 星来	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
19	鈴木 尋	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
20	小原 由敬	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
21	田中 栄勢	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
22	中山 竜之介	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
23	小野 暉	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
24	小湊 絆	サッカー	青森山田高校	令和3年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
25	村上 隆真	体操	青森大学	第73回全日本学生新体操選手権大会 男子団体総合 優勝 第74回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
26	太田 悠介	体操	青森大学	第73回全日本学生新体操選手権大会 男子団体総合 優勝 第74回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
27	武藤 翼	体操	青森大学	第73回全日本学生新体操選手権大会 男子団体総合 優勝 第74回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
28	玉置 颯	体操	青森大学	第73回全日本学生新体操選手権大会 男子団体総合 優勝 第74回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
29	松本 健太	体操	青森大学	第73回全日本学生新体操選手権大会 男子団体総合 優勝 第74回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
30	野口 勇人	体操	青森大学	第73回全日本学生新体操選手権大会 男子団体総合 優勝 第74回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
31	田口 将	体操	青森大学	第73回全日本学生新体操選手権大会 男子団体総合 優勝 第74回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
32	松永 健人	体操	青森大学	第73回全日本学生新体操選手権大会 男子団体総合 優勝
33	岩淵 緒久斗	体操	青森大学	第73回全日本学生新体操選手権大会 男子個人総合、個人種目別（スティック・ リング・クラブ） 優勝 第6回全日本男子新体操クラブ選手権大会 個人総合 優勝 第74回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝、個人種目別スティック 優勝
34	後藤 輝	体操	青森大学	第74回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
35	赤羽 拓海	体操	青森山田高校	第36回全国高等学校新体操選抜大会 男子個人リング 優勝
36	山崎 玲奈	卓球	神山TTC	2021年度全日本卓球選手権大会 （マスターズの部） 女子フォーティ 優勝
37	奈良岡 功大	バドミントン	IMG(日本大学)	第31回トマス杯 男子国別対抗団体 3位
38	大澤 陽奈	バドミントン	青森山田高校	第49回全国高等学校選抜バドミントン大会 女子ダブルス 優勝
39	石川 心菜	バドミントン	青森山田高校	第49回全国高等学校選抜バドミントン大会 女子ダブルス 優勝
40	横内 美音	バドミントン	青森山田中学校	令和3年度第51回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
41	沼田 陽菜	バドミントン	青森山田中学校	令和3年度第51回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
42	平本 梨々菜	バドミントン	青森山田中学校	令和3年度第51回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
43	広瀬 万倫	バドミントン	青森山田中学校	令和3年度第51回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
44	石川 乃乃葉	バドミントン	青森山田中学校	令和3年度第51回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
45	坂本 愛依	バドミントン	青森山田中学校	令和3年度第51回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
46	東谷 悠妃	バドミントン	青森山田中学校	令和3年度第51回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
47	後藤 零偉	空手道	市川中学校	全日本空手道松涛館第7回全国空手道選手権 大会 中学3年男子 形の部 優勝
48	出町 さくら	空手道	濤和館	第1回全日本実業団空手道選手権大会 組手女子個人戦 優勝
49	鈴木 真弥	空手道	日本空手松濤連盟	第17回アジアシニア空手道選手権大会 組手女子団体 3位

⑨ 青森県スポーツ努力賞（2名）

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	前田 悠斗	空手道	女鹿沢小学校	文部科学大臣杯第63回小学生・中学生全国空 手道選手権大会 個人戦 小学3年生男子組手 優勝
2	岡山 裕弥	相撲	篠田小学校	JOCジュニアオリンピックカップ第34回全日本 小学生相撲優勝大会 小学4年生以下の部 優勝

⑩ 青森県スポーツ・レクリエーション奨励賞

- 1 地域又は職域において、引き続き10年以上スポーツ・レクリエーション活動の企画・指導に当たり、その普及・振興に尽くした者

氏名	年齢	住所	活動年数	実績
東 征悦	81歳	十和田市	17年	十和田市や青森県の協会、連合 会会長を歴任し、県内のパークゴ ルフの競技力の向上に努めるとと もに、全国大会の誘致及び運営に 貢献し、生涯スポーツとしての普 及・振興に尽力した。
柳沢 ちせ	80歳	三沢市	47年	1974年の活動以来、市内外の 介護予防教室や生涯学習講座等 の講師を自ら務め、小さい子供 から高齢者まで幅広い世代の方 への健康づくりの普及・発展に 尽力した。

- 2 地域のスポーツ・レクリエーションの普及・振興のため、市町村域または広域のスポーツ振興に功績のあった団体で次の条件を満たすもの
- ア 引き続き5年以上活動し、会員等の構成員がおおむね10名以上であること
- イ 活動と運営が、定期的、計画的かつ組織的に行われていること

(五十音順)

団体名	代表者氏名	主な功績
十和田バウンドテニス協会 (十和田市) 平成16年設立	会 長 工 藤 伸 行	十和田市で開催された全国大会において運営の中心的役割を担うだけでなく、全国大会を機に初心者教室を企画するほか、バウンドテニスの指導技術等向上のため、講習会を開催するなど、県内外の愛好者を対象に主催した交流会を主催するなど、普及・振興に貢献している。

- 3 新たなスポーツ・レクリエーションの種目や用具を開発し、県民のスポーツ・レクリエーション活動の普及・振興に功績のあった者又は団体

団体名又は氏名	主な功績
※該当なし	

- 4 全国を統括する連盟・協会が主催する大会において、優秀な成績を収め表彰された者若しくは団体又は顕著な活動・功績により表彰された者若しくは団体

氏 名	種 目	市町村	大 会 名 及 び 成 績
※該当なし			

## 2 学校給食関係

- (1) 令和3年度学校給食表彰（文部科学大臣表彰）

〈個人〉

今 井 裕 子（蓬田村立蓬田中学校 栄養教諭）

- (2) 令和3年度青森県学校給食表彰（県教育長表彰）

◇本表彰は、学校給食の普及と充実を図るため、学校給食実施上優れた効果をあげている学校、学校給食共同調理場、個人及び団体に対して青森県教育委員会教育長が行うものです。

〈学校〉

青森市立筒井小学校 (校長 長 崎 雅 仁)

五所川原市立五所川原小学校 (校長 谷 川 龍 三)

むつ市立関根中学校 (校長 川 岸 敏 男)

八戸市立町畑小学校 (校長 工 藤 正 道)

三戸町立杉沢小中学校 (校長 田 中 康 文)

<個人>

長 沼 裕美子 (外ヶ浜町立蟹田中学校 栄養教諭)

柴 田 雅 代 (南部町立名久井小学校 栄養教諭)

### 3 学校保健関係

#### (1) 学校保健及び学校安全表彰

##### ① 文部科学大臣表彰

学校保健関係

個人の部

小 宅 弘 道 元学校医 (弘前市)

成 田 隆 元学校医 (青森市)

住 吉 辰 郎 元学校歯科医 (今別町)

学校の部

なし

学校安全関係

五戸町立五戸小学校

##### ② 青森県教育委員会教育長表彰

◇本表彰は、学校保健及び学校安全の普及と向上を図るため、これらに関して顕著な功績をあげた学校保健及び学校安全関係者、学校、団体に対して青森県教育委員会教育長が行うものです。

学校保健関係

<個人>

袴 田 勝 学校医 (八戸市)

一 戸 敏 学校医 (弘前市)

円 山 宏 洋 学校医 (青森市)

富 田 重 照 元学校医 (五所川原市)

野 宮 英 二 学校医 (板柳町)

大 里 宏 治 学校歯科医 (八戸市)

嶋 谷 保 壽 元学校歯科医 (青森市)

平 山 雅 人 学校歯科医 (五所川原市)

久米田 讓 学校歯科医 (板柳町)

宮 澤 雅 元学校歯科医 (野辺地町)

工 藤 勝 久 学校歯科医 (板柳町)

幸 坂 英 明 元学校薬剤師 (外ヶ浜町)

<学校>

なし

学校安全関係

<個人>

なし

<学校>

なし

③ 青森県学校保健会長表彰

◇本表彰は、学校保健の普及と向上に関して、顕著な功績をあげた学校保健関係者、学校及び団体に対して、青森県学校保健会会長が行うものです。

〈個人〉

古  館	仁	学校歯科医	(十和田市)
山  田	文 義	学校薬剤師	(八戸市)
井  澤	勇	学校薬剤師	(むつ市)
三  上	恵 一	学校医 (眼科医)	(青森市)
山  崎	祐 司	学校歯科医	(弘前市)

〈学校〉

なし

(2) 学校歯科保健優良校

〈小学校〉

小規模校	県一	平川市立竹鼻小学校
中規模校	県一	青森市立浪岡北小学校
大規模校	県一	三沢市立三沢小学校

〈中学校〉

小規模校	県一	八戸市立南浜中学校
大規模校	応募なし	

〈高等学校の部〉

応募なし

〈特別支援学校〉

応募なし

〈幼稚園〉

応募なし

(3) 歯・口の健康児童表彰

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

(4) 歯科保健図画・ポスター・標語の表彰

図画・ポスター

小学校低学年の部	特選	十和田市立藤坂小学校	3年	苫米地	煌 大
小学校高学年の部	特選	八戸市立豊崎小学校	5年	山下	絵 鈴
中学校の部	特選	八戸市立根城中学校	3年	前田	楓 月
特別支援学校の部	特選	県立八戸聾学校	中学部2年	柴田	菜々子

標語

特選 むつ市立田名部中学校 2年 伊 藤 紗 英

## 第2部 教 職 員





# 第2部 教 職 員

## 1章 教職員の配置

### 1節 教職員の配置基準

- 〔1〕 公立小学校及び中学校の教職員配置基準は、次のとおりとする。学級数については、県が定める学級編制基準による。

#### 1 小 学 校

##### 〔1〕 校 長

1校に1人とする。

##### 〔2〕 教員（教頭・教諭）

- ① 次の表のとおり配置する。

教員数には教頭を含むものとする。

学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
教員数	2	3	4	5	6	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18
学級数	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
教員数	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	31	32	33	34

- ② 特別支援学級（各障害種別）において、担当教員1人当たりの指導児童数が、平均して6人を超える学校には、1人増配置する。
- ③ 指導方法の工夫改善等に積極的に取り組む学校には、学級数及び児童数を勘案し、別途配置する。

##### 〔3〕 養 護 教 諭

- ① 4学級以上の学校に1人とする。
- ② 3学級以下の学校については、児童数、施設、設備、学校保健活動の推進状況等を勘案し、努めてへき地に重点をおいて配置するものとする。
- ③ 児童数が851人以上の学校に1人増配置する。
- ④ ③以外の学校については、児童数及び保健室登校等学校事情を勘案し、1人増配置する。

#### 〔4〕事務職員

- ① 4学級以上の学校に1人とする。
- ② 3学級以下の学校については、次のとおりとする。
  - ア 児童数が25人以上の学校に1人とする。
  - イ 中学校が併置されている場合は、児童及び生徒の数が合わせて25人以上の学校に1人とする。
- ③ 27学級以上の学校に1人増配置する。
- ④ 要保護及び準要保護児童が100人以上、かつその学校の児童数に対する割合が25/100以上の場合、児童数及び学校事務処理体制等の事情を勘案し、必要があると認められる学校に1人増配置する。
- ⑤ 事務の共同実施による事務部門の強化対応を行う学校には、別途配置する。

#### 〔5〕栄養教諭・学校栄養職員

- ① 学校給食（給食内容がミルクのみである給食を除く。以下同じ。）を実施する共同調理場については、次のとおりとする。
  - ア 児童及び生徒の数が1,500人以下の共同調理場に1人とする。
  - イ 児童及び生徒の数が1,501人以上6,000人以下の共同調理場に2人とする。
  - ウ 児童及び生徒の数が6,001人以上の共同調理場に3人とする。
- ② 学校給食の単独実施校については、次のとおりとする。
  - ア 児童及び生徒の数が550人以上の単独実施校に1人とする。
  - イ 児童及び生徒の数が550人以上の単独実施校を有しない市町村に1人とする。  
ただし、共同調理場に栄養教諭又は学校栄養職員（以下「栄養教諭等」という。）が配置される市町村は除く。
  - ウ 栄養教諭等が配置されていない単独実施校を8校以上有している市町村に1人とする。
  - エ 栄養教諭等が配置されていない単独実施校の児童及び生徒の数が合わせて800人以上の町村に1人とする。
  - オ 上記以外の単独実施校については、児童及び生徒の数及び学校数等を勘案し配置する。
- ③ 児童の食に関する指導に積極的に取り組む学校には、児童数等を勘案し、1人増配置する。
- ④ 児童の食に関する指導体制の整備に積極的に取り組む市町村には、取組状況等を勘案し、上記①～③の人数の範囲内で、栄養教諭を配置する。

## 2 中学校

### 〔1〕校長

1校に1人とする。

ただし、小学校が併置されている場合は、小学校の校長が兼務するものとする。

## 〔2〕 教員（教頭・教諭）

① 次の表のとおり配置する。

教員数には教頭を含むものとする。

学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
教員数	3	5	7	8	10	11	12	13	15	17	18	19	20	22	24
学級数	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
教員数	25	27	29	30	32	33	35	36	37	39	40	42	43	45	47

- ② 特別支援学級（各障害種別）において、担当教員1人当たりの指導生徒数が、平均して6人を超える学校には、1人増配置する。
- ③ 学校規模が14学級以上の上記教員数には、生徒指導専任教諭1人を含むものとする。
- ④ 指導方法の工夫改善等に積極的に取り組む学校には、学級数及び生徒数を勘案し、別途配置する。

## 〔3〕 養護教諭

- ① 4学級以上の学校に1人とする。
- ② 3学級以下の学校については、生徒数、施設、設備、学校保健活動の推進状況等を勘案し、努めてへき地に重点をおいて配置するものとする。
- ③ 生徒数が801人以上の学校に1人増配置する。
- ④ ③以外の学校については、生徒数及び保健室登校等学校事情を勘案し、1人増配置する。
- ⑤ 小学校が併置されている場合は、小学校の養護教諭が兼務するものとする。ただし、①又は②を満たし、かつ、小学校に配置がない場合、中学校に1人とし、小学校の養護教諭を兼務するものとする。

## 〔4〕 事務職員

- ① 4学級以上の学校に1人とする。
- ② 3学級以下の学校については、生徒数25人以上の学校に1人とする。
- ③ 21学級以上の学校に1人増配置する。
- ④ 要保護及び準要保護生徒が100人以上、かつその学校の生徒数に対する割合が25/100以上の場合、生徒数及び学校事務処理体制等の事情を勘案し、必要があると認められる学校に1人増配置する。
- ⑤ 事務の共同実施による事務部門の強化対応を行う学校には、別途配置する。
- ⑥ 小学校が併置されている場合は、小学校の事務職員が兼務するものとする。ただし、①又は②を満たし、かつ、小学校に配置がない場合、中学校に1人とし、小学校の事務職員を兼務するものとする。

〔5〕 栄養教諭・学校栄養職員

小学校に同じ。

② 弾力的な学級編制に係る教職員の配置については、次のとおりとする。

1 県が実施する弾力的な学級編制による学級増については、上記1の学級数には含まず、教職員の配置については、1学級増につき教諭又は講師1人とする。

2 市町村が独自に実施する弾力的な学級編制による学級増については、県費負担教職員の配置は行わないため、授業時間数の増加などによって現有の教員に著しい負担を課すことのないよう、実施市町村において適切に措置すること。

③ 併置又は併設型の小中一貫教育推進校においては、指導計画や教育環境の整備状況及び学校規模等の学校事情を勘案し、協議の上、上記①によらない教職員の配置をすることができるものとする。

## 2 節 学級編制の基準

### 令和3年度学級編制について

#### 1 学級編制基準

県が定める学級編制基準である、公立小学校及び中学校の1学級の児童生徒数の標準は、下表のとおりとする。

学級編制の区分	学校種別	
	小 学 校	中 学 校
単 式 学 級	第1・2学年 35 第3学年以上 40	40
2 個 学 年 複 式 学 級 (※1)	第1学年の児童 を含む場合	8 (4)
	第1学年の児童 を含まない場合	16 (8)
特 別 支 援 学 級 (※2)	8	8

※1 「2個学年複式学級」とは、引き続き2の学年の児童又は生徒で編制する学級をいい、( )内の数字は、2の学年の間に児童又は生徒の存しない学年がある場合（いわゆる「飛び複式学級」）のいずれか一方の学年の児童生徒数である。

※2 「特別支援学級」は、2以上の学年の児童又は生徒の数の合計が8人以下である場合は1学級に編制する。

- (1) 学級は同学年で編制するのが原則であり、できる限り少ない個数の学年で編制し、同学年の児童生徒数は分割しない。
- (2) 児童生徒数が8人を下回っている下の学年から順に編制する。ただし、必ずしも引き続く学年によることを要しない。

#### 2 県が実施する弾力的な学級編制について

「単式学級」において、小学校1年生から5年生まで、及び中学校1年生は、上記1の表の学級編制基準（以下「基準」という。）により学年2学級以上の場合、児童生徒数の上限を33人とすることができる。

なお、33人を上限とした場合の学級増は、学年毎に1学級までとする。

## 2章 教職員の異動

### 1節 小・中学校

#### 1 異動方針

全県的な視野に立って、教職員の適正配置と人事の刷新を図り、本県教育の振興を期するため、市町村教育委員会との緊密な連携のもと、次の方針によって、市町村立学校の県費負担教職員の異動を行う。

##### [1] 基本方針

- ① 教育効果の向上を図るための異動を積極的に推進する。
- ② 地域及び学校の特性を勘案のうえ、職員組織の適正化に努める。
- ③ へき地学校の職員組織の充実強化を図る。
- ④ 特別支援教育に当たる職員の適正配置に努める。
- ⑤ 勤務地の固定化の解消に努める。
- ⑥ 広域にわたる人事の交流を推進する。

##### [2] 実施方針

- ① 年齢、経歴、性別、特性等を考慮して職員組織の適正を図る。中学校の場合は、特に所持免許状の教科（又は得意教科）を十分考慮する。
- ② 同一校勤務3年未満の者は、原則として転任させない。
- ③ 同一校勤務10年以上の者は、努めて転任させる。
- ④ 同一町村に引き続き10年以上勤務した者及び同一市に引き続き15年以上勤務した者は、他の市町村へ努めて転任させる。
- ⑤ 校長、教頭等については、全県的な視野で交流を図る。
- ⑥ 校長の新規採用及び教頭の昇任に当たっては、原則として他の市町村に配置する。
- ⑦ 新規採用者の配置については、初任者研修の実施等を考慮し、必要な調整を行う。また、特別の事情がある場合のほか、努めて出身地を避ける。
- ⑧ 計画的他管交流により転出した者については、他管交流者名簿を作成し、原則として3年勤務したのちに、特に意を用いて異動させる。
- ⑨ へき地学校に相当期間勤務した者については特に意を用い、へき地学校勤務者名簿を作成し、希望地又はへき地学校以外の学校との交流を図る。
- ⑩ 特別支援学級担当者については特に意を用い、特別支援教育の専門性を有する教員を適正に配置するように努める。
- ⑪ 特別の事情がある場合のほか、近親者の同一校勤務を避ける。

#### 2 人事異動の結果

令和4年度の人事異動は、学校及び地域の特性を勘案し、活力ある教育活動が展開されるよう、校長、教頭については、充実した学校経営を期して、人格、識見、指導力のある人材を適所に配置することに努めた。一般教職員については、勤務校固定化の解消、職員組織の活性化を図るとともに、職員個々の能力・適性を生かす配置をすることに努めた。

校長については、退職者が小学校59人、中学校30人、教育行政機関等への転出者12人、計101人に対し、校長採用者は、小学校71人、中学校23人、計94人となった。

この94人の内訳は、小・中学校教頭から新たに登用された者72人、教育行政機関等から採用された者22人であった。

また、校長の転任者は52人（前年度61人）であった。

教頭については、小・中学校教諭から新たに登用された者53人（前年度48人）、教育行政機関等から採用された者が28人、また、転任が66人（前年度70人）であった。

一般職員の転任については、小・中学校合わせて908人となり、前年度964人を56人下回る数となった。

これらの異動のうち、へき地交流者数は118人（前年度155人）、他管交流者は65人（前年度90人）である。また、同一校10年以上勤務者については、小学校47人（解消率95.9%）、中学校29人（解消率93.5%）の異動を行った。

小・中学校全体の異動総数（退職・採用・昇任・転任の計）は2,000人となり、前年度の2,076人を76人下回る異動となった。

令和4年度 小・中学校異動集計表

			校長	教頭	教諭	養護教諭	事務職員	栄養教諭 栄養職員	計	3年度
退職	退職	定年	87	6	161	5	19	2	280	288
		勸奨	2		44		3		49	40
		普通			14	1	3		18	11
		小計	89	6	219	6	25	2	347	339
	等職	他県へ			2	1			3	3
		弘大附属へ			7				7	10
		高等学校へ			1				1	1
		特別支援学校へ			4				4	9
		教育庁へ	6	7	17		2		32	28
		市町村へ	6	3	15				24	38
		三本木高附属へ			2				2	2
		知事部局へ								1
		弘大教育学部へ(教職大学院)								
再任用終了				51	4	12		67	50	
教諭・栄養教諭へ								2		
合計		101	16	318	11	39	2	487	483	
転任・免職採用			52	66	781	57	61	9	1,026	1,095
採用	他県から			21					21	21
	弘大附属から		1	7					8	12
	高等学校から			1					1	
	特別支援学校から			3				1	4	8
	教育庁から	12	15	1	1			29	27	
	市町村から	9	12	1				22	37	
	三本木高附属中から	1		1				2	2	
	知事部局から								1	
	弘大教育学部から(教職大学院)									
	再任用			94	2	10		106	98	
新規	新規学卒			56	1	7		64	49	
	講師から			88	8			96	118	
	その他	72	53	3		5	1	134	125	
	小計	72	53	147	9	12	1	294	292	
合計			94	81	276	12	22	2	487	498
総計			247	163	1,375	80	122	13	2,000	2,076

## 2節 県立学校

### 1 異動方針

職員の適正配置と人事の刷新を図り、本県教育の振興を期すため、次の方針によって県立学校職員の異動を行う。

#### [1] 基本方針

- ① 教育効果の向上を図るための異動を積極的に推進する。
- ② 地域及び学校の特性を勘案のうえ、職員組織の適正化に努める。
- ③ 郡部と市部、高等学校と特別支援学校並びに高等学校の各課程間、本校と校舎（校舎制導入校をいう。以下同じ。）との相互の交流を図る。
- ④ 市町村教育委員会との連携を密にして、市町村立学校職員との交流を考慮する。
- ⑤ 勤務校の固定化の解消に努める。
- ⑥ 広域にわたる人事の交流を推進する。

#### [2] 実施方針

- ① 年齢、経歴、性別、特性、所持免許状の教科等を考慮して、職員組織の適正を図る。
- ② 教頭及び事務長については、特に意を用い、適任者の配置に努める。
- ③ 同一校（全日制・定時制・通信制の各課程及び校舎はそれぞれ1校と見なす。以下同じ。）勤務3年未満の者は、原則として転任させない。
- ④ 同一校勤務10年以上の者は、原則として転任させる。
- ⑤ 校舎、定時制課程又は通信制課程に相当期間勤務した者は、特に意を用いて異動させる。
- ⑥ 校長の新規採用に当たっては、原則として他の地域に配属する。
- ⑦ 新規採用者の配置については、特別の事情がある場合のほか、出身地を避ける。
- ⑧ 特別の事情がある場合のほか、近親者の同一校勤務を避ける。
- ⑨ 関係学校長の意見を聞いて異動の適正を期する。

### 2 人事異動の結果

令和4年度県立学校職員の人事異動に当たって特に意を用いたことは、前年度に引き続き、学校及び地域の特性を勘案し、活力ある教育活動が展開されるよう、校長、教頭については、充実した学校経営を期して、人格、識見、指導力のある人材を適所に配置したこと、併せて女性の管理職への登用にも意を用いたこと、一般職員については、勤務校固定化の解消、職員組織の活性化を図るとともに、職員個々の能力・適性を生かす配置に努めたことなどであった。

校長については、退職者等23人、校長採用者は教頭から新たに登用された者が15人、教育行政機関からの採用が4人、転任者数が18人の併せて60人の異動となった。

教頭については、退職者3人、教育行政機関等への転出者5人、校長への採用者15人、教頭採用・昇任者は、教諭から新たに登用された者が13人、教育行政機関等からの採用が4人であった。また、転任者は27人であった。

一般教職員については、退職者222人、採用者207人、転任者455人の異動となった。

これらの異動のうち、全日制同一校勤務10年以上の解消者数は47人、定・通同一校勤務5年以上の解消者数は8人、特別支援学校同一校勤務10年以上の解消者数は19人となった。



全・定交流については、全日制から定時制・通信制へ26人、定時制・通信制から全日制へ15人であった。

この結果、県立学校の異動総数（退職・採用・昇任、転任の合計）は、996人となり、前年度の998人を2人下回った。

### 令和4年度 県立学校教職員異動集計表

(高等学校、特別支援学校（盲・聾・養護学校）、県立中学校）

		校 長		教 頭		教 諭		養護教諭		実習助・寄宿		事務・単労・栄養		計	
		前年度		前年度		前年度		前年度		前年度		前年度		前年度	
退 職	定 年 奨	22	16	3	5	82	78	4	5	14	6	20	22	145	132
	普 通					5	6	1	1	1		1	6	8	13
	小 計	22	16	3	5	95	91	5	6	15	7	21	29	161	154
職 等	他県公立学校へ					2	2							2	2
	附 属 へ					3	7		1					3	8
	県内小中学校へ			1		5	8		1				1	6	10
	教 育 庁 へ	1	1	4	3	14	19	2	1			6	6	27	30
	市 町 村 へ					1								1	
	知 事 部 局 へ					2	3					1	1	3	4
	独立行政法人等へ				1	2	1							2	2
	再 任 用					34	30	1	2	4	1	8	8	47	41
	その他(栄養教諭等へ)											1		1	
	合 計	23	17	8	9	158	161	8	11	19	8	37	45	253	251
転 任	全日制→全日制	9	8	13	12	230	229	4		14	23	38	36	308	308
	全日制→定通制			3	2	19	23	1	1		2	3	4	26	32
	定通制→全日制			3	2	7	5		1	2	1	3	4	15	13
	定通制→定通制			2	1	4	3						2	6	6
	特 支 → 高 校	2		1	1	4	2	1	1	1		4	2	13	6
	高 校 → 特 支					3	3	2				5	1	10	4
	特 支 → 特 支	7	3	5	7	94	81	4	4	2	10	8	15	120	120
	高 校 → 県立中														
	県立中→高 校							1				1			2
	合 計	18	11	27	25	361	346	13	7	19	36	62	64	500	489
採 用 等	新 規 学 卒					7	14		1			3	6	10	21
	講 師 从 事 者 等 からの昇任・その他	15	11	13	13	53	56		1	1	2	2	54	61	
	小 計	15	11	13	13	63	73	1	2	6	6	22	24	120	129
	他県公立学校から					2	3		1					2	4
	附 属 ・ 民 間 人 从 事 者 等 からの昇任・その他			1		2	6		1					3	7
	県内小中学校から					7	12						1	7	13
	教 育 庁 从 事 者 等 からの昇任・その他	4	5	3	3	6	14		1			6	6	19	29
	知 事 部 局 从 事 者 等 からの昇任・その他				1	1								1	1
	独立行政法人から		1			1								1	1
	再 任 用					61	53	2	3	11	5	16	13	90	74
合 計	19	17	17	17	143	161	3	8	17	11	44	44	243	258	
総 計	60	45	52	51	662	668	24	26	55	55	143	153	996	998	

### 3章 採用・昇任・退職

#### 1節 採用・昇任

##### 1 小・中学校校長

公立小・中学校の校長の採用候補者の選考制度は、昭和40年度から実施してきた。

選考は、校長の職務の重要性にかんがみ、教育に関する理念や識見を有し、リーダーシップを発揮し、組織的・機動的な学校運営を行うことができる資質を持つ優れた人材を確保するため実施するものとした。

選考の対象は、下記に該当する者である。

- (1) 教職経験年数が10年以上の者。
- (2) 教頭等経験年数は2年以上とする。教頭等経験年数には、国立学校にあつては、公立学校の教頭に準ずる職にあつた期間を含む。
- (3) 年齢は40歳以上、58歳未満とする。
- (4) 原則として小・中・高教諭又は養護教諭の専修免許状又は一種（一級）免許状所持者。

選考方法は、調書を提出させ、その者について面接を行った。

（面接は、令和3年12月11日（土）、12月12日（日）の2日間、青森工業高校で実施）

教育事務所管内別出願・採用状況

教育事務所名 項目	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八	国 立	計
出 願 者 数	66	38	61	63	26	82	1	337
受 験 者 数	66	38	61	63	26	81	1	336
採 用 者 数	19	8	24	10	6	27	0	94

年 齢 別 受 験 ・ 採 用 状 況

年 齢 項目	40～44	45～49	50～54	55～	計
受 験 者 数	0	22	211	103	336
採 用 者 数	0	1	37	56	94

## 2 小・中学校教頭

公立小・中学校の教頭候補者選考は、従来、市町村教育委員会教育長から推せんされた者の中から選考してきたが、昭和54年から出願制度に改めた。

選考は、教頭の職務の重要性にかんがみ、教育に関する理念や識見及び優れた資質能力を有する人材を広く求めるため実施するものとした。

選考の対象は、下記に該当する者である。

- (1) 教職経験年数が10年以上の者。
- (2) 年齢は38歳以上とする。
- (3) 原則として小・中学校の教諭又は養護教諭の専修免許状又は一種（一級）免許状所持者。

論述試験は、令和3年8月11日（水）、各教育事務所ごとに、青森工業高校（東青）、五所川原工業高校（西北）、弘前工業高校（中南）、十和田工業高校（上北）、むつ工業高校（下北）、八戸中央高校（三八）の6会場で実施した。

面接は、令和3年11月6日（土）、11月7日（日）の2日間、論述試験合格者に調書を提出させ、その者について、県総合学校教育センター（東青、下北）、板柳高校（西北、中南）、百石高校（上北、三八）の3会場で実施した。

教育事務所管内別出願・昇任状況

項目	教育事務所名							計
	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八	県立・ 国立等	
出 願 者 数	157	65	133	132	58	163	20	728
受 験 者 数	155	64	129	132	57	162	20	719
面 接 者 数	73	33	64	62	29	69	11	341
昇 任 者 数	18	6	21	4	6	25	1	81

年 齢 別 受 験 ・ 昇 任 状 況

項目	年 齢					計
	38～39	40～44	45～49	50～54	55～	
受 験 者 数	16	161	280	223	39	719
昇 任 者 数	0	0	35	46	0	81

### 3 県立学校校長

県立学校の校長候補者選考は、平成17年度から出願制度とした。

選考は人物、勤務実績等を十分に考慮して、単に管理職にある者に必要とされる知識のみならず、県立学校の校長としての職務の重要性に鑑み、教育に関する理念や識見を有し、リーダーシップを発揮し、組織的・機動的な学校運営を行うことができる資質を持つ優れた人材を確保するため実施した。

#### (1) 選考対象者

県立学校に勤務する教頭で、令和4年3月31日に次の①、②のいずれも満たす者とする。

① 年齢が57歳以下の者

② 教頭の職に2年以上ある者（充て指導主事（教頭）を含む）

#### (2) 選考方法

出願者全員を対象に、「論述試験-実践レポート-」を提出させ、令和3年10月9日（土）総合学校教育センターにおいて、「面接」を行った。

#### (3) 出願状況

項目	年 齢					計
	49～50	51～52	53～54	55～56	57～58	
出 願 者 数	4	5	17	28	7	61
採 用 者 数	0	0	4	9	2	15

#### 4 県立学校教頭

県立学校の教頭候補者選考は、平成15年度から出願制度とした。

選考は、人物、勤務実績等を十分に考慮して、単に管理職にある者に必要とされる知識のみならず、県立学校の教頭としての職務の重要性に鑑み、教育に関する理念や識見及び優れた資質能力を有する人材を広く求めるために実施した。

##### (1) 選考対象者

県内の国・公立学校に勤務する職員で、令和4年3月31日に次の①、②、③のいずれも満たす者とする。

- ① 教育に関する職に10年以上ある者
- ② 年齢が40歳以上の者
- ③ 小学校・中学校の教諭の専修免許状若しくは一種（一級）免許状、高等学校の教諭の専修（一級）免許状若しくは一種（二級）免許状、養護教諭の専修免許状若しくは一種（一級）免許状、特別支援学校の自立教科教諭の一種免許状を所持している者

##### (2) 選考方法

###### ① 第1次選考

出願者全員に「論述試験－実践レポート－」を提出させた。

###### ② 第2次選考

第1次選考結果により、令和3年11月13日（土）県総合社会教育センターにおいて、「小論文」及び「面接」を行った。

##### (3) 出願状況

項目	年 齢				計
	40～44	45～49	50～54	55～59	
第1次選考対象者数	1	34	64	12	111
第2次選考対象者数	0	18	34	3	55
昇任者数	0	1	11	0	12

#### 5 教 員

令和4年度教員採用候補者選考の第一次試験は、令和3年7月17日（土）、青森中央高等学校、青森商業高等学校、青森東高等学校及び都道府県会館（東京都）の4会場において、筆記試験（一般・教職教養及び教科専門（小学校は全教科））を実施した。

第二次試験は、第一次試験通過者を対象に、令和3年9月25日（土）、26日（日）、青森高等学校及び青森西高等学校において小論文、面接（模擬授業・個人面接）、適性検査、実技試験を実施した。実技試験は、中学校及び高等学校については音楽、美術、保健体育（水泳を除く）、家庭、英語を行った。

また、昨年度に引き続き、スポーツの分野において特に優秀な実績を有する者を対象とした「スポーツ特別選考」、障害がある者がより受験しやすいよう障害の種類や程度に応じて必要な配慮をする「障害者特別選考」及び民間企業等の勤務経験があり、優れた知識・技能を有する人材を学校教育に積極的に活用していくため、「社会人特別選考」を実施した。

令和3年度青森県公立学校教員採用候補者選考試験総括表

区分 校種等	応募者数 (一般選考+特別選考)			総受験者数 (※特別面接通過者を含む)			採用候補者合計 (一般選考+特別選考)			辞退者数 (採用延期者を含む)			本採用者数			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
小学校	(8) 84	(19) 144	(27) 228	(8) 79	(19) 137	(27) 216	(5) 27	(9) 85	(14) 112	1	(1) 9	(1) 10	(5) 27	(8) 80	(13) 107	
中学校	国語	10 (4) 18	(4) 28	9 (4) 18	(4) 27	(0) 2	(3) 6	(3) 8		1	(0) 1	(0) 2	(3) 5	(3) 7		
	社会	(15) 56	(18) 15	(33) 71	(15) 56	(18) 15	(33) 71	(1) 10	(5) 0	(6) 10	1	(0) 1	(1) 9	(5) 0	(6) 9	
	数学	(1) 36	(2) 17	(3) 53	35	(2) 17	(2) 52	(0) 10	(1) 5	(1) 15	3	1	(0) 4	(0) 7	(1) 4	(1) 11
	理科	(2) 19	(1) 8	(3) 27	(2) 19	(1) 8	(3) 27	(0) 8	(1) 3	(1) 11	1	(1)	(1) 1	(0) 7	(0) 3	(0) 10
	音楽	3	(1) 28	(1) 31	3	(1) 27	(1) 30	(0) 1	(1) 4	(1) 5		1	(0) 1	(0) 1	(1) 3	(1) 4
	美術	2	(1) 7	(1) 9	2	(1) 7	(1) 9	(0) 1	(1) 2	(1) 3			(0) 0	(0) 1	(1) 2	(1) 3
	保健体育	(4) 53	(6) 33	(10) 86	(4) 53	(6) 31	(10) 84	(2) 6	(3) 2	(5) 8			(0) 0	(2) 6	(3) 2	(5) 8
	技術	4		4	4		4	(0) 2	(0) 0	(0) 2			(0) 0	(0) 2	(0) 0	(0) 2
	家庭		6	6	6	6	6	(0) 0	(0) 1	(0) 1			(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 1
英語	(2) 8	(2) 28	(4) 36	(2) 7	(2) 27	(4) 34	(1) 1	(0) 6	(1) 7		1	(0) 1	(1) 1	(0) 5	(1) 6	
小計	(24) 191	(35) 160	(59) 351	(23) 188	(35) 156	(58) 344	(4) 41	(15) 29	(19) 70	(0) 5	(1) 4	(1) 9	(4) 36	(14) 25	(18) 61	
高等学校	国語	11	16	27	11	15	26	(0) 0	(0) 2	(0) 2			(0) 0	(0) 0	(0) 2	(0) 2
	公民	(1) 26	(3) 3	(4) 29	(1) 24	(3) 2	(4) 26	(1) 1	(0) 0	(1) 1			(0) 0	(1) 1	(0) 0	(1) 1
	地理歴史	(2) 26	(2) 7	(4) 33	(2) 26	(2) 7	(4) 33	(1) 2	(2) 0	(3) 2			(0) 0	(1) 2	(2) 0	(3) 2
	数学	(1) 27	(2) 7	(3) 34	(1) 27	(2) 7	(3) 34	(0) 4	(0) 0	(0) 4	1		(0) 1	(0) 3	(0) 0	(0) 3
	物理	12	2	14	12	2	14	(0) 2	(0) 0	(0) 2			(0) 0	(0) 2	(0) 0	(0) 2
	化学	12	(1) 1	(1) 13	12	1	13	(0) 1	(0) 0	(0) 1			(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1
	生物	9	4	13	9	4	13	(0) 3	(0) 0	(0) 3			(0) 0	(0) 3	(0) 0	(0) 3
	音楽	5	3	8	5	3	8	(1) 1	(0) 0	(1) 1			(0) 0	(1) 1	(0) 0	(1) 1
	保健体育	(21) 95	(6) 23	(27) 118	(21) 94	(6) 21	(27) 115	(3) 3	(0) 0	(3) 3			(0) 0	(3) 3	(0) 0	(3) 3
	家庭	3	(1) 16	(1) 19	3	(1) 16	(1) 19	(0) 0	(0) 1	(0) 1			(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 1
	英語	11	(2) 16	(2) 27	10	(1) 15	(1) 25	(0) 1	(0) 1	(0) 2			(0) 0	(0) 1	(0) 1	(0) 2
	商業	16	10	26	16	9	25	1	0	1			(0) 0	1	0	1
	農業	(1) 14	(1) 3	(2) 17	(1) 14	(1) 3	(2) 17	(0) 1	(1) 0	(1) 1			(0) 0	(0) 1	(1) 0	(1) 1
	工業(電気・電子)	9		9	9		9	0	0	0			(0) 0	0	0	0
	工業(建築)	5	1	6	5	1	6	1	0	1			(0) 0	1	0	1
	工業(木工)	5		5	5		5	1	0	1			(0) 0	1	0	1
	工業(機械・電子機械)	9		9	9		9	0	0	0			(0) 0	0	0	0
水産(水産食品)			0			0	0	0	0			(0) 0	0	0	0	
水産(水産工学)	1		1	1		1	0	0	0			(0) 0	0	0	0	
看護		1	1	0	1	1	0	1	1			(0) 0	0	1	1	
情報	(1) 14	1	(1) 15	(1) 14	1	(1) 15	(0) 0	(0) 0	(0) 0			(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	
小計	(27) 310	(18) 114	(45) 424	(27) 306	(16) 108	(43) 414	(6) 22	(3) 5	(9) 27	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(6) 21	(3) 5	(9) 26	
特別支援学校	(59)	(72)	(131)	(58)	(70)	(128)	(15)	(27)	(42)	(0)	(2)	(2)	(15)	(25)	(40)	
養護教諭		81	81	80	80	0	13	13	3	3	0	10	10			
栄養教諭	2	25	27	2	22	24	0	2	2			0	2	2		
合計	646	596	1,242	633	573	1,206	(105)	(161)	266	7	18	25	99	147	246	

( ) は特別支援学校で外数  
 「辞退者数」には、教職大学院進学生定者及び在学中の採用候補者における次年度以降への採用延期者(小学校1名、中学校5名、高等学校1名、養護教諭3名)を含む。

## 2節 退職勧奨

### 1 学校職員の退職勧奨基準

学校職員（県立学校の職員及び市町村立学校の県費負担教職員をいう。以下「職員」という。）に係る退職の勧奨については、公務能率の維持向上を図ること等を目的とし、毎年度この基準の定めるところにより行うものとする。

- (1) 各年度における退職の勧奨は、満年齢が50歳以上で、かつ、退職日における勤続期間が20年以上の職員のうち、退職の勧奨を行うことを適当と認める職員について行う。
- (2) 退職の勧奨を受けて退職する職員の退職日は、原則として勧奨を受けた年度の末日（以下「原則退職日」という。）とする。ただし、特別の事情が認められる場合は、原則退職日の前日までに退職させることができる。
- (3) 退職の勧奨の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

令和3年度末勧奨退職者数

校種 職種	小学校				中学校				県立学校 (高校・特別支援)				計			
	校 長	教 員	その 他の 職員	計	校 長	教 員	その 他の 職員	計	校 長	教 員	その 他の 職員	計	校 長	教 員	その 他の 職員	計
東 青	-	6	-	6	-	2	-	2	-	-	-	-	-	8	-	8
西 北	-	4	1	5	-	2	-	2	-	-	-	-	-	6	1	7
中 南	-	13	-	13	1	2	-	3	-	-	-	-	1	15	-	16
上 北	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1
下 北	-	3	-	3	-	2	-	2	-	-	-	-	-	5	-	5
三 八	-	5	1	6	1	4	1	6	-	-	-	-	1	9	2	12
県 立	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	1	8	-	7	1	8
計	-	31	2	33	2	13	1	16	-	7	1	8	2	51	4	57

## 4章 給 与 等

### 1 令和3年度における人事委員会勧告

令和3年10月7日、人事委員会は、県議会及び知事に対して職員の給与等に関する報告を行い、併せて、地方公務員法に定める給与決定の原則により、生計費、国及び他の地方公共団体の職員の給与、民間事業の従事者の給与、その他の事情を考慮し、総合的に判断して、次のとおり勧告した。

「勧告の概要」

#### ○ 本年の給与の改定

- (1) 給料表
  - ・職員給与が民間給与を9円(0.00%)上回る
  - ・民間給与との差が極めて小さいことから給料表の改定は行わない
- (2) 期末手当・勤勉手当
  - ・民間の支給割合との均衡を図るため4.25月分→4.20月分に引下げ
  - ・人事院勧告の内容や他の都道府県の動向を踏まえ期末手当を引下げ
- (3) 実施時期
  - ・令和3年12月1日

### 2 給 与 改 定

令和3年11月の定例県議会において給与改定に係る給与条例が改正され、公布の日(令和3年11月30日)から施行された。



# 5章 免 許

## 令和3年度教員免許状授与件数

(幼・小・中・特別支援学校、養護教諭、栄養教諭)

校種 種別	幼稚園	小学校	中 学 校													特別支援学校	特別支援学校 (理療)	養護教諭	栄養教諭	
			国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	保健	技術	家庭	職業	外国語	宗教					計
専修	1	7		2	3		2	2	3								12	1		
一種	56	118	29	22	22	38	4	4	44	18	7	8		27		223	22	1	32	7
二種	317	14	1													1	51		10	6
特別																				
臨時		93	2		2	2		5	1	5	4	5		2	1	29	18		6	
計	374	232	32	24	27	40	6	11	48	23	11	13		29	1	265	92	1	48	13

(高等学校)

教科・科目 種別	国語	地理歴史	公民	数学	理科	音楽	美術	芸術	書道	保健体育	保健	看護	家庭	家庭実習	情報	農業	工業	工業実習	商業	水産	福祉	商船	外国語	宗教	合計
専修		2	1	6	4	2	2			3		1			2	1									24
一種	25	18	29	31	57	3	6	2	1	55	17	5	8		14	6	12	1	12					32	334
特別																							3		3
臨時		1	1	4		1	2		3	1	3	7	4	1	5		2		4		3		3		45
計	25	21	31	41	61	6	10	2	4	59	20	13	12	1	21	7	14	1	16		3		38		406

令和3年度免許法認定講習受講者

会場	免許状の種類	科目区分	開設科目	受講者数	合格者数
弘前市	小・中一種 養教一種 栄教一・二種	教 職	教育課程の意義及び編成の方法	4	4
			教 育 相 談	5	5
青森市	特別支援一種・二種	特別支援教育	特別支援教育概論	59	59
			聴覚障害教育の教育課程・指導法	86	86
			肢体不自由教育総論	59	59
			知的障害教育総論	35	35
			重複・LD等の教育	64	64
			病弱教育総論	77	77
			視覚障害児の心理・生理・病理	84	83
計			9科目	473	472

令和3年度教員免許更新に係る修了確認等の状況

(旧免許状を所持する現職教員のうち、修了確認期限が令和4年3月31日である者)

(単位：名)

校種 種別	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校			教育委員会職員等	合 計
	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立		
修了確認	1	1	11	244	/	3	151	2	/	97	37	1	44	/	1	593	
受講免除			9	54	/		21		/	13	6		6	/	31	140	
修了確認期限延期				31	/		15		/	14	8		10	/		78	
計	1	1	20	329	/	3	187	2	/	124	51	1	60	/	32	811	

令和3年度教員免許更新に係る修了確認等の状況

(新免許状を所持する現職教員のうち、有効期間の満了日が令和4年3月31日である者)

(単位：名)

校種 種別	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校			教育委員会職員等	合 計
	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立		
有効期間更新			10	39	/		41	2	/	42	13	1	17	/		165	
受講免除			2		/				/					/		2	
有効期間延長				3	/		1		/	2			1	/		7	
計			12	42	/		42	2	/	44	13	1	18	/		174	

## 6章 教職員研修・教育研究

### 1節 教職員研修

教職員の資質向上を図るため、次のとおり研修及び研修への派遣を実施した。

#### 1 幼稚園

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
幼稚園等新規採用教員研修	4	5月21日	県総合学校教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>○青森県の幼児教育</li> <li>○特別な配慮を要する幼児との関わり方</li> <li>○健やかな成長のための環境と習慣づくり</li> <li>○保護者理解と信頼関係を築くための対応</li> <li>○造形遊びの授業づくりと評価</li> <li>○「造形的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する造形遊び</li> <li>○「音楽的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する表現活動</li> <li>○造形と音楽のコラボレーション</li> <li>○これからの図工と音楽の授業づくり</li> <li>○保護者の思いによりそう教育相談</li> <li>○学校における教育相談の実際</li> <li>○保護者との面談</li> <li>○素材に親しみ工夫して遊ぶためのつくる活動</li> <li>○幼児期における発達の理解と幼小連携</li> <li>○保育の展開と援助の在り方</li> <li>○「気になる子供」の視点でかわり方を見直す</li> <li>○医師の視点からかわり方を見直す</li> </ul>
	3	7月2日		
	2	8月19日～20日		
	2	9月16日		
	8	10月1日		
	7	10月6日		
幼稚園教育課程青森県研究協議会	107	8月19日	県総合学校教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究実践発表（コロナ対策、指導計画、特別支援）</li> <li>○障害のある幼児などの状態に応じた指導内容や指導方法の工夫</li> </ul>

#### 2 小 学 校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修)	44	4月～3月 (180～240時間)	勤務校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職教養</li> <li>○教育目標と実践計画</li> <li>○学級経営</li> <li>○授業研修等</li> </ul>
初任者研修(校外研修)	44	4月～3月(12日間)	県総合学校教育センター 県総合学校教育センター (オンライン) 県総合学校教育センター (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級経営の意義とねらい等</li> <li>○授業づくりの基礎・基本等</li> <li>○生徒指導・教員のメンタルヘルス等</li> <li>○情報モラルの指導・道徳科の展会等</li> <li>○学級経営の評価と改善</li> </ul>
学級経営基礎講座Ⅰ	44	5月11日～12日		
学習指導基礎講座Ⅰ	44	6月3日		
学級経営基礎講座Ⅱ	44	9月2日		
学習指導基礎講座Ⅱ	44	11月2日		
学級経営基礎講座Ⅲ	44	1月20日		

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
赴任時研修	44	4月1日	5教育事務所	○教師としての心構え・福利厚生と服務等
示範授業研修	44	5月～6月(1日)	5教育事務所	○示範授業参観、授業の在り方
一般授業研修Ⅰ	44	8月(1日)	5教育事務所	○学習指導案等作成
特別活動研修	44	10月～11月(1日)	5教育事務所	○特別活動の進め方
一般授業研修Ⅱ	44	1月～2月(1日)	遠藤(わか)研修所	○授業の評価、授業実践の結果と課題
まとめ研修	44	1月～2月(1日)	(オンライン)	○初任者研修の成果と課題等
フォローアップ (2年次) 研修	56	6月1日 12月15日	県総合学校教育センター	○キャリア教育の実際 ○学習指導 ○カリキュラム・マネジメントの実践
中堅教諭等 資質向上研 修(前期)	46	7月6日～7日 (ほか選択講座2日)	県総合学校教育センター	○学習指導 ○組織的対応の在り方
中堅教諭等 資質向上研 修(後期)	16	7月8日～9日 12月14日～15日 (ほか選択講座4日)	県総合学校教育センター	○スクールマネジメント等に関する講座(2日) ○授業実践力向上に関する講座(2日)
教育課程研究集会(オンデマンド型)	1,851	7月～8月(1日)	6教育事務所	○小学校教育課程の諸問題の解明を図るための授業実践発表及び指導助言
道徳教育推進 研修(行政法人 教職員支援機構)	1	8月2日～31日 (任意の3日間)	(オンライン)	○道徳教育のマネジメント ○実践活動や体験活動を通じた道徳教育
	1	12月1日～28日 (任意の3日間)	(オンライン)	○特別の教科道徳の指導と評価 ○特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育
教職員等中央研修	17	6月～1月	(オンライン)	○学校組織マネジメント ○カリキュラムマネジメント ○リスクマネジメント ○研修成果の活用

### 3 中 学 校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修)	27	4月～3月 (180～240時間)	勤務校	○教職教養 ○教育目標と実践計画 ○学級経営 ○授業研修等
初任者研修 (校外研修)	27	4月～3月(12日間)		
学級経営基礎講座Ⅰ	27	5月6日	県総合学校教育センター	○学級経営の意義とねらい等
教科等教育基礎講座Ⅰ	27	6月10日～11日	県総合学校教育センター	○子どもが主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり等
学級経営基礎講座Ⅱ	27	8月26日	県総合学校教育センター	○生徒指導の進め方、教員のメンタルヘルス等
教科等教育基礎講座Ⅱ	27	10月14日	県総合学校教育センター	○教科指導におけるICT活用等
教科等教育基礎講座Ⅲ	27	11月18日	県総合学校教育センター	○情報モラルの指導、授業実践を振り返って等
赴任時研修	27	4月1日	4教育事務所	○教師としての心構え・福利厚生と服務等
示範授業研修	27	5月～7月(1日)	5教育事務所	○示範授業参観、授業の在り方
一般授業研修Ⅰ	27	8月(1日)	4教育事務所	○学習指導案等作成
特別活動研修	27	10月～11月(1日)	5教育事務所	○特別活動の進め方
一般授業研修Ⅱ	27	1月～2月(1日)	4教育事務所	○授業の評価、授業実践の結果と課題
まとめ研修	27	2月	(オンライン)	○初任者研修の成果と課題等
フォローアップ (2年次) 研修	28	6月1日 12月15日	県総合学校教育センター	○キャリア教育の実際 ○学習指導 ○カリキュラム・マネジメントの実践
中堅教諭等 資質向上研 修(前期)	32	7月6日～7日 (ほか選択講座2日)	県総合学校教育センター	○学習指導 ○組織的対応の在り方
中堅教諭等 資質向上研 修(後期)	29	7月8日～9日 12月14日～15日 (ほか選択講座4日)	県総合学校教育センター	○スクールマネジメント等に関する講座(2日) ○授業実践力向上に関する講座(2日)
教育課程研究集 会(資料研修)	2,357	7月～8月(1日)	6教育事務所	○中学校教育課程の実施に向けた資料による研修
道徳教育推進研修 (行政法人教職員 支援機構)	1	12月1日～28日 (任意の3日間)	(オンライン)	○道徳教育のマネジメント ○特別の教科道徳の指導と評価
全国キャリア教 育・進路指導担 当者等研究協議会	2	10月21日	(オンライン)	○キャリア教育に関する研究報告 ○キャリアパスポートの展開
教職員等中 央研修	14	6月～1月	(オンライン)	○学校組織マネジメント ○カリキュラムマネジメント ○リスクマネジメント ○研修成果の活用

#### 4 高等学校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修) 180時間以上	38	4月～3月	各勤務校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職教養</li> <li>○教育目標と実践計画</li> <li>○授業研究</li> <li>○生徒指導と進路指導</li> </ul>
初任者研修 (校外研修) 12日	38	4月～3月	県総合学校教育センター等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の服務、社会人としてのマナー</li> <li>○授業で身に付けさせたい力</li> <li>○特別支援教育の視点に立った授業づくり</li> <li>○授業実践の基礎</li> <li>○協力校の授業参観と研究協議</li> <li>○生徒理解への取組</li> <li>○情報モラル教育</li> <li>○特別支援学校の教育について</li> <li>○1年間の研修を振り返る</li> </ul>
フォローアップ (2年次) 研修	40	5月18日～19日	県総合学校教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材研究</li> <li>○模擬授業と指導の工夫</li> <li>○ホームルーム経営</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上研 修(前期)	44	5月24日 9月14日	県総合学校教育センター等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前期中堅教員に期待すること</li> <li>○いじめ・不登校のない学校づくり</li> <li>○主体的・対話的で深い学びの視点で行う授業改善</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上研 修(後期)	50	6月29日～30日 8月27日 12月10日	県総合学校教育センター等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○温かい人間関係づくり</li> <li>○資質・能力を育む授業づくりに向けて</li> <li>○後期中堅教諭に期待すること</li> </ul>
教務主任連 絡協議会	85	4月20日	県総合学校教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和3年度学校教育指導の方針と重点の趣旨</li> <li>○関係事業説明、分掌事務遂行の留意点の周知徹底</li> </ul>
教務主任研 究協議会	76	10月26日	(オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高等学校におけるカリキュラム・マネジメントの充実</li> <li>○ワークショップ</li> </ul>
県立学校長 研究協議会	55	7月6日	(オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講演</li> <li>○研究協議、情報交換</li> </ul>
県立学校教 頭研究協議 会	74	6月25日	(オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講演</li> <li>○研究協議、情報交換</li> </ul>

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
教職員等中央研修	22	5月～1月	(オンライン)	○教育指導と学校管理 ○教育課程の編成と管理 ○学校指導の原理と方法 ○生徒指導・進路指導の原理と方法
進路指導主事研究協議会	78	4月20日	県総合学校教育センター	○講演 ○研究協議、情報交換
生徒指導主事研究協議会		6月8日 (資料配付)		○県内の生徒指導等の状況について ○生徒指導上の諸課題における多機関連携に関する講演 ○各学校の生徒指導に係る取組に関する協議
全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会	4	10月	(オンライン)	○これからのキャリア教育の在り方や具体的な手法・実践等についての研究協議・情報交換
キャリア教育指導者養成研修	1	9月	(オンライン)	○発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て
産業・情報技術等指導者養成研修	家庭 1 看護 1	8月23日～25日 8月23日～25日	(オンライン) (オンライン)	○教科「家庭」における授業改善に関する講義と演習 ○教科「看護」における授業改善に関する講義と演習
学校農業クラブ・学校家庭クラブ指導者養成講座	家庭 1 農業 1	8月3日 8月11日～13日	(オンライン) (オンライン)	○家庭クラブ指導者の資質の向上 ○農業クラブ指導者の資質の向上

## 5 特別支援学校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修) 240時間以上	33	4月～3月	各勤務校	○教職教養 ○教育目標と実践計画 ○授業研究 ○生徒指導と進路指導
初任者研修 (校外研修) 21日	33	4月～3月	県総合学校教育センター等	○教職員の服務・福利厚生 ○特別支援教育の概要 ○一人一人のニーズに応じた指導 ○学級経営の基礎・基本 ○小学校の授業参観・協議 ○生徒指導上の課題への対応 ○救急法 ○福祉施設等見学 ○研修の意義・まとめ
フォローアップ (2年次) 研修	32	9月21日～22日	県総合学校教育センター	○授業改善 ○授業検討
中堅教諭等資質 向上研修(前期) (校内研修) 5日	28	4月～3月	各勤務校	○授業研究・教材研究 ○研修のまとめ
中堅教諭等資質 向上研修(前期) (校外研修) 4日	28	4月～3月	県総合学校教育センター等	○関係機関との連携 ○効果的なT T ○授業改善 ○キャリア教育
中堅教諭等資質 向上研修(後期) (校内研修) 7日	29	4月～3月	各勤務校	○授業研究・教材研究 ○研修のまとめ
中堅教諭等資質 向上研修(後期) (校外研修) 8日	29	4月～3月	県総合学校教育センター等	○関係機関との連携 ○学校課題とその対応 ○授業の課題分析 ○思考法の活用
教務主任連絡協議会・ 研究協議会	21	4月20日 10月26日	県総合学校教育センター	○講話 ○研究協議
県立学校長 研究協議会	21	7月6日	(オンライン)	○関係事業等説明
教職員等中央 研修	5	6月～1月	(オンライン)	○講義



名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
進路指導主事 研究協議会	21	4月21日	(オンライン)	○講義 ○研究協議
研究主任研 究協議会	21	5月7日 1月14日	(オンライン)	○講義 ○研究協議
生徒指導主事 研究協議会	21	(資料配付)		○情報提供
特別支援教育新 担当教員研修会		6月～9月 (資料配付)	各教育事務所 管内	○情報提供
特別支援教 育専門研修	4	5月～7月 9月～11月 令和4年 1月～3月	(オンライン) 独立行政法人 国立特別支援 教育総合研 究所(オンライン 及び集合・宿 泊型研修)	○講義
長期派遣型 地域実践研 究員	1	4月12日～ 令和4年3月18日	独立行政法人国 立特別支援教育 総合研究所	○講義 ○演習 ○研究協議
交流及び共同 学習推進指導 者研究協議会	2	11月19日	(オンライン)	○講義 ○研究協議
ICT活用 に関わる指導者 研究協議会	3	8月23日	(オンライン)	○講義 ○研究協議
聴覚障害教 育担当教員 講習会		(コロナのため中止)		
自立教科等 担当教員(理 療)講習会		(コロナのため中止)		

## 6 生徒指導等

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
生徒指導基幹研修	4	6月1日～6月3日	独立行政法人教職員支援機構	○生徒指導上の今日的諸問題の現状と施策について ○生徒指導における事例研究及び演習について ○不登校、いじめ、自殺問題への対応
今日から始めるいじめ対策研修講座	40	5月13日	県総合学校教育センター	○いじめの理解といじめ防止のための取組 ○危機意識の持続と組織対応について
今日から始める不登校対策研修講座	59	7月28日	県総合学校教育センター	○不登校の現状について ○不登校の理解と対応

## 7 大学院教員派遣

### (1) 大学院派遣

県内の公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に勤務する教員を大学院に派遣し、その資質の向上を図る。

派 遣 先	人 員	研修期間	専攻／コース
上越教育大学院	小 学 校 1	令和3年 4月1日～ 令和5年 3月31日	教育実践高度化 ／教科教育・学級経営実践

### (2) 教職大学院派遣

県内の公立小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校に勤務する教員を弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）に派遣し、教育実践力を身に付けたミドルリーダーの育成を図る。

派 遣 先	人 員	研修期間	専攻／コース
弘前大学教職大学院	小 学 校 3 中 学 校 2 高 等 学 校 1 特別支援学校 2	令和3年 4月1日～ 令和5年 3月31日	教育実践／ミドルリーダー養成

## 8 指導改善研修

本県では、平成15年度から、児童等への指導が不適切な教員を「研修措置教員」に認定し、県総合学校教育センターや所属校等において研修を行う「研修措置制度」を実施してきた。

一方、指導が不適切な教員に対する人事管理について、各都道府県教育委員会の制度の内容や運用にばらつきがあったため、全国的な教育水準の確保を図る観点から、平成19年6月に教育公務員特例法が改正された。

同法の改正により、本県では、平成20年度より、研修措置制度に代えて、児童等に対する指導が不適切であると認定した教諭等に対し、その能力、適性等に応じて、指導の改善を図るために必要な事項に関する研修（指導改善研修）を実施した。

なお、指導改善研修と研修措置制度とは、研修期間（指導改善研修は最長2年、研修措置制度の研修は最長3年）以外に、大きな違いはない。

### (1) 対象教員

県教育委員会の任命に係る教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、講師、実習助手及び寄宿舎指導員

（条件付採用期間中の職員、再任用職員、臨時的任用職員及び非常勤の講師を除く。）

### (2) 指導改善研修対象教員の定義

教員に求められる資質能力に課題があり、児童等を適切に指導できないため、教育活動に支障をきたし、児童等に対しての責任が果たせないことから、指導改善研修を受講させる必要のある教員をいう。ただし、疾病により児童等を適切に指導できない者を除く。

### (3) 指導改善研修対象教員の認定までの対応

学校における対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・指導が不適切な教員の実態把握</li><li>・校内での指導又は研修と「指導・観察記録簿」等の作成</li><li>・指導の改善が見られない教員について教育委員会へ報告</li></ul>
市町村教育委員会における対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・報告内容の精査・確認</li><li>・県教育委員会への指導改善研修対象教員の認定申請</li></ul>
県教育委員会における対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・申請（県立学校の場合は、報告）内容の精査・確認</li><li>・指導改善研修対象教員審査会への審査依頼</li><li>・指導改善研修対象教員の認定</li></ul>

### (4) 研修の実施

指導改善研修対象教員ごとに個別の研修プログラムを作成し、原則として1年間、学校、県総合学校教育センター等において、研修を実施する。

(5) 研修後の措置

当該教員の指導の改善の程度	研修後の措置
指導が改善し、児童等に対して適切に指導を行える程度	本来の職務への復帰
児童等に対する指導が不適切であるが、更に指導改善研修を行えば、適切に指導を行える程度までの改善が見込まれる程度	研修期間の延長
児童等に対する指導が不適切であり、適切に指導を行える程度まで改善する余地がない程度	職種変更
	退職の勧奨
	分限免職

※ 指導改善研修対象教員の状況  
対象教員なし

## 2節 教育研究

### 1 研究指定校

(1) 文部科学省指定校

① 道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

学 校 名	研 究 内 容
五所川原市立南小学校 五所川原市立五所川原第一中学校	・教員の道德教育に係る指導力向上 ・小・中学校の連携を意識した道德教育の推進 ・道德科の授業公開の実施

② スーパーサイエンスハイスクール

学 校 名	研 究 内 容
県立弘前南高等学校	科学教育プロジェクト～地域に学び社会に貢献する科学技術人材の育成～
県立青森高等学校	学際的研究により新たな価値を創出できる国際的な科学技術系人材の育成

(2) 国立教育政策研究所指定校

教育課程研究指定校事業

学 校 名	研 究 内 容
青森市立南中学校	表現を工夫し、挑戦する生徒の育成（より高い課題の解決を目指し、よく聴き、自らの考えを持ち学び合う生徒を育成する学習指導の工夫）

教育課程実践検証協力校事業

学 校 名	実 践 検 証 内 容
階上町立赤保内小学校	各教科等の教育課程に関するもの（特別活動）
八戸市立吹上小学校	E-Assessment B 枠（外国語科）
県立田名部高等学校	各教科等の教育課程に関するもの（地理歴史）
県立百石高等学校	各教科等の教育課程に関するもの（芸術 音楽）

## (3) 青森県教育委員会指定校

## ① ドリカム人づくり推進事業

学 校 名	研 究 主 題
鶴 田 高 等 学 校	鶴(高)の恩返し 2021
七 戸 養 護 学 校	造形活動-生きることへの自信と豊かな心の育成-
弘 前 第 一 養 護 学 校	地域とともに～3つのワーク(フットワーク、チームワーク、ネットワーク)～
青 森 商 業 高 等 学 校	台湾販売戦略プロジェクト～青森県産品を世界へ発信～
木造高等学校深浦校舎	「わが深浦町の魅力探訪！」
八 戸 高 等 支 援 学 校	『みんなで 鮫リンピック』
む つ 養 護 学 校	「下北から学び、下北と共に活動し、下北に貢献するチーム“6245” ～チームワーク、フットワーク、ネットワークでわく <sup>3</sup> ～
青 森 聾 学 校	「魅せろ！手話の力～届け、私たちの思い～」
十和田工業高等学校	地域産業の発展に貢献！ものづくり、ひとつづくり「夢」育成プラン
柏木農業高等学校	「地域の稀少生物の復活と白神山地の保全、地域農業の活性化をめざして」
青森工業高等学校	ものづくりコンテスト優勝！
名久井農業高等学校	名久井園芸高校へ向けた新たな門出～未来へ繋がるレガシーづくり～
むつ工業高等学校	「心をつなぐ、ものづくり・ひとつづくり」
三本木農業高等学校 三本木農業恵拓高等学校	しあわせプロジェクト2nd ～志+支=幸 地域活性をここから～
八 戸 商 業 高 等 学 校	I T技術で地域の課題解決から魅力の発信へ！
青 森 西 高 等 学 校	青西人づくり・街づくりプロジェクト
八 戸 東 高 等 学 校	「表現科19年目の挑戦」
百 石 高 等 学 校	地産地消 レシピコンテスト開催(百高カップ2021)
青 森 中 央 高 等 学 校	青森から発信！世界に届け平和のメッセージ
青 森 南 高 等 学 校	青い森高校生読み聞かせ推進事業(連携校：青森中央高等学校)
五所川原農林高等学校	『世界に向けた農林産物の生産や輸出・販売を学ぶプロジェクト』 (連携校：柏木農業高等学校 弘前実業高等学校)
三沢高等学校 定時制の課程	いきいきハイスクール 地域産業や郷土の文化を学ぶ (連携校：八戸中央高等学校)
八 戸 高 等 学 校	三八地区連携プロジェクト (連携校：八戸北高等学校 八戸東高等学校 八戸西高等学校)

② 高校から取り組む人口減少対策プロジェクト事業

学 校 名	研 究 主 題
青 森 高 等 学 校	共生・協働のための異文化融合プロジェクト
木 造 高 等 学 校	『グローバル・アイ』地域の未来を切り拓く担い手育成プログラム
黒 石 高 等 学 校	青森県地域活性化プロジェクト『Look at 青森』大作戦
七 戸 高 等 学 校	金の卵発掘大作戦 ～将来、地域貢献をする人財の育成を目指して～
十和田西校等学校	十和田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略 ～十西観光科バージョン：高校生による戦略～
三 戸 高 等 学 校	三戸みらい創生プロジェクト
名久井農業高等学校	名農未来創出委員会 ～人口減少を見据えた学び方改革・働き方改革による持続可能な社会を目指して～
八 戸 工 業 高 等 学 校	北東北最大級の産業都市だからできる！ 「地域から学び還元する工業部」
青森商業高等学校	青森を元気にする起業家育成プロジェクト

③ いきいき青森っ子健康づくり事業（健康教育実践研究校）

学 校 名	趣 旨
聖 アルバン 幼稚園 十和田カトリック幼稚園 蓬田村立蓬田小学校 中泊町立武田小学校 階上町立石鉢小学校 藤崎町立明德中学校 東北町立東北中学校 むつ市立大畑中学校 県立弘前高等学校 県立三沢高等学校 県立八戸高等支援学校	健康課題解決のため、学校、家庭及び地域と連携しながら、発達の段階に応じた具体的な指導内容、指導方法についての研究を行い、主体的に健康づくりに取り組む児童、生徒の育成に資する。

④ 青森県交通安全推進地区

学 校 名	趣 旨
鶴田町立鶴田小学校	児童生徒等の交通安全行動の定着化を図るため、学校を中心とする地域全体の交通安全意識の高揚に努める。

⑤ 命を守る！防災教育推進事業（令和3年度～令和4年度）

学 校 名	趣 旨
外ヶ浜町立三厩中学校 深浦町立修道小学校 弘前市立石川小学校 三沢市立第三中学校 むつ市立川内小学校 八戸市立三条中学校	子どもたちが防災に係る正しい知識を身に付け、自然災害発生時に適切に対応できる資質・能力の向上を図るための防災教育モデルを構築し、広く普及させるため、地域と連携した防災教育や教科等横断的な防災教育の在り方について研究する。

⑥ LD、ADHD等の児童生徒に対する通級による指導の在り方に関する研究事業

学 校 名	趣 旨
青森市立浪打小学校 青森市立長島小学校 青森市立浪打中学校 青森市立浦町中学校 平内町立小湊小学校 外ヶ浜町立蟹田小学校 つがる市立向陽小学校 弘前市立大成小学校 弘前市立岩木小学校 弘前市立福村小学校 弘前市立東中学校 弘前市立津軽中学校 黒石市立黒石小学校 平川市立金田小学校 十和田市立三本木小学校 十和田市立三本木中学校 三沢市立上久保小学校 三沢市立第一中学校 野辺地町立若葉小学校 七戸町立七戸小学校 むつ市立第二田名部小学校 八戸市立城下小学校 八戸市立湊小学校 八戸市立根岸小学校 八戸市立第二中学校 八戸市立第三中学校 三戸町立三戸中学校 五戸町立五戸小学校 階上町立赤保内小学校	LD、ADHD等の児童生徒を対象とした通級による指導の在り方

⑦ 特別支援学校技能検定事業

区 分	学 校 名	趣 旨
高等部を設置する県立特別支援学校（技能検定の対象となる特別支援学校）	県 立 盲 学 校	地域の企業等との連携・協働により「夢や志」をもち、チャレンジする心をはぐくむための青森県版「特別支援学校技能検定」を開発・実施するなど、生徒の進路実現のための体制整備を進めることによって特別支援学校におけるキャリア教育及び職業教育の充実を図る。
	県 立 青 森 聾 学 校	
	県立青森第二養護学校	
	県立青森若葉養護学校	
	県立青森第一高等養護学校	
	県立青森第二高等養護学校	
	県立弘前第一養護学校	
	県立弘前第二養護学校	
	県立八戸第一養護学校	
	県立八戸高等支援学校	
	県 立 森 田 養 護 学 校	
	県 立 黒 石 養 護 学 校	
	県 立 浪 岡 養 護 学 校	
	県 立 七 戸 養 護 学 校	
県 立 む つ 養 護 学 校		
高等部を設置していない県立特別支援学校	県 立 八 戸 盲 学 校	
	県 立 弘 前 聾 学 校	
	県 立 八 戸 聾 学 校	
	県立青森第一養護学校	
	県立八戸第二養護学校	

(4) その他の公的団体からの指定校

「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業

～望ましい生活習慣の形成を目指して～」（一般社団法人日本学校歯科医会）

学 校 名	趣 旨
横浜町立横浜中学校	健康な生活を営むために必要な基本的な生活習慣を身に付け、よりよい生活を築こうとする実践的な態度の育成



## 7章 教職員の福利厚生

### 1節 福利厚生の概要

#### 1 組合員、会員

##### (1) 公立学校共済組合青森支部

令和3年度末における組合員数は、12,771人で前年度と比較し216人の減となった。

組合員数と被扶養者数

(4.3.31現在)

種 別	組 合 員 数	被 扶 養 者 数	組合員1人当たり 被 扶 養 者 数
一 般 組 合 員	12,465人	9,008人	0.72人
船 員 組 合 員	24	29	1.21
任意継続組合員	282	174	0.62
計	12,771	9,211	0.72

##### (2) (一財) 青森県教職員互助会

教職員互助会の令和3年度末における会員数は、11,984人で前年度より222人減となり、加入率は95.5%となった。

#### ① 会員数、給料、掛金

(4.3.31現在)

会 員 数	会員1人当たりの 平均給料の月額	会員1人当たりの 平均掛金の月額
11,984人	356,572円	2,496円

#### ② 3年度中の加入及び退会状況

区 分	2年度末 現 在	3 年 度			3年度末 現 在
		加 入	退職・退会	増 減	
会 員	12,206人	611人	833人	△222人	11,984人

#### 2 給 付 等

##### (1) 公立学校共済組合青森支部

#### ① 掛金、負担金収入

短期の掛金、負担金収入は、前年度と比較すると2,074千円減となった。

また、長期関係の掛金、負担金収入は、前年度と比較すると587,651千円減となった。

## 収入状況

(単位：千円)

種 別	掛 金	負 担 金	計
短 期	4,100,084	3,976,412	8,076,496
厚 生 年 金 保 険	7,162,098	11,831,263	18,993,361
退 職 等 年 金	587,391	587,395	1,174,786
経 過 的 長 期		133,038	133,038

## ② 短期給付

短期給付（法定給付及び附加給付等）の支出総額は、3,553,240千円でその主なものは、医療費で全体の89%を占め、3,164,069千円となった。

## 法定給付

種 別	件 数	日 数	金 額	1 件当たり	
				日数	金 額
本 人 医 療 費	172,732件	259,612日	1,796,529,034円	1.5日	10,401円
家 族 医 療 費	113,619	183,304	1,013,765,322	1.6	8,922
高 額 医 療 費	2,464		275,508,984		111,814
出 産 費	138		57,949,804		419,926
家 族 出 産 費	28		12,206,631		435,951
埋 葬 料	16		800,000		50,000
家 族 埋 葬 料	7		350,000		50,000
直 営 保 健 給 付	4	4	54,222	1.0	13,556
傷 病 手 当 金	220	4,615	50,822,936	21.0	231,013
休 業 手 当 金	1	10	73,197	10.0	73,197
育 児 休 業 手 当 金	1,465	28,956	249,436,014	19.8	170,263
介 護 休 業 手 当 金	27	386	4,158,303	14.3	154,011
計	290,721	476,887	3,461,654,447		

## 附加給付

種 別	件 数	金 額	種 別	件 数	金 額
本人医療費	2,048 件	54,209,900 円	埋 葬 料	16 件	400,000円
家族医療費	878	24,001,400	家 族 埋 葬 料	7	175,000
出 産 費	128	6,400,000	傷 病 手 当 金	21	4,948,948
家 族 出 産 費	29	1,450,000			
			計	3,127	91,585,248

## (2) (一財) 青森県教職員互助会

令和3年度の収支は、収入384,819千円に対し、支出は374,576千円で当期収支差額は10,243千円となった。

## ① 収入状況

種 別	金 額
基本財産運用収入	基本財産利息収入 60円
掛金収入	掛金収入 358,945,655
事業収入	生活資金貸付償還金収入 16,196,000
	生活資金貸付手数料収入 316,943
	つなぎ融資貸付償還金収入 6,811,037
	つなぎ融資貸付手数料収入 4,645
負担金収入	芸術鑑賞補助負担金収入 1,239,100
	スポーツ観戦補助負担金収入 0
雑収入	受取利息収入等 2,540
その他	1,303,945
計	384,819,925

## ② 支出状況

種 別	件 数	金 額	備 考
医療費補助金	58,010件	208,087,329円	1件当たりの平均 3,587円
入院見舞金	1,585	7,314,000	本人 500円 (947件) 被扶養者 500円 (638件)
死亡弔慰金	20	3,800,000	本人 250,000円 (13件) 配偶者 100,000円 (4件) 家族 50,000円 (3件)
災害見舞金	0	0	
結婚祝金	167	8,350,000	50,000円
出産祝金・見舞金	157	5,495,000	本人 35,000円 (130件) 被扶養者 35,000円 (27件)
入学・卒業祝金	1,390	13,900,000	被扶養者である子 10,000円 (902件) 被扶養者でない子 10,000円 (488件)
無給付者褒賞金	2,006	10,030,000	5,000円

種 別	件 数	金 額	備 考
退 職 慰 労 金	529件	24,410,000円	在会10年以上20年未満 30,000円 (50件) 在会20年以上30年未満 40,000円 (104件) 在会30年以上50,000円 (375件)
妊 婦 支 援 補 助 費	186	5,580,000	本 人 30,000円 (154件) 被扶養者 30,000円 (32件)
リフレッシュ助成費	634	10,380,000	在会20年 10,000円 (230件) 在会30年 20,000円 (404件)
遺 児 給 付 金	2	500,000	250,000円
施 設 利 用 補 助 費	2,620	2,620,000	1泊につき 1,000円
芸 術 鑑 賞 補 助 事 業 費	378	2,304,700	
スポーツ観戦補助事業費	79	97,100	
ドック負担金補助事業	1,770	7,095,000	宿 泊 10,000円 (255件) 一 日 3,000円 (1,515件)
予防接種負担金補助事業	1,995	1,995,000	1,000円
生 活 資 金 貸 付 金	28	13,200,000	
つなぎ融資貸付金	4	3,469,547	
厚生文化事業補助金		1,350,000	
図 書 館 図 書 贈 呈 費		1,999,514	
芸 術 文 化 奨 励 費		500,000	
学 校 図 書 贈 呈 費		4,950,000	県内の公立小・中学校 1校当たり 50,000円 小学校60校 中学校39校
教育振興事業補助金		60,000	
職員給与・事務費等		34,894,900	
特定資産取得支出		2,191,610	
そ の 他		2,381	
計		374,576,081	

## 2節 福利厚生事業

### 1 貸付事業

#### (1) 公立学校共済組合青森支部

貸付状況

(単位：千円)

貸付種別	令和2年度		令和3年度		比較増減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般	49	72,800	50	71,100	1	△ 1,700
住宅	9	63,029	5	59,100	△ 4	△ 3,929
教育	11	24,900	15	30,300	4	5,400
結婚	0	0	1	1,000	1	1,000
医療	1	1,200	2	2,400	1	1,200
葬祭	0	0	0	0	0	0
災害	0	0	0	0	0	0
介護構造	0	0	0	0	0	0
高額医療	0	0	0	0	0	0
出産	0	0	0	0	0	0
計	70	161,929	73	163,900	3	1,971

#### (2) (一財) 青森県教職員互助会

貸付状況

(単位：千円)

貸付種別	令和2年度		令和3年度		比較増減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生活資金貸付	35	16,100	28	13,200	△ 7	△ 2,900
つなぎ融資貸付	10	23,006	4	3,470	△ 6	△ 19,536

## 2 教職員の健康管理

令和3年度は、以下の事業を実施した。

### 健康管理事業

(単位：千円)

事業名	場所	対象	人数	金額
特定健康診査	指定医療機関	※1	943	7,798
特定保健指導	指定医療機関	※2	464	7,664
宿泊ドック	東北中央病院	47歳、54歳、60歳の組合員	296	19,742
一日ドック	県内18健診機関	27歳、32歳、37歳、41歳、44歳、47歳、50歳、52歳、54歳、56歳、58歳、60歳、62歳、64歳の組合員	2,114	66,238
ヤングヘルスチェック	県内13健診機関	24歳、27歳、30歳、32歳、34歳、37歳、39歳の組合員	359	4,799
脳検診	県内11健診機関	40歳、46歳、51歳、55歳、59歳の組合員	795	16,876
乳がん検診	県内17健診機関	30歳以上の女性組合員	2,783	14,043
子宮がん検診	県内14健診機関	女性組合員	2,872	12,569
大腸がん検診	県内14健診機関	30歳以上の組合員	3,749	6,991
歯科健診	県内医療機関	25歳、30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳の組合員外	991	4,658
被扶養者一日ドック	県内18健診機関	30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の被扶養者	93	2,144
へるすあっぷセミナー	学習動画配信	組合員とその家族	2,081	1,056
こころの健康相談	県内4医療機関	組合員と被扶養者	4	26
管理監督者のメンタルヘルス研修会	学習動画配信	組合員	350	467
トータルヘルスチェックWEB事業	パソコン・携帯電話等	組合員と被扶養者	31,856	156
歩こう歩けばコンペ2021	-	組合員	3,108	8,189
がん検診コールリコール事業	-	組合員	73	38
心とからだの健康マルシェ	自己学習型	組合員	219	1,117
復職支援プログラム【職場復帰編】	-	組合員	60	1,059
復職支援プログラム【休養編】	-	組合員	4	50
職場の健康教育支援事業	県内17か所	組合員	397	253
健診フォローアップ事業	県内1か所	組合員	13	11
職場で取り組む教職員のストレスチェック事業	29所 所属	希望する所属所	548	1,240
産業カウンセラー派遣事業	県内10か所	組合員	82	478
ヘルスリテラシー普及事業	-	組合員	489	695
生活習慣病重症化予防事業	-	組合員	1,300	344
個人向けインセンティブ健康ポイント付与事業	-	組合員	543	1,681
トータルライフサポート事業(健康づくり編)	-	組合員	-	4,651
計			56,586	185,033

※1 40歳以上75歳未満の被扶養者、任意継続組合員とその被扶養者

※2 特定健康診査の結果により動機付け支援又は積極的支援に該当した者

### 3 その他の厚生事業等

令和3年度は、以下の事業を実施した。

#### 一般事業

(単位：千円)

事業名	実施内容	人数等	金額
ライフデザインセミナー (退職準備型)	55歳以上の組合員とその家族を対象に、退職後を見通した生活設計セミナーをオンライン開催	257	83
ライフデザインセミナー (生活充実型)	組合員とその家族を対象に、生涯生活設計を支援するためのセミナーをオンライン開催	26	0
退職手続きガイドブック の配付	定年及び勤奨で退職する組合員に「退職前後の手続きガイドブック」を配付	500	525
しおり等の発行	「福利厚生としおり」の配付	2,400	117
健康づくり情報誌配付	「健診案内」、「健康相談ポスター」、「健康カレンダー」を全組合員又は全所属所に配付	27,400	2,071
育児情報誌配付	出産した組合員及び被扶養者に対し、育児情報誌を配付	366	1,023
認知症予防教室	組合員及びその家族を対象に、認知症に対する正しい理解と知識を持つための教室をオンライン開催	24	135
トータルライフサポート 事業(一般事業編)	組合員の多様なニーズに対応するため、福利厚生代行業者に一般事業を委託し実施	-	11,028
職場復帰訓練(試し出勤) 傷害保険負担事業	精神性疾患により休職している組合員の職場復帰に向けた訓練(試し出勤)中に発生した災害の補償を行うための傷害保険料を負担	38	97
計		31,011	15,079

## 8章 教職員の人事評価制度

### 1 導入経緯

平成26年5月14日の地方公務員法の一部改正により、勤務成績の評定制度が廃止され、平成28年4月1日から新たに人事評価制度を導入するとともに、その人事評価の結果を任用、給与、分限その他の人事管理の基礎として活用することとされた。

このことから、平成20年度から実施してきた教職員の人材育成・評価制度の目的を踏まえて、教職員の能力と業績を適正に評価し、支援することにより、本県の教育力を充実させ、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教職員の人事評価制度を導入した。

### 2 制度の目的

教職員の人事評価制度においては、能力評価及び業績評価を通して、教職員の資質能力の向上及び学校組織の活性化を図ることを主な目的とする。

- ・ 能力評価では、教職員が、経験や職制に応じて発揮することが求められる能力について理解し、評価者との面談や自己評価等を通して、自己の長所・短所、特性、課題等を自覚するとともに、評価者が勤務状況を把握し、教職員にきめ細かな指導・助言を行う。
- ・ 業績評価では、学校目標を踏まえた自己目標を設定することにより、学校目標・経営方針や教科・学年・分掌等の目標と自己目標とのつながりが明確となり、また、達成すべき目標を学校全体で共有することで、組織の一員としての自覚を高める。

### 3 制度の概要

#### (1) 能力評価及び業績評価の内容

評価の構成	評価の内容
能力評価	職員が職務遂行の過程で発揮した意欲及び能力を標準職務遂行能力及び評価基準に基づき評価する。
	「意欲」：職務遂行の根幹にある取組姿勢 「能力」：職務遂行の中で発揮された能力（行動力）等
業績評価	職員が職務遂行上の目標（以下「自己目標」という。）を設定した職務等の業績を評価基準に基づき評価する。 評価は、目標管理の手法を用いて評価する。
	「業績」：職務遂行の中で自己目標の達成状況や自己目標以外で成果を上げた取組等

#### (2) 評価期間及び評価基準日

職員区分	評価の内容	評価期間	評価基準日
教育職	能力評価	4月1日から翌年の3月31日まで	2月1日
	業績評価	4月1日から翌年の3月31日まで	2月1日
行政職等	能力評価	10月1日から翌年の9月30日まで	9月1日
	業績評価（前期）	4月1日から9月30日まで	9月1日
	業績評価（後期）	10月1日から翌年の3月31日まで	2月1日

※ 会計年度任用職員については、任用期間に応じた評価期間・評価基準日により、能力評価及び業績評価を実施。



## 第3部 学 校 教 育



# 第3部 学校教育

## 1章 学校教育指導の方針と重点

### 1 方針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く幼児児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に努める。

### 2 重点

#### (1) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備

イ 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成に向けた教材研究の深化

ウ 一人一人の学習の過程や成果の的確な把握と指導の改善につながる評価の工夫

エ 各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫

オ 学校図書館やICTなどを活用した子どもの学びを支援する学習環境の充実

#### (2) 道徳教育の充実

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、教育活動全体を通じて道徳性の育成に努める。

ア 道徳教育を推進する指導体制と全体計画の整備・充実

イ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫

ウ 郷土を愛する心を育む指導の充実

エ 道徳科における学習状況及び道徳性に係る成長の様子の継続的な把握と、評価を生かした指導の工夫

#### (3) 特別活動の充実

一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。

ア 自主的な態度を育てる学級活動・ホームルーム活動の工夫

イ 自治的な意識を高める児童会活動・生徒会活動の工夫

ウ 児童の個性の伸長を図り、触れ合いを深めるクラブ活動の工夫

エ 集団への所属感や連帯感を深める学校行事の工夫

#### (4) 体育・健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

イ 健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実

- ウ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実
  - エ 安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実
- (5) 生徒指導の充実
- 一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。
  - ア 基本的な生活習慣や自己指導能力を育成する協働的な指導体制の充実
  - イ 生徒指導の機能を生かした学年・学級・ホームルーム経営の充実
  - ウ 児童理解・生徒理解に基づいた教育相談の充実
  - エ 児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進と組織的な対応の徹底
- (6) キャリア教育の充実
- 一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成に努める。
  - ア キャリア教育指導体制の整備・充実
  - イ 現在及び将来の生き方を考える指導・進路指導の充実
  - ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成
- (7) 特別支援教育の充実
- 発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。
  - ア 校内支援体制の充実
  - イ 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実
  - ウ 個別的教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実
  - エ 交流及び共同学習による相互理解の促進
- (8) 環境教育の推進
- 一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。
  - ア 教科等間の関連を踏まえた指導の工夫
  - イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫
  - ウ 環境にかかわる体験活動の充実
- (9) 国際化に対応する教育の推進
- 一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。
  - ア 郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
  - イ 外国語教育の充実による、外国語を通じたコミュニケーション能力の育成
  - ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進
- (10) 情報化に対応する教育の推進
- 一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。
  - ア 情報教育を推進する指導体制の整備・充実
  - イ 学習指導におけるICTの適切な活用の推進
  - ウ 情報通信ネットワーク等を適切に活用した教育の推進
  - エ 家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実
- (11) 研修の充実
- 教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実を努める。
  - ア 教員等の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進
  - イ 日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実
  - ウ 教育要領・学習指導要領に基づく実践的研究の充実
  - エ 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実
  - オ 家庭や地域社会と連携し、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の研究・推進

## 2章 幼稚園教育

### 1節 幼稚園の概況

#### 1 幼稚園の設置・廃止

(公立)

異動種別	名称	異動年月日	
-	-	-	

(私立)

異動種別	名称	異動年月日	
廃止	六戸幼稚園	R3.2.26	

#### 2 幼稚園数・園児数

(R3.5.1)

幼稚園数		園児数	年齢数		
			3歳	4歳	5歳
国・公立	3	78	22	24	32
私立	83	4,209	1,295	1,376	1,538
計	86	4,287	1,317	1,400	1,570

## 2節 幼保連携型認定こども園の概況

### 1 幼保連携型認定こども園の設置及び園数・園児数

(R2.5.1)

幼保連携型 認定こども園数		園児数	年 齢 数			
			0～2歳	3歳	4歳	5歳
公 立	2	158	54	35	32	37
私 立	243	18,726	6,810	3,864	3,960	4,092
計	245	18,884	6,864	3,899	3,992	4,129

## 3節 教育課程・保育指導

○ 幼稚園教育課程青森県研究協議会

8月19日

### 3章 小・中学校教育

#### 1節 学校の概況

##### 1 学校の設置・廃止

異動種別	名 称	異動年月日	備考（統廃合）
設 置	弘前市立新和小学校	R 3. 4. 1	
廃 止	青森市立大栄小学校	R 4. 3. 31	(青森市立浪岡北小学校へ)
〃	十和田市立下切田小学校	〃	(十和田市立南小学校へ)
〃	むつ市立二枚橋小学校	〃	(むつ市立大畑小学校へ)
〃	三戸町立杉沢小学校	〃	(三戸町立三戸小学校へ)
〃	深浦町立岩崎中学校	〃	(深浦町立深浦中学校へ)
〃	三戸町立杉沢中学校	〃	(三戸町立三戸中学校へ)

##### 2 学校数、児童・生徒数

(R3.5.1)

区分	小 学 校				中 学 校			
	学 校 数			児童数	学 校 数			生徒数
	本 校	分 校	計		本 校	分 校	計	
青 森 市	43		43	12,239	19		19	6,714
弘 前 市	32		32	6,723	16		16	3,484
八 戸 市	42		42	10,707	24		24	5,577
黒 石 市	4		4	1,334	2		2	644
五所川原市	11		11	2,086	6		6	1,113
十 和 田 市	16		16	2,685	9		9	1,344
三 沢 市	7		7	2,062	5		5	1,058
む つ 市	13		13	2,403	9		9	1,317
つ が る 市	7		7	1,166	5		5	715
平 川 市	9		9	1,366	4		4	721
東 津 軽 郡	7		7	668	7		7	383
西 津 軽 郡	5		5	487	4		4	299
中 津 軽 郡	1		1	71	0		0	0
南 津 軽 郡	5		5	1,319	4		4	658
北 津 軽 郡	9		9	1,338	4		4	760
上 北 郡	22		22	4,319	14		14	2,233
下 北 郡	5		5	584	4		4	367
三 戸 郡	23		23	2,373	12		12	1,294
県 立					1		1	240
合 計	261		261	53,930	149		149	28,921

① へき地等指定学校数

区 分	へ き 地 等 指 定 学 校 数								
	計	へ き 地						準へき地	特別地
		計	5級地	4級地	3級地	2級地	1級地		
(小 学 校)									
総 計	31	26	-	1	1	4	20	4	1
本 分 校	31	26	-	1	1	4	20	4	1
市 郡 計	12	10	-	-	1	1	8	1	1
市 郡 計	19	16	-	1	-	3	12	3	-
青 森 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
弘 前 市	2	1	-	-	-	-	1	1	-
八 戸 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
黒 石 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五 所 原 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
十 三 和 田 市	3	2	-	-	1	-	1	-	1
三 沢 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
む つ が 市	4	4	-	-	-	1	3	-	-
つ 平 川 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
東 津 軽 郡	2	1	-	-	-	-	1	1	-
西 津 軽 郡	3	3	-	-	-	1	2	-	-
中 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北 上 津 軽 郡	1	1	-	-	-	1	1	-	-
下 北 北 戸 郡	5	5	-	-	-	1	4	-	-
上 北 北 戸 郡	5	4	-	1	-	-	3	1	-
東 下 三 戸 郡	3	2	-	-	-	1	1	1	-
教 育 事 務 所									
東 青 北 郡	2	1	-	-	-	-	1	1	-
西 中 南 北 北 八 郡	6	6	-	-	-	1	5	-	-
上 下 三 北 八 郡	2	1	-	-	-	-	1	1	-
下 三 北 八 郡	9	8	-	-	1	1	6	-	1
上 下 三 北 八 郡	9	8	-	1	-	1	6	1	-
下 三 北 八 郡	3	2	-	-	-	1	1	1	-
(中 学 校)									
総 計	25	21	-	1	1	4	15	3	1
本 分 校	25	21	-	1	1	4	15	3	1
立 計	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市 郡 計	10	8	-	-	1	1	6	1	1
市 郡 計	15	13	-	1	-	3	9	2	-
青 森 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
弘 前 市	2	1	-	-	-	-	1	1	-
八 戸 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
黒 石 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五 所 原 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
十 三 和 田 市	2	1	-	-	1	-	-	-	1
三 沢 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
む つ が 市	3	3	-	-	-	1	2	-	-
つ 平 川 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
東 津 軽 郡	2	1	-	-	-	-	1	1	-
西 津 軽 郡	3	3	-	-	-	1	2	-	-
中 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南 津 軽 郡	1	1	-	-	-	-	1	-	-
北 上 津 軽 郡	3	3	-	-	-	1	2	-	-
下 北 北 戸 郡	4	3	-	1	-	-	2	1	-
東 下 三 戸 郡	2	2	-	-	-	1	1	-	-
教 育 事 務 所									
東 青 北 郡	2	1	-	-	-	-	1	1	-
西 中 南 北 北 八 郡	6	6	-	-	-	1	5	-	-
上 下 三 北 八 郡	2	1	-	-	-	-	1	1	-
下 三 北 八 郡	6	5	-	-	1	1	3	-	1
上 下 三 北 八 郡	7	6	-	1	-	1	4	1	-
下 三 北 八 郡	2	2	-	-	-	1	1	-	-



② へき地等指定学校児童・生徒数及び本務教員数

区 分	児 童 ・ 生 徒 数									本 務 教 員 数									
	計	へ き 地						準へき地	特別地	計	へ き 地						準へき地	特別地	
		計	5級地	4級地	3級地	2級地	1級地				計	5級地	4級地	3級地	2級地	1級地			
(小学校)																			
総計	1,749	1,407	-	-	5	144	1,258	302	40	292	238	-	-	4	31	203	44	10	
本分	1,749	1,407	-	-	5	144	1,258	302	40	292	238	-	-	4	31	203	44	10	
市郡	576	468	-	-	5	12	451	68	40	107	86	-	-	4	5	77	11	10	
計	1,173	939	-	-	-	132	807	234	-	185	152	-	-	-	26	126	33	-	
青森市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
弘前市	81	13	-	-	-	-	13	68	-	16	5	-	-	-	-	5	11	-	
八戸市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
黒石市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
五所川原市	52	52	-	-	-	-	52	-	-	11	11	-	-	-	-	11	-	-	
和田市	83	43	-	-	5	-	38	-	40	24	14	-	4	-	10	-	10		
三和市	86	86	-	-	-	-	86	-	-	11	11	-	-	-	11	-	-		
むつ市	131	131	-	-	-	12	119	-	-	32	32	-	-	-	5	27	-	-	
つがる市	143	143	-	-	-	-	143	-	-	13	13	-	-	-	-	13	-	-	
平川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東津軽郡	52	20	-	-	-	-	20	32	-	19	8	-	-	-	-	8	11	-	
西津軽郡	198	198	-	-	-	28	170	-	-	32	32	-	-	-	8	24	-	-	
中津軽郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
南津軽郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
北津軽郡	72	72	-	-	-	-	72	-	-	13	13	-	-	-	-	13	-	-	
上北郡	506	506	-	-	-	100	406	-	-	63	63	-	-	-	14	49	-	-	
下北郡	318	128	-	-	-	-	128	190	-	43	27	-	-	-	-	27	16	-	
三戸郡	27	15	-	-	-	4	11	12	-	15	9	-	-	-	4	5	6	-	
教育事務所	青	52	20	-	-	-	20	32	-	19	8	-	-	-	-	8	11	-	
西中	465	465	-	-	-	28	437	-	-	69	69	-	-	-	8	61	-	-	
上北	81	13	-	-	-	-	13	68	-	16	5	-	-	-	5	11	-	-	
下北	675	635	-	-	5	100	530	-	40	98	88	-	4	14	70	-	10	-	
三八	449	259	-	-	-	12	247	190	-	75	59	-	-	5	54	16	-	-	
下三	27	15	-	-	-	4	11	12	-	15	9	-	-	4	5	6	-	-	
(中学校)																			
総計	1,031	800	-	-	3	115	682	205	26	269	211	-	-	4	32	175	44	14	
本分	1,031	800	-	-	3	115	682	205	26	269	211	-	-	4	32	175	44	14	
立	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
市郡	328	274	-	-	3	8	263	28	26	97	74	-	-	4	7	63	9	14	
計	703	526	-	-	-	107	419	177	-	172	137	-	-	-	25	112	35	-	
青森市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
弘前市	36	8	-	-	-	-	8	28	-	14	5	-	-	-	5	9	-	-	
八戸市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
黒石市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
五所川原市	37	37	-	-	-	-	37	-	-	11	11	-	-	-	11	-	-	-	
和田市	29	3	-	-	3	-	-	-	26	18	4	-	4	-	-	-	14	-	
三和市	47	47	-	-	-	-	47	-	-	10	10	-	-	-	10	-	-	-	
むつ市	91	91	-	-	-	8	83	-	-	33	33	-	-	-	7	26	-	-	
つがる市	88	88	-	-	-	-	88	-	-	11	11	-	-	-	11	-	-	-	
平川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東津軽郡	52	20	-	-	-	-	20	32	-	21	9	-	-	-	-	9	12	-	
西津軽郡	126	126	-	-	-	36	90	-	-	34	34	-	-	-	10	24	-	-	
中津軽郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
南津軽郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
北津軽郡	36	36	-	-	-	-	36	-	-	11	11	-	-	-	11	-	-	-	
上北郡	241	241	-	-	-	71	170	-	-	44	44	-	-	-	15	29	-	-	
下北郡	214	69	-	-	-	-	69	145	-	49	26	-	-	-	26	23	-	-	
三戸郡	34	34	-	-	-	-	34	-	-	13	13	-	-	-	13	-	-	-	
教育事務所	東	52	20	-	-	-	20	32	-	21	9	-	-	-	-	9	12	-	
西中	287	287	-	-	-	36	251	-	-	67	67	-	-	-	10	57	-	-	
上北	36	8	-	-	-	-	8	28	-	14	5	-	-	-	5	9	-	-	
下北	317	291	-	-	3	71	217	-	26	72	58	-	4	15	39	-	14	-	
三八	305	160	-	-	-	8	152	145	-	82	59	-	-	7	52	23	-	-	
下三	34	34	-	-	-	-	34	-	-	13	13	-	-	-	13	-	-	-	

## 2節 施設・設備

### 1 建物保有状況

令和3年5月1日現在における小・中学校建物保有面積は、校舎で対前年度比0.7%（12,117㎡）減の1,743,780㎡、屋内運動場で1.7%（8,020㎡）減の460,958㎡となり、整備資格面積は、校舎で対前年度比3.7%（2,469㎡）増の68,982㎡、屋内運動場で1.4%（688㎡）減の50,153㎡となっている。

また、建物の保有状況を構造別にみると、鉄筋・鉄骨造等の非木造構造は校舎で97.5%、屋内運動場で98.8%となっている。

#### 整備資格面積

項目 区分	校 舎				屋 内 運 動 場			
	① 必要面積	② 保有面積	③ 整備資格 面積	③/①	① 必要面積	② 保有面積	③ 整備資格 面積	③/①
小学校	㎡ 936,908	㎡ 1,047,170	㎡ 52,061	% 5.6	㎡ 277,040	㎡ 266,921	㎡ 32,338	% 11.7
中学校	567,638	696,610	16,921	3.0	185,243	194,037	17,815	9.6
計	1,504,546	1,743,780	68,982	4.6	462,283	460,958	50,153	10.8

#### 構造別保有面積の比較

(単位：㎡)

項 目 区 分		校 舎			
		鉄筋コンクリート	鉄骨・その他造	木造	計
県	小学校	(96.0) 1,005,385	(1.4) 14,377	(2.6) 27,408	(100.0) 1,047,170
	中学校	(96.2) 670,298	(1.5) 10,204	(2.3) 16,108	(100.0) 696,610
全国	小学校	(96.0) 78,887,904	(2.7) 2,244,599	(1.3) 1,059,841	(100.0) 82,192,344
	中学校	(96.0) 46,606,875	(3.1) 1,515,001	(0.9) 411,605	(100.0) 48,533,481

( ) は構成比 (%)

(単位：㎡)

区 分		屋 内 運 動 場			
		鉄筋コンクリート	鉄骨・その他造	木造	計
県	小学校	(31.8) 84,847	(66.7) 178,082	(1.5) 3,992	(100.0) 266,921
	中学校	(32.5) 63,113	(66.8) 129,569	(0.7) 1,355	(100.0) 194,037
全国	小学校	(53.7) 8,838,384	(45.2) 7,447,015	(1.1) 186,104	(100.0) 16,471,503
	中学校	(60.5) 6,762,506	(38.6) 4,309,892	(0.9) 101,120	(100.0) 11,173,518

( ) は構成比 (%)

	校 舎	屋内運動場
小・中学校非木造 の比率	県 97.5% 全 国 98.9%	98.8% 99.0%

## 2 耐震化の状況

学校施設は、子供たちの学習・生活の場であるとともに、災害時には地域住民の避難所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。

本県の公立小・中学校における耐震化率は、前年度と同率で、おおむね全国平均を上回っている状況にある。

残る未耐震建物の耐震化については、市町村が国の財政支援制度を活用し、令和3年末をもって完了した。

### 耐震化の状況（小・中学校）

		H29.4.1現在	H30.4.1現在	H31.4.1現在	R2.4.1現在	R3.4.1現在
耐震化率	県	99.0%	99.1%	99.5%	99.9%	99.9%
	全国	98.8%	99.2%	99.2%	99.4%	99.6%

### 3節 生徒指導

#### 1 現状（公立学校）

##### (1) 不登校の状況

本県における令和2年度の30日以上欠席した不登校児童生徒数は、小学校で357人、中学校で1,116人となっており、小・中学校あわせた人数は1,473人となっている。

##### (2) いじめの状況

本県における令和2年度のいじめの認知件数は、小学校で3,804件、中学校で910件である。1,000人当たりの認知件数は、小学校で69.0件、中学校で31.2件である。

##### (3) 暴力行為の状況

本県における令和2年度の暴力行為の件数は、小学校で1,009件、中学校で282件である。小・中学校あわせた暴力行為の件数のうち、79.8%が生徒間暴力、7.8%が器物損壊である。

#### 2 対策

##### (1) 生徒指導の推進について

各学校においては、生徒指導推進要綱に基づいて、次のような取組を推進し、生徒指導の充実に努めた。

① 自校の生徒指導上の課題を明確にし、指導方針や実践すべき内容について、学級、学年、生徒指導部等で共通理解を図り、全教職員が協力して生徒指導に取り組むとともに、生徒指導に関する校内研修等を計画的、継続的に実施し、教職員の指導力の向上に努めた。

② 教育相談体制を整え、児童生徒一人一人の置かれている状況や心情を、児童生徒の立場に立って理解するとともに、他教職員との情報交換を密にし、児童生徒一人一人を多面的、総合的に理解するよう努め、共通理解のもと個に応じた適切な指導ができるようにした。

③ 児童生徒一人一人が学ぶ喜びや成就感を味わえるよう授業の充実に努めるとともに、教師と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の好ましい人間関係に支えられた、心のよりどころとなる学級づくりに取り組んだ。

また、児童生徒が自主的によりよい学校生活を築いていけるよう児童会・生徒会活動の充実に努めるとともに、自然との触れ合いや勤労体験、奉仕活動などの体験的活動の充実に努めた。

④ 学級、学年、学校通信の発行や家庭訪問、保護者会や学校開放等を通して、学校と家庭の連携強化に努めるとともに、老人施設等への訪問や地域行事等への児童生徒の参加、青少年の健全育成に関する会議等への参加を通して、地域や関係機関・団体との連携強化に努めた。

⑤ いじめに関しては、いじめ防止対策推進法の施行に伴って策定・設置された、「学校いじめ防止基本方針」及び「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」の下、未然防止に努めるとともに、発生した場合には解消に向けて組織的に対応した。

##### (2) 県教育委員会の施策

先行きが不透明な変化の激しい社会の中であって、児童生徒が抱える問題は年々複雑化・多様化してきている。県教育委員会では、こうした問題を児童生徒一人一人が自らの力で主体的に解決していくことができるよう、次のような施策をもとに生徒指導の充実に努めた。

##### ① 学校・家庭・地域、関係機関・団体との連携・協力の推進

・地区健全育成推進会議（昭和57年度～）平成20年度からは「問題行動への対応に関する総合推進会議」として継続

県内を6地区に分け、学校、PTA、関係機関・団体等の代表が一堂に会し、それぞれ

- の立場から子どもの健全育成について協議し、協力体制の強化を図った。
- ・不登校児童生徒支援連絡協議会（平成30年度～）  
県内の主な相談機関が一堂に会して、不登校等に関する事例発表や研究協議・情報交換などを行い、各相談機関のネットワークづくりに努めた。
  - ・いじめ問題対策連絡協議会を設置し、関係機関及び団体が連携していじめに対応する。
  - ・青森県市町村いじめ問題対策情報交換会を設置し、県内の市町村教育委員会が、いじめ問題に対応するため、情報交換をする。
- ② 教育相談体制の充実
- ・適応指導室「こころの教育相談センター」の開設（平成4年度～）  
不登校児童生徒やその保護者を対象にしたカウンセリング、自立性や社会性を高めるための陶芸等の創作活動やキャンプ等の野外活動、教科の補充学習などを行った。
  - ・「スクールカウンセラー」の配置・派遣（平成7年度～）  
心理の専門家であるスクールカウンセラーを県内全ての小・中学校に配置・派遣し、児童生徒のカウンセリングや保護者及び教職員に対する指導・助言を行った。
  - ・県内教育事務所や県立高校に、「スクールソーシャルワーカー」を配置し、不登校や問題行動等への対応に関する相談・訪問や学校と関係機関等とのネットワークの構築を行っている。
  - ・学校教育課に「ソーシャルメディア等監視員」を配置し、インターネット上のいじめに関する事案を監視する。
  - ・ハートケアアドバイザー配置（平成8年度～）  
各教育事務所に配置した「いじめ対応アドバイザー」（平成8年～）からはじまり、平成16年度には教育相談の経験が豊かな「ハートケアアドバイザー」を東青教育事務所に配置し、電話相談や学校、家庭等を訪問して助言、援助を行った。平成19年度からは学校教育課に2人配置している。
  - ・24時間子供SOSダイヤル（平成27年度から名称変更）  
ハートケアアドバイザー等が24時間体制でいじめや不登校などの電話相談に応じる。
  - ・不登校、暴力行為、いじめ、児童虐待、高校中退の課題について、未然防止、早期発見・早期対応など、児童生徒の支援に効果的な取組について調査研究を行った。
- ③ 資料の作成や教員研修の実施
- 生徒指導に関する各種啓発・指導資料の作成や生徒指導に関する研修講座を開設し、生徒指導に対する教職員の問題意識の高揚や指導力の向上を図った。
- ・学校不適応への適切な対応を図る不登校対策講座の実施（平成2年度～）
  - ・カウンセリングの技法を身に付ける研修講座の実施（平成30年度～）
  - ・「初任者、中堅教諭等資質向上研修（前・後期）」における生徒指導分野の充実
  - ・県内全公立小・中学校生徒指導主任・主事研究協議会を実施（平成19年度～）
  - ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けたポスターを作成、県内公立小・中・高等学校及び特別支援学校に配布
  - ・いじめの早期発見・早期対応のため、相談窓口周知カードを作成し、小・中・高等学校及び特別支援学校の新1年生に配布。平成30年度からは中・高校生にネットいじめ等に関する情報提供・相談窓口サイトの案内を加えて掲載。
  - ・安心できる学校づくり推進事業（令和2年度～）  
いじめの早期発見、適切な事案対処に係る学校の組織的対応力や教員の指導力向上を図るため、教員の研修を行った。

いじめの認知件数の推移（国公立）

小学校

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	271	0.8	36,909	1.7
23	270	0.8	33,124	1.5
24	414	1.3	117,384	5.5
25	344	1.1	118,748	5.6
26	596	1.9	122,734	5.9
27	614	2.0	151,692	7.4
28	3,853	13.2	237,256	11.7
29	5,658	19.6	317,121	15.7
30	5,670	19.8	425,844	21.3
元	4,840	17.2	484,545	24.4
2	3,804	14.1	420,897	21.4

中学校

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	467	2.7	33,323	3.1
23	454	2.7	30,749	2.8
24	652	3.8	63,634	5.9
25	548	3.2	55,248	5.2
26	517	3.1	52,971	5.0
27	486	2.9	59,502	5.6
28	1,214	7.4	71,309	6.8
29	1,171	7.3	80,424	7.7
30	1,319	8.1	97,704	9.4
元	1,246	8.1	106,524	10.3
2	921	5.8	80,877	7.8

高等学校

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	73	0.7	7,018	1.2
23	62	0.6	6,020	1.1
24	112	1.1	16,274	2.9
25	73	0.8	11,039	1.9
26	111	1.2	11,404	2.0
27	120	1.3	12,664	2.2
28	163	1.8	12,874	2.3
29	219	2.4	14,789	2.6
30	241	2.7	17,709	3.5
元	204	2.3	18,352	3.2
2	156	1.8	13,126	2.3

特別支援

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	7	0.4	380	0.4
23	5	0.3	338	0.3
24	3	0.2	817	0.8
25	3	0.2	768	0.7
26	1	0.1	963	0.9
27	4	0.2	1,274	1.1
28	7	0.4	1,704	1.5
29	17	0.8	2,044	0.1
30	36	1.7	2,676	2.3
元	30	1.4	3,075	2.7
2	29	1.4	2,263	2.0

- 平成18年度から：「いじめ」とは、当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものをいう。
- 平成25年度から：「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。
- 平成28年度から：けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断するものとする。

## 不登校児童生徒数の推移（国公立）

小学校 (人)

年度	本 県		全 国	
	不登校児童数	在籍比	不登校児童数	在籍比
22	200	0.27	22,463	0.32
23	187	0.26	22,622	0.33
24	180	0.26	21,243	0.31
25	197	0.29	24,175	0.36
26	214	0.33	25,864	0.39
27	218	0.35	27,583	0.42
28	252	0.42	30,448	0.47
29	281	0.47	35,032	0.54
30	323	0.55	44,841	0.70
元	358	0.63	53,350	0.83
2	357	0.64	63,350	1.00

中学校 (人)

年度	本 県		全 国	
	不登校生徒数	在籍比	不登校生徒数	在籍比
22	1,181	2.87	97,428	2.73
23	1,090	2.69	94,836	2.64
24	1,041	2.64	91,446	2.56
25	985	2.56	95,442	2.69
26	975	2.60	97,033	2.76
27	991	2.70	98,408	2.83
28	1,029	2.90	103,235	3.01
29	1,015	2.99	108,999	3.25
30	1,003	3.12	119,687	3.65
元	998	3.21	127,922	3.94
2	1,130	3.74	132,777	4.09

●不登校児童生徒とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）で、30日以上欠席した者」をいう。

## 4 節 道 徳 教 育

### 1 道徳教育の指導の方針と事業

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、「道徳教育を推進する指導体制と全体計画の整備・充実」、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫」、「郷土を愛する心を育む指導の充実」等について、学校訪問での指導と下記の事業を実施して徹底を図った。

- (1) 学校・家庭・地域が連携を図り、豊かな体験活動の場を児童生徒に提供し、子どもの道徳的実践力の向上を図るため、文部科学省の委託を受け「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を計画し、指定校として五所川原市立南小学校・五所川原市立五所川原第一中学校を定め、特色ある道徳教育の実践、研究を行った。年2回、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業の研究計画について協議・評価を行う道徳教育推進協議会を開催し、本県児童生徒に命を大切にする心や他人を思いやるなど豊かな心を育成するための諸対策について検討を行い、また、道徳教育パワーアップ協議会において、全県から参加者を募り（78名参加）、研究の成果を広く周知した。
- (2) 教育事務所ごとに、管内の小・中学校教員及び保護者や地域の方々を対象とした「道徳教育研究協議会」を、1日または半日日程を2日間にわたって開催した。研究協議会では、指導案づくりや道徳の授業参観、道徳教育における指導上の諸問題についての協議を行い、これらの問題の解明と教員の資質・能力向上及び家庭や地域との連携に努めた。
- (3) 郷土の先人の伝記や逸話、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材に取り上げた『郷土資料にかかわる実践事例集【小学校編】・【中学校編】』を活用するよう、各学校を指導した。

## 5節 へき地教育

### 1 主な事業

#### (1) 複式学級担任者研修会

- ・趣 旨 複式学級担任者に、複式学級の学習指導及び学級経営等について研修させ、指導力の向上を図る。

教育事務所	期 日	会 場
東 青	6月2日(水)	今別町立今別小学校
西 北	6月17日(木)	深浦町立いわさき小学校
中 南	6月29日(火)	平川市立大坊小学校 ※大坊小学校教職員のみで校内研修の形 ※参加予定者には授業DVD配布
上 北	6月22日(火)	十和田市立四和小学校
下 北	6月25日(金)	むつ市立奥内小学校
三 八	6月4日(金)	南部町立杉沢小学校

#### ・研修内容

「へき地・複式教育ハンドブック」を活用した校内での研修  
各教育事務所作成の指導・助言の資料を活用した校内での研修  
昨年度や今年度実施校の指導案集を活用した校内での研修

#### (2) 令和2・3年度指導資料第40集「へき地・複式教育ハンドブック（事例編）」作成・刊行

- ・趣 旨 平成29・30年度指導資料「へき地・複式教育ハンドブック（一般編）」の内容を具現化する形で実践事例を紹介。一般編と併せて活用することで、一層効果的に複式指導についての理解を深められるように構成。

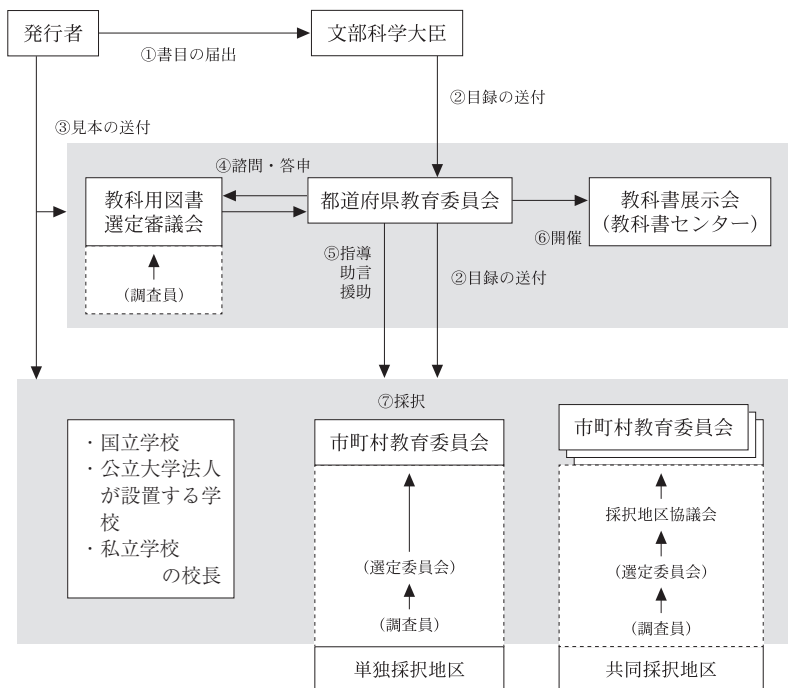
#### ・内 容

- ・へき地・複式教育の在り方
- ・へき地・複式学級における学習指導
- ・ICT機器を活用した実践例
- ・へき地学校・複式学級教育の指導Q&A 用語集  
※外国語科の実践例やICT機器を活用した実践例を紹介



## 6節 教科書採択

### 1 義務教育諸学校用教科書採択の仕組み



### 2 採択の権限

教科書を採択する権限は、公立学校では、その学校を設置する市町村や都道府県の教育委員会に、また国立学校、公立大学法人が設置する学校及び私立学校では、その学校の校長にある。

### 3 義務教育諸学校の教科書採択

小学校、中学校及び特別支援学校（小・中学部）の教科書は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を除き、4年間は同一の教科書を使用することになっている。

令和3年度は、令和4年度に使用する学校教育法附則第9条に規定する教科用図書及び中学校(部)の歴史の教科用図書について採択を行った。

採択に当たっては、諮問機関としての「青森県教科用図書選定審議会」が設置され、教科用図書の採択基準や選定に必要な資料等についての審議がなされ、県教育委員会が答申を受けた。

県教育委員会は、この答申に基づいて市町村の教育委員会並びに国立及び私立の義務教育諸学校の校長の行う教科書採択についての指導、助言及び援助を行った。

(小・中学校の教科書検定・採択の周期)

教科書等別	年度		H	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R	元	2	3	4	5	6	7
	検定	採択																														
小学校	検定	◎	◎			◎					◎		◎					◎				※◎	◎	◎					◎			
	採択		△		△			△					△		△				△				※△	△	△				△			
	使用開始				○		○			○						○				○				※○	○	○				○		
中学校	検定		◎	◎					◎						◎				◎				※◎	◎	◎					◎		
	採択			△	△					△				△		△				△				※△	△	△				△		
	使用開始						○				○						○					○		※○	○	○	○					○

◎検定 △採択 ○使用開始 ※は道徳科

### 4 教科書展示会

県教育委員会では、翌年度使用する教科書の適正な採択を図るため、県内15の教科書センターで毎年教科書展示会を開催している。令和3年度は、6月11日から土曜日及び日曜日を除いた14日間開催した。

## 4章 高等学校教育

### 1節 学校の概況

#### 1 学校数・生徒数

(3.5.1)

区分		学校数			生徒数				
					本 科			専攻科	
		本校 (中心校)	分校	計	男	女	計		
全 日 制	県立	55	2	57	10,968	10,680	21,648	107	
	私立	17	-	17	4,016	3,815	7,831	112	
	計	72	2	74	14,984	14,495	29,479	219	
定 時 制	県立	9	-	9	452	393	845	-	
	市立	-	-	-	-	-	-	-	
	計	9	-	9	452	393	845	-	
合 計		81	2	83	15,436	14,888	30,324	219	

### 2節 施設・設備

#### 1 建物保有状況

令和3年5月1日現在における建物保有面積は、校舎で対前年度比1.44% (6,965㎡) 減の484,147㎡、屋内運動場で対前年度比2.87% (3,429㎡) 減の119,316㎡となり、また、建物の保有状況を構造別にみると、鉄筋コンクリート・鉄骨造の不燃化構造が校舎で97.1%、屋内運動場で99.7%となっている。

#### 校 舎

学校種別	学校数	面積 ㎡	構 造 別 面 積		
			鉄 筋	鉄骨・その他	木 造
県立高校	60	484,147	425,053	45,245	13,849

#### 屋 内 運 動 場

学校種別	学校数	面積 ㎡	構 造 別 面 積		
			鉄 筋	鉄骨・その他	木 造
県立高校	60	119,316	7,698	111,201	417

## 2 施設整備状況

令和3年度における高等学校の施設整備は、次の方針に基づいて進めた。

- (1) 安全・安心な教育環境の確保のため、老朽化の解消等に努めるとともに、教育内容の変化に伴う施設の整備等、教育環境の改善を図る。
- (2) 計画的な大規模改修による整備を図る。

(4.3.31)

区 分	学 校 名
校舎等建築調査設計	五所川原高校等2校
校舎等建築	八戸工業高校等4校
長寿命化改修等	弘前実業高校等4校
大規模改修	青森北高校等15校

## 3 産業教育施設・設備の整備

県立学校の産業教育施設・設備の整備については、科学技術の進歩や産業構造の変化及びそれらに対応した各学校の教育内容に応じて、逐年、整備を進めてきているが、令和2年度末の投資率は施設47.2%、設備62.1%となっている。令和3年度は、次のとおり整備した。

産業教育設備

- |              |             |
|--------------|-------------|
| ① 特別装置       | 87,966千円    |
| ② 産業教育設備整備事業 | 1,884,180千円 |
| ③ 実習船青森丸代船建造 | 661,772千円   |

## 4 教育用コンピュータ

- ・整備校 57校
- ・設備費 1,522,940千円

## 5 県立学校校内LAN整備

情報化に対応した学校教育を実現するため、平成12年度より整備を進めており、令和3年度末の整備率は100%となっている。

### 3節 教育課程

#### 1 令和3年度の教育課程

平成11年3月に改訂された高等学校学習指導要領は、完全学校週5日制の下、各学校が「ゆとり」の中で特色ある教育を展開し、生徒に豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を図ることを基本的なねらいとして、卒業に必要な修得総単位数を従来の80単位以上から74単位以上に改め、必修科目の設定に当たっては、複数の科目の中から選択的に履修できるようにする選択必修の考え方を基本とし、普通科における必修科目の最低合計単位数を38単位から31単位に縮減した。また、専門学科における専門科目の必修単位数を30単位以上から25単位以上に縮減した。

文部科学省は平成15年12月に「確かな学力」を育成し、「生きる力」をはぐくむという学習指導要領の更なる定着を進め、そのねらいの一層の実現を図るために、学習指導要領の一部改正を行った。そこで、各学校では生徒の多様な興味・関心、進路希望などに応じた教育課程編成に努めた。

なお、平成21年3月9日に現行の高等学校学習指導要領が告示され、教育基本法・学校教育法改正後の新しい教育課程の基準が示された。

「生きる力」をはぐくむという前学習指導要領の基本理念は、現行の学習指導要領においても変わらない。平成21年の改訂は、この「生きる力」の理念の実現のために、これまでの学校現場等での課題を踏まえ、指導面などでの具体的な手立てを確立することを目指すものである。

また、平成30年3月30日に告示された新しい高等学校学習指導要領は、令和4年度から年次進行で実施することとし、令和元年度から従来の「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」に改めるなど、一部を移行措置として実施している。

#### 2 総履修単位数（特別活動を除く）の設定

全日制の課程における週あたりの授業時数については、引き続き30時間を標準とした上で、これを超えて授業を行うことができることを明確化した。

本県では、全日制高等学校54校中28校（51.9%）が総履修単位数を87単位に設定した。最も多い総履修単位数としては100単位で、弘前南高等学校で設定した。

定時制高等学校においては、尾上総合高等学校が84単位設定し、9校中6校（66.7%）が76単位を設定した。

通信制高等学校においては、北斗高等学校が74単位から86単位を、その他2校が74単位から90単位を設定した。

##### (1) 全日制

総履修単位数	87	88～90	91～93	94～96	97～99	100～102	103～105	計
普通	15	1	1	4	11	1	0	33校
総合	2	2	0	0	1	0	0	5校
農業	0	0	4	0	0	0	0	4校
工業	5	1	0	0	0	0	0	6校
水産	1	0	0	0	0	0	0	1校
商業	5	0	0	0	0	0	0	5校
計	28	4	5	4	12	1	0	54校

\*学年によって異なる履修単位数を設定している高等学校については、令和3年度入学生の単位数で分類している。

## (2) 定 時 制

総履修単位数	75	76	77	84	計
普通	1	3	1	0	5校
総合	0	0	0	1	1校
専門	0	3	0	0	3校
計	1	6	1	1	9校

\* 3修制等によって異なる履修単位数を設定している高等学校については、最小単位数で分類している。

## (3) 通 信 制

北斗高等学校では74～86単位、尾上総合高等学校及び八戸中央高等学校では74～90単位を設定した。

## 3 総合的な探究(学習)の時間

平成21年度3月の改訂で、「総合的な学習の時間」の教育課程における位置付けを明確にし、各学校における指導の充実を図るため、「総合的な学習の時間」の趣旨等について、総則から取り出し新たに章立てをし、目標が新たに設定された。目標は次の五つの要素から構成されている。

- ①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- ②自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- ③学び方やものの考え方を身に付けること
- ④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- ⑤自己の在り方生き方を考えることができるようにすること

各学校の総合的な学習の時間の目標は、この①から⑤の五つの要素をすべて含み、この時間全体を通して、各学校が育てたいと願う生徒像や育てようとする資質や能力及び態度、学習活動の在り方などを表現したものになることが求められる。

また、平成30年3月の改訂で実施されている「総合的な探究の時間」の目標は、大きく二つの要素で構成されている。一つは、総合的な探究の時間に固有な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成するという、総合的な探究の時間の特質を踏まえた学習過程の在り方である。もう一つは、次の①、②、③として示している、総合的な探究の時間を通して育成することを目指す資質・能力である。

- ①探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- ②実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ③探究に主体的・協同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

各学校においては、この目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の目標を定め、その実現を目指すことが求められている。

各校の「総合的な探究(学習)の時間」では、インターンシップ、ボランティア活動、キャリア教育などを積極的に取り入れることによって生徒が問題の解決や探究的な活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、将来の生き方を考えさせる学習の充実を図ったことがうかがえる。

### (1) 全 日 制

すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を履修する学校	35校
普通科の生徒は「総合的な探究(学習)の時間」を履修するが、専門学科の生徒は「課題研究」で代替する学校	2校
すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を「課題研究」で代替する学校	12校
「総合的な探究(学習)の時間」を1・2単位のみ履修し、不足分を「課題研究」で代替する学校	3校
その他*	2校
計	54校

\*青森高等学校では、文系においては「総合的な探究(学習)の時間」を4単位履修し、うち1単位をSS(スーパーサイエンス)科目で代替している。理系においては「総合的な探究(学習)の時間」を3単位履修し、全てをSS科目で代替している。

\*弘前実業高等学校ではスポーツ科学科のみ「総合的な探究(学習)の時間」を履修し、他の学科は「課題研究」で代替している。

### (2) 定 時 制

すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を履修する学校	6校
すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を「課題研究」で代替する学校	3校
計	9校

### (3) 通 信 制

すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を履修する学校	3校
計	3校

## 4 学校設定科目

学習指導要領では、各学校において、特色ある教育課程の編成に資するよう、学習指導要領で定める教科・科目以外にも、各学校で独自に学校設定教科・科目を開設できるとしている。

令和3年度は、全日制高等学校54校中50校(92.6%)が、定時制高等学校においては9校中5校(77.8%)が学校設定科目を導入して特色ある教育課程の編成に取り組んでいる。

学校設定科目を最も多く設定した学校は木造高等学校(8教科21科目)であった。

学校設定科目を(1科目以上)設定した学校数

	令和3年度
全 日 制	50校
定 時 制	5校
通 信 制	0校
計	55校

## 5 普通高等学校における専門科目の設定

学習指導要領では、普通科において職業科目の開設を増やし、生徒の選択の幅を拡大するなど、それぞれの学校や生徒の実態に一層対応した教育課程の編成を求めている。

令和3年度全日制普通高等学校（33校）の普通科において専門教育に関する教科・科目を開設した学校は15校（45.5％）で、定時制普通高等学校（5校）の普通科においては4校の学校が開設した。また、通信制高等学校はすべての学校が専門科目を設定した。

(1) 全 日 制 \*専門科目を設定した16校の科目内訳

設定科目	商業科目	家庭科目	情報科目	体育科目	福祉科目	英語科目
校数	13	12	2	1	1	2

(2) 定 時 制 \*専門科目を設定した4校の科目内訳

設定科目	商業科目	家庭科目
校数	3	3

(3) 通 信 制 \*専門科目を設定した3校の科目内訳

設定科目	商業科目	家庭科目
校数	3	3

## 6 2 学 期 制

完全学校週5日制のもと、授業時数の確保のため2学期制を実施する学校がほぼ半数を超えたこともあったが、近年では生徒や地域の実情から3学期制へ戻す学校が増加した。

令和3年度に2学期制を実施した学校

	令和3年度	昨 年 比
全 日 制	5 校	0 校
定 時 制	5 校	0 校
通 信 制	3 校	0 校
計	13 校	0 校

## 7 単 位 時 間 の 設 定

令和3年度は、全日制高等学校54校中53校（98.1％）が1単位時間50分を設定した。

定時制高等学校においては、すべての学校が45分を設定した。

(1) 全 日 制

1 単位時間	45分	50分
校数	1	53
(昨年度比)	0	△2

(2) 定 時 制

1 単位時間	45分
校数	9
(昨年度比)	0



## 4節 学 習 指 導

### 1 学習習熟度別指導

能力・適性・進路等の多様化した生徒に対し、一人一人を尊重して個性の伸張を図るため、各教科・科目の指導にあたって、その学習内容の習熟の程度などに応じて、弾力的な学級の編成を工夫して行った。

特に学習習熟度の差が大きくなりやすい数学、英語等の教科・科目において、全日制普通高等学校33校中20校で習熟度別学級編成で指導した。

\*学習習熟度別指導を行っている学校数（全日制）

教科・科目	国語	公民	数学	理科	英語	簿記	会計・原簿計算	情報処理等	その他
普通	3	0	18	3	18	1	1	0	2
総合	2	0	5	2	3	1	1	1	1
農業	1	0	2	0	0	0	0	0	0
工業	0	0	3	0	2	0	0	0	1
水産	0	0	0	0	0	0	0	0	0
商業	0	0	1	0	2	2	3	1	1
計	6	0	29	5	25	4	5	2	5

### 2 「評価規準」・「シラバス」の作成

各学校が生徒の実態に即した観点別評価規準の整備に努めた。

また、能力・適性・進路等の多様化した生徒に対し、一人一人の生徒が中学校の学習内容及び学習活動から高等学校の学習内容及び学習活動にスムーズに移行できるように、各学校ではシラバスを作成して活用した。

シラバスは、全日制高等学校では49校（90.7%）が作成し、定時制高等学校では7校（77.8%）で作成し、活用した。

	令和2年度まで作成済み	令和3年度作成予定	なし	計
全 日 制	49	0	5	54
定 時 制	7	1	1	9
通 信 制	3	0	0	3
計	59	1	6	66

## 5節 生徒指導

### 1 現 状

#### (1) 中途退学の状況

令和2年度に本県公立高等学校を中途退学した生徒は、161名（前年度から10名減少）であった。在籍者数に対する比率は0.7%（前年度と同値）であった。

本県公立・私立高等学校について、中途退学にいたった理由としては、「進路変更」が最も多く、次いで「学校生活・学業不適応」となっている。

#### (2) いじめの状況

公立高等学校におけるいじめの認知件数は、令和2年度は135件となっており、前年度より32件減少している。高等学校入学後の適応指導や人間関係を育む取組など、いじめが起きない環境づくりが今後とも必要である。

#### (3) 暴力行為の状況

公立高等学校における暴力行為の発生件数は、令和2年度は35件で、前年度より4件減少している。

### 2 対 策

#### (1) 生徒指導の推進について

生徒指導推進要綱に基づき、各校においては次のような取組を推進している。

- ① それぞれ自校の生徒指導上の課題を明確にし、ホームルーム、学年、生徒指導部等において、実践事項について共通理解をもって指導にあたっている。
- ② 生徒一人一人について、その状況の把握に努めながら内面の理解を進めるとともに、個に応じた適切な指導を行っている。
- ③ 教員との信頼関係や生徒相互の好ましい人間関係を基盤としたホームルーム作りに取り組んでいる。

また、生徒がよりよい学校生活を築いていけるよう生徒会活動の充実を図るとともに、勤労体験、奉仕活動などの体験的活動の導入に積極的に取り組んでいる。

- ④ 家庭訪問や地区PTAの開催などを通して、保護者との連携強化に努めるとともに、地域の関係機関との連携を深めるよう取り組んでいる。

#### (2) 県教育委員会の施策

##### ① 学校間及び関係機関・団体との連携・協力の推進

○高等学校及び特別支援学校生徒指導主事研究協議会（昭和49年度～）

高等学校及び特別支援学校における生徒指導上の諸課題とその対策について各校生徒指導担当者による研究協議を行い、各校の生徒指導の充実に資する。

##### ② 教育相談体制の充実

○高等学校へのスクールカウンセラー派遣事業

生徒の臨床心理に関して高度で専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーを、学校の要請に応じて派遣し、教員では対応しきれない複雑な事例等に関して、生徒及びその保護者に対してカウンセリングやアドバイスを行う。

### ③ 教員研修の実施

- 学校不適応への適切な対応を図る不登校対策研修講座の実施（平成2年度～）
- カウンセリングの技法を身に付ける研修講座の実施（平成30年度～）
- 「初任者研修、中堅教諭等資質向上研修（前・後期）」における生徒指導分野の充実

### ④ その他

- ネット安全利用啓発リーフレット「インターネットでキズつけない！キズつかない！」の活用

## 6節 道徳教育

### 1 学校の取組

各学校では、学校教育全体を通して道徳教育を進めているが、とりわけ人間としての在り方生き方に関する指導に深く関わる、公民科などの教科・科目、及びホームルーム活動をはじめとする特別活動において、生徒の道徳的実践力の育成を図っている。

また、地域におけるボランティア活動や社会奉仕体験活動を、生徒の道徳的実践の機会としてとらえ、生徒の参加について積極的に推進している。

### 2 安心できる学校づくり研修会

いじめの早期発見、事案対処に係る学校の組織的対応力や教員の指導力の向上を図るとともに、児童生徒が主体となったいじめ防止活動が継続的に行われる環境づくりを推進すること等を目的として、県内の高等学校及び特別支援学校の教員を対象とする研修会を企画した。新型コロナウイルス感染症の影響により、集合形態での研修会は中止としたが、対象校に研修資料を配布し、いじめ防止等の取組やSOSの出し方に関する教育に係る取組等、各学校において道徳教育が推進されるよう働きかけを行った。

### 3 高等学校における道徳教育講座

県内の県立高等学校及び特別支援学校の教員を対象とした研修会を実施し、高等学校における道徳教育の推進に関する講義や協議を通して、人間としての在り方生き方についての考えを深める道徳教育の在り方について学ぶとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実につなげるよう働きかけを行った。

## 7節 進路指導

### 1 高等学校進路指導主事研究協議会

高等学校における進路指導の諸課題について研究協議を行い、本県高等学校のキャリア教育・進路指導の充実を図るため、次のとおり高等学校進路指導主事研究協議会を開催した。

- (1) 参加者 80名（県立高等学校 65名、私立高等学校 15名）
- (2) 内容
  - A 説明 ・所管事業について  
・令和3年3月卒業生の大学等進学状況等について
  - B 講演 「探究で身に付けさせる資質・能力」
  - C 研究協議 「新型コロナウイルス感染症の影響の中で、進路指導において工夫した取組」（協議資料の共有のみ）

### 2 仕事力養成推進事業

- (1) 目的  
自立した社会人・職業人の育成や就職した後に職場で活躍できる実力（仕事力）を養成するため、3年間の高校教育を見通した系統的な人づくり教育を推進する。
- (2) 内容  
啓発的体験活動であるインターンシップ等を核に、望ましい職業観・勤労観の育成にむけた取組やビジネスマナーの向上など、各学校が現在取り組んでいる活動を再構築した企画を支援した。
- (3) 体験（インターンシップ等）
  - A 実績 5校 91人
  - B 助成内容 体験記録集の作成経費補助、受入事務所との通信連絡費補助
- (4) 演習（ビジネスマナー講習会等）
  - A 実績 11校 のべ1,295人
  - B 助成内容 講師謝金及び講師旅費

### 3 長期企業等派遣研修

- (1) 目的  
・企業が求める人材を学校全体で共有し、学校経営にいかす。  
・企業が求める人材や企業の人材活用の視点を取り入れた学校経営を他校へ波及させる。
- (2) 内容  
県立高等学校の教諭1名を、1年間八戸商工会議所に派遣した。

### 4 長期企業研修出前講座

- (1) 目的  
高校生が将来、社会人・職業人として自立できるような職業観・勤労観を育成する。
- (2) 実績  
県立高等学校において、実施した。
- (3) 内容  
18年度・19年度の企業スピリッツ研修、平成22～令和3年度長期企業等派遣研修派遣教員や受入企業担当者等が、高校生に直接語りかける授業やパネルディスカッション等により、企業の実際を高校生へ伝える。

## 5 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「キャリア形成講座・研修会」

### (1) 目的

高校生が職業人として必要な能力を身に付けるとともに、就職に対する意識を高めることにより、就職内定率の向上を図る。

### (2) 概要

危険物取扱者、簿記などの就職に有利となる資格取得対策のための講座実施の支援や、コミュニケーション能力、ビジネスマナー等の社会人基礎力向上等に係る研修会実施の支援。

### (3) 実績

- ・講座 26校55講座 1,437名
- ・研修会 10校12講座 711名

## 6 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「介護員養成講習会」

### (1) 目的

介護員養成講習会を実施し、介護・福祉分野への就職を支援する。

### (2) 内容

「介護職員初任者研修課程」講習会を業務委託により青森、弘前、八戸、五所川原、三沢、むつの県内6地区で開催した。

### (3) 実績

72名が資格取得

## 7 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「先進技能習得研修」

### (1) 目的

専門学科（農業、水産、工業、商業、家庭、看護、福祉）の生徒のより高度な資格取得や先進技能習得に向けた指導に対応できるよう、教員の研修等を支援する。

### (2) 内容

高度な資格（プログラミング学習、プレス機械作業）取得の指導や先進技能習得の指導に向けた研究機関等の研修機関へ教員を派遣する。

### (3) 実績

- ・先進技能習得研修 6校の教員が6研修会に参加

## 8 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「県内企業理解促進プログラム」

### (1) 目的

県内の高校の生徒、教員及び保護者が県内企業の訪問や企業採用担当者等との交流会等をとおして、高校と県内企業の相互理解をし、県内で働き生活することへの理解を深める。

### (2) 内容

各地区において高校生、教員、保護者対象の「企業見学会」の実施。

### (3) 実績

- ・企業見学会 新型コロナウイルス感染症の影響により実施なし。  
代替として、企業紹介動画を作成し配信するとともに、県立高校にDVDを配布した。

## 9 進学力パワーアッププログラム

### (1) 目的

高等学校教員の進学指導力の向上と保護者の意識啓発を図るために各校が実施する事業を支援する。

### (2) 実績

学校から提出された事業計画書を審査の上、20校程度の実施校を決定し、実施。

### (3) 内容

入試問題研究、高校と大学の連携を深めるための大学模擬講義・小論文の指導法の研究・大学見学等。

### 令和3年度進学力を高める高校支援事業「進学力パワーアッププログラム」実施内容

NO	学 校 名	事 業 名
1	青森西高校	2021年度 全学年合同大学研究
2	青森東高校	小論文指導充実のための対策事業
3	青森北高校	青北勉強スキルアップ学習会
4	青森南高校	Hello World研修-世界の国々、こんにちは
5	八戸東高校	5つの出会い(学問・仲間・地域社会・世界・使命感)から始まる八東生のキャリア形成
6	八戸北高校	大学講師による模擬講義
7	五所川原高校	課題研究の充実による理数科生徒の進学力向上
8	野辺地高校	令和3年度 野辺地高校 大学研究プログラム
9	七戸高校	共通テストの動向及び高大接続を見据えた進路指導
10	百石高校	親子で目指す進路達成プロジェクト
11	十和田西高校	2学年大学見学会
12	六戸高校	2学年大学見学会
13	六ヶ所高校	リモートでGO!
14	三本木高校	英語指導法研究協議会
15	田名部高校	育てる視点-教え方のコツ-
16	大湊高校	小論文・志望理由書の書き方 講演会
17	五所川原農林高校	大学進学を目指す農業高校生のためのバスツアー
18	三本木農業高校	進学対策講座(小論文対策、志望理由書の書き方)
19	五所川原工科高校	わくわく進学プロジェクト
20	青森商業高校	小論文講座
21	青森高校	最難関大学志望者合同進学合宿
	弘前高校	
	八戸高校	

## 10 医師を志す高校生支援事業

### (1) 目的

本県の医師不足を解消するために、高校生に医師への志を育てるとともに、高い志望を持続させ、医学部医学科に合格するための実力を養成し、受験者層の拡大を図り、合格者の増加を目的とする。

### (2) 内容

医師を目指す本県高校生に対して、県内3地区（青森・弘前・八戸）に拠点校を設置し、地区ごとに学校が主体となり、学力向上セミナー・教員対象プログラムを実施する。

#### ア 生徒対象セミナー

対象：高校1～3年生及び教員

講師：予備校講師等

実施回数：各地区各学年で年2回程度（1回あたり2日間日程）実施

参加人数：1回あたり各学年生徒約100名 教員約10人

#### イ 教員対象プログラム

対象：教員

内容：県内教員45名を研修セミナーに派遣する。

## ※県健康福祉部医療業務課と連携事業

### ア 医師による講演会（ドクタートーク）

県内で活躍する医師による講演の開催。

実施回数：3回（オンラインによる参加）

対象：県内の高校生

## 8節 産 業 教 育

県産業教育審議会は県教育委員会に平成元年5月30日「本県の県立高等学校における水産に関する教育の在り方について」答申し、水産業の動向や高度技術化、情報化などの進展に対応しうる人材の養成を目指す水産教育の推進について提言した。

県教育委員会では、この答申を受けて、水産に関する教育の充実について検討を進め、平成元年11月に平成2年度から3年間で行う学科再編計画を決定した。これに対応するため、施設・設備の充実を図るとともに、コンピュータ等を利用した航海技術、栽培漁業技術及び水産食品製造技術等の指導者養成のため、内地留学生派遣、産業教育技術研修などを実施している。

また、同審議会は、県教育委員会に平成元年11月7日「本県の県立高等学校における商業、家庭及び看護に関する教育の在り方について」答申し、経済生活全般にわたるサービス経済化、国際化や情報化の進展に対応しうる商業技術者の育成と、核家族化や女性の職場動向及び高齢化、情報化、国際化などの進展に対応しうる人材の養成を目指す家庭、看護教育の推進についても提言した。

県教育委員会では、この答申を受けて、平成3年度から3年間で学科再編成などを実施するとともに、施設・設備の充実を図り、サービス経済化、国際化や情報化に対応する指導者の養成のため、内地留学生派遣、産業教育技術研修などを行った。

さらに、平成6年11月29日に、新たに「本県の県立高等学校における農業、工業及び看護教育の在り方について」諮問を行い、平成8年7月24日に同審議会より答申を受け、各教育施策を展開してきた。

その後、県教育委員会では、県立高等学校教育改革第1次実施計画、第2次実施計画、第3次実施計画（平成21～29年度）を策定し、この計画のもと、特色ある学科・コース等の整備・充実等を図った。

また、平成29年7月には「青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画」を策定し、各地区の産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえ、農業科、工業科、商業科等の各学科における高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人の育成に積極的に取り組むことができるよう県立高等学校の適正な学校規模・配置や学科・コース等の改編・整備等を進めている。

## 9節 定 時 制 ・ 通 信 制 教 育

### 1 定 時 制 教 育 の 現 状

令和3年3月中学校新規卒業者のうち、定時制高等学校への進学者は243人で、昨年度から16人の減少となった。これを県内・県外別にみると、県内においては16人の減少、県外においては増減なしとなっている。

また、県内定時制高等学校への令和3年度における入学者数は262人で、昨年度より17人減少した。

#### (1) 県内中学校卒業者のうち定時制進学者の推移

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	R2年度	R3年度
県内	316	315	337	332	303	283	279	234	247	258	242
県外	8	9	7	4	1	3	3	3	4	1	1
計	324	324	344	336	304	286	282	237	251	259	243

#### (2) 県内定時制高等学校入学者の推移

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
352(349)	355(352)	364(357)	370(367)	325(316)	303(303)	305(305)	265(265)	270(270)	279(279)	262(262)

※（ ）内は、単位制高等学校への進学者数である。



## 2 定時制教育の振興

平成4年度に北斗高等学校及び八戸中央高等学校に単位制を導入し、平成6年度には両校に昼間部を設置、さらに、平成9年度からは、単位制以外の定時制高等学校の修業年限を「4年」から「3年以上」に弾力化した。

また、平成11年度には尾上総合高等学校定時制課程を設置するなど、定時制教育の活性化に努めてきた。

このほか、本県定時制教育の振興策として、次の事項に努力している。

- (1) 施設・設備などの教育環境整備はもとより、魅力ある教育内容を取り入れるとともに、定時制高等学校の適正配置についても見直しを図り、定時制教育の振興に努力する。
- (2) 中学校における定時制高等学校への進学を含めたきめ細かな進路指導の徹底を図るとともに、県内産業・経済界に対し、定時制教育への理解を得られるよう働きかける。

## 3 通信制教育の現状と振興

令和3年度入学者は220人で、前年度比2人減となっている。

また、令和2年度中（令和3年3月まで）の卒業者は、244人である。

生徒の多様なニーズに対応し、学習条件のより一層の充実を図るため、平成25年度から北斗高等学校、尾上総合高等学校、八戸中央高等学校に通信制の課程を設置している。

### (1) 入 学 生 徒 数

年 度 学校名	28年度		29年度		30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北 斗 高 等 学 校	19	26	20	31	13	38	9	31	15	22	19	33
八 戸 中 央 高 等 学 校	14	29	15	31	11	23	24	42	18	25	25	34
尾 上 総 合 高 等 学 校	7	16	9	9	14	13	13	24	18	25	13	26
青 森 山 田 高 等 学 校	38	42	22	16	23	34	23	32	25	34	14	10
東 奥 学 園 高 等 学 校	13	7	4	9	4	9	7	5	8	11	5	9
五 所 川 原 第 一 高 等 学 校	14	12	3	11	10	11	9	7	8	13	13	19
計	105	132	73	107	75	128	85	141	92	130	89	131

### (2) 卒 業 者 数

年 度 学校名	28年度		29年度		30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北 斗 高 等 学 校	14	27	16	29	14	20	11	34	7	24	14	30
八 戸 中 央 高 等 学 校	8	24	13	27	12	17	13	29	10	20	21	28
尾 上 総 合 高 等 学 校	7	13	8	17	3	9	8	9	12	15	10	17
青 森 山 田 高 等 学 校	65	69	53	55	49	64	35	46	28	58	22	18
東 奥 学 園 高 等 学 校	16	11	10	16	11	7	10	10	10	12	10	8
五 所 川 原 第 一 高 等 学 校	8	22	13	24	19	18	6	30	21	27	23	29
計	118	166	113	168	108	135	83	158	88	156	100	130

## 10節 文化活動支援

### 1 青森県高等学校総合文化祭

県内高等学校の文化部活動の総合的な発表の場である第42回青森県高等学校総合文化祭が、「思い 伝え 動く 今」をテーマに、東青・下北地区を中心に行われ、延べ1,193人の高校生が参加した。

主催：青森県高等学校文化連盟、青森県教育委員会

#### 令和3年度 第42回青森県高等学校総合文化祭日程及び会場

部 門	実施の有無	日程	会場	代替審査会等	一般公開の有無
演 劇	実 施 ※日程一部変更	10/23・24	リンクステーションホール青森 〒030-0812 青森市堤町一丁目4-1 ☎017-773-7300	-	一般公開なし
合 唱	中 止	-	-	代替発表会開催	-
吹奏楽	実 施 ※内容変更	-	-	ステージ発表は講師による演奏音源の講評に変更。合同バンド演奏は、「音楽のボタン」としてYouTube配信	一般公開なし
器楽・ 管弦楽	中 止	-	-	-	-
日本音楽	実 施	10/24	青森明の星中学・高等学校 〒030-0961 青森市浪打二丁目6-32 ☎017-741-0121	-	一般公開なし
郷土芸能	実 施 ※内容変更	-	-	録画映像による審査	一般公開なし
マーチングバンド・ ノストワリング	実 施 ※内容変更	-	-	CD録音による講評	一般公開なし
美 術	実 施 ※日程変更	11/12～14	青森県立美術館 〒038-0021 青森市安田字近野185 ☎017-783-3000	-	一般公開あり
書 道	実 施 ※日程・会場変更	12/24・25	東奥日報新聞ビルNew'sホール 〒030-0801 青森市新町二丁目2-11 ☎017-718-1135	-	一般公開あり
写 真	実 施 ※内容変更	-	-	代替審査会	一般公開なし
放 送	実 施 ※日程変更	12/19	青森県総合社会教育センター 〒030-0111 青森市荒川藤戸119-7 ☎017-718-1135	データ審査 (決勝審査)	一般公開なし
囲 碁	実 施	10/9	リンクステーションホール青森 〒030-0812 青森市堤町一丁目4-1 ☎017-773-7300	-	一般公開なし
将 棋	実 施	10/9	青森県総合社会教育センター 〒030-0111 青森市荒川藤戸119-7 ☎017-718-1135	-	一般公開なし
弁 論	実 施 ※内容変更	-	-	録画映像による審査	一般公開なし
小倉百人一首 かるた	実 施 ※日程変更	10/31	青森市西部市民センター 〒038-0042 青森市新城市平岡163-22 ☎017-788-2491	-	一般公開なし
新 聞	実 施 ※コンクールのみ	10/6	青森県立六戸高等学校 〒039-2371 上北郡六戸町大落瀬字坪毛沢25-163 ☎017-718-1135	-	一般公開なし
文 芸	実 施 ※日程短縮	10/14	-	オンデマンド配信 (対面一切なし) Zoomによる講習会	一般公開なし
青少年 赤十字	中 止	-	-	-	-
自然科学	実 施 ※内容変更	-	-	論文による審査	一般公開なし
国際理解	実 施 ※日程短縮	10/9	青森県総合社会教育センター 〒030-0111 青森市荒川藤戸119-7 ☎017-718-1135	-	一般公開なし

## 2 文化芸術による子供育成総合事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげる。

主催：文化庁

### (1) 巡回講演事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的とした事業。

分野	公演団体名	実施日	実施校
演劇・児童劇	劇団仲間	令和3年6月17日	七戸町立天間林小学校
演劇・児童劇	劇団仲間	令和3年6月18日	八戸市立白山台小学校
演劇・ミュージカル	劇団ポプラ	令和3年9月7日	南部町立福地小学校
伝統芸能・演芸	公益社団法人 日本奇術協会	令和3年11月29日	階上町立階上小学校
演劇・ミュージカル	劇団ポプラ	令和3年12月22日	県立浪岡養護学校

### (2) 芸術家の派遣事業

小学校・中学校等に個人又は少人数の芸術家を派遣し、講話、実技披露、実技指導（以下「講話等」という。）を実施することにより、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的とした事業。

分野	講師名	実施日	実施校
音楽・弦楽器	佐藤嘉則	令和3年6月24日	八戸市立白銀南小学校
音楽・弦楽器	沖澤直子	令和3年7月13日	青森市立古川小学校
音楽・弦楽器	沖澤直子	令和3年7月13日	青森市立沖館中学校
音楽・弦楽器	沖澤直子	令和3年7月14日	青森市立篠田小学校
伝統芸能・その他	室谷昭廣	令和3年10月21日	青森市立高田小学校
音楽・管楽器	小川正毅	令和3年11月15日	十和田市立三本木小学校
音楽・管楽器	小川正毅	令和3年11月17日	十和田市立北園小学校
演劇・現代劇	中野渡法仁	令和3年12月7日	県立八戸東高等学校
伝統芸能・その他	坂本久紀	令和3年12月9日	南部町立杉沢小学校

## 3 県域文化団体への助成

団体名	補助金額(千円)	補助対象事業の内容
青森県高等学校文化連盟	891	全国・東北大会派遣費等

#### 4 子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業

新型コロナウイルス感染症の影響下において、学校内外で子供たちが文化芸術の鑑賞や体験・修得をする機会が多く失われているため、学校等において実演芸術等をはじめとする多様な文化芸術の鑑賞・体験が享受できる機会を提供する。

##### (1) 学校による提案型

学校が希望するアーティストや芸術団体等による鑑賞・体験教室の開催

分野	団体名	実施日	実施校
美術・その他	東京藝術大学	令和3年7月14日	五所川原市立第四中学校
演劇・現代劇	劇団風の子	令和3年10月11日	五所川原市立いずみ小学校
演劇・現代劇	劇団風の子	令和3年10月12日	五所川原市立東峰小学校
音楽・管楽器	ブリックフィルハーモニックウインズ	令和3年10月26日	弘前市立第四中学校
音楽・管楽器	ブリックフィルハーモニックウインズ	令和3年10月28日	弘前市立西小学校
音楽・管楽器	ブリックフィルハーモニックウインズ	令和3年10月29日	大鰐町立大鰐中学校
音楽・その他	サロンオーケストラジャパン	令和3年11月12日	八戸市立中居林小学校
大衆芸能・その他	TEAMパフォーマン斯拉ボ	令和3年11月12日	外ヶ浜町立三厩小学校
演劇・ミュージカル	東京演劇集団風	令和4年2月14日	県立盲学校

## 11節 高等学校入学者選抜

令和4年度高等学校入学者の選抜は、次のように実施した。

区分：全日制及び定時制

選抜の名称	期 日	選抜の内容	時 間
入学者選抜	3月8日 (追検査：3月16日)	学力検査 (国語・英語・数学・社会・理科) ※面接、実技(学校裁量)は中止	国語、英語は50分 その他の教科は45分 ※追検査については国語、英語は45分、その他の教科は40分
再 募 集	3月23日	学力検査 (国語・英語・数学・社会・理科) ※面接、実技(学校裁量)は中止	学力検査は5教科をまとめて50分 その他は学校独自に定める

令和4年度 県立高等学校入学者選抜まとめ

1 全日制の課程

大 学 科	募 集 人 員	併設型進学		入学者選抜			再 募 集			合 格 者 数 計
		希 望 者 数	進 学 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	
普 通	4,000	75	75	4,048	3,942	3,618	47	47	32	3,725
普通・理数	200	-	-	168	167	163	7	7	4	167
農 業	490	-	-	373	360	355	3	3	3	358
工 業	980	-	-	962	941	871	17	17	13	884
商 業	600	-	-	566	553	526	12	11	11	537
水 産	105	-	-	69	66	63	1	1	0	63
家 庭	120	-	-	132	131	111	0	0	0	111
看 護	40	-	-	52	50	40	0	0	0	40
外 国 語	40	-	-	41	40	40	0	0	0	40
体 育	120	-	-	151	149	119	0	0	0	119
表 現	30	-	-	32	32	30	0	0	0	30
総 合	640	-	-	605	600	602	2	2	1	603
総 計	7,365	75	75	7,199	7,031	6,538	89	88	64	6,677

2 定時制の課程

大 学 科	募 集 人 員	併設型進学		入学者選抜			再 募 集			合 格 者 数 計
		希 望 者 数	進 学 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	
定 普 通	360	-	-	241	227	212	12	12	9	221
定 工 業	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0
定 総 合	120	-	-	70	66	63	3	3	3	66
定 時 制 計	480	-	-	311	293	275	15	15	12	287

令和4年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査教科別得点一覧表（全受検者）

得点区分	国 語		社 会		数 学		理 科		英 語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	0	0.0	6	0.1	44	0.6	14	0.2	15	0.2
90～99	322	4.4	262	3.6	365	5.0	345	4.7	442	6.0
80～89	1383	18.9	794	10.8	769	10.5	738	10.1	750	10.2
70～79	1961	26.8	1085	14.8	947	12.9	1012	13.8	890	12.2
60～69	1660	22.7	1200	16.4	972	13.3	1255	17.1	968	13.2
50～59	1042	14.2	1152	15.7	978	13.4	1325	18.1	1004	13.7
40～49	556	7.6	1047	14.3	957	13.1	1093	14.9	1028	14.0
30～39	255	3.5	831	11.4	889	12.1	802	11.0	924	12.6
20～29	102	1.4	537	7.3	709	9.7	469	6.4	841	11.5
10～19	29	0.4	313	4.3	485	6.6	228	3.1	407	5.6
0～9	11	0.2	94	1.3	206	2.8	40	0.5	52	0.7
0（再掲）	2	0.0	3	0.0	8	0.1	2	0.0	3	0.0
受 検 者 数	7321	100.0	7321	100.0	7321	100.0	7321	100.0	7321	100.0
平 均 点	67.5	—	55.6	—	53.1	—	56.9	—	54.0	—
標 準 偏 差	15.4	—	21.2	—	23.8	—	20.2	—	22.9	—
最 高 点	99	—	100	—	100	—	100	—	100	—
最 低 点	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
前年度平均点	66.8	—	67.8	—	56.2	—	65.0	—	63.4	—

令和4年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査教科別得点一覧表（全受検者）

得点区分	項 目	
	人 数	得 点
100	0	0.0
90～99	1	1.0
80～89	18	17.5
70～79	13	12.6
60～69	15	14.6
50～59	10	9.7
40～49	10	9.7
30～39	13	12.6
20～29	15	14.6
10～19	7	6.8
0～9	1	1.0
0（再掲）	0	0.0
受 検 者 数	103	100.0
平 均 点	53.5	—
標 準 偏 差	23.7	—
最 高 点	90	—
最 低 点	9	—
前年度平均点	66.6	—

## 12節 ドリカム人づくり推進事業

この事業は、「人づくり」を目指した活力あふれる学校づくりを推進するため、児童・生徒の夢実現に向け、児童・生徒のアイデアを取り入れ、向上心や学ぶ意欲などチャレンジする心をはぐくむ事業を企画・展開する県立学校を、「ドリカム人づくり推進事業」推進校に指定するものである。

### 1 事業の概要

- (1) 各学校が、生徒や地域の実態、学校の課題等を踏まえ、生徒のアイデアを取り入れプランを企画・立案し、書類審査とプレゼンテーションにより推進校を決定する。
- (2) 1校あたりの経費については、50万円以内とする。

### 2 令和3年度事業実績

校種	学校数
高等学校	18校
特別支援学校	5校
計	23校

### 3 主な事業例

- ・各科の特性を生かし、生徒の創造的な発想から地域社会に貢献できるオリジナル商品の開発
- ・計画立案、準備、調査、情報収集を生徒自らがを行い、地域生活と社会体験を深めていく活動の実施
- ・演劇、芸術、ものづくり、各校の特色を生かした取組

## 13節 高校から取り組む人口減少対策プロジェクト事業

この事業は、生徒が総合的な探究の時間や課題研究等において、地域課題解決のための研究活動等を通して、本県の最大課題である人口減少克服のための研究活動等に取り組むことによって、地域に対する貢献意欲の向上や創造力の育成を図り、県内定着を促進し、将来の地域を支える人材の育成を図るものである。

### ○「高校生が考える人口減少対策プログラム」

#### 1 事業の概要

- (1) 各学校が、生徒や地域の実態及び学校の課題等を踏まえ、研究プランを作成し書類選考により、推進校を決定する。
- (2) 1校当たりの経費については、50万円以内とする。

#### 2 令和3年度事業実績

推進校 高等学校 9校



### 3 主な事業例

- ・人口減少の抑制や関係人口増加を目指す住みよい町づくりと、地域活性化に向けた課題解決
- ・人口減少問題に関する研究に取り組んでいる大学教授による講演会
- ・「市の魅力」普及パンフ・ポスター・ネット発信
- ・市民対象「婚活」婚活サポーター交流会で研究発表

#### ○「就職支援員配置プログラム」

##### 1 事業の概要

- (1) 県内就職を希望する生徒の雇用を確保し、県内就職に関する情報提供や進路相談及び学校と企業の相互理解のためのコーディネートを年間をとおして行うことにより、生徒の進路志望を達成するとともに県内就職率の向上を図るものである。
- (2) 県立高等学校に就職支援員を配置する。

##### 2 令和3年度事業実績

配置校 高等学校 12校

##### 3 主な業務

- ・進路指導部との連携による県内就職に向けた就職支援
- ・生徒の希望に応じた県内求人の開拓や相談
- ・生徒、保護者、教員への求人情報の提供、進路相談
- ・県内定着に関する県の就職支援事業の推進
- ・県内企業との相互理解促進企画の実施

## 14節 高等学校教育改革

### 1 第1次実施計画

「青森県高等学校教育改革推進検討会議」からの報告(平成11年2月25日)を具現化するため、庁内に「青森県高等学校教育改革推進検討委員会」を設置して検討を進め、12年10月、第1次素案として取りまとめ、公表した。

その内容は、学校間連携の導入など教育内容・方法の充実・改善に関する事項や、総合学科の県内未設置学区への設置、全日制単位制高等学校、中高一貫教育校、新たな特色ある学科の設置など学校・学科の設置に関する事項、さらには生徒減少期に応じた学校規模・配置の適正化に関する事項と、大きく3項目になっている。

実施計画は、生徒数の減少傾向から中長期的な検討を要する事項もあることから、実施期間を平成20年度までの計画とすることとし、平成12年度から16年度までを計画期間とする第1次実施計画を策定したものである。

16年度は、青森県高等学校を県内で初めての全日制単位制高等学校とした。

学校規模・配置の適正化については、生徒減少に対応し学級減を行うとともに、一部の工業高校について学級定員を40人から35人に引き下げることとし、順次実施した。

### 2 第2次実施計画

第1次実施計画の実績・成果を踏まえ、さらに社会の変化や生徒の多様化に対応した学校づくりや、中学校卒業生数の減少に対応した適正かつ計画的な学校規模・配置について、「青森県高等学校教育改革推進検討委員会」において検討を行い、平成17年度から平成20年度までを

実施期間とする実施計画案を作成し平成16年7月21日に公表した。

この実施計画案について、50日間のパブリック・コメントを実施するとともに、募集停止や校舎制移行を予定している学校の関係者に対する説明会を開催した上で、県立高等学校教育改革第2次実施計画として取りまとめた。

17年度は、この第2次実施計画により今別高等学校、深浦高等学校、五所川原東高等学校、大鰐高等学校及び八甲田高等学校を校舎制に向けた1学級募集とした。また、野辺地高等学校横浜分校を募集停止とした。

18年度は、八戸北高等学校を全日制単位制高等学校とした。また、定時制課程においては北斗高等学校及び八戸中央高等学校に3部制を導入するとともに、青森工業高等学校、弘前工業高等学校及び八戸工業高等学校において、学科統合を行った。

この他、藤崎園芸高等学校、川内高等学校及び大畑高等学校を校舎制に向けた1学級募集とした。

19年度は、三本木高等学校に併設型中高一貫教育を導入し、三本木高等学校附属中学校を開校した。また、今別高等学校、深浦高等学校、五所川原東高等学校、大鰐高等学校及び八甲田高等学校に校舎制を導入し、それぞれ、青森北高等学校今別校舎、木造高等学校深浦校舎、五所川原高等学校東校舎、弘前南高等学校大鰐校舎及び七戸高等学校八甲田校舎とした。

20年度は、弘前南高等学校を全日制単位制高等学校とした。また、藤崎園芸高等学校、川内高等学校及び大畑高等学校に校舎制を導入し、それぞれ弘前実業高等学校藤崎校舎、大湊高等学校川内校舎及び田名部高等学校大畑校舎とするとともに、平内高等学校及び南郷高等学校を校舎制に向けた1学級募集、木造高等学校稲垣分校及び五所川原高等学校東校舎を募集停止とした。

22年度は、平内高等学校及び南郷高等学校に校舎制を導入し、それぞれ青森東高等学校平内校舎及び八戸北高等学校南郷校舎とした。

#### \*校舎制

校舎制では、本校舎から教員を派遣したり、スポーツ大会や文化祭などの学校行事を合同で開催するなどの、本校舎と連携した取組を行い、教育活動の充実を図る。

### 3 第3次実施計画【前期】

平成21年度以降における県立高等学校の在り方について検討を行った「高等学校グランドデザイン会議」（平成18年5月設置）の答申（平成19年10月10日）を具現化するため、庁内に「高校教育改革推進庁内検討委員会」を設置して検討を進め、平成20年1月、県立高等学校教育改革第3次実施計画素案として取りまとめ、公表するとともに、平成20年3月、第3次実施計画案として取りまとめ、公表した。

この実施計画案について50日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における説明会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成20年8月6日に県立高等学校教育改革第3次実施計画として公表した。

第3次実施計画は、平成21年度以降の10年間を見通した高等学校教育改革の基本的な考え方と、平成21年度から平成25年度までの具体的な実施計画【前期】について取りまとめたものである。

21年度は、七戸高等学校八甲田校舎を募集停止とした。

また、第3次実施計画により、平成23年度に募集停止とする青森戸山高等学校及び八戸南高等学校については、募集停止となる学校の教育活動の充実や統合先となる学校との円滑な連携を図るため、それぞれの統合先となる青森東高等学校及び八戸北高等学校との間で「統合準備委員会」を設置した。この他、平成25年度に名久井農業高等学校へ農業科の中で工業に関する科目や経営に必要な科目を学ぶことができる学科を設置するため、その具体的な教育内容等について検討を行う「新学科設置検討委員会」を設置した。

22年度は、第3次実施計画により、平成25年度に募集停止とする南部工業高等学校と統合先となる八戸工業高等学校との間で「統合準備委員会」を設置した。前年度に設置した青森戸山高等学校及び八戸南高等学校の統合準備委員会は、引き続き協議を行うとともに、名久井農業高等学校の新学科設置検討委員会においても、引き続き検討を行い、それぞれの委員会から協議結果及び検討結果を教育長に報告した。

23年度は、青森戸山高等学校、弘前南高等学校大鰐校舎、尾上総合高等学校全日制課程及び八戸南高等学校を募集停止とした。

また、前年度に設置した南部工業高等学校及び八戸工業高等学校の統合準備委員会は、引き続き協議を行い、協議結果を教育長に報告した。

25年度は、田名部高等学校大畑校舎及び南部工業高等学校を募集停止とした。また、定時制課程においては、尾上総合高等学校定時制課程に3部制を導入するとともに、弘前中央高等学校及び黒石高等学校を募集停止とした。

また、生徒の多様な学習ニーズに対応するとともに、緊急時の対応や指導をより一層充実させるため、北斗高等学校の通信制分室を尾上総合高等学校及び八戸中央高等学校それぞれの通信制の課程として設置した。

#### 4 第3次実施計画【後期】

第3次実施計画の後半部分となる平成26年度以降の具体的な実施計画【後期】の策定に向け、庁内に「高校教育改革推進庁内検討委員会」を設置して検討を進めるとともに、県内6地区における2度の説明会や意見募集を実施した。

24年度は、7月に第3次実施計画【後期】案を公表し、50日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における説明会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成24年11月19日に第3次実施計画【後期】として公表した。

なお、第3次実施計画期間の最終年度である平成30年度から中学校卒業予定者数の急激な減少が見込まれるため、次期計画を1年早め、平成30年度からの計画として策定することとし、第3次実施計画【後期】の期間は、平成26年度から平成29年度までの4年間とした。

25年度は、第3次実施計画【後期】により、平成27年度に募集停止とする岩木高等学校と統合先となる弘前中央高等学校との間で「統合準備委員会」を設置した。

また、平成29年度に募集停止とする弘前実業高等学校藤崎校舎りんご科で実施している特色ある教育内容を柏木農業高等学校へ引き継ぐため、有識者及び両校の関係者の意見を確認しながら教育内容を検討する「中南地区のりんご栽培教育等の充実に関する検討会議」を設置し、検討結果を教育長に報告した。

26年度は、前年度に設置した岩木高等学校及び弘前中央高等学校の統合準備委員会において引き続き協議を行い、協議結果を教育長に報告した。

27年度は、岩木高等学校及び八戸北高等学校南郷校舎を募集停止とした。

29年度は、弘前実業高等学校藤崎校舎を募集停止とした。

#### 5 青森県立高等学校教育改革推進計画

平成30年度以降における県立高等学校の在り方について検討を行った「青森県立高等学校将来構想検討会議」(平成26年6月設置)の答申(平成28年1月25日)を具現化するため、庁内に「高等学校教育改革推進庁内検討委員会」を設置し、青森県立高等学校教育改革推進計画策定に向けた検討を進めた。

28年度は、5月に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針案を公表し、30日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成28年8月3日に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針として公表した。

また、第1期実施計画の策定に当たり、あらかじめ地域の学校教育関係者等から意見を伺う

ため、「青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会」を県内6地区に設置し各3回の意見交換を経て、平成29年2月13日に各地区意見交換会における主な意見を教育長に報告した。

29年度は、4月に青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画案を公表し、40日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成29年7月20日に青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画として公表した。

30年度は、第1期実施計画により、令和2年度に募集停止とする黒石高等学校及び黒石商業高等学校の統合による中南地区統合校の開設に必要な準備を進めるため、「開設準備委員会」を開催し、協議結果を教育長に報告した。

令和元年度は、第1期実施計画により、令和3年度に募集停止とする金木高等学校、板柳高等学校、鶴田高等学校及び五所川原工業高等学校の統合による西北地区統合校、十和田西高等学校、六戸高等学校及び三本木農業高等学校の統合による上北地区統合校の開設に必要な準備を進めるため「開設準備委員会」をそれぞれ開催し、協議結果を教育長に報告した。

また、田名部高等学校を全日制課程単位制高等学校とするとともに、青森東高等学校平内校舎及び大湊高等学校川内校舎を募集停止とした。

令和2年度は、第1期実施計画により、黒石高等学校及び黒石商業高等学校の統合による黒石高等学校（中南地区統合校）を新設し、青森北高等学校今別校舎、中里高等学校、五戸高等学校及び田子高等学校を募集停止とした。

また、6月に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針改定案を公表し、30日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、令和2年8月5日に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針を改定した。

さらに、第2期実施計画の策定に当たり、あらかじめ地域の学校教育関係者等から意見を伺うため、「青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会」を県内6地区に設置し各3回の意見交換を経て、令和3年3月9日に各地区意見交換会における主な意見を教育長に報告した。

令和3年度は、第1期実施計画により、金木高等学校、板柳高等学校、鶴田高等学校及び五所川原工業高校の統合による五所川原工科高等学校（西北地区統合校）を、十和田西高等学校、六戸高等学校及び三本木農業高等学校の統合による三本木農業恵拓高等学校（上北地区統合校）をそれぞれ新設し、木造高等学校深浦校舎を募集停止とした。

また、7月に青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画案を公表し、40日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、令和3年11月12日に青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画として公表した。

## 5章 特別支援教育

### 1節 学校の概況

#### 1 学校数・幼児・児童・生徒数

##### (1) 視覚障害を対象とする特別支援学校

聴覚障害を対象とする特別支援学校

(R3.5.1現在)

区分		幼稚部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数
視覚障害	県立盲学校	1	1	1	1	1	1	8	16	11	19
	八戸盲学校	-	-	3	8	3	4	-	-	6	12
	計(2校)	1	1	4	9	4	5	8	16	17	31
聴覚障害	青森聾学校	2	4	3	4	2	4	3	10	10	22
	弘前聾学校	3	4	2	4	1	1	-	-	6	9
	八戸聾学校	2	5	6	11	3	5	-	-	11	21
	計(3校)	7	13	11	19	6	10	3	10	27	52

※ 県立盲学校の高等部には、専攻科を含む。

##### (2) 知的障害を対象とする特別支援学校

肢体不自由を対象とする特別支援学校

病弱・身体虚弱を対象とする特別支援学校

(R3.5.1現在)

区分		幼稚部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数
知的障害	弘大附属特別支援学校	-	-	3	16	3	18	3	19	9	53
	青森第二養護学校	-	-	25	79	13	52	6	46	44	177
	弘前第一養護学校	-	-	24	83	9	36	9	65	42	184
	八戸第二養護学校	-	-	40	126	19	67	-	-	59	193
	黒石養護学校	-	-	6	21	4	9	4	16	14	46
	青森第二高等養護学校	-	-	-	-	-	-	12	85	12	85
	八戸高等支援学校	-	-	-	-	-	-	21	177	21	177
	計(6校)	-	-	98	325	48	182	55	408	201	915

学校名		区分		幼稚部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数		
肢体不自由	青森第一養護学校	-	-	10	24	8	18	-	-	18	42		
	弘前第二養護学校	-	-	5	13	2	4	4	10	11	27		
	八戸第一養護学校 (八病重心棟学級除く)	-	-	15	42	8	16	10	24	33	82		
知肢	青森第一高等養護学校	-	-	-	-	-	-	9	51	9	51		
	森田養護学校	-	-	13	29	7	21	6	50	26	100		
	七戸養護学校	-	-	27	71	15	45	10	78	52	194		
	むつ養護学校	-	-	10	27	6	16	6	49	22	92		
計 ( 7 校 )		-	-	80	206	46	120	45	262	171	588		
病弱	青森若葉養護学校	-	-	4	5	3	5	3	18	10	28		
	※八戸第一養護学校 (八病重心棟学級)	-	-	1	2	0	0	0	0	1	2		
	浪岡養護学校	-	-	9	18	8	18	9	27	26	63		
計 ( 2 校 )		-	-	14	25	11	23	12	45	37	93		

※ 学校数は肢体不自由に含む。

## 2節 障害のある子どもの早期からの一貫した支援

各市町村教育委員会は、障害のある子どもの適切な就学を図るため、就学に際し、保護者の意見を聴取するとともに、個々の障害の種類、程度、能力及び適性等について、専門的立場から調査・審議するために設置している教育支援委員会等からの意見を聴取した上で、総合的に判断し、最も適する教育場を選定し、指導を行っている。

令和3年度において、市町村教育委員会が、判断に当たった件数は次のとおりである。

判 断 件 数	市町村教育委員会数
100件以上	5 委 員 会
50件～100件未満	5 委 員 会
30件～50件未満	7 委 員 会
20件～30件未満	4 委 員 会
10件～20件未満	9 委 員 会
1件～10件未満	10 委 員 会
なし	0 委 員 会
合 計	40 委 員 会

なお、就学前における教育相談は、県総合学校教育センター、特別支援学校及び小・中学校特別支援学級で実施しているほか、地区就学相談・教育相談会を5教育事務所管内（11会場）で、延べ7日間実施し、30件の相談に応じた。

### 3節 施設・設備

#### 1 建物保有状況

令和3年5月1日現在における特別支援学校の建物保有面積は、校舎で対前年度比0.03% (1,607㎡)増の91,318㎡、屋内運動場で対前年度比増減なしの15,020㎡となっており、また、建物の保有状況を構造別にみると、鉄筋コンクリート・鉄骨造の不燃化構造が校舎で98.2%、屋内運動場で99.8%となっている。

#### 校 舎

障害種別	学校数	面積 ㎡	構造別面積		
			鉄筋	鉄骨・その他	木造
視覚障害	2	7,375	5,524	1,785	66
聴覚障害	3	8,361	8,100	53	208
知的障害、肢体不自由、 病弱・身体虚弱、肢体不 自由及び知的障害	15	75,582	69,481	4,713	1,388
計	20	91,318	83,105	6,551	1,662

#### 屋 内 運 動 場

障害種別	学校数	面積 ㎡	構造別面積		
			鉄筋	鉄骨・その他	木造
視覚障害	2	440	50	390	0
聴覚障害	3	2,113	0	2,080	33
知的障害、肢体不自由、 病弱・身体虚弱、肢体不 自由及び知的障害	15	12,467	477	11,990	0
計	20	15,020	527	14,460	33

#### 2 施設整備状況

令和3年度における特別支援学校の施設整備は、次の方針に基づいて進めた。

- (1) 安全・安心な教育環境の確保のため、老朽化の解消等に努めるとともに、障害の種別や程度に応じた教育内容の充実や、教室不足を解消するための校舎の増築等、教育環境の改善を図る。
- (2) 計画的な大規模改修による整備を図る。

(4.3.31)

区 分	学 校 名
校舎等建築調査設計	むつ養護学校等2校
校舎等建築	県立盲学校
長寿命化改修等	黒石養護学校
大規模改修	弘前第一養護学校等8校

## 4節 教育課程

### 1 特別支援学校の教育課程

特別支援学校では、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して小・中学校等に準ずる教育を行うとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とし、教育が行われている。

教育課程の編成に当たっては、小・中学校等に準ずる教科を取扱うこととなっているほか、知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標及び内容が別に示されている。

また、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションの6区分に示された27項目により、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を身に付け心身の調和的発達の基盤を培うことを目標とする、指導領域である「自立活動」を取扱うこととなっている。具体的には、視覚障害者を対象とする特別支援学校の歩行指導、聴覚障害者を対象とする特別支援学校の聴覚の活用・言語指導、肢体不自由者を対象とする特別支援学校の姿勢保持・変換、歩行に関する指導などを行っている。

なお、障害の状態により特に必要がある場合の教育課程の取扱いが示されており、障害のため通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して教員を派遣して行う訪問教育も含まれている。

### 2 特別支援学級・通級による指導の教育課程

小・中学校における特別支援学級は、知的障害者、肢体不自由者、身体虚弱者、弱視者、難聴者及びその他障害のある者で、特別支援学級において教育を行うことが適当な者を対象として教育を行っている。

特別支援学級の教育課程は、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため特別支援学校の指導領域である「自立活動」を取り入れている。また、通常の学級の教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当でない場合において、各教科の目標・内容を下学年の目標・内容に替えたり、知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えるなど、特別の教育課程を編成することができる。

小・中学校等における通級による指導は、主として各教科等の指導を通常の学級で行いながら当該児童生徒の障害に応じた特別の指導を特別の場で行う教育の形態であり、特別の教育課程を編成して行うものである。

具体的には、特別支援学校の「自立活動」の内容を参考とし、個々の障害の状態に応じた具体的な目標や内容を定めた学習を行うほか、障害の状態に応じて「各教科の内容を取り扱いはながら行う」ことができる。なお、在籍校以外の学校において受けた指導について、在籍校の特別の教育課程に係る授業と見なすことができる。高等学校における通級による指導については学校教育法施行規則の一部改正により、平成30年度から実施可能となったことを受け、令和3年度より北斗高等学校、八戸中央高等学校及び尾上総合高等学校の3校で実施している。

また、通級による指導の対象となる者は、言語障害者、自閉症者、情緒障害者、弱視者、難聴者、学習障害者、注意欠陥多動性障害者などである。



## 5節 学 習 指 導

特別支援学校・特別支援学級に在籍する幼児児童生徒及び通級による授業を受けている児童生徒については、個別的教育支援計画及び個別の指導計画に基づきP D C A（計画、実践、評価、改善）サイクルにより指導を進めている。

一方、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の指導に当たっては、特別支援学校等の助言又は援助の活用や、個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用に努めるなど、適切な指導や必要な支援の充実を図っている。

障害のある幼児児童生徒への指導は、特別支援学校間の専門性の活用、校内の教師間の協力による指導、医療、福祉、労働、教育等関係諸機関の外部人材の専門性の活用・連携、保護者の協力などにより、学習効果を高め、授業の充実を努めている。

また、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流及び共同学習を計画的・組織的に実施している。なお、特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒については居住する地域とのつながりの維持・継続を図るため、令和4年度から居住する地域の小・中学校に副次的な学籍を置いて交流及び共同学習を実施している。

## 6節 生 徒 指 導

児童生徒理解や指導方針について共通理解を図るため、ほとんどの学校では全校教職員による定期的な会議を行っている。また、個別面談や参観日等を設けている児童生徒に関してのケース会議を関係する施設・病院と合同で定期的に関いたり、職員間及び家庭と緊密な連携を図るため参観日等を設けている。

寄宿舎においては、寄宿舎指導員や舎監が寄宿舎生の日常行動を記録し、定例的な打ち合わせをもって、緊密な連携を取り合いながら、生徒指導に当たっている。

また、障害の克服、進路選択等で悩んでいる児童生徒に対しては早期に対応するよう努めている。

## 7節 道 徳 教 育

特別支援学校では、各校とも基本的な生活習慣の確立など社会適応力を育てることを重点指導事項として教育課程に位置づけ、学校におけるあらゆる教育活動の中で反復・継続して指導している。

児童生徒の知的障害の状態により、「特別の教科道徳」の時間を特設せずに、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う場合もある。

また、自己の障害を正しく理解し、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養うとともに、健全な人生観の育成を図るために、各校では、道徳教育の全体計画に基づいて指導している。

なお、指導に当たっては、関係する施設・病院、家庭との緊密な連絡連携が不可欠なことから、各校とも連絡帳、学級通信等による情報交換や定期的連絡会を開催している。

## 8節 進路指導

各学校では、教育課程の編成に当たって指導内容に検討を加えているほか、進路指導年間計画を作成し実施している。

また、実際の指導の場として、職場見学や産業現場等における実習を行っている学校が多い。

なお、令和3年度卒業生の進路状況は次のとおりである。

特別支援学校（国立を除く）

### ① 中 学 部

校 種	卒業者数	進 学 等				就職	就労移行 支援等	福祉施設 等利用	その他
		高校	高等部	訓練校等	計				
視覚障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0
聴覚障害	4	1	3	0	4	0	0	0	0
知的障害	89	0	89	0	89	0	0	0	0
肢体不自由	16	0	16	0	16	0	0	0	0
病弱・身体虚弱	8	2	5	0	7	0	0	0	1
計	117	3	113	0	116	0	0	0	1

### ② 高 等 部

校 種	卒業者数	進 学 等				就職	就労移行 支援等	福祉施設 等利用	その他
		大学・短大	専攻科	訓練校等	計				
視覚障害	6	1	1	0	2	1	2	0	1
聴覚障害	3	1	0	0	1	2	0	0	0
知的障害	209	0	0	4	4	64	98	37	6
肢体不自由	20	1	0	0	1	3	6	10	0
病弱・身体虚弱	14	1	0	1	2	3	3	4	2
計	252	4	1	5	10	73	109	51	9

### 中学校特別支援学級卒業生

卒業者数	進 学 等			就 職	その他
	高 校	高等部	訓練校等		
240	137	94	1	1	7

（令和2年5月1日現在）

## 6章 情報教育

学習指導要領において、児童生徒の発達の段階を考慮した学習の基盤となる資質の能力としての情報活用能力が位置付けられ、情報教育は、学校教育においてますます重要となってきている。

本県では、それに係わるコンピュータ等の情報機器の計画的整備や教員の指導力向上のために、県総合学校教育センター等を中心とした研修の充実が図られている。

これらのことについて、県内の各学校の状況は以下のとおりである。

(令和2年3月現在)

### 1 県内の状況（令和2年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果より）

#### (1) 学校におけるICT環境の整備状況

	本県平均	全国平均
教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数(人)	1.4	1.4
普通教室における無線LAN整備率(%)	67.9	78.9
学校の超高速インターネット接続率[光ファイバ回線](%)	98.6	95.5
学校の超高速インターネット接続率[100Mbps以上回線](%)	93.8	88.8
教員の校務用コンピュータ整備率(%)	129.8	122.7

#### (2) 教員のICT活用指導力の状況

(%)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	85.7	86.3	84.1	84.7	91.3	89.1	86.6	84.4
授業中にICTを活用して指導する能力	70.7	70.9	63.5	65.7	76.5	74.9	69.2	68.2
児童生徒のICT活用を指導する能力	73.8	74.4	68.6	69.1	80.9	77.4	69.0	66.7
情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	84.5	86.3	76.9	80.5	87.6	84.1	75.3	74.7

「ICT」とは、「Information（情報） and Communication（通信） Technology（技術）」の略。

## 7章 国際理解教育

### 1節 日本語指導が必要な児童生徒等の受入

日本語指導が必要な児童生徒等の受入状況（令和3年8月現在）

（単位：人、校）

区 分	小学校		中学校		高等学校		当別支援 学 校		合 計	
	児童数	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	児 童 生徒数	学 校数	児 童 生徒数	学 校数
①日本語指導が必要な外国籍児童生徒 (留学生は含まない)	23	15	13	7	5	3	0	0	41	25
②日本語指導が必要な日本国籍児童生徒 (帰国児童生徒等)	16	6	4	3	0	0	0	0	20	9

※隔年調査であり、令和3年度に調査実施。

### 2節 外国語教育

#### 1 外国語指導助手

県教育委員会は、英語教員と生徒の英語力向上のため、昭和62年度から、県内各教育事務所等に外国語指導助手を配置している。なお、令和3年度は、アメリカ、ロシア国籍の外国語指導助手を27名配置し、配置先は、教育庁学校教育課、県総合学校教育センター、高等学校24校である。

外国語指導助手は、高等学校及び特別支援学校を訪問し、英語担当教員の助手として、主にコミュニケーション能力の向上を図るため、直接生徒の指導に当たるほか、県総合学校教育センターが開設している高等学校英語科言語活動実践講座等の講師として、英語担当教員の研修等の補助に当たる。

令和3年度外国語指導助手配置先一覧

(高等学校・総合学校教育センター・学校教育課)

番号	配 置 先	外国語指導助手名(姓・名)	性別	国籍
1	青 森 高 等 学 校	エルヴィスフェレーラ ラファエラ	女	アメリカ
2	青 森 西 高 等 学 校	シュルツ ビクター	男	アメリカ
3	青 森 東 高 等 学 校	ウィーバー ダニカ	女	アメリカ
4	青 森 南 高 等 学 校	ミクヴィカー ヘイリー	女	アメリカ
5	青 森 南 高 等 学 校	ヤシェンコワ アンナ	女	ロシア
6	青 森 中 央 高 等 学 校	ムカルム ケリス	女	アメリカ
7	弘 前 高 等 学 校	ブラウン ジャスミン	女	アメリカ
8	弘 前 中 央 高 等 学 校	カミロン アストレア	女	アメリカ
9	弘 前 南 高 等 学 校	ディメヨー マーク	男	アメリカ
10	八 戸 高 等 学 校	デロッシュ ニコラス	男	アメリカ
11	八 戸 東 高 等 学 校	ツー ジョセフ	男	アメリカ
12	木 造 高 等 学 校	ベセル アリソン	女	アメリカ
13	五 所 川 原 高 等 学 校	ステイーヴンス キャサリン	女	アメリカ
14	板 柳 高 等 学 校	エムリック ショーン	男	アメリカ
15	鶴 田 高 等 学 校	ガードナー アンドリュウ	男	アメリカ
16	野 辺 地 高 等 学 校	モロイ ライアン	男	アメリカ
17	七 戸 高 等 学 校	ムーア ジョシュア	男	アメリカ
18	三 本 木 高 等 学 校	マケイン ラナルド	男	アメリカ
19	三 沢 高 等 学 校	ミラー ヘイリー	女	アメリカ
20	田 名 部 高 等 学 校	アン レイチェル	女	アメリカ
21	大 湊 高 等 学 校	ディゾン イアンジェイソン	男	アメリカ
22	大 間 高 等 学 校	マーフィー ジャレット	男	アメリカ
23	三 戸 高 等 学 校	ハミルトン カサンドラ	女	アメリカ
24	八 戸 商 業 高 等 学 校	ボルジング スーザン	女	アメリカ
25	三 沢 商 業 高 等 学 校	メヒア ダグラス	男	アメリカ
26	県総合学校教育センター	リム エリン	女	アメリカ
27	学 校 教 育 課	ニコラエワ マリア	女	ロシア

### 3節 在外教育施設への教員派遣

県教育委員会は、昭和51年度から在外教育施設（日本人学校：海外在留邦人子女のため義務教育段階の教育を行うことを目的とする全日制の教育施設。補習授業校：現地校に進学している在留邦人子女に対し、日本語による教育の機会を提供し、やがて帰国し国内の学校に編入学する際の基礎学力を補うことを目的として、一部の教科について補習授業を行う定時制の教育施設。）に教員を派遣している。

令和3年4月までに派遣された教員は、48か国222名（校長16名、教頭21名、教諭185名）である。

令和2・3年度在外教育施設教員派遣応募状況

	令和2年度の応募状況		令和3年度の新規派遣者		
	本県からの推薦枠	応募者	令和元年度応募者	令和2年度応募者	計
校長	1	0	0	0	0
教頭	2	1	0	0	0
教諭	4	9	0	4	4

在外教育施設教員派遣状況

番号	派遣年月日	帰国年月日	職名	派遣先の学校名	国名
1	31.4.1	4.3.31	教頭	上海日本人学校浦東校	中国
2	〃	〃	教諭	ジャカルタ日本人学校チカラン校	インドネシア
3	2.4.1	4.3.31	教頭	マニラ日本人学校	フィリピン
4	〃	〃	教頭	ブラッセル日本人学校	ベルギー
5	〃	〃	教諭	香港日本人学校大埔校	中国
6	〃	〃	教諭	バンコク日本人学校	タイ
7	3.4.1	5.3.31	教諭	広州日本人学校	中国
8	〃	〃	教諭	テヘラン日本人学校	イラン
9	〃	〃	教諭	パリ日本人学校	フランス
10	〃	〃	教諭	上海日本人学校浦東校	中国

## 8章 私学教育

### 1節 私学教育の現状

本県の私立学校は、幼稚園から大学、専修学校・各種学校まで含め155校で23,789人が在学しており、それぞれの建学の精神に基づく特色ある教育を行い、本県教育の振興に大きく寄与している。

#### 1 幼稚園

本県の私立幼稚園を設置者別にみると、学校法人立が82園、宗教法人立が1園、計83園で在園児は4,209人となっている。これは、国立1園51人、公立2園27人を大きく上回っており、幼稚園在園児の98.2%を私立幼稚園が占めている。

#### 2 小学校

私立小学校は設置されていない。

#### 3 中学校

私立中学校は青森山田中学校、青森明の星中学校、弘前学院聖愛中学校、八戸聖ウルスラ学院中学校及び八戸工業大学第二高等学校附属中学校の5校で、生徒数は566人となっている。

#### 4 高等学校

私立高等学校は17校、全日制課程の生徒数7,943人（専攻科含む）、通信制課程の生徒数383人で、普通教育のほか職業教育の面で特色ある教育を行っている。また、部活動でも全国的にめざましい活躍をしている。

高等学校（全日制）入学者に占める私立高等学校の比率（専攻科は含まない）

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
私立高等学校 取 容 比	24.4%	24.5%	25.4%	25.5%	26.6%	26.6%	27.3%	25.9%	26.1%	26.2%	26.7%

#### 5 大学・短期大学

私立大学は8校、学生数7,569人、私立短期大学は5校、学生数950人で、工業、商業、福祉、家政及び幼児教育など専門教育の面で特色ある教育を行っている。

#### 6 専修学校・各種学校

私立専修学校は22校、生徒数1,905人、私立各種学校10校、生徒数163人で、医療、社会福祉、衛生、商業実務、家政など、職業や实际生活に必要な技能又は教養の向上のための教育を行っている。

学校種別学校数・生徒数・教員数

(R3.5.1現在)

区 分	学 校 数	幼児・児童・生徒・学生数			本務教員数
		男	女	計	
大 学	8	4,202	3,367	7,569	516
短期大学	5	195	755	950	113
高等学校	17	4,230	4,096	8,326	653
中 学 校	5	340	226	566	50
小 学 校	0	—	—	—	—
幼 稚 園	83 ( 2)	2,108	2,101	4,209	650
専修学校	22 ( 2)	580	1,325	1,850	171
各種学校	10 ( 4)	34	129	163	23
計	150 ( 8)	11,689	11,999	23,633	2,176

※ ( ) 内は休校中の学校で内数とし、高等学校は専攻科及び通信制課程を含む。

## 2節 私立学校に対する助成

令和3年度の私立学校に対する助成の主な内容は次のとおりである。

### 1 私立学校経常費補助金

私立の幼稚園、中学校、高等学校、専修学校及び各種学校に対して、教育条件の維持向上及び生徒等の修学上の経済的負担の軽減を図り、学校経営の健全性を高めるため、経常費補助金3,120,736千円を交付した。

### 2 私立学校教職員退職金財団経営基盤改善支援事業費補助金

公益財団法人青森県私立学校教職員退職金財団が行う経営安定化対策に伴う加入学校法人の負担増を緩和することにより、財団の経営安定化対策の円滑かつ着実な実施を支援するとともに、財団の経営安定化及び経営基盤強化を図るため、同財団に対し45,000千円を交付した。

### 3 特色教育支援経費補助金

私立学校における社会の変化に対応した教育の改革を推進するため、教育改革事業を行った高等学校6校、中学校2校、幼稚園及び幼保連携型認定こども園74園に対して、73,924千円を交付した。

### 4 私立幼稚園等特別支援教育費補助金

障害児が在園している幼稚園及び幼保連携型認定こども園48園（対象人員160人）に対して、教育内容の充実を図るため、116,829千円を交付した。

### 5 私立高等学校等就学支援金交付金

家庭の教育費負担軽減のため、私立高等学校（通信制を含む。）17校及び各種学校1校に通う生徒の授業料に対する支援として、2,261,254千円を交付した。



**6 私立高等学校等学び直しへの支援金**

高等学校等を中途退学した者が再び学び直す場合の授業料負担軽減のために、高等学校4校、各種学校1校に対して694千円を交付した。

**7 私立高等学校等就学支援費補助金**

家庭の教育費負担のより一層の軽減を図るため、授業料等軽減を行った私立高等学校17校に対して125,808千円を交付した。

**8 私立高等学校専攻科修学支援金**

家庭の教育費負担軽減のため、私立の高等学校専攻科2校に通う生徒の授業料に対する支援として、11,524千円を交付した。

**9 奨学のための給付金**

私立の高等学校等に在学する高校生等の保護者等の授業料以外の教育に必要な経費の負担軽減を図るため、1,623人に対して194,353千円を給付した。

**10 私立中学校経済的支援実証事業費補助金**

家庭の教育費負担軽減及び実態把握のため、私立中学校5校に通う生徒の授業料等に対する支援として4,131千円を交付した。

**11 私立学校振興活動費補助金**

私立学校の振興を図るため、私立学校振興活動事業を行う公益社団法人青森県私学協会に対し、646千円を交付した。

**12 私立幼稚園教職員等研修事業費補助金**

私立幼稚園における防災対策の充実及び子ども・子育て支援新制度が目的とする質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供に関する取組を推進・支援するため、研修事業を実施する私立幼稚園連合会に対して、800千円を交付した。

**13 特定教育方法支援事業補助金（国庫）**

高等学校1校に対して、3,513千円を交付した。

**14 私立学校外国語指導助手招致事業費補助**

外国語指導助手の招致・活用により英語教育の質の向上・国際化を促進するため、外国語指導助手を任用した3学校法人に対し、9,714千円を交付した。

**15 保育教諭確保推進事業費補助金**

保育教諭となるための幼稚園教諭免許状取得及び単位取得の際の代替職員配置のため、11園及び1市に対して368千円を交付した。

- 16 幼児教育緊急環境整備費補助金  
質の高い環境で、子どもを安心して育てることができる体制整備を推進するため、幼児教育の質の向上のための環境の緊急整備を行った私立幼稚園等延べ100園に対し、32,539千円を交付した。
- 17 認定こども園整備事業費補助金  
子どもを安心して育てることができる体制整備を行うため、幼児教育と保育を一体的に提供する認定こども園の施設整備を行った認定こども園8園に対し、279,800千円を交付した。
- 18 園務改善ICT化事業費補助金  
幼稚園、幼稚園型認定こども園における園務を改善するため、園務のICT化を行った15園に対し、5,067千円を交付した。
- 19 私立学校施設整備費補助金(私立学校教育研究装置等施設整備費(私立学校高機能化整備費))(国庫)  
中・高等学校5校(トイレ改修工事・耐震補強工事)に対して36,534千円を交付した。
- 20 理科教育設備整備費補助金(国庫)  
中学校1校に対して206千円を交付した。
- 21 学校教育設備整備費等補助金(高等学校産業教育設備整備費)(国庫)  
高等学校1校に対して130千円を交付した。
- 22 私立学校施設整備費補助金(私立幼稚園施設整備費)(国庫)  
幼稚園1園に対して3,745千円を交付した。
- 23 私立学校情報機器整備費補助金(国庫)  
中学校1校及び高等学校6校に対して11,476千円を交付した。
- 24 学校保健特別対策事業費補助金(学校等における感染症対策等支援事業)(国庫)  
中学校2校及び高等学校8校に対して9,380千円を交付した。
- 25 学校保健特別対策事業費補助金(感染症対策等の学校教育活動継続支援事業)(国庫)  
中学校4校及び高等学校16校に対して7,100千円を交付した。
- 26 修学旅行キャンセル料支援費補助金  
中学校1校及び高等学校10校に対して6,769千円を交付した。

### 3節 私立学校審議会

青森県私立学校審議会委員名簿

(R4.3.31現在)

	氏名	役職名	任期等
会長	昆正博	元国立大学法人弘前大学教育学部長	H30.7.28～R4.7.27
副会長	下山美智子	学校法人下山学園理事長 五所川原商業高等学校長	R2.7.27～R6.7.26
委員	鈴木裕子	元三沢カトリック幼稚園長	H30.7.28～R4.7.27
委員	川守田道治	あかね幼稚園長	H30.7.28～R4.7.27
委員	日景弥生	学校法人柴田学園常勤理事	H30.7.28～R4.7.27
委員	細越友之	公益財団法人青森県育英奨学会理事長	R2.7.27～R6.7.26
委員	佐藤俊裕	学校法人東英学園理事長	H30.7.28～R4.7.27
委員	村田秀俊	弘前東高等学校長 元青森県私立中学高等学校長協会会長	R2.7.27～R6.7.26
委員	油川育子	認定こども園八戸文化幼稚園長	R2.7.27～R6.7.26
委員	石田憲久	学校法人青森田中学園理事長 青森中央経理専門学校長	R3.7.8～R5.7.27

(会議)

令和3年7月27日に第301回、令和3年11月1日に第302回の審議会が開催され、私立学校の学則変更等の知事の諮問事項について答申を行った。

# 9章 育英・奨学

## 1節 青森県育英奨学会

### 1 目的

この法人は、青森県人の子弟のうち、学業、人物が優れているにもかかわらず、経済的理由により修学困難な者に対し学費を貸与し、及び学生寮を利用させる等必要な援助を行い、本県及び国家社会の発展に貢献しうる人材の育成に寄与することを目的とする。

### 2 事業概要

#### (1) 青森県学生寮

- ① 所在地 東京都小平市鈴木町一丁目103-1
- ② 入寮費 年額 30,000円
- ③ 寮費 月額 30,000円
- ④ 食費 月額 約10,000円（日曜日、祭日を除く平日の夕食のみ）
- ⑤ 電気料 実費
- ⑥ インターネット 月額1,700円又は1,760円（入寮生が希望する事業者を選択）
- ⑦ 入寮定員 男子100名
- ⑧ 施設設備
  - 洋室100室（各室定員1名）、1室の広さ9.0㎡（6畳程度）、ベッド、洋服ダンス、収納棚、学習机、椅子、照明器具、冷暖房機、TV端子、インターネット回線
  - 食堂、図書室、談話室、自治会室、WC、浴室、洗面所（洗濯機）、事務室、応接室、職員住宅等
- ⑨ 入寮状況 (4.3.31現在)

学 年	出 願 者 数	入 寮 者 数	継 続 入 寮 者 数	計
1	18 人	13 人	0 人	13 人
2	0 人	0 人	24 人	24 人
3	1 人	1 人	6 人	7 人
4	0 人	0 人	10 人	10 人
大 学 院	0 人	0 人	0 人	0 人
計	19 人	14 人	40 人	54 人

#### (2) 大学奨学金

- ① 応募資格
  - 保護者が青森県の住民であること
  - 大学の第1学年に入学見込みの者
  - 学業、人物ともに優秀で、かつ健康であること
  - 学資の支弁が困難であること
  - 原則として日本学生支援機構その他の団体から学資の貸与又は給付を受けていない者
- ② 貸与月額 44,000円
- ③ 採用人員 90人
- ④ 返還利息 無利息

⑤ 貸与状況

出願者数	貸与者数	継続貸与者数	計
29人	27人	122人	149人

(3) 高校等奨学金

① 応募資格

- 保護者が青森県の住民であること
- 高等学校又は専修学校高等課程に入学し、現在在学している者
- 学業・人物ともに優秀で、かつ健康であること
- 学資の支弁が困難であると認められること

② 貸与月額

次のうち、奨学生が必要に応じて希望する金額

ア：18,000円    イ：23,000円    ウ：30,000円    エ：35,000円

③ 採用形態

予約採用 中学3年生を対象に募集・決定

定期採用 毎年4月に高校等に在学している者を対象に募集・決定

緊急採用 家計が急変した在学生を対象に随時募集・決定

④ 返還利息 無利息

⑤ 貸与状況

予約採用	定期採用	緊急採用	継続貸与者数	計
61人	75人	1人	330人	467人

⑥ 高等学校奨学金通学費等免除制度

ア 対象者

本会の高等学校奨学生のうち、次の全てに該当する者

- 奨学生の属する世帯が市町村民税所得割非課税世帯（生活保護法による生業扶助を受給している世帯を除く。）であること
- 通学費が1月当たり1万円、下宿費（寮含む。）が1月当たり1万2千円のいずれか超える額を負担していること

イ 対象経費等 通学費、下宿費（寮費）の1月当たりの実費相当額

ウ 返還免除額

奨学金の貸与月額又は通学費等の1月当たりの実費相当額（千円未満の端数切捨て）のいずれか低い方の額から通学費が1月当たり1万円、下宿費（寮含む。）が1月当たり1万2千円を差し引いた額

エ 返還免除の状況

返還免除者数	返還免除額
13人	1,330,000円

(4) 大学入学時奨学金

① 応募資格

- 保護者が青森県の住民であること
- 高等学校又は高等専門学校に在学している者
- 大学（通信制・短期大学を除く。）の第1学年に入学見込みであること
- 学業、人物ともに優秀で、かつ健康であること
- 生活保護受給世帯若しくは市町村民税所得割非課税世帯又は児童養護施設等入所者であること

② 貸与額 10万円を単位とし、60万円以内の必要な金額

③ 採用人員 100人

④ 返還利息 無利息

⑤ 貸与状況

採用者数	貸与者数	貸与金額
21人	20人	11,700,000円

## 第4部 社 会 教 育





# 第4部 社会教育

## 1章 社会教育行政の方針と重点

### 1 方針

県民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、豊かで住みよい地域社会を形成することができるよう、学びを生かしつながりをつくり出す社会教育の推進に努める。

### 2 重点

#### (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

#### (2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

#### (3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

#### (4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

※人は青森県にとって「財（たから）」であるという基本的な考え方から、ここでは「人材」を「人財」と表しています。

## 2章 事業の概要

### 1節 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

#### 社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業

##### [趣 旨]

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図るため、市町村の社会教育主事等が中心となり、首長部局、企業・民間団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

##### [概 要]

- (1) 社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決【2地区 主管：関係教育事務所】

社会教育主事等が中心となり、首長部局、NPO団体、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。

##### ア 西北地区（五所川原市）

<地域課題解決スタートアップ研修会>

- 期日：8/10（火） ○会場：五所川原市中央公民館（五所川原市）
- 参加者数：25名
- 内容：事業説明、ワークショップ形式による協議

<第1回実行委員会>

- 書面開催 ○参加者数：18名
- 内容：イベント内容の募集

<第2回実行委員会>

- 期日：11/22（月） ○会場：五所川原市中央公民館（五所川原市）
- 参加者数：15名
- 内容：イベント内容決定、役割分担、タイムスケジュール等イベント当日の詳細につ

いて

<第3回実行委員会>

- 期日：12/10（金） ○会場：五所川原市中央公民館（五所川原市）
- 参加者数：15名
- 内容：実施内容及び、タイムスケジュールの確認、担当コーナーの準備

<事業の実践>

- クリスマスイベント「楽しんじゃおう！ちょっと早いクリスマス」開催
- 期日：12/19（日） ○会場：五所川原市中央公民館（五所川原市）
- 参加者数約170名

- 内容：クリスマスリース・クリスマスオーナメントボール製作、ぬり絵、ストラックアウトフリスビー、段ボール迷路、イルミネーション点灯式
- <地域課題解決フォローアップ研修会>
  - 2/17（木）に五所川原市中央公民館で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため紙面で開催。
  - 内容：西北地区実行委員会による実践発表
- イ 上北地区（七戸町）
  - <地域課題解決スタートアップ研修会>
    - 期日：6/22（火） ○会場：七戸町役場七戸庁舎（七戸町） ○参加者数12名
  - <第1回実行委員会>
    - 期日：8/10（火） ○会場：七戸町役場七戸庁舎（七戸町） ○参加者数8名
    - 内容：創造の森活用事業作業内容と分担について
  - <第2回実行委員会>
    - 期日：8/27（金） ○会場：七戸町役場七戸庁舎（七戸町） ○参加者数9名
    - 内容：新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による事業延期日時について
  - <第3回実行委員会>
    - 期日：9/27（月） ○会場：七戸町役場七戸庁舎（七戸町） ○参加者数：9名
    - 内容：事業延期日時と分担についての確認
  - <第4回実行委員会>
    - 期日：11/29（月） ○会場：七戸町役場七戸庁舎（七戸町） ○参加者数：9名
    - 内容：第1回創造の森活用事業の成果と課題について（第2回創造の森活用事業に向けて・フォローアップ研修会に向けて）
  - <事業の実践1>
    - 期日：8/11（水） ○会場：東八甲田家族旅行村「創造の森」○参加者数：9名
    - 内容：イベント開催に当たっての危険箇所の確認と、救急セット、AED等の安全確認
  - <事業の実践2>
    - 期日：10/22（金） ○会場：東八甲田家族旅行村「創造の森」○参加者数：9名
    - 内容：イベント開催の事前準備と進行確認
  - <事業の実践3>
    - 「第1回創造の森活用事業」の開催
    - 期日：10/24（日） ○会場：東八甲田家族旅行村「創造の森」○参加者数：27名
    - 内容：「創造の森」自然観察会、環境整備とSDGsとの関わりについての勉強会、環境整備作業
  - <地域課題解決フォローアップ研修会>
    - 2/9（水）に七戸町柏葉館で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンデマンドで開催。
    - 期日：2/14（月）～2/28（月） ○視聴方法：YouTubeによるオンデマンド開催
    - 内容：創造の森活用事業実行委員会による実践発表（20分）
- (2) キャリア教育の推進【6地区 青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】
  - ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催
    - 内容：学校、企業、教育支援プラットフォーム、地域学校協働本部等の関係者同士がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域の未来を担う人材像を共有するため、各地区において会議を開催し、学校が求める支援の内容や企業が求めている支援内容を

マッチングすることを目的に、関係者同士による意見・情報交換を行った。

※東青、上北、三八地区は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。

<西北地区>

○日時：7/5（月）、7/8（木） ○場所：板柳町多目的ホール「あぶる」、板柳中学校

○内容：板柳町内小学校6年生を対象に企業によるワークショップを実施

板柳町内中学校1年生を対象に現役高校生によるパネルディスカッションを実施

<中南地区>

○日時：8/27（金） ○場所：弘前プラザホテル

○内容：講演 ○講師：有限会社二唐刃物鍛造所 代表取締役 吉澤 俊寿

<下北地区>

○日時：7/8（木） ○場所：むつグリーンホテル

○内容：講演 ○講師：障害者就業・生活支援センターしもきた 所長 三浦 和之

イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録及び登録企業の周知

各関係機関と連携して情報収集しながら、新たに「我が社は学校教育サポーター」に登録する企業を新規開拓した。また、「我が社は学校教育サポーター」に登録されている企業について、さらなる活用をしていただくために、登録企業の周知を学校等に対して行い、企業による教育支援活動の一層の充実を図った。

・我が社は学校教育サポーター 新規登録企業 13（登録予定含む）

ウ 教育支援活動展示会の開催

企業による教育支援活動を県民に広く周知することを目的とした「教育支援活動展示会」を実施した。

※中南、三八地区は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。

<東青地区>

○日時：11/3（水）～11/5（金） ○場所：アウガ1階駅前スクエア

○内容：東青地区13企業の活動をパネルで展示

<西北地区>

○日時：11/1（月）～11/12（金） ○場所：五所川原市役所 土間ホール

○内容：西北地区5社の活動をパネルで展示

<上北地区>

○日時：12/23（木）～12/27（月） ○場所：三沢市立古間木小学校玄関ホール

○内容：上北地区7社の活動をパネル展示

※展示期間中に、古間木小学校で小学校教育研究部会を開催

※三沢市立図書館では、通年で企業紹介（定期的に入れ替え）のパネルを展示

<下北地区>

○日時：7/19（月）～24（土） ○場所：むつ来さまい館 イベントホールA

○内容：下北地区13社の活動を展示

## 子どもの読書活動推進事業

### 【趣 旨】

「青森県子ども読書活動推進計画（第四次）」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育成するため、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

### 【概 要】

- (1) あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集（紹介文集）を71,500部、優秀作品周知ポスターを410部作成し、中学校、高等学校（特別支援学校中等部及び高等部を含む）、図書館等に配付した。

○募集期間：7/1（木）～9/17（金）

○応募数：4,523点（中学生の部：36校1,036点、高校生の部：31校3,487点）

○優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	青森市立筒井中学校2年 平間 音羽 「人生に、上下も勝ち負けありません 精神科医が教える老子の言葉」 (野村 総一郎/著)
優秀賞	青森市立南中学校3年 福士 舞 「レインツリーの国」(有川 浩/著) 青森市立南中学校3年 田村 望桜 「ライオンのおやつ」(小川 糸/著) むつ市立田名部中学校3年 中美 姫咲 「+1cm(プラスイッセンチ) たった1cmの差があなたの世界をがらりと変える」 (キム・ウンジュ/著 ヤン・ヒョンジョン/イラスト 築田 順子/訳) むつ市立田名部中学校3年 宮本 藍瑠 「きみの友だち」(重松 清/著) 八戸聖ウルスラ学院中学校3年 関野 天音 「青の数学」(王城 夕紀/著)

<高校生の部>

最優秀賞	県立青森工業高等学校1年 猪股 玲奈 「星やどりの声」 (朝井 リョウ/著)
優秀賞	県立青森東高等学校2年 山田 愛菜 「夏の庭 The Friends」 (湯本 香樹実/著) 県立青森聾学校 高等部3年 三上 真輝 「レインツリーの国」 (有川 浩/著) 県立五所川原工科高等学校1年 平沢 さなえ 「海に見える理髪店」 (荻原 浩/著) 県立八戸商業高等学校1年 高畑 友希 「か」「く」「し」「ご」「と」「」 (住野 よる/著) 向陵高等学校3年 栗橋 美妃 「今こそ栄光への架け橋を それでもオリンピックは素晴らしい！」 (刈屋 富士雄/著)

(2) 子どもの読書活動推進大会

広く県民が子どもの自主的な読書活動の意義や重要性について理解と関心を深め、家庭・地域・学校を通じた社会全体で子どもの読書活動を推進する機運の醸成を図るため、子どもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：12/12（日） 13：00～16：00

○場所：つがる市生涯学習交流センター松の館

○参加者数：180名

○内容

ア 表彰式

令和3年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』コン

クール表彰式

イ 私のお薦めの一冊

ウ 講演

演題『大好きな本の話 ～みなさんの質問にも答えます～』

講師 小説家 朝井 リョウ

聞き手 フリーアナウンサー 境 香織

(3) 青森県子ども読書活動推進計画

「青森県子ども読書活動推進計画（第四次）」に基づき、読書に親しみ、自主的に読書活動をする子どもたちを育てるため、各教育事務所の協力の下、子どもの読書活動推進計画の未策定市町村を訪問し、計画策定が進むように情報提供及び意見交換を行った。

また、学校における読書活動推進を支援するため、子ども同士が図書を紹介し、様々な分野の図書に触れる活動等に関する具体的な取組を紹介するリーフレットを作成し、学校及び関係機関等に配付した。

**いじめ防止キャンペーン推進事業**

**【趣 旨】**

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀賞作品をテレビを通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

**【概 要】**

(1) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞6作品、審査員特別賞3作品を選定、表彰した。

○募集期間：6/7（月）～8/31（火）

○応募数：7,496作品（小学校4,349作品、中学校2,339作品、高等学校696作品、特別支援学校112作品）

○受賞作品

優 秀 賞	なくそういじめ みんな世界で オンリーワン	県立青森第一高等養護学校 1年 川原田 祥央
	“キラ伊”より 友だち“キラリ” みつけよう	五所川原市立東峰小学校 2年 山田 めと
	強さとは 人を守る 思いやり	弘前市立岩木小学校 3年 三浦 愛莉
	あいことば 気付く・寄り添う 声かける	十和田市立第一中学校 2年 野月 悠生
	「たすけてよ」 心の声に 耳すませ	むつ市立奥内小学校 3年 工藤 零士
	画面から とび出す言葉 胸をさす	南部町立名川中学校 1年 松本 佳恋
審 査 員 特 別 賞	耐えないで あなたは絶対 一人じゃない	青森市立筒井中学校 3年 角田 しずく
	こわいよね されてるあの子は もっとこわい	県立鶴田高等学校 2年 一戸 絵莉那
	SNS 見えないいじめは すぐそこに	十和田市立切田中学校 3年 原 音々

(2) テレビCMの制作・放送

ア 令和2年度制作「いじめ防止キャンペーンテレビCM」を県内民放3局で放送（4/6～4/7、5/6～5/7、5/10、8/24～8/27、8/30～9/3、1/13～1/14、1/17～1/19）

イ 令和3年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作し、県内民放3局で放送（3/23～3/25）

### 特別支援学校における家庭教育支援事業

#### 【趣 旨】

障害のある児童生徒の保護者等が、子どもの健やかな成長のために、障害のある児童生徒の心理や行動について理解を深め、家庭における教育や卒業後の就労などについて必要な知識を習得するとともに、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や地域住民との交流を深める機会を提供する事業である。

#### 【概 要】

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第一養護学校	3	7	29名	パン作り教室、ポッチャ体験、講話（身体について）
青森第二養護学校	3	8	18名	こぎん刺し教室、果物狩り、先輩保護者との談話会
青森若葉養護学校	2	4	23名	施設見学、フラワーアレンジ
青森第一高等養護学校	1	1	5名	福祉に関する勉強会
県立盲学校	6	16	81名	運動会参加、進路指導講話、学校祭参加、点字ブロック理解啓発活動、租税教育研修会
青森聾学校	3	5.5	50名	花壇整備、家族レクリエーション、太極拳教室
浪岡養護学校	3	5	41名	マスクスプレー作り、陶芸体験
弘前第一養護学校	1	2	28名	P T A 進路研修会
弘前第二養護学校	1	1		クリスマスプレゼント贈呈
弘前聾学校	5	8	61名	親子レクリエーション、なかまの集い、進路懇話会、ワックスパー作り
八戸第二養護学校	3	5	33名	茶話会、エコクラフト教室
八戸盲学校	4	13	22名	保護者交流会、親子学習会、進路学習会、親子体験学習（もの作り、伝承文化活動）
八戸聾学校	2	3	25名	P T A 奉仕作業（清掃）
森田養護学校	3	10	42名	父母学習会、学校祭記念品の準備、学校祭舞台発表参観
黒石養護学校	3	5	16名	医療機関の情報交換、消しゴムハンコ作り、コサージュ作り
七戸養護学校	2	4	50名	福祉施設説明会、性教育研修会
むつ養護学校	4	13	109名	園芸教室、親子芸術鑑賞会、父母学習会（進路について）
八戸高等支援学校	2	6	60名	進路学習会、保護者研修会
合計	延べ回数	50回	延べ時間	116.5時間 参加者数合計 693名

## 学校を核とした地域づくり推進事業

### 〔趣 旨〕

地域学校協働本部の設置をこれまで以上に推進するために、多様な形態による地域学校協働本部のモデルを設置し、地域学校協働本部の普及を図るとともに、地域学校協働活動の理解及び更なる啓発を進める事業である。

### 〔概 要〕

#### (1) 地域学校協働本部構築モデル事業（県内4市町村）

県内で設置例がない形態、または事例が限られている形態の地域学校協働本部のモデルを構築し、これまでの学校支援活動にとどまらず、学校が地域の核となり、地域学校協働本部が地域との連携・協働を進めながら、地域課題の解決に取り組む活動を行う。

※モデル市町村：むつ市、黒石市、鶴田町、風間浦村

市 町 村	地域学校協働本部構築モデルの状況
む つ 市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域学校協働本部設置要綱等</li> <li>・むつ市地域学校協働本部設置要綱</li> <li>○本部数</li> <li>・1本部（4小学校をカバー）</li> <li>○本部の特徴</li> <li>・本部は、放課後子ども教室を実施している小学校を中心にカバーしている。</li> </ul>
黒 石 市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域学校協働本部設置要綱等</li> <li>・黒石市地域学校協働本部設置要綱（作成中）</li> <li>○本部数</li> <li>・4本部を予定（4小学校をカバー）</li> <li>○本部の特徴（予定）</li> <li>・以前から各公民館や地区協議会が中心となり、多様な協働活動を行ってきた。本部は公民館に整備することを想定している。</li> </ul>
鶴 田 町	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域学校協働本部設置要綱等</li> <li>・鶴田町地域学校協働活動推進員設置要綱</li> <li>・鶴田町地域学校協働本部設置要綱</li> <li>○本部数</li> <li>・1本部（1小学校をカバー）</li> <li>○本部の特徴</li> <li>・推進員は町の会計年度任用職員として小学校に常駐している。</li> </ul>
風 間 浦 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域学校協働本部設置要綱等</li> <li>・風間浦村地域学校協働本部設置要綱</li> <li>・風間浦村地域学校協働活動推進員に係る設置要領</li> <li>○本部数</li> <li>・1本部（1小学校、1中学校をカバー）</li> <li>○本部の特徴</li> <li>・村に1つの本部を整備し、小学校と中学校をカバーしている。</li> </ul>



(2) 地域と学校とのコラボレーション研修【主管：各教育事務所】

地域学校協働活動に係る知識と理解を深めるとともに、地域と学校をつなぐために必要なコーディネートの在り方及び学校・地域双方に求められる役割について学ぶための研修会を行った。

地区	期 日	場 所	参加者数
東 青	11/16 (火)	県総合社会教育センター	44名 (0名)
西 北	12/ 1 (水)	五所川原市中央公民館	62名 (0名)
中 南	11/30 (火)	県武道館	32名 (2名)
上 北	11/ 8 (月)	公立小川原湖青年の家	48名 (1名)
下 北	12/ 7 (火)	むつ来さまい館	35名 (0名)
三 八	11/17 (水)	八戸市水産会館	61名 (0名)

※参加者数の( )は、オンラインによる参加者数(内数)

○講師

東青・下北・三八地区 NPO法人スクールアドバイスネットワーク  
事務局長 井上 尚子  
西北・中南・上北地区 一般社団法人みたかSCサポートネット  
代表理事 四柳 千夏子

(3) 地域との連携を担う教職員研修【主管：生涯学習課】

地域との連携・協働の必要性や地域連携を担う教員としての校内での役割、留意点について研修を行った。

地区	期 日	場 所	参加者数
東 青	8/ 4 (水)	県総合社会教育センター	79名 (5名)
西 北	8/31 (火)	(オンライン開催)	32名 (32名)
中 南	7/ 2 (金)	弘前市中央公民館相馬館長慶閣	65名 (10名)
上 北	7/27 (火)	公立小川原湖青年の家	62名 (1名)
下 北	7/ 6 (火)	むつ来さまい館	22名 (0名)
三 八	7/ 1 (木)	南部町総合保健福祉センターゆとりあ	82名 (8名)

※参加者数の( )は、オンラインによる参加者数(内数)

○講師

東青地区 福島県本宮市立本宮まゆみ小学校 校長 安齋 宏之  
西北・中南・三八地区 岩手県大槌町教育委員会 教育専門官 菅野 祐太  
上北・下北地区 秋田県能代市立二ツ井小学校 校長 佐藤 潔

(4) 本部未設置市町村に対する設置サポート事業

オンライン会議システムを活用し、地域学校協働本部未設置市町村を対象に、本部整備までの手順についてのアドバイス、県内外の先進事例の紹介、地域学校協働本部設置要綱等の情報提供を行った。

**地域学校協働活動推進事業(県事業)**

**【趣 旨】**

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

[概要]

(1) 会議の開催

県内における地域学校協働活動の総合的な在り方や、児童の放課後対策の諸問題について協議するとともに、市町村担当者を対象とした連絡会議を実施した。

ア 地域学校協働活動推進委員会

・委員

No.	氏名	所属等	備考
1	深作 拓郎	弘前大学教育学部 講師	委員長
2	越村 康英	弘前大学教育学部 准教授	
3	菊池 信吾	平内町立小湊小学校 校長	
4	山内 亮悦	六戸町立六戸小学校 校長	
5	神田 昌彦	弘前市立新和中学校 校長	
6	山子 泰典	県PTA連合会 会長	
7	渋谷 貴子	鯉ヶ沢町立舞戸小学校 地域学校協働活動推進員	
8	沢田真由美	鶴田町立鶴田小学校 地域学校協働活動推進員	
9	工藤知久子	青森市立浦町中学校区 CSディレクター	
10	村上 直嗣	黒石市教育委員会社会教育課 地域支援係長	
11	高島 慎吾	むつ市教育委員会生涯学習課 主査	
12	橋本 拓也	おいらせ町教育委員会社会教育・体育課 主幹	
13	夏井 幸子	八戸市福祉部子育て支援課 課長	
14	佐藤 文子	西なかよし会 主任放課後児童支援員	
15	新山 大史	上北小学区放課後児童クラブ 主事	

※1/26(水)に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から書面開催とし、各委員から意見をとりまとめた。

イ 放課後子ども総合プラン市町村担当者連絡会議

・期日：11/12(金)

・場所：県総合社会教育センター 第1研修室及び第5研修室

・対象：市町村放課後子ども総合プラン担当者(社会教育主管課及び福祉部局)

・参加者数：47名

(2) 研修の実施

ア 地域学校協働活動推進のための研修【主管：県総合社会教育センター】

地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図った。

・期日：6/3(木)

・場所：県総合社会教育センター 第1研修室

・対象：市町村教育委員会担当者、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等

・参加者数：41名

・内容：講義・演習「地域と学校の連携・協働の推進について」

講師 特定非常利活動法人まちと学校のみらい代表理事 竹原 和泉

※会場・オンライン併用による実施

イ 放課後子ども総合プラン指導員等研修会【主管：各教育事務所】

放課後対策等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催した。

- ・回数：10回
- ・対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動支援員、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童支援員等
- ・参加者数：計562名

東青	前期	※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催を中止した。
	後期	【開催日】11/29(月)、30(火) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】94名 【内容】講義「子どもたちの科学する心を育てるものづくり」 ～サイエンス・マジックで遊ぼう～ 青森県発明協会 指導員 Mr.ジサク (伊藤 光藏)
西北	前期	【開催日】6/4(金) 【会場】五所川原市ふるさと交流圏民センター「オルテンシア」コンサートホール 【参加者数】62名 【内容】講義・演習「危機管理対応のポイント ～生活面、安全対策、緊急時対応等～」 弘前大学大学院教育学研究科 教授 小林 央美
	後期	【開催日】10/6(水) 【会場】柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」 【参加者数】63名 【内容】講義・演習「放課後子ども総合プランの意義と指導員の役割」 弘前大学教育学部 兼 地域創生本部 地域創生人財育成部門 部門員 深作 拓郎
中南	前期	【開催日】7/7(水)【会場】弘前市中央公民館相馬館長慶閣 【参加者数】37名 【内容】講義・演習「遊びのマスターから学ぼう ～新しい生活様式に配慮した遊び講座」 NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ 代表理事 奈良 陽子
	後期	※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催を中止した。
上北	前期	【開催日】6/15(火) 【会場】公立小川原湖青年の家 【参加者数】50名 【内容】講義・演習「保護者や子どもとつながるためのコミュニケーション」 一般社団法人青森夢創造機構 理事 長尾 慶子
	後期	【開催日】10/8(金) 【会場】六戸町文化ホール 【参加者数】68名 【内容】実技研修・講義「笑顔の魔法で子どもたちにハッピーを ～心に響く風船の魅力～」 AOMORIバルーン集団ねじりんご 澤尻 淳子、豊川 和恵

下北	前期	【開催日】6/15(火) 【会場】下北文化会館 【参加者数】46名 【内容】講義・実習「子どもに起こりやすいけがや事故の未然防止」 日本赤十字社青森県支部事業推進課 課長 山野内 博見
	後期	【開催日】10/20(水) 【会場】むつ市中央公民館 【参加者数】42名 【内容】実技「レッツエンジョイ 自然大好き」 青森県立梵珠少年自然の家 研修課長 新山 隆男 社会教育主事 土岐 正純
三八	前期	【開催日】6/8(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】53名 【内容】講義「子どもを守るために大人ができること ～突発的な出来事に正しく対応するために～」 日本赤十字社青森県支部事業推進課 課長 山野内 博見
	後期	【開催日】10/12(火) 【参加者数】47名 【内容】講義「子どもたちと向き合ううえで大切にしてほしい視点と設定」 社会福祉法人 豊寿会 青森県発達障害者支援センター「Doors」 センター長 分枝 篤史 ※オンライン形式による実施

### (3) 地域学校協働活動コーディネートアドバイザーの配置

県内の地域学校協働活動を推進するため、地域学校協働活動に係るコーディネートアドバイザーを配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進、情報提供等を行った。

## 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助

### 【趣 旨】

市町村が実施する地域学校協働活動の推進に要する経費について、県が補助をする事業である。

### 【概 要】

地域学校協働活動の取組を行う市町村（中核市の青森市及び八戸市を除く）に補助金を交付した。【国庫補助1/3、県補助1/3、市町村負担1/3】

21市町村、地域学校協働本部32本部、放課後子ども教室65教室

平内町 今別町 外ヶ浜町 五所川原市 つがる市 鱒ヶ沢町 鶴田町 中泊町 弘前市  
平川市 大鰐町 十和田市 三沢市 六戸町 東北町 おいらせ町 むつ市 風間浦村  
佐井村 三戸町 五戸町

## あおり家庭教育支援総合事業

### 【趣 旨】

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育を行うために、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく機運を高めるとともに、親の育ちを応援する学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

### 【概 要】

#### (1) 青森県家庭教育支援推進協議会の開催

今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するため、本県の家庭教育支援事業及び家庭教育学習テキスト「あおり親楽プログラム2」の改訂について協議した。

○委員：10名

○回数：年3回

#### (2) 家庭教育学習テキスト「あおり親楽プログラム」の作成

家庭教育の学習を推進するため、「あおり家庭教育アドバイザー」が活用する家庭教育

の学習テキストを改訂した。

○「改訂版 あおもり親楽プログラム2～中・高校生編～」の作成 1,500部

(3) 家庭を支える連携・協働セミナーの開催

家庭教育支援に携わる方が、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、互いのネットワークを広げる研修会を県内2地区で開催し、地域における家庭教育支援の充実を図った。

地区	期日	場所	参加者数	内容
三八	9/14(火)	(オンライン開催)	19名	講演：「なぜいま『連携・協働』なのか？～地域ぐるみで家庭教育を支えるために～」 講師：弘前大学教育学部 深作 拓郎
西北	10/19(火)	五所川原市中央公民館	36名	事例発表：「紹介します、県内家庭教育支援チームの実践！」 発表者：五戸町家庭教育支援チーム (五戸町家庭教育応援隊) 代表 小宮 香

(4) 青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる方々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、家庭教育支援関係者等と市町村職員のネットワークを広げた。

○期日：1/7 (金)

○場所：県総合社会教育センター

○参加者数：45名

○内容

ア 講義「子どもが生き生きと育つために～『引き算の子育て』のすすめ～」

講師 日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員

名古屋市緑児童館 館長 塚本 岳

イ 演習「子どもが生き生きと育つために、私たちができること」

進行 日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員

名古屋市緑児童館 館長 塚本 岳

(5) あおもり家庭教育応援フェスタの開催

地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会、パネルトーク及び様々な家庭教育支援に関する情報提供等を通して、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

○期日：11/21 (日)

○場所：青森中央学院大学

○参加者数：84名

○内容

ア 講演「子どもを育むために必要なコミュニケーション力」

講師 NPO法人 親子コミュニケーションラボ 代表理事 天野 ひかり

イ パネルトーク「地域ぐるみで家庭教育を支えよう」

パネリスト

NPO法人 子育て応援隊 ココネットあおもり 代表理事 沼田 久美

今別町家庭教育支援コーディネーター 工藤 清子

NPO法人 ファザーリング・ジャパン東北 代表理事 齊藤 望

NPO法人 親子コミュニケーションラボ 代表理事 天野 ひかり

(6) 祖父母向け孫育て研修会の開催

県地域婦人団体連合会への委託により、県内2地区で研修会を開催し、家庭教育をサポートする祖父母を対象として、祖父母だからこそできる孫との関わり方等について学んだ。

地区	期日	場所	参加者数	内容
西北	10/25(月)	五所川原市中央公民館	40名	講演：「今どきの孫育て」 講師：(一社)青森県助産師会 孫育てチーム 蛭名 えり子 宮本 由美子
東青	11/30(火)	浪岡中央公民館	72名	

(7) 読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成

県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内5地区で開催し、合計213名が受講した。そのうち、「親子ふれあい読書アドバイザー」を新たに10名登録した。(累計登録者数：503名)

地区	内 容
東青	【期日】11/21(日)【会場】蓬田村ふるさと総合センター【参加者数】24名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：青森市読書団体連絡協議会 副会長 伊藤 理子 ○読み聞かせ研修会 講師：青森市読書団体連絡協議会 角田 真知子、中村 弘子
西北	【期日】11/13(土)【会場】中泊町総合文化センター パルナス【参加者数】78名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：トータルビジョントレーニング協会 代表 千葉 敦子 (親子ふれあい読書アドバイザー) ○読み聞かせ研修会 講師：トータルビジョントレーニング協会 代表 千葉 敦子 (親子ふれあい読書アドバイザー)
上北	【期日】11/3(水)【会場】十和田市民文化センター【参加者数】45名【新規登録者数】6名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：語りの会「こま草」 藤盛 順子 他4名 ○読み聞かせ研修会 講師：絵本専門士 木村 明美
下北	【期日】12/5(日)【会場】むつ市立図書館【参加者数】18名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子 ○読み聞かせ研修会 講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子
三八	【期日】11/8(月)【会場】八戸市立根城公民館【参加者数】48名【新規登録者数】4名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 ○読み聞かせ研修会 講師：青森大学社会学部 教授 秋田 敏博

※中南地区は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、10/12の研修会を中止した。

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業 <図書> (p.218)

県立梵珠少年自然の家主催事業 <梵珠> (p.225)

県立種差少年自然の家主催事業 (自然と遊ぼう、子どもの祭典) <種差> (p.230)

自然体験活動支援事業 <種差> (p.231)

在学少年宿泊指導者研修 <種差> (p.231)

親子で学ぶ防災キャンプ事業 <種差> (p.232)

青森で生きる未来人財育成事業 <社セ> (p.239)

大学生とカタル！キャリアサポート形成事業 <社セ> (p.240)

高校生スキルアッププログラム推進事業 <社セ> (p.241)

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業 <社セ> (p.241)

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座 <社セ> (p.242)

あおり家庭教育力向上事業 <社セ> (p.243)

家庭教育支援動画制作普及事業 <社セ> (p.244)

家庭教育相談事業 <社セ> (p.245)

## 2節 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

### 「地域の思いをつなぐ」若者育成事業

#### 【趣 旨】

県内各地の若者が、これまで県教育委員会の事業等に参加し、県内各地で活躍する地域活動者の手法等を学び、若者がそれを手本として、自ら主体的に地域の良さ等を発信することにより、若者の自己有用感・地域愛を育み、県内定着の促進を図る仕組みを構築する。

#### 【事業内容及び結果】

- (1) 地域活動者と地域の若者によるワールドカフェの開催（県内6地区×2回）
  - ・1回目（一人一人の思いを語り、広げる場【思いの拡散】）
  - ・2回目（一人一人の思いをつなげる場【思いの集約】）

#### 【開催日・場所】

地区	1回目	2回目
東青	6/27（日）県総合社会教育センター 参加者 大人18名 高校生6名	7/25（日）県立図書館 参加者 大人15名 高校生5名
	6/12（土）五所川原市民学習情報センター 参加者 大人15名 高校生33名	7/17（土）五所川原市民学習情報センター 参加者 大人11名 高校生17名
中南	6/13（日）弘前オランダ 参加者 大人17名 高校生9名	7/18（日）弘前市民会館 参加者 大人14名 高校生5名
	7/4日（日）十和田市南コミュニティセンター 参加者 大人12名 高校生19名	8/1（日）十和田市南コミュニティセンター 参加者 大人18名 高校生7名
下北	7/3（土）下北文化会館 参加者 大人19名 高校生5名	7/31（土）下北文化会館 参加者 大人13名 高校生17名
	6/26（土）八戸市公民館 参加者 大人13名 高校生18名	7/24（土）八戸市公民館 参加者 大人11名 高校生9名

- (2) 地域活動モデル団体による企画・実践

上記（1）でつながった地域の若者と地域活動者が、地域活動の企画及び実践を行う。

#### 【実施方法】

- ・各モデル団体への委託により実施（県内11団体）

市町村	委託団体名	ねらい・活動
青森市	特定非営利活動法人 日本人財発掘育成協会	高校生が異年齢交流をしながら、ショートムービーを制作する体験を通して、地域の魅力を発信した。
青森市	街活サークル秘密結社	街歩きや地域イベントボランティアへの参画等を通して、地元地域にある「ヒト・モノ・コト」などの魅力を伝えた。



市町村	委託団体名	ねらい・活動
五所川原市	じゃわめき隊プロジェクト	海岸清掃などを通して、自分たちの住む地域について考え、YouTubeで発信した。
鶴田町	つるた街プロジェクト	高校生のやりたいという思いに応えるため、活動をする上で必要な知識を学び体験活動を行い、小学生の夏休み工作を支援するプランを作成した。
弘前市	特定非営利活動法人 SEEDSNETWORK	弘前市在住の外国人との交流やワークショップを通して、地域の国際性について学んだ。
平川市	AsobolHirakawa	平川市を盛り上げるイベントの企画・運営活動を通して、自分たちが知らなかった地域の一面に触れ、地域に対する愛着を育んだ。
十和田市	FutureGenerations	IT企業、医療、教育、農業、介護福祉等、各業界や各業種で活躍する地元の第一人者との交流会を行い、職業観を養い、地元への愛着を図った。
東通村	東通YOUTH	ワークショップやふるさとPR動画の制作をし、更なる地元理解及び地元愛を深めた。
むつ市	NPO法人 シェルフォレスト川内	高校生の目線でむつ市川内町の魅力を発見し、その魅力を発信するための展示会を開催した。
八戸市	市民集団 まちぐみ	八戸を代表する食文化である「南部せんべい」について、若者から意見を聞きながら、新しいスイーツへアップデートすることで、地域の食文化を発見し、観光資源としての魅力を発信した。
三戸町	サンノヘエール	三戸町の魅力を再発見し、高校生の目線であらたな観光コンテンツの開発や地域イベントの企画を行った。

### (3) 活動のフィードバック

他地区の取組事例を学び、次年度の活動に繋げるため、オンライン会議システムを活用した意見交換会を開催した。

## 若者の社会参加促進事業

### 【趣 旨】

若者の社会参加を促進することを目的に、地域の青年組織、または新たに活動を始めようとする若者団体（以下、「若者団体等」）が企画立案する地域の課題等を踏まえたモデル事業を実施する事業である。また、ひきこもりやニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、就労体験や自然体験活動等を実施する事業である。

### 【概 要】

#### (1) 若者の社会参加促進事業プランの実践

若者団体等の地域活動への参加や若者同士関わり、地域のつながりを形成するモデル事業プランを実施した。

<研修会の開催> 【特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会へ委託】

(三八地区)

第1回研修会

○期日：8/5（木） ○会場：三戸町アップルドーム ○参加者数：3名

○内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ

方について

第2回研修会

- ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、9月に書面等で実施
- 内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について  
(西北地区)

第1回研修会

- 期日：11/9 (火) ○会場：五所川原市中央公民館 ○参加者数：3名
- 内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について

第2回研修会

- 期日：10/28 (木) ○会場：ホテルサンルート五所川原 ○参加者数：2名
- 内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について  
両地区合同研修会「地域の元気づくりに挑む若者たちの集い」
- 期日：1/9 (日) ○会場：東奥日報新町ビル ○参加者数：39名
- 内容：講話「地域の元気と人づくり・人つなぎ」 企画事業実践団体による実践事例発表、参加者全員による情報交換会
- 講師：特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹  
実践発表者：サンノヘール 代表 五十嵐 淳  
つ・な・がる 代表 江良 圭太

<企画事業の実践>

(三八地区) 【サンノヘールへ委託】

- 期日：2/26 (土) ○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンデマンドで実施
- 内容：南部町を拠点とし、三戸町、南部町、田子町を巡る体験ツアーをオンデマンドで配信し、外部視点を活用した「長期滞在型ツアープラン」を構築するためのワークショップを開催する材料収集の機会とした。

(西北地区) 【つ・な・がるへ委託】

- 期日：2/26 (土) ○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンラインで実施
- 内容：「おらほの魅力どごだべな? オンライン つ・な・がるスクール」  
県内の若者を対象に、西北地区を中心とした津軽地方の魅力をオンラインで発信するとともに、当該地域の若者同士のネットワークを構築する機会とした。

(2) 困難を抱える子ども・若者支援

不登校が続いている高校生やひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりへのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者を対象に、自然体験・交流塾を種差少年自然の家及び梵珠少年自然の家等にて、それぞれ3回ずつ実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、それぞれの自然の家において第1回のみの実施となった。

<梵珠会場>

第1回自然体験・交流塾

- 期日：6/26 (土) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：14名
- 内容：野外炊事、創作活動 他

<種差会場>

第1回自然体験・交流塾

- 期日：7/10 (土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：21名
- 内容：野外炊事、創作活動 他

<自然体験・交流塾協力団体等連絡会議>

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議（梵珠会場）

○期日：6/18（金） ○会場：ヒロロ3階 健康ホール ○参加者数：13名

○内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議（種差会場）

○期日：6/29（火） ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：16名

○内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議

※両会場とも新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため書面開催とし、運営に関する意見を取りまとめた。

○内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について

**社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業（再掲）**

*(P150 1節 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)*

**パワフルAOMORI！創造塾 <社セ> (p.238)**

**地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修 <社セ> (p.246)**

**生涯学習・社会教育関係職員研修講座 <社セ> (p.246)**

### 3節 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実  
イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

#### 特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業

##### 【趣 旨】

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校（特別支援学校）の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

##### 【概 要】

学 校 名	期 間	日数 (回数)	内 容	受講者数 (延数)
青森聾学校	6月～7月	4日 (4回)	聴覚障害者への支援と手話講座	14名 (52名)

#### 障害者の生涯学習支援事業

##### 【趣 旨】

自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団生活や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

##### 【概 要】

##### (1) 社会参加学習

開 設 校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第二養護学校	3	8	51名	スポーツ体験、会報の発行
八戸盲学校	2	4	14名	障害者スポーツ体験（サウンドテーブルテニス、卓球バレー）、箏の演奏体験
むつ養護学校	4			卒業生交流会（書面による情報発信）、会報の発行
合 計	延べ回数 9回		延べ時間 12時間	参加者数合計 65名

##### (2) スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内 容
7/4（日）	森田養護学校	14名	パラスポーツ教室（フライングディスク等）
7/25（日）	青森第一高等養護学校	25名	ポッチャ教室
11/27（土）	青森若葉養護学校	15名	ニュースポーツ教室
合 計	開催回数 3回		参加者数合計 54名

#### 近代文学館 特別展開催事業 <図書> (p.218)

#### 近代文学館 企画展開催事業 <図書> (p.219)

#### 元気青森人を創造するeラーニング推進事業 <社セ> (p.238)

学習情報の収集・提供事業 <社セ> (p.248)

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 <社セ> (p.249)

あおもり県民カレッジの運営業務 <社セ> (p.249)

インフォメーションプラザありすの運営 <社セ> (p.251)

## 4節 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

### 生涯学習推進基盤整備事業（生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会）

#### 【趣 旨】

生涯学習振興法(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

#### 【概 要】

##### (1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

##### (2) 青森県生涯学習審議会

第15期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(R2/10/19～R4/10/18)

○諮問：「青森県における新しい時代の生涯学習・社会教育の推進の在り方について」

○審議テーマ：「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進について」

##### ○会議等の概要

第3回審議会 9/24(金) 重点審議事項1について(アンケート調査の分析・意見交換)

先進事例実地調査 11～12月

(訪問による調査)

- ・NPO法人日本人材発掘育成協会(青森市) 11/11(木)
  - ・八戸あおば高等学院(八戸市) 11/16(火)
  - ・八戸市立大館公民館(八戸市) 11/25(木)
  - ・青森市中央市民センター(青森市) 11/26(金)
  - ・十和田市役所(十和田市) 11/30(火)
  - ・弘前市立中央公民館(弘前市) 12/3(金)
  - ・一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと(青森市) 12/7(火)
- (オンラインによる調査)
- ・那覇市若狭公民館(沖縄県) 11/17(火)
  - ・あしたの寺子屋(北海道) 11/22(月)
  - ・認定NPO法人カタリバ(東京都) 11/29(月)

第4回審議会 1/14(金) 先進事例実地調査の結果報告・分析、重点審議事項1に係る答申骨子案(構成、方向性)について意見交換

第5回審議会 2/21(月) 重点審議事項1に係る答申骨子案(構成、方向性)について

## 生涯学習・社会教育総合調査研究事業

### 【趣 旨】

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う。

### 【概 要】

学習活動に関する県民の意識や行動について、一般県民3,000人を対象に調査を行った。

- 調査テーマ：「生涯学習に関する県民の意識調査」
- 調査対象：一般県民3,000人
- 有効回答：843人(28.1%)
- 顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、調査研究顧問を委嘱した。  
青森大学社会学部 教授 柏谷 至  
弘前大学教育学部 准教授 越村 康英
- 報告書：120部を印刷し、関係機関へ配付した。

## 青森県社会教育委員の運営

### 【趣 旨】

本県の社会教育推進体制の充実を図ることを目的として、社会教育法第17条に基づき青森県社会教育委員を設置し、本県社会教育の現状と振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行うことを目的として会議を運営する事業である。

### 【概 要】

第35期青森県社会教育委員の会議

- 委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務
- 任期：2年(R2/10/19～R4/10/18)
- 調査研究テーマ：「地域全体で子どもを育む家庭教育支援の在り方について」
- 会議等の概要

第3回会議 6/7(月) 総合調査研究の結果報告、実地調査の候補先について  
実地調査 7～8月

(訪問による調査)

- ・みらいねっと弘前(弘前市) 7/8(木)
- ・ファザーリング・ジャパン青森(平川市) 7/8(木)
- ・子どもネットワーク・すてっぷ(五所川原市) 7/12(月)
- ・ふたご・みつごのひろば「ついんくる」(青森市) 7/17(土)
- ・つがる市家庭教育支援チーム「つがる絆プロジェクト」(つがる市) 7/22(木・祝)
- ・はちのへ未来ネット(八戸市) 8/10(火)
- ・おいらせ町家庭教育支援チーム「しるくはあと」(おいらせ町) 8/10(火)
- ・子育てオーダーメイド・サポートこもも(青森市) 8/12(木)  
(オンラインによる調査)
- ・むつ下北子育て支援ネットワークひろば(むつ市) 7/20(火)
- ・父親ネットワーク北海道(北海道) 8/17(火)
- ・君津市小糸公民館「小糸公民館プレイルーム」(千葉県) 8/18(水)

第4回会議 10/11(月) 実地調査の結果報告・分析、答申骨子案(構成、方向性)について

第5回会議 11/24(水) 答申骨子案について

## 市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成

### 〔趣 旨〕

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

### 〔概 要〕

- (1) 市町村の社会教育行政調査
- (2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査
- (3) 「令和3年度青森県の社会教育行政」の作成配付（600部作成）

## 社会教育主事有資格者育成派遣事業

### 〔趣 旨〕

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

### 〔概 要〕

- 派遣研修：社会教育主事講習(弘前大学)
- 研修期間：7/13(火)～8/6(金)
- 派遣者数：中学校教員2名、県教育委員会主任指導主事1名及び指導主事5名

## 生涯学習専門講座派遣事業

### 〔趣 旨〕

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

### 〔概 要〕

- (1) 社会教育主事専門講座(オンライン開催)  
受講者なし
  - (2) 地域教育力を高めるボランティアセミナー(オンライン開催)  
受講者なし
- ※(1)、(2)ともに国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催

## 社会教育主事等一般研修

### 〔趣 旨〕

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

### 〔概 要〕

- 研修会の開催：第1回 5/24 県総合社会教育センター
- 第2回 11/4 県総合社会教育センター
- 第3回 2/28 オンライン開催



## 在学青少年育成費補助事業

### 【趣 旨】

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

### 【概 要】

主に東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業を6校で予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、すべての講演会が中止となった。

## 社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業（再掲）

(P150 1節 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

## 県立図書館資料整備 <図書> (p.220)

## 電子図書館システム導入事業 <図書> (p.221)

## 図書館地区別研修事業 <図書> (p.221)

## 市町村立図書館等職員研修事業 <図書> (p.222)

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲) <社セ> (p.246)

## ボランティア関係機関職員養成講座 <社セ> (p.248)

### 3章 施設と職員の状況

#### 1節 社会教育施設の状況

##### 1 公民館

###### (1) 公民館の設置状況

令和2年4月1日現在

区 分	本 館			分 館
	中央館	地区館	計	
市 計 (10)	13	81	94	51
町 村 計 (30)	26	42	68	62
合 計	39	123	162	113

##### 2 図 書 館

###### (1) 公立図書館の設置・蔵書の状況

令和3年4月1日現在

No.	施 設 名	蔵書冊数 (冊)	No.	施 設 名	蔵書冊数 (冊)
1	青森県立図書館	969,243	18	平川市平賀図書館	100,031
2	青森市民図書館	1,044,785	19	平川市尾上図書館	47,418
3	弘前市立弘前図書館	538,768	20	平内町立図書館	68,121
4	弘前市立岩木図書館	本館に含む	21	藤崎町図書館大夢	68,008
5	八戸市立図書館	451,880	22	板柳町民図書館	30,924
6	八戸市図書情報センター	6,008	23	中泊町図書館	59,634
7	八戸市立南郷図書館	62,717	24	野辺地町立図書館	96,647
8	五所川原市立図書館	124,948	25	七戸中央図書館	35,529
9	伊藤忠吉記念図書館	6,604	26	六戸町立図書館	34,383
10	五所川原市立図書館市浦分館	2,870	27	横浜町民図書館	19,650
11	十和田市民図書館	193,400	28	東北町立図書館	52,049
12	三沢市立図書館	136,170	29	六ヶ所村民図書館	46,635
13	むつ市立図書館	163,513	30	おいらせ町立図書館	70,137
14	むつ市立図書館川内分館	7,356	31	三戸町立図書館	46,510
15	むつ市立図書館大畑分館	8,431	32	五戸町図書館	116,096
16	むつ市立図書館脇野沢分館	4,930	33	田子町立図書館	37,413
17	つがる市立図書館	103,885			

### 3 青少年教育施設

令和3年4月1日現在

No.	施設名	所在地			
		〒	住所	TEL	FAX
1	青森県立 梵珠少年自然の家	037-0611	五所川原市神山字殊ノ峰 117-602	0173-29-3303	0173-29-3306
2	青森県立 種差少年自然の家	031-0841	八戸市鮫町字膳並平2-26	0178-38-2131	0178-38-2727
3	むつ市 下北自然の家	039-4401	むつ市大畑町佐助川399	0175-34-6151	0175-34-6152
4	公立小川原湖 青年の家	039-2402	上北郡東北町大浦字道ノ下 104-6	0176-56-2393	0176-56-5042
5	公益財団法人青森県スポーツ協会 岩木青少年スポーツセンター	036-1345	弘前市常盤野字湯段菰1-2	0172-83-2338	0172-83-2732
6	青森市 浪岡細野山の家	038-1322	青森市浪岡大字細野字沢井 37-3	0172-62-3129	同左
7	平内町 勤労青少年ホーム	039-3321	東津軽郡平内町大字小湊字 小湊79-3	017-755-3945	-
8	深浦町 ふれあいと創造の館	038-2202	西津軽郡深浦町大字岩崎字 松原51-7	0173-77-2111	-
9	黒石市 スポーツ交流センター	036-0306	黒石市大字内町24-1	0172-53-1612	-
10	野辺地町 勤労青少年ホーム	039-3112	上北郡野辺地町字中道 20-1	0175-64-9657	-
11	横浜町 烏帽子平自然の家	039-4154	上北郡横浜町字明神平138	0175-78-2084	-
12	大間町 勤労青少年ホーム	039-4601	下北郡大間町大字大間字 大間平41-7	0175-37-4346	-
13	三戸町 勤労青少年ホーム	039-0141	三戸郡三戸町大字川守田字 関根4-1	0179-22-0173	0179-20-1085

## 2節 社会教育関係職員の状況

### 1 社会教育関係職員

#### (1) 社会教育委員の委嘱状況

令和3年4月1日現在

区 分	定員数 (人)	現 員 数 (人)			委員委嘱数 (人)			
		計	男	女	学校教育 関係者	社会教育 関係者	家庭教育 の向上 に資する 活動する 者	学 識 経験者の ある者
県	12	8	3	5	1	4	1	2
市 計 (10)	114	111	71	40	20	51	17	23
町村計 (30)	280	231	141	90	42	98	25	72
合計	406	350	215	135	63	153	43	97

#### (2) 教育委員会事務局の社会教育関係職員数 (人)

令和3年4月1日現在

区 分	課 長		社会教育主事		派遣社 会教育 主 事	社会教育主事補		社 会 教 育 指 導 員	計
	専任	兼任	専任	兼任		専任	兼任		
県	1	0	20	3	-	0	0	0	24
市 計 (10)	9	3	0	8	0	0	1	1	22
町村計 (30)	5	25	5	15	0	0	0	5	55
合計	15	28	25	26	0	0	1	6	101

## 2 公 民 館

### (1) 公民館職員数(人)

令和3年4月1日現在

区 分		市(10)計	町村(30)計	合 計		
本 館	中央館	館 数	13	26	39	
		館 長	専 任	6	4	10
			兼 任	6	23	29
			非常勤	1	0	1
		主 事	専 任	18	0	18
			兼 任	3	17	20
			非常勤	11	1	12
		その他	専 任	28	14	42
			兼 任	18	66	84
	非常勤		42	5	47	
	地区館	館 数	81	42	123	
		館 長	専 任	1	2	3
			兼 任	2	28	30
			非常勤	77	11	88
		主 事	専 任	0	0	0
兼 任			0	1	1	
非常勤			129	0	129	
その他		専 任	22	4	26	
		兼 任	30	25	55	
	非常勤	39	4	43		
分 館	館 数	51	62	113		
	館 長	専 任	0	15	15	
		兼 任	4	4	8	
		非常勤	47	43	90	
	主 事	専 任	0	0	0	
		兼 任	12	0	12	
		非常勤	0	30	30	
	その他	専 任	0	0	0	
		兼 任	0	0	0	
非常勤		31	4	35		

## (2) 公立図書館等職員数の状況

令和3年4月1日現在

No.	施設名	職員数						
		専任	うち 司書	兼任	うち 司書	非常勤 職員	臨時 職員	委託派遣 職員
1	青森県立図書館	21	11			16		
2	青森市民図書館	25	6			2	2	47
3	弘前市立弘前図書館	6		2		13		24
4	弘前市立岩木図書館							3
5	八戸市立図書館	13	8			18	1	
6	八戸市図書情報センター							5.9
7	八戸市立南郷図書館							7.5
8	五所川原市立図書館	8	4			1		
9	伊藤忠吉記念図書館						1	
10	五所川原市立図書館市浦分館			3				
11	十和田市民図書館	6	2			4.3		1.4
12	三沢市立図書館							11.8
13	むつ市立図書館	6	1			14		
14	むつ市立図書館川内分館			1		2		
15	むつ市立図書館大畑分館			1		4		
16	むつ市立図書館脇野沢分館			2		2		
17	つがる市立図書館			1				9
18	平川市平賀図書館	3	1	1			3	
19	平川市尾上図書館	2		1			1	
20	平内町立図書館			1		2		
21	藤崎町図書館大夢							6.7
22	板柳町民図書館			2			1	
23	中泊町図書館	3	1			1	1	
24	野辺地町立図書館	1	1	1			3.9	
25	七戸中央図書館	1	1	1		1	1	
26	六戸町立図書館			3				3
27	横浜町民図書館			6			1.8	
28	東北町立図書館	1	1	1		5		
29	六ヶ所村民図書館							6.2
30	おいらせ町立図書館							6
31	三戸町立図書館	1		1				4
32	五戸町図書館	2					5.1	
33	田子町立図書館	1	1	5		1		

## 第5部 体育・スポーツ





# 第5部 体育・スポーツ

## 1章 体育・健康・スポーツ行政の方針と重点

### 1 方針

県民一人一人が、生涯にわたり健やかで活力に満ちた生活を送ることができるよう、学校における体育・健康教育の充実、生涯スポーツ及び競技スポーツの推進に努める。

### 2 重点

#### (1) 学校における体育・スポーツの充実

児童生徒が、豊かなスポーツライフの実現を目指し、自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、健康の保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校における体育・スポーツの充実に努める。

ア 教科体育（保健体育）における学習指導の充実

イ 体力の向上を図る指導の充実

ウ 体育（保健体育）担当教員等の研修の充実

エ 運動部活動の充実

#### (2) 健康教育の充実

児童生徒が、心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育の充実に努める。

ア 学校保健の充実

イ 学校における食育の充実

ウ 学校安全の充実

エ 健康教育担当教員等の研修の充実

#### (3) スポーツの推進

県民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりの充実に努め、スポーツの推進に努める。

ア ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

イ 学校や地域における子どものスポーツ機会の充実

ウ 地域のスポーツ環境の整備・充実

エ 競技スポーツの推進

オ スポーツによる地域の活性化

#### (4) 第80回国民スポーツ大会の本県開催に向けた競技力向上の推進

2026年に本県で開催される第80回国民スポーツ大会での天皇杯・皇后杯の獲得に向けた総合的な競技力向上に努める。

## 2章 体 育

### 1節 学 校 体 育

#### 1 児童生徒の体格、体力、運動能力

(1) 性別、年齢別体格の全国平均値と県平均値（令和3年度）

区分	年齢	項目	男 子				女 子			
			全国平均値		県平均値		全国平均値		県平均値	
			学校保健統計調査 平均値	標準偏差	学校保健調査 平均値	標準偏差	学校保健統計調査 平均値	標準偏差	学校保健調査 平均値	標準偏差
小 学 校	6	身長	116.7	4.92	117.4	-	115.8	4.98	116.7	-
		体重	21.7	3.50	22.5	-	21.2	3.33	22.0	-
	7	身長	122.6	5.22	123.3	-	121.8	5.22	122.6	-
		体重	24.5	4.38	25.4	-	23.9	4.08	24.7	-
	8	身長	128.3	5.48	129.1	-	127.6	5.68	128.9	-
		体重	27.7	5.48	29.2	-	27.0	5.03	28.3	-
	9	身長	133.8	5.76	134.5	-	134.1	6.40	135.4	-
		体重	31.3	6.63	32.7	-	30.6	6.07	32.2	-
	10	身長	139.3	6.37	140.4	-	140.9	6.83	142.3	-
		体重	35.1	7.82	37.1	-	35.0	7.20	36.7	-
	11	身長	145.9	7.27	147.1	-	147.3	6.47	148.5	-
		体重	39.6	8.98	41.7	-	39.8	7.78	41.6	-
中 学 校	12	身長	153.6	7.94	154.7	-	152.1	5.78	152.8	-
		体重	45.2	10.17	47.5	-	44.4	8.01	46.0	-
	13	身長	160.6	7.34	161.7	-	155.0	5.35	155.4	-
		体重	50.0	10.31	52.3	-	47.6	7.62	49.1	-
	14	身長	165.7	6.47	166.4	-	156.5	5.34	157.0	-
		体重	54.7	10.36	56.6	-	50.0	7.67	51.6	-
高 等 学 校	15	身長	168.6	5.93	169.1	-	157.3	5.36	157.4	-
		体重	59.0	11.00	61.3	-	51.3	7.79	52.8	-
	16	身長	169.8	5.88	170.4	-	157.7	5.46	157.9	-
		体重	60.5	10.54	63.5	-	52.3	7.77	53.7	-
	17	身長	170.8	5.90	171.2	-	158.0	5.39	158.1	-
		体重	62.4	10.45	64.8	-	52.5	7.70	53.7	-

青森県の数値：令和3年度青森県学校保健調査による（主管：県教育庁スポーツ健康課）

※令和3年度の全国の数値は速報値（主管：文部科学省総合教育政策局）

## (2) 児童生徒の体力

## 令和3年度本県児童生徒の体力・運動能力

## (男 子)

学年	年齢	区分	握力(kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	合計点 (点)	
			平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	
小1	6	全国	9.73	12.31	27.28	28.79	437.94	19.37	11.31	116.08	8.76	32.67	
		県	9.00	11.74	25.87	27.92		20.12	118.20	11.43	7.99	30.38	
小2	7	全国	11.12	14.16	28.91	32.50		29.91	10.65	128.87	11.79	38.25	
		県	10.78	13.93	26.63	31.38		28.40	10.95	123.86	10.77	36.53	
小3	8	全国	13.06	16.21	29.98	36.12		37.03	9.95	138.60	15.79	45.00	
		県	12.47	15.57	28.63	35.09		35.46	10.46	132.77	13.82	42.04	
小4	9	全国	14.89	18.26	32.26	39.81		45.42	9.61	148.84	19.83	50.64	
		県	14.11	17.52	29.89	38.67		43.15	9.99	140.72	17.00	47.08	
小5	10	全国	17.48	20.75	34.09	44.40		53.60	9.15	156.87	23.12	56.81	
		県	16.44	18.97	31.72	41.99		50.15	9.71	149.50	20.51	52.10	
小6	11	全国	20.42	21.38	36.02	45.87		56.54	8.91	166.85	26.61	60.40	
		県	19.74	21.14	33.92	45.74		59.39	9.19	162.14	24.89	58.60	
中1	12	全国	25.19	24.25	40.85	50.49		69.90	8.50	185.27	18.44	35.33	
		県	24.40	23.10	40.01	48.53		67.12	8.59	180.25	16.76	34.39	
中2	13	全国	30.58	27.57	44.99	54.13		401.17	81.40	7.90	203.32	21.34	44.49
		県	29.73	26.25	44.45	52.11		418.79	80.49	7.93	199.26	19.93	42.93
中3	14	全国	35.35	30.65	48.46	56.95		384.21	91.82	7.45	215.88	24.44	51.66
		県	34.68	28.98	48.61	55.11	395.57	89.68	7.50	214.24	22.66	50.14	
高1	15	全国	36.93	27.80	46.24	54.34	395.99	78.21	7.49	216.35	23.34	48.97	
		県	37.30	28.63	48.53	55.85	399.33	83.79	7.47	217.24	23.41	50.30	
高2	16	全国	39.60	29.03	48.26	56.49	387.23	83.29	7.31	224.02	25.05	53.10	
		県	40.09	30.67	50.77	57.87	393.95	89.65	7.28	224.93	24.75	54.61	
高3	17	全国	40.74	30.79	50.45	57.68	384.06	86.01	7.23	229.44	26.69	56.15	
		県	41.62	31.69	52.13	57.73	391.19	89.59	7.18	226.52	25.50	56.12	

## (女 子)

学年	年齢	区分	握力(kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	合計点 (点)	
			平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	
小1	6	全国	9.15	12.50	28.75	27.30	307.24	17.12	11.74	107.81	5.79	31.73	
		県	8.62	11.57	28.23	27.65		17.88	12.04	106.27	5.62	31.23	
小2	7	全国	10.47	13.65	31.42	30.53		22.91	11.06	121.75	7.67	38.82	
		県	10.22	13.70	29.58	30.81		24.16	11.12	116.44	7.36	37.86	
小3	8	全国	12.37	15.62	33.95	34.85		31.02	10.28	129.89	9.84	46.53	
		県	11.97	15.38	32.23	34.48		30.25	10.63	126.74	9.31	44.08	
小4	9	全国	14.50	17.98	36.13	38.43		36.64	9.85	143.71	12.40	52.09	
		県	13.96	17.30	33.77	38.04		37.00	10.13	135.41	11.61	49.99	
小5	10	全国	17.35	19.20	39.88	42.80		41.89	9.47	149.20	14.21	57.83	
		県	16.61	18.52	36.04	41.04		43.73	9.74	145.38	13.91	55.60	
小6	11	全国	19.86	19.67	40.55	44.05		46.49	9.17	158.10	16.55	61.72	
		県	19.43	19.78	38.54	43.69		49.42	9.40	152.82	15.82	60.40	
中1	12	全国	22.17	21.32	43.28	46.83		51.78	9.06	166.70	11.95	46.00	
		県	21.35	19.74	42.82	45.26		308.56	49.88	9.15	161.75	11.07	43.77
中2	13	全国	24.17	22.63	47.61	48.57		302.54	58.67	8.79	173.87	13.37	51.05
		県	23.51	22.41	46.81	47.00		305.21	54.59	8.88	168.28	12.43	49.35
中3	14	全国	25.94	24.37	48.98	49.21		304.94	55.60	8.75	175.80	14.47	53.63
		県	25.21	24.22	49.45	48.08	302.20	56.22	8.72	172.66	13.50	52.99	
高1	15	全国	25.69	22.33	48.35	47.85	309.67	48.67	8.89	172.33	13.93	50.98	
		県	25.65	23.14	48.74	48.38	315.53	50.63	8.89	171.34	13.34	51.02	
高2	16	全国	26.09	23.53	49.19	48.33	305.51	48.82	8.96	173.26	14.39	52.24	
		県	26.41	24.28	49.72	48.94	315.41	51.17	8.85	173.18	13.77	52.70	
高3	17	全国	26.68	23.57	49.12	47.93	304.02	44.33	9.05	171.83	14.75	51.84	
		県	26.81	24.83	51.44	48.63	324.97	49.84	8.84	172.66	14.19	53.28	

全国の数値：令和2年度スポーツ庁体力・運動能力調査報告書による（主管：スポーツ庁）

県の数値：令和3年度体格、体力、ライフスタイル調査による（主管：県教育庁スポーツ健康課）

## 2 体育担当教員の研修

体育担当職員の指導力の向上を図るため、各種講習会、研修会を実施した。

名 称	期 日	場 所	対 象 (人員)	内 容
冬季学校体育実技講習会	1月6日～7日 1月7日 1月5日 1月6日 1月5日 12月24日	東 青 西 北 中 南 上 北 下 北 三 八	小・中・高・特別支援学校 東青 (54人) 西北 (6人) 中南 (30人) 上北 (13人) 下北 (22人) 三八 (41人)	小・中・高等学校及び特別支援学校の教員を対象に、スキー・スケートの指導法及び実技の研修を行う。
中学校保健体育担当者育成研修会	11月17日 ※東青・中南・上北管内中学校保健体育担当教員を対象とした	東 青	東青・中南・上北管内中学校保健体育担当教員が対象 ※各校1名受講 東青 (12人) 中南 (20人) 上北 (23人)	本県生徒の体力を向上させ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に資することができるよう、課題の把握及び発達段階を踏まえた体力向上と健康な生活習慣の在り方について実践的な指導法の充実と保健体育担当教員の資質向上を図る。
高等学校保健体育科担当者研修会 (オンライン開催)	10月19日	青森市	県立高校保健体育科教員 (60人) 県立特別支援学校保健体育科教員 (13人) 私立高校保健体育科教員 (1人)	高等学校等保健体育担当者に対し、学習指導の工夫・改善及び教員の資質向上を図るための講義・演習を行う。

## 3 学校体育団体の育成

派遣費の助成

高等学校体育連盟関係

全国大会 派遣人員 737人 7,357,000円

中学校体育連盟関係

全国大会 派遣人員 328人 2,176,000円

## 2節 学校保健

### 1 学校保健調査

児童・生徒の疾病・異常被患率を調査し、実態把握に努めた。

令和3年度小・中・高等学校疾病・異常被患率等の全国平均値と県平均値

国 …令和3年度学校保健統計調査（速報値）による

県 …令和3年度青森県学校保健調査による

(単位：%)

区分	裸眼視力			難聴	眼疾	蛋白質検出の者	尿酸検出の者	歯・口腔						結核	心臓の疾病・異常	心電図異常						
	計	10未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上					う	菌	菌列・咬合	顎関節	歯垢の状態	歯肉の状態				その他の歯疾					
																		計	処置完了の者	未処置歯のある者		
小学校	国	計	36.9	12.5	13.7	10.6	0.6	5.1	0.9	0.1	39.0	20.6	18.4	4.9	0.1	3.4	2.0	6.8	0.0	0.8	2.5	
		男女	34.1	11.9	12.7	9.4	0.5	5.5	0.6	0.1	40.4	21.3	19.1	4.7	0.1	3.9	2.2	6.7	0.0	0.9	2.8	
	県	計	39.8	13.2	14.8	11.9	0.7	4.8	1.1	0.1	37.6	19.9	17.7	5.0	0.1	2.9	1.7	6.9	0.0	0.8	2.2	
		男女	46.6	16.5	16.4	13.6	0.6	4.4	1.0	0.1	51.0	23.2	27.8	3.8	0.1	2.5	1.9	9.0	0.0	0.3	1.9	
	中学校	国	計	60.3	11.8	20.2	28.2	0.3	4.8	2.8	0.2	30.4	18.0	12.3	5.3	0.4	4.6	4.1	4.0	0.0	1.0	3.1
			男女	56.1	12.1	18.8	25.2	0.3	5.2	3.2	0.2	29.1	17.0	12.1	5.2	0.3	5.7	5.1	4.4	0.0	1.0	3.3
県		計	64.7	11.6	21.7	31.4	0.3	4.4	2.4	0.2	31.8	19.2	12.6	5.4	0.4	3.5	3.2	3.7	0.0	1.0	2.8	
		男女	63.3	11.2	17.4	34.6	0.3	4.5	2.7	0.2	41.8	24.2	17.6	4.5	0.3	3.7	4.2	4.9	0.0	0.3	2.7	
高等学校		国	計	60.4	11.7	17.7	31.0	0.3	4.8	3.3	0.2	40.1	23.0	17.1	4.5	0.2	4.5	5.1	5.4	0.0	0.2	3.1
			男女	64.1	10.5	17.9	35.7	0.2	2.9	2.3	0.2	41.5	26.1	15.5	4.6	0.6	3.3	3.1	1.1	0.1	0.8	2.5
	県	計	63.7	10.2	15.5	38.0	0.2	2.7	2.1	0.3	47.8	29.4	18.4	3.5	0.5	4.1	4.4	2.7	0.1	0.5	1.9	
		男女	63.4	10.5	16.3	36.7	0.2	3.1	2.2	0.4	46.6	26.9	19.7	3.3	0.3	5.2	5.3	3.0	0.0	0.5	2.4	
	計	64.0	9.8	14.4	39.8	0.2	2.4	2.0	0.2	49.1	32.0	17.2	3.8	0.7	2.9	3.5	2.5	0.1	0.6	1.4		

区分	栄養状態	脊柱・胸部・四肢	皮膚疾患			耳鼻咽喉頭			その他の疾病・異常				結核に関する統計	永久歯の一人当たり平均う歯等数						
			アトピー性	皮膚の他疾	耳疾	鼻疾・副鼻	口腔咽・喉頭	ぜん息	腎臓疾	言語障害	その他疾病の精密者	検査の対象者		計(本)	喪失歯数(本)	う	処置歯(本)	未処置歯(本)		
																			計	計
小学校	国	計	1.8	0.8	3.2	0.5	6.8	11.9	0.9	3.3	0.2	0.5	4.9	0.1	/	/	/	/	/	
		男女	2.2	0.8	3.4	0.5	6.8	14.4	1.0	3.9	0.2	0.6	5.9	0.1	/	/	/	/	/	
	県	計	1.4	0.8	3.0	0.5	6.7	9.2	0.8	2.7	0.2	0.3	3.9	0.1	/	/	/	/	/	
		男女	3.5	2.0	1.2	0.5	5.3	16.2	0.6	1.1	0.1	0.2	2.0	0.0	0.4	0.0	0.4	0.2	0.2	
	中学校	国	計	4.1	2.1	1.3	0.6	5.8	20.0	0.7	1.3	0.1	0.2	2.3	0.0	0.3	0.0	0.3	0.2	0.1
			男女	2.8	1.9	1.1	0.5	4.8	12.3	0.5	0.9	0.1	0.1	1.7	0.0	0.4	0.0	0.4	0.2	0.2
県		計	1.2	1.7	3.0	0.3	4.9	10.1	0.5	2.3	0.3	0.1	4.7	0.1	0.6	0.0	0.6	0.4	0.2	
		男女	1.4	1.5	3.2	0.3	5.5	11.4	0.5	2.8	0.3	0.1	5.1	0.1	0.6	0.0	0.6	0.4	0.2	
高等学校		国	計	1.0	1.9	2.7	0.4	4.3	8.7	0.5	1.8	0.3	0.1	4.3	0.1	0.7	0.0	0.7	0.4	0.2
			男女	1.7	3.2	0.9	0.4	3.9	15.2	0.3	0.7	0.1	0.1	2.1	0.0	1.3	0.0	1.3	0.8	0.4
	県	計	1.9	2.9	1.0	0.4	4.7	17.0	0.3	0.9	0.1	0.1	2.3	0.0	1.1	0.0	1.1	0.7	0.4	
		男女	1.6	3.4	0.8	0.5	3.1	13.2	0.2	0.6	0.1	0.0	1.9	0.0	1.4	0.0	1.4	0.9	0.5	
	高等学校	国	計	0.5	1.2	2.6	0.2	2.5	8.8	0.2	1.7	0.2	0.1	4.1	0.1	/	/	/	/	/
			男女	0.7	1.0	2.9	0.2	2.9	9.4	0.3	1.9	0.2	0.1	4.0	0.1	/	/	/	/	/
県		計	0.4	1.5	2.3	0.2	2.1	8.2	0.2	1.5	0.2	0.0	4.2	0.1	/	/	/	/	/	
		男女	0.2	1.1	1.1	0.2	2.9	11.1	0.2	1.1	0.2	0.1	4.0	0.1	2.1	0.1	2.0	1.5	0.5	
計		男女	0.2	0.7	1.1	0.2	3.7	12.5	0.2	1.6	0.2	0.1	3.7	0.1	1.9	0.1	1.9	1.3	0.6	
		男女	0.1	1.6	1.1	0.3	2.2	9.7	0.2	0.7	0.1	0.0	4.3	0.1	2.2	0.1	2.1	1.7	0.5	

(注) 小数点以下第2位を四捨五入

## 2 研修会等開催

学校保健指導者の資質の向上を図るため、各種講習会を開催した。

- (1) 令和3年度新規採用養護教諭研修  
赴任時 令和3年4月1日(木)  
※新型コロナウイルス感染症の影響により各所属で実施  
校外研修 会場 県総合学校教育センター  
Ⅰ期 令和3年5月26日(水)～5月27日(木) 参加者24人  
Ⅱ期 令和3年7月28日(水)～7月29日(木) 参加者25人  
Ⅲ期 令和3年12月21日(火)～12月22日(水) 参加者24人
- (2) 養護教諭中堅教諭等資質向上前期・後期研修  
校外研修 会場 県総合学校教育センター  
Ⅰ期 令和3年6月24日(木)～6月25日(金) 参加者69人  
Ⅱ期 令和3年11月25日(木)～11月26日(金) 参加者69人
- (3) 健康教育指導者研修会  
動画配信によるオンデマンド型研修として実施  
視聴期間 令和4年2月22日(火)～令和4年5月13日(金)  
受講対象 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教職員(公・私立)  
市町村教育委員会の健康教育を担当する指導主事等の職員
- (4) 性に関するセミナー  
※新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止
- (5) 養護教諭研修講座  
期 日 令和3年9月7日(火)～8日(水)  
会 場 県総合学校教育センター  
参加者 8人(うち聴講3人)
- (6) 健康教育実践研究校連絡協議会  
期 日 令和3年5月21日(金)  
会 場 県総合学校教育センター  
参加者 30人
- (7) 性に関する教育指導者研修会  
期 日 令和3年12月10日(金)  
会 場 県総合学校教育センター  
参加者 67人

- (8) 子どもの健康に関する研修会  
期 日 令和3年11月24日（水）  
会 場 県総合学校教育センター  
参加者 94人
- (9) 養護教諭フォローアップ（2年次）研修講座  
期 日 令和3年10月29日（金）  
会 場 県総合学校教育センター  
参加者 1人

### 3節 学 校 安 全

#### 1 交通安全プロモーション事業

交通安全推進地区指定

推進機関 鶴田町（鶴田小地区）

対象学校 鶴田町立鶴田小学校

#### 2 研 修 会 等

- (1) 学校防災リーダー養成研修会（三八・下北）  
期 日 （三八）令和3年7月6日（火）  
（下北）令和3年7月7日（水）  
会 場 （三八）南部町立町民ホール  
（下北）むつ市中央公民館  
参 加 者 （三八）83名 （下北）24名
- (2) 学校安全指導者研修会（交通安全・生活安全・災害安全）  
動画配信によるオンデマンド型研修  
視聴機関 令和3年10月25日（月）～令和4年3月18日（金）  
受講対象 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教職員（公・私立）  
市町村教育委員会の学校安全を担当する指導主事等の職員  
学校安全ボランティア等の地域関係者

## 4節 学校における食育・学校給食

### 1 学校給食実施状況

(3.5.1 現在)

区 分	児 童 生 徒 数 比			
	小 学 校		中 学 校	
総 数	53,930		28,681	
完全給食	53,393	99.0%	27,573	96.1%
補食給食	120	0.2%	61	0.2%
ミルク給食	318	0.6%	772	2.7%
合 計	53,831	99.8%	28,406	99.0%

※食物アレルギー等により、給食を実施していない児童生徒を除く。

### 2 研 修 会 等

#### (1) 新規採用学校栄養職員研修

I 期 令和3年5月13日(木)～令和3年5月14日(金)

II 期 令和3年6月3日(木)～令和3年6月4日(金)

III 期 令和3年7月29日(木)～令和3年7月30日(金)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 2人 ※令和3年度新採用者はいないが、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった方を対象に開催

#### (2) 栄養教諭・学校栄養職員中堅教諭等資質向上前期・後期研修

I 期 期 日 令和3年6月24日(木)～令和3年6月25日(金)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 9人(前期4人、後期5人)

II 期 期 日 令和3年9月30日(木)～令和3年10月1日(金)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 9人(前期4人、後期5人)

#### (3) 栄養教諭・学校栄養職員研修講座

期 日 令和3年8月16日(月)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 6人

#### (4) 学校での食育推進のための研修講座

期 日 令和3年8月16日(月)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 7人



- (5) 学校給食レシピコンテスト学校栄養職員研修講座  
第1次審査 令和3年10月22日(金) 学校給食会 503通応募  
第2次審査 令和3年11月26日(金) 学校給食会  
【小学校の部】 108通応募 最優秀賞1 優秀賞2  
【中学校の部】 401通応募 最優秀賞1 優秀賞4  
【特別支援学校の部】 15通応募 最優秀賞1 優秀賞2
- (6) 学校給食の衛生管理等に関する調査研究  
令和3年10月8日(金) 青森県立弘前聾学校  
令和3年10月15日(金) 深浦町立深浦小学校  
令和3年10月20日(水) 鱒ヶ沢町立学校給食センター  
令和3年11月2日(火) 藤崎町学校給食センター
- (7) 衛生管理研修会兼学校給食調理従事員衛生管理講習会  
期日 令和3年8月3日(火)  
会場 県総合社会教育センター  
参加者 101人

# 3章 スポーツ

## 1節 スポーツ活動の拡充

スポーツは、人々の「こころ」と「からだ」の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで活力に満ちた生きがいのある社会の形成に寄与するものであり、県民が生涯の各時期にわたって、それぞれの体力や年齢、目的に応じて、いつでも、どこでもスポーツに親しむことができるよう諸条件の整備を図ることが求められている。

このため、県民の生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、「スポーツに親しむ環境づくり」と「競技力を向上させる環境づくり」の両面からの諸施策を実施してきた。

### 1 地域におけるスポーツ活動の推進

- (1) 青森県民スポーツ・レクリエーション祭を開催した。  
 第14回青森県民スポーツ・レクリエーション祭 7,144千円  
 ※青森県民駅伝競走大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止
- (2) 各種大会の開催に要する経費の一部を下記のとおり助成した。  
 その他県内開催の各種大会（5大会） 2,350千円  
 ※市町村対抗青森県民体育大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止

### 2 スポーツ指導者

- (1) スポーツ推進委員  
 スポーツ推進委員は、スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整、スポーツの実技指導及びスポーツに関する指導助言を行うことを主な職務としている。  
 各市町村におかれているスポーツ推進委員は、令和4年3月現在526人（男性367人、女性159人）である。
- (2) 指導者養成事業  
 県民の多様なスポーツニーズに対応できる指導者の確保と資質向上のため、令和3年度は次の養成事業を行った。

名 称	期 日	場 所	対象（人員）	内 容
青森県スポーツ推進委員中央研修会兼実技研修会	11月23日	青森市	県内のスポーツ推進委員、市町村生涯スポーツ担当者等 (87人)	県内のスポーツ推進委員等を対象に、生涯スポーツに関する講演及び実技研修を通して、県内のスポーツ推進委員の地域スポーツコーディネーターとしての資質向上を図る研修会の開催
スポーツ推進委員地区研修会	11月27日 11月20日 12月3日	東 青 三 八 西 北	スポーツ推進委員、地域関係団体指導者 (24人) (27人) (27人)	市町村におけるスポーツ指導者の資質の向上を図るため、地域スポーツに関する諸問題についての研究協議及び実技研修 ※下北、中南、上北、三八地区は新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止

### 3 スポーツ情報

県民のスポーツに対する興味や関心を高めるため、本県選手の活躍等をデータベース化して今後のスポーツ振興に役立てるための資料を作成するとともに、現在、県が実施している各種大会、イベント、県営施設の紹介を、ホームページに掲載しインターネットを通じて情報提供を行った。

### 4 第80回国民スポーツ大会に向けた競技力向上

令和8（2026）年の第80回国民スポーツ大会の開催に向け、本県の競技力向上を総合的かつ計画的に図るための各種取組を行った。

年 月 日	内 容
令和3年	
5月28日	第7回本部委員会を開催（書面開催）
7月13日	第10回強化対策委員会を開催
7月20日	第7回女性指導者ネットワーク専門委員会を開催
10月15日	第11回部会（ワーキンググループ）を開催
11月9日	第10回医・科学ネットワーク専門委員会を開催
12月2日	第8回女性指導者ネットワーク専門委員会を開催
12月20日	第12回部会（ワーキンググループ）を開催
令和4年	
1月24日～1月30日	栃木国体開催（スケート・アイスホッケー競技）
2月16日	第11回強化対策委員会を開催（書面開催）
2月17日～2月20日	秋田国体開催（スキー競技）
2月23日	第9回女性指導者ネットワーク専門委員会を開催
3月24日	第8回本部委員会を開催

## 2節 スポーツ団体

### 1 公益財団法人青森県スポーツ協会

県内各競技団体及び市町村体育・スポーツ協会を統括し、「県民スポーツ振興事業」、「競技力向上事業」等を行っている公益財団法人青森県スポーツ協会に対し、下記のとおり運営費等の助成を行った。

・青森県スポーツ協会運営費等補助	30,221千円
・国民体育大会等派遣費補助	34,579千円
・競技力向上事業費補助	63,208千円
・スポーツ振興事業費補助	18,000千円
・スポーツ科学センター運営管理費	69,767千円
・コーチスキルアップ事業費補助	16,559千円

### 2 スポーツ少年団

スポーツ少年団は、スポーツを通じて心身の健全な青少年を育成するため、昭和38年に組織され現在に至っているが、令和3年度における登録状況は下記のとおりである。

令和3年度スポーツ少年団登録状況

設置市町村数	39市町村
登録団体数	410団体
登録団員数	9,211人
指導者数	2,319人

### 3節 体育・スポーツ施設

#### 1 公共的スポーツ施設

##### (1) 設置者別施設

県内の公共的スポーツ施設の総数は、795箇所であり、その内訳は次のとおりである。

県営施設	4箇所	39施設
市町村立等施設	40市町村	756施設

県営施設については、「新総合運動公園(マエダアリーナ(総合体育館)、カクヒログループアスレチックスタジアム(陸上競技場)等)」、「県総合運動公園」、「盛運輸アリーナ(青森県営スケート場)」、「青森県武道館」の4箇所を設置されている。

市町村立等施設とは、市町村立の施設又は旧雇用促進事業団・B&G財団・健康保険組合等の民間団体が設置し、地方公共団体が管理運営をしている施設を含むものである。

##### (2) 施設種別ごとの施設数

県内の公共スポーツ施設を施設種別ごとに比較したのが表1である。

(表1の施設数は、文部科学省の「体育・スポーツ施設現況調査」(おおむね6年に一度実施)によるもので、平成30年10月1日現在の数である。この調査における公共スポーツ施設とは、公立社会教育施設等に付帯するスポーツ施設及び「社会教育調査」(おおむね3年に一度実施)における社会体育施設を合わせたものである。)

(表1)

## 施設種別ごとの公共スポーツ施設数

平成30年10月1日現在

No.	種 別	公 共 ス ポ ー ツ 施 設		
		計	公立社会教育施設に付帯するスポーツ施設	社会体育施設
1	陸上競技場	32	4	28
2	野球場・ソフトボール場	88	12	76
3	球技場	19	2	17
4	多目的運動場	81	11	70
5	水泳プール（屋内）	30	6	24
6	水泳プール（屋外）	36	4	32
7	レジャープール	7	0	7
8	ダイビングプール	0	0	0
9	体育館	120	21	99
10	柔道場	13	2	11
11	剣道場	8	0	8
12	柔剣道場（武道場）	14	3	11
13	空手・合気道場	0	0	0
14	バレーボール場（屋外）	2	2	0
15	庭球場（屋外）	70	6	64
16	庭球場（屋内）	2	0	2
17	バスケットボール場（屋外）	3	0	3
18	すもう場（屋外）	17	4	13
19	すもう場（屋内）	8	0	8
20	卓球場	2	0	2
21	弓道場	10	0	10
22	アーチェリー場	3	0	3
23	馬場	0	0	0
24	アイススケート場（屋内）	5	1	4
25	アイススケート場（屋外）	1	0	1
26	ローラスケート・インラインスケート場（屋外）	4	0	4
27	ローラスケート・インラインスケート場（屋内）	2	0	2
28	山の家	0	0	0
29	トレーニング場	40	6	34
30	レスリング場	3	0	3
31	ボクシング場	0	0	0

No.	種 別	公 共 ス ポ ー ツ 施 設		
		計	公立社会教育施設に付帯するスポーツ施設	社会体育施設
32	ダンス場	0	0	0
33	射撃場	4	3	1
34	ゴルフ場	5	0	5
35	ゴルフ練習場	0	0	0
36	ボウリング場	0	0	0
37	漕艇場	0	0	0
38	ゲートボール・クローケー場	42	1	41
39	スカッシュ・ラケットボール場	0	0	0
40	ヨット場	1	0	1
41	スキー・スノーボード場	18	0	18
42	キャンプ場	45	1	44
43	ハイキングコース	3	0	3
44	サイクリングコース	0	0	0
45	オリエンテーリングコース	0	0	0
46	ランニングコース	2	0	2
47	冒険遊具コース	1	0	1
48	海の家・海水浴場等の施設	19	0	19
49	河川・湖沼等の遊泳場	4	0	4
50	スカイスポーツ施設	0	0	0
51	体操競技場	0	0	0
52	その他	31	2	29
	計	795	91	704





## 第6部 文 化



# 第6部 文 化

## 1章 文化財保護行政の方針と重点

### 1 方 針

郷土への愛着と誇りを培い、うるおいと活力のある県民生活を実現するため、次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用に努める。

### 2 重 点

#### (1) 文化財の保護・保存

かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。

ア 文化財を大切にし、守り伝えようとする意識の啓発

イ 文化財の調査や記録作成の実施

ウ 国や県の文化財指定等の推進

エ 指定文化財の保存・修理等の支援

オ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」を未来に継承する取組の推進

#### (2) 文化財の公開・活用

県民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。

ア 文化財の公開・活用の促進と情報発信

イ 史跡等の公有化や整備の支援

#### (3) 伝統芸能・技術の継承

地域で生まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。

ア 伝統芸能・技術の後継者の育成支援と発表機会の充実

イ こどもの伝統芸能伝承活動の推進

#### (4) 博物館等施設の機能の充実

県民が文化財に触れ、体験・体感できる機会の充実と情報発信に努める。

ア 県立郷土館の展示・教育普及・調査研究活動の充実と情報発信

イ 三内丸山遺跡センターの遺跡及び遺跡の出土品の保存、遺跡に関する調査研究・展示・教育普及活動の充実と情報発信

ウ 埋蔵文化財調査センターの発掘調査・研究活動と収蔵機能の充実及び情報発信

## 2章 文 化 財

### 1 節 文化財の指定等

#### 1 文化財の指定状況

令和3年度に指定された文化財は次のとおりである。

##### (1) 国指定

###### ① 重要文化財

種 別	名 称 等	所 在 地	指 定 年 月 日	所 有 者
建造物	木村産業研究所	弘前市在府町61	令和3年8月2日	一般財団法人 木村産業研究所

###### ② 記念物

種 別	名 称 等	所 在 地	指 定 年 月 日	所 有 者
史跡	三戸城跡	三戸郡三戸町梅内 字城之下	令和4年3月15日	三戸町ほか

##### (2) 県指定

###### ① 県重宝

種 別	名 称 等	所 在 地	指 定 年 月 日	所 有 者
書跡典籍	円覚寺真言・修験聖教 類及び文書	西津軽郡深浦町大 字深浦字浜町275-2	令和3年4月9日	宗教法人 円覚寺
考古資料	寺下遺跡出土骨角器類	三戸郡階上町大字 赤保内字耳ヶ吹6-2 (階上町民俗資料 収集館)	令和3年4月9日	階上町

##### (3) 県指定解除

###### ① 県名勝

種 別	名 称 等	所 在 地	指 定 解 除 年 月 日	所 有 者
県名勝	清藤家庭園	平川市大光寺一滝 本123番地	令和3年5月28日	有限会社N.S. ホールディングス

#### 2 審議会の開催状況

##### (1) 県文化財保護審議会

令和3年度は3回開催した。指定案件4件の審議等を行った。

(年度内の指定は2件、指定解除は1件。)

##### (2) 銃砲刀剣類登録審査会

令和3年度は4回開催した。その結果、新たに77件の銃砲刀剣類を登録した。

国・県・市町村指定文化財件数

[指定]

(R4.3.31現在)

の文化 種類	国指定	県指定	市町村指定
有形 文化 財	○国宝	3	
	[内訳]工芸品	2	
	考古資料	1	
	○重要文化財	55	○県重宝 157
	[内訳]建造物	33	[内訳]建造物 44
	絵画	0	絵画 7
	彫刻	2	彫刻 31
	工芸品	7	工芸品 30
	書跡	0	書跡 3
	考古資料	13	考古資料 30
歴史資料(史料)	0	歴史資料(史料) 12	
	計 58	計 157	計 603
文無 化財 形	○重要無形文化財	1	
	[内訳]工芸技術	1	○県技芸 2
	計 1		計 5
文民 化財 俗	○重要有形民俗文化財	8	○県有形民俗文化財 12
	○重要無形民俗文化財	8	○県無形民俗文化財 55
	計 16	計 67	有形の民俗文化財 63 無形の民俗文化財 160 計 223
記 念 物	○特別史跡	1	
	○史跡	22	
	○特別名勝及び天然記念物	1	○県史跡 20
	○名勝及び天然記念物	1	○県名勝 1
	○名勝	8	○県天然記念物 40
	○特別天然記念物	2	
	○天然記念物	16	
	計 51	計 61	史跡 92 名勝 10 天然記念物 172 計 274
	合計 126	合計 287	合計 1,105

[国の選定、登録等]

選 定	重要伝統的建造物群 保存地区	2
	選定保存技術	1
登 録	登録有形文化財	101
	登録有形民俗文化財	1
	登録記念物	4
記 録 選 択	記録作成等の措置を講ずべき 無形文化財	1
	記録作成等の措置を講ずべき 無形の民俗文化財	15
重 要 美 術 品	書跡	4
	考古資料	1

国の指定、選定等の総計 256

## 2節 文化財の調査

### 1 文化財パトロール

県内に所在する国指定の重要文化財、重要有形民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物及び重要な埋蔵文化財包蔵地の保存・管理等の実態を把握し、適切な処置及び指導助言を行うため、文化財保護指導員72名を委嘱して、県内40市町村のパトロールを実施した。

### 2 記念物の調査

特別天然記念物カモシカの保護のため、下北半島保護地域の通常調査及び北奥羽山系保護地域の通常調査を実施した。

### 3 埋蔵文化財の調査

#### (1) 遺跡分布・範囲確認調査

[目的]

開発予定地域で遺跡の所在・性格・範囲を確認し、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整を有効に行うための資料を得る。

[調査年度]

昭和63年度から実施

[対象事業及び地区]

・遺跡分布調査

- ① 県道建設関連事業（青森市、鶴田町、六戸町、階上町）
- ② 高規格道路建設関連事業（横浜町）
- ③ 農業整備関連事業（青森市、弘前市、つがる市、藤崎町、板柳町、七戸町、風間浦村、三戸町、五戸町）
- ④ 国道建設関連事業（むつ市、三戸町）
- ⑤ 河川砂防関連事業（青森市、八戸市、平内町、今別町、外ヶ浜町、鱒ヶ沢町、大鱒町、佐井村、南部町）
- ⑥ その他

・範囲確認調査

- ① 道の駅よこはまエリア地方創生拠点事業（駐車場エリア）予定地（横浜町林ノ脇遺跡）
- ② 国道394号榎林バイパス道路改築事業予定地（七戸町鉢森平(6)遺跡ほか）
- ③ 国道279号道路改良（下北縦貫道）事業（横浜南・北工区）予定地（横浜町林ノ後遺跡ほか）
- ④ 三戸地区中山間地域総合整備事業予定地（三戸町留ヶ崎遺跡）
- ⑤ 弘前柏線道路改築事業予定地（弘前市鳴瀬遺跡）
- ⑥ 八戸環状線道路建設事業（天久岱工区）予定地（八戸市田端山遺跡）
- ⑦ 汚染水拡散防止施設を防護するための斜面切り取り工事事業予定地（六ヶ所村沖附(1)遺跡）
- ⑧ 八戸階上線交通安全対策事業予定地（八戸市中道遺跡隣接地）

- ⑨ 常海橋銀線道路改築事業予定地（青森市郷山前村元遺跡）
- ⑩ 新青森県総合運動公園整備事業予定地（青森市米山(2)遺跡）
- ⑪ 国道280号道路改築事業予定地（外ヶ浜町中師宮本遺跡隣接地）
- ⑫ 国道338号大湊Ⅱ期バイパス道路改築事業予定地（むつ市宇田遺跡隣接地）
- ⑬ 目時登坂車線整備事業予定地（三戸町目時館跡隣接地）
- ⑭ 名久井岳公園線道路改良事業予定地（南部町法光寺平遺跡隣接地）
- ⑮ 県営狄ヶ館地区経営体育成基盤整備事業予定地（つがる市広ヶ平(3)遺跡）

[事業内容]

- ① 遺跡の所在地の確認、現状を把握する。
- ② 遺物の散布状況の確認及び遺跡の範囲を把握する。
- ③ 遺構数、遺物出土量、遺物包含層等を確認し、調査費用の基礎資料を得る。

[成果]

調査の結果、新たに4箇所を登録し、6箇所の遺跡の範囲を変更した。また、範囲確認調査の結果、上記①、②、③、⑤、⑨、⑩は発掘調査が必要と判断した。

(2) 重要遺跡の調査

青森県内の水中遺跡及び窪地として確認できる堅穴が所在する遺跡の適切な保護のため、市町村と連携して資料調査、分布調査等を行い、水中遺跡については報告書を刊行した。

(3) 刊行物

- ① 青森県遺跡詳細分布調査報告書34（青森県埋蔵文化財調査報告書第632集）

### 3節 文化財の公開・文化財保護思想の普及等

#### 1 民俗芸能大会

北海道・東北地区の民俗芸能を一堂に集め広く一般に公開し、その保存伝承を図るため、各道県持ち回りで開催される北海道・東北ブロック民俗芸能大会を青森県で開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により再延期となった。

#### 2 こども民俗芸能大会

先人から受け継いだ貴重な文化遺産である民俗芸能の保存・継承を図るため、学校や地域における活動成果の発表会及び交流会を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により再延期となった。

#### 3 埋蔵文化財担当者等研修会

埋蔵文化財保護行政の一層の推進を図るため、市町村教育委員会の埋蔵文化財担当者、市町村文化財保護審議会委員等を対象に研修会を実施した。

期 日 令和3年12月22日  
会 場 オンライン開催

#### 4 文化財保護団体への助成

##### (1) 青森県文化財保護協会

文化財の保存と活用を図るため、青森県文化財保護協会の行う歴史的文献資料の刊行に対し助成した。

刊行資料名 みちのく双書第65集  
「三戸郡新郷村細川潤八郎家所蔵 多門院関係文書 抄 続二」  
補助金額 450千円



## 5 小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業

小学生が、縄文遺跡をはじめとする地域の文化財に直接触れ、体験する取組を通じて、縄文文化や地域の文化財に関する理解を深めると共に郷土愛の醸成を図り、将来的に文化財の保存・活用に携わる人財の育成を図った。

### (1) 学習・体験プログラムの作成

学習・体験プログラム検討会議を4回開催し、冊子「地域の文化財を活用した学習・体験プログラム」を作成し、関係市町村教育委員会等へ配布した。

### (2) 地域の文化財に関する学習・体験活動

地域の文化財に関する講座等を開催した。

地区	学校名	テーマ	実施内容
東青	外ヶ浜町立三厩小学校	大平山元遺跡	開催日：10月29日（金） 内 容：大平山元遺跡見学 参加者：児童13名（1～5年生）教員6名
中南	弘前市立西小学校	大森勝山遺跡	開催日：11月5日（金） 内 容：三内丸山遺跡見学 参加者：児童26名（5年生）教員2名
上北	七戸町立天間林小学校	ニッ森貝塚	開催日：6月14日（月） 内 容：ニッ森貝塚見学 参加者：児童45名（6年生）教員5名

## 4節 文化財の修理・環境整備等

### 1 修理・環境整備等に対する助成

文化財の修理・環境整備等を行う事業者に対し、次のとおり助成した。

(1) 無形民俗文化財等保護費補助 (単位：千円)

補助対象事業名	交付先	補助金額	補助率
八戸三社大祭の山車行事山車人形衣装修復事業	八戸三社大祭山車祭り行事保存会	156	8%
広船獅子（熊）踊用具新調事業	広船獅子踊保存会	1,186	50%

(2) 文化財修理費補助 (単位：千円)

補助対象事業名	交付先	補助金額	補助率
誓願寺山門保存修理事業	宗教法人 誓願寺	1,762	4%
清水寺観音堂保存修理事業	宗教法人 清水寺	712	4%

(3) 記念物環境整備費補助 (単位：千円)

補助対象事業名	交付先	補助金額	補助率
天満宮のシダレザクラ環境整備事業	宗教法人 天満宮	590	50%

### 3章 博物館等

#### 1 県内博物館等施設一覧

(4.3.31現在)

区分	名称	所在地	電話	備考
登録博物館	青森県立郷土館	〒030-0802 青森市本町2丁目8-14	017-777-1585	昭和48年開館
	弘前市立博物館	〒036-8356 弘前市下白銀町1-6(弘前公園内)	0172-35-0700	昭和52年開館
	高岡の森弘前藩歴史館	〒036-1344 弘前市大字高岡字獅子沢128-112	0172-83-3110	平成30年開館
	八戸市博物館	〒039-1166 八戸市根城字東構35-1	0178-44-8111	昭和58年開館
博物館相当施設	青森県立美術館	〒038-0021 青森市安田字近野185	017-783-3000	平成18年開館
	弘前れんが倉庫美術館	〒036-8188 弘前市吉野町2-1	0172-32-8950	令和2年開館
	八戸市美術館	〒031-0031 八戸市番町10-4	0178-45-8338	平成23年開館
博物館類	青森市中世の館	〒038-1311 青森市浪岡大字浪岡字岡田43	0172-62-1020	平成4年開館
	あおり北のまほろば歴史館	〒038-0002 青森市沖館2丁目2-1	017-763-5519	平成27年開館
	八甲田山雪中行軍遭難資料館	〒030-0943 青森市幸畑阿部野163-4	017-728-7063	昭和53年開館
	弘前城史料館	〒036-8356 弘前市下白銀町1-1(弘前公園内)	0172-33-8733	昭和37年開館
	高岡の森弘前藩歴史館	〒036-1344 弘前市大字高岡字獅子沢128-112	0172-83-3110	平成30年開館
	山車展示館	〒036-8356 弘前市下白銀町2-1(追手門広場内)	0172-37-5501	平成6年開館
	津軽藩ねぶた村	〒036-8332 弘前市大字亀甲町61	0172-39-1511	昭和56年開館
	八戸市立民俗資料収蔵庫 (漁撈用具関係)	〒031-0841 八戸市鮫町字大作平	0178-44-8111	(八戸市博物館) 昭和52年開館
	八戸市南郷歴史民俗資料館	〒031-0202 八戸市南郷区大字島守字小山田7-1	0178-83-2443	昭和55年開館
	五所川原市歴史民俗資料館	〒037-0035 五所川原市湊字千鳥102-1	0173-35-2111 (市文化スポ-課)	休館中
	五所川原市金木歴史民俗資料館	〒037-0202 五所川原市金木町芦野234-1	0173-35-2111 (市文化スポ-課)	休館中
	五所川原市市浦歴史民俗資料館	〒037-0403 五所川原市十三土佐1-298(中の島公園内)	0173-62-2775	平成元年開館
	十和田市郷土館	〒034-0301 十和田市大字奥瀬字中平61番地8	0176-72-2340	昭和47年開館
	十和田市称徳館	〒034-0106 十和田市深持字梅山1-1	0176-26-2100	平成12年開館
	十和田市十和田湖民俗資料館	〒034-0301 十和田市大字奥瀬字栃久保80	0176-74-2547	昭和53年開館
施設	三沢市歴史民俗資料館	〒033-0022 三沢市三沢字淋代平116-2955	0176-59-3670	昭和57年開館
	三沢市先人記念館	〒033-0164 三沢市谷地頭4-298-652	0176-59-3009	平成7年開館

区分	名称	所在地	電話	備考
博物館類 民俗 施設	北洋館	〒035-0093 むつ市大湊町4-1	0175-24-1111 (内線2573)	昭和56年開館
	つがる市森田歴史民俗資料館	〒038-2816 つがる市森田町森田月見野340-2	0173-26-2201	昭和50年開館
	平川市郷土資料館	〒036-0102 平川市光城2丁目30-1	0172-44-1221	平成6年開館
	平内町歴史民俗資料館	〒039-3321 東津軽郡平内町小湊字小湊79-3	017-755-3945	昭和54年開館
	蓬田村文化伝承館	〒030-1201 東津軽郡蓬田村大字広瀬字坂元24番地	0174-31-3111 (村教育委員会)	平成14年開館
	大山ふるさと資料館	〒030-1307 東津軽郡外ヶ浜町字蟹田大平沢辺34-3	0174-22-2577	平成13年開館
	鱒ヶ沢町郷土文化保存伝習館 光信公の館	〒038-2725 西津軽郡鱒ヶ沢町種里字大柳90	0173-79-2535	平成2年開館
	深浦町歴史民俗資料館	〒038-2324 西津軽郡深浦町深浦字苗代沢80-1	0173-74-3882	昭和55年開館
	風待ち館	〒038-2324 西津軽郡深浦町深浦字浜町272-1	0173-74-3553	平成17年開館
	円覚寺奉納海上信仰 資料収蔵庫(寺宝館)	〒038-2324 西津軽郡深浦町深浦字浜町275-2	0173-74-2029	昭和62年開館
	板柳町立郷土資料館	〒038-3672 北津軽郡板柳町大字灰沼字岩井70	0172-72-0330	昭和48年開館
	中泊町博物館	〒037-0305 北津軽郡中泊町大字中里字紅葉坂210	0173-69-1111	平成10年開館
	野辺地町立歴史民俗資料館	〒039-3131 上北郡野辺地町字野辺地1-3	0175-64-9494	昭和56年開館
	絵馬館	〒039-2501 上北郡七戸町字荒熊内67-94	0176-62-5858	平成6年開館
	六戸町郷土資料館	〒039-2371 上北郡六戸町犬落瀬字柴山3-9	0176-55-5511	昭和56年開館
	東北町歴史民俗資料館	〒039-2401 上北郡東北町上野字上野191-30	0176-56-5598	平成5年開館
	六ヶ所村立郷土館	〒039-3212 上北郡六ヶ所村大字尾駱字野附535	0175-72-2306	平成3年開館
	おいらせ町民具ふれあい館	〒039-2136 上北郡おいらせ町中下田125-2	0178-56-4276	平成13年開館
	東通村歴史民俗資料館	〒035-0005 下北郡東通村大字田屋字家ノ上29番地2	0175-27-2111 (村教育委員会)	平成25年開館
	佐井村海峡ミュージアム	〒039-4711 下北郡佐井村字大佐井112	0175-38-4506	平成2年開館
三戸町立歴史民俗資料館	〒039-0112 三戸郡三戸町梅内字城ノ下34-29(城山公園内)	0179-22-2739	昭和42年開館	
ごのへ郷土館	〒039-1524 三戸郡五戸町大字豊間内字五ヶ久保3-1	0178-62-5965	平成30年開館	
史跡聖寿寺館跡案内所	〒039-0104 三戸郡南部町大字小向字寿寺81-2	0179-23-4711	平成29年開館	
階上町民俗資料収集館	〒039-1201 三戸郡階上町大字赤保内字耳ヶ吠6-2	0178-88-2698	昭和58年開館	

区分	名称	所在地	電話	備考		
博物館類似施設	古 施 設	さんまるミュージアム (三内丸山遺跡センター)	〒038-0031 青森市三内丸山305	017-781-6078	平成22年開館	
		青森市小牧野遺跡保護センター (縄文の学び舎・小牧野館)	〒030-0152 青森市大字野沢字沢部108-3	017-757-8665	平成27年開館	
		八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	〒031-0023 八戸市大字是川字横山1	0178-38-9511	平成23年開館	
		八戸市縄文学習館 (是川縄文館分館)	〒031-0023 八戸市大字是川字中居3-1	0178-96-1484	平成6年開館	
		つがる市縄文住居展示資料館 (カルゴ)	〒038-3138 つがる市木造若緑59-1	0173-42-6490	昭和61年開館	
		つがる市木造亀ヶ岡考古資料室	〒038-3283 つがる市木造館岡屏風山195	0173-45-3450	昭和54年開館	
		田舎館村埋蔵文化財センター	〒038-1111 南津軽郡田舎館村大字高樋字大曲63	0172-43-8555	平成12年開館	
		ニッ森貝塚館	〒039-2752 上北郡七戸町字鉢森平181-26	0176-68-2612	令和3年開館	
	物 館 類 似 施 設	美 術	おいらせ阿光坊古墳館	〒039-2165 上北郡おいらせ町阿光坊107-4	0178-20-0405	平成29年開館
			財団法人棟方志功記念館	〒030-0813 青森市松原2-1-2	017-777-4567	昭和50年開館
		工 芸 関 係	青森市民美術展示館	〒030-0801 青森市新町2-7-1	017-773-1770	昭和54年開館
			鳴海要記念陶房館	〒036-1313 弘前市大字賀田字大浦1-2	0172-82-2902	平成15年開館
			櫛引八幡宮国宝館	〒039-1105 八戸市八幡字八幡丁3	0178-27-3053	昭和9年開館
			洗心美術館	〒039-1103 八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-6570	平成22年開館
			津軽こけし館	〒036-0412 黒石市大字袋字富山72-1	0172-54-8181	昭和63年開館
			十和田市現代美術館	〒034-0082 十和田市西二番町10-9	0176-20-1127	平成20年開館
			深浦町美術館	〒038-2324 西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢80-1	0173-74-3882	平成18年開館
			常盤ふるさと資料館あすか	〒038-1204 南津軽郡藤崎町大字水木字村元15-1	0172-65-4567	平成8年開館
	文 学 関 係	田舎館村博物館	〒038-1111 南津軽郡田舎館村大字高樋字大曲63	0172-43-8555	平成12年開館	
		七戸町立鷹山宇一記念美術館	〒039-2501 上北郡七戸町字荒熊内67-94	0176-62-5858	平成6年開館	
		スペイン民芸資料館	〒039-2501 上北郡七戸町字荒熊内67-94	0176-62-5858	平成6年開館	
		Nonoue人形の館	〒039-2539 上北郡七戸町字中村55	0176-62-5678	平成17年開館	
		青森県近代文学館	〒030-0184 青森市荒川字藤戸119-7(青森県立図書館内)	017-739-4211	平成6年開館	
	弘前市立郷土文学館	〒036-8356 弘前市下白銀町2-1	0172-37-5505	平成2年開館		
	旧藤田家住宅 (太宰治まなびの家)	〒036-8185 弘前市御幸町9-35	0172-82-1642 (市文化財課)	平成18年開館		

区分	名称	所在地	電話	備考	
博物館類 の施設 その他	文学関係	秋田雨雀記念館	〒036-0377 黒石市大字中町5(津軽黒石こみせ駅内)	0172-59-2080	平成21年開館
		五所川原市太宰治記念館 「斜陽館」	〒037-0202 五所川原市金木町朝日山412-1	0173-53-2020	平成10年開館
		寺山修司記念館	〒033-0022 三沢市三沢字淋代平116-2955	0176-59-3434	平成9年開館
		「太宰の宿」 ふかうら文学館	〒038-2324 西津軽郡深浦町深浦字浜町134	0173-84-1070	平成16年開館
		小説「津軽」の像記念館	〒037-0511 北津軽郡中泊町小泊字紅葉坂1080-1	0173-64-3588	平成8年開館
	その他	東北大学植物園八甲田山分園	〒030-0111 青森市荒川字南荒川山1-1	017-738-0621	昭和4年開館
		青森市森林博物館	〒038-0012 青森市柳川2-4-37	017-766-7800	昭和57年開館
		青森県営浅虫水族館	〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1-25	017-752-3377	昭和58年開館
		弘前大学資料館	〒036-8560 弘前市文京町1番地	0172-39-3432	平成24年開館
		弘前城植物園	〒036-8536 弘前市下白銀町1-1(弘前公園内)	0172-33-8733	昭和63年開館
		天文台「銀河」	〒036-1505 弘前市水木在家字桜井66-1	0172-84-2233	平成元年開館
		青森県立三沢航空科学館	〒033-0022 三沢市大字三沢字北山158	0176-50-7777	平成15年開館
		八戸市水産科学館 (マリエント)	〒031-0841 八戸市大字鮫町字下松苗場14-33	0178-33-7800	平成元年開館
		八戸植物公園	〒031-0012 八戸市大字十日市天摩33-2	0178-96-2932	昭和56年開館
		津軽三味線会館	〒037-0202 五所川原市金木町朝日山189-3	0173-54-1616	平成12年開館
		むつ市海と森ふれあい体験館	〒039-5201 むつ市川内町川内477	0175-42-2411	平成17年開館
		夜越山森林公園 (サボテン園・洋ラン園)	〒039-3331 東津軽郡平内町大字浜子堀替36-1	017-755-2663	昭和47年開館
		青函トンネル記念館	〒030-1700 東津軽郡外ヶ浜町字三厩龍浜99	0174-38-2303	平成元年開館
		十二湖エコミュージアムセンター 「湖郷館」	〒038-2206 西津軽郡深浦町大字松神字松神山1-3	0173-77-3113	平成11年開館
		白神山地ビジターセンター	〒036-1411 中津軽郡西目屋村田代字神田61-1	0172-85-2810	平成10年開館
大山将棋記念館	〒039-2222 上北郡おいらせ町下前田144-1	0178-52-1411	平成17年開館		

## 第7部 教育機関等





# 第7部 教育機関等

## 1章 青森県立図書館・青森県近代文学館

### 1 施設・設備

所在地	青森市大字荒川字藤戸119番地7	
敷地面積	23,812.47㎡	
建物延面積	9,886.03㎡	
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階建 塔屋1階	
階別主要室名	1階	一般閲覧室、参考・郷土室、児童閲覧室、乳幼児室、エントランスホール、ロッカールーム、休憩コーナー、機械室
	2階	近代文学館（常設展示室、企画展示室、展示ギャラリー、展示ロビー、近代文学ガイドコーナー、AVブース）、書庫（約47万冊収容可）、特殊資料庫
	3階	書庫（約53万冊収容可）
	4階	集会室、研修室、市町村読書振興室、貴重資料庫、館長室、事務室

### 2 運営方針

#### (1) 青森県立図書館運営方針

青森県立図書館は、図書、記録等の資料及び情報を収集し、保存して、県民の利用に供し、市町村立図書館等を支援し、関係機関との連携・協力を進め、県民の学習活動、調査研究、読書活動等を支援するとともに、地域を支える情報拠点として地域の課題解決を支援し、本県の発展に貢献します。

このため、次の事項を推進し、図書館サービスの充実に努めます。

#### ア 資料の収集・保存・提供

県民が必要とする資料を計画的、体系的に収集し、整理・保存し、利用に供します。

資料の収集に当たっては、地域の課題解決に資する資料、郷土資料及び本県の行政資料の収集に努めます。

また、視聴覚資料、電子資料の収集等、資料の多様化への対応に努めます。

#### イ 利用者・県民へのサービス

県民の学習活動等を支援するため、オンライン貸出等の貸出サービス、レファレンスサービス等の情報サービス、地域の課題に対応した資料・情報の提供、多様な利用者へのサービス、学習機会の提供、ボランティア活動の機会の提供等を行います。

#### ウ 市町村立図書館等への支援

県民が、県内どこに住んでいても、充実した図書館サービスを受けることができるよう、市町村立図書館及び公民館図書室等に対し、資料の貸出、図書館職員研修の実施等の支援を行います。

また、県内の公立図書館等の資料の横断検索、相互貸借等を行うための青森県図書館情報

ネットワークシステムを運用するなど、県立図書館、市町村立図書館及び公民館図書室等の相互の連携・協力を進めます。

エ 子どもの読書活動の支援

子どもの読書活動を支援するため、おはなし会の開催、読み聞かせ活動の支援、児童生徒用図書セットの貸出、学校図書館の運営の支援等を行います。

オ 関係機関との連携・協力

県民の学習活動等の支援を充実するため、また、地域の課題解決を支援するため、国立国会図書館、他の都道府県立図書館、大学図書館、学校、社会教育施設、行政機関、調査研究施設、民間団体等との連携・協力を進めます。

(2) 青森県近代文学館運営方針

青森県近代文学館は、明治時代以降の本県出身及びゆかりの作家の文学資料を幅広く収集し、その保存を図るとともに、広く一般に公開展示し、文学活動の環境づくりを進め、創造性豊かな本県文化の継承と発展に貢献します。

このため、次の事項を推進し、文学館活動の充実に努めます。

ア 資料の収集・保存

明治時代以降の本県出身及びゆかりの作家を中心に、図書、雑誌、原稿、書簡、書画及び遺品等の資料を総合的に収集し、体系的に整備・保存します。

イ 資料の展示

青森県を代表する13人の作家を中心に、本県出身及びゆかりの作家の多様な資料を常設展示するとともに、テーマ別の企画展を開催し、青森県の近代文学に関する県民の理解を深めます。

ウ 文学活動の環境づくり

他の文学館、文学団体及び学校等との連携を深めながら、多様な普及・啓発活動、情報提供活動を展開することで、県民の文学活動の環境づくりを進めます。

### 3 事業内容

(1) 県立図書館

ア 資料の収集・保存・提供

(ア) 資料の収集・保存

購入及び寄贈により幅広く資料を収集し、整理し、保存した。令和3年度末の所蔵資料数は1,007,587点。

受入数	23,066点	所蔵数	1,007,587点
-----	---------	-----	------------

a 郷土資料の収集・保存

購入、寄贈及び自館作成等により、地方行政資料を含めた郷土関係全般にわたる資料を収集・整理・保存した。令和3年度末の所蔵資料数は164,259点。

受入数	2,802点	所蔵数	164,259点
-----	--------	-----	----------

※ 「(ア) 資料の収集・保存」内数

b 電子書籍の収集

辞典、図鑑、年鑑などの学術書を中心に電子資料を収集した。令和3年度末の所蔵資料数は1,039点。

受入数	1,039点	所蔵数	1,039点
-----	--------	-----	--------

(イ) 資料の提供

館内には、一般閲覧室、児童閲覧室、参考・郷土室があり、それぞれ約11万3千冊、約2万8千冊、約1万4千冊の資料を配架しており、利用者は自由に閲覧することができ、書庫内の資料も、請求により利用することができる。

利用者は、館内の検索端末あるいはインターネットを通じて、資料を検索することができる。

希望する資料がない場合はリクエストを受け、相互貸借のネットワークを活用して、他館から借用し提供するほか、購入により提供した。

a 一般閲覧室では、日本十進分類法を用い、一般図書を主題別に資料を配架するほか、新聞・雑誌、洋書、大活字本、郷土関係のAV資料、企画展示などのコーナーを設けるなどして、多種多様な資料の中から利用者が目的の資料を探しやすいように工夫した。

また、蔵書検索、インターネット、東奥日報CD-ROM、図書館向けデジタル化資料送信サービス・歴史的音源サービスに対応したパソコン端末を設置し、県民への資料・情報提供の充実を図った。

b 児童閲覧室では、調べ学習に対応した児童図書、ノンフィクション、物語、絵本、紙芝居などを自由に利用できるように配架した。

おはなしコーナーでは、毎月第2土曜日に「おはなし会」を、第4土曜日に「おしえて先生！知るしるする探検隊」を開催して、おはなしの楽しさを伝え、本との出会いの機会を提供した。

c 参考・郷土室では、各種の辞典、年鑑、青森県の自然、歴史、産業、文化等に関する図書や県内で刊行された資料等を配架して、利用者の学習・調査研究の利用に供した。

辞典、官報、新聞など、CD-ROMやDVD、データベース資料については、専用端末により迅速に検索することができるサービスを提供した。

国立国会図書館蔵書検索・申込システム、国立国会図書館サーチ、国立情報学研究所等のデータベースを利用し、資料や所蔵情報を提供した。

開館日数	総利用者数	総利用資料数
235日	164,807人	199,736点

イ 利用者・県民へのサービス

(ア) レファレンスサービス

来館、非来館利用者からの様々なアプローチ(口頭、電話、FAX、メール等)による質問や、市町村立図書館等からの依頼を受けた、協力レファレンスに対して、解決に役立つ資料の紹介や情報提供を行った。

レファレンス数	調査・回答 773件	文献紹介 5,458件
---------	------------	-------------

(イ) オンライン貸出サービス

パソコンや携帯電話で所蔵資料の予約・貸出申込みをすることができる。また、受取館を県立図書館以外の市町村立図書館等(貸出協力館)に指定することができる。

貸出協力館数	62館	貸出件数	7,725件	貸出点数	14,704点
--------	-----	------	--------	------	---------

(ウ) 遠隔地返却サービス

県立図書館から貸出しを受けた資料を利用者が希望する市町村立図書館等に返却し、県立図書館が回収した。

返却協力館数	62館	利用件数	845件	利用点数	4,002点
--------	-----	------	------	------	--------

(エ) アウトリーチサービス

来館による図書館利用が困難な重度心身障害者や要介護高齢者を対象に、宅配による図書の貸出を行った。

貸出件数	82件	貸出点数	457点
------	-----	------	------

(オ) ホームページの充実

県立図書館の蔵書を検索し、予約や貸出申し込みができるオンライン貸出サービスを利用することができる。

また、「県内公共図書館・大学図書館横断検索」により23の市町村立図書館等と11の大学図書館、1県立施設の蔵書を検索することができる。

利用者から寄せられた要望等について、当館の対応とともに掲載した。

ホームページアクセス件数	117,919件
--------------	----------

(カ) デジタルアーカイブの公開

当館が所蔵する貴重資料等の電子画像を営利・非営利を問わず二次利用可能な形で公開するほか、それらの書誌情報についても、新たにオープンデータとして配布している。

また、他機関が公開するデジタルアーカイブや、青森県に関する主な電子資料へのリンク集を作成・公開している。

アクセス件数	19,803件
--------	---------

(キ) ボランティアの受入

返却された資料の配架及び利用案内について、図書館ボランティアを受け入れ、自主的・自発的な活動を支援・促進した。

登録人数	19人	延べ活動人数	468人
------	-----	--------	------

(ク) 一般閲覧室企画展示

本県に関する事項、身近な関心ごと、話題の出来事などテーマに沿った本の展示と貸出を行った。

期 間	テ ー マ
3月26日～4月21日	復活！テーブル展示
4月23日～5月23日	猫好きのための九十九之猫本
5月28日～6月23日	「環境月間」
6月25日～8月31日	縄文遺跡群を世界遺産に！
10月1日～10月27日	10月14日は鉄道の日

期 間	テ ー マ
10月29日～11月24日	煌めく女性（ひと）たち
11月26日～1月11日	ほかほか・ぬくぬく あったかーい冬、過ごしませんか？

※9月、3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止。

ウ 市町村立図書館等への支援

(ア) 青森県図書館情報ネットワークシステム（通称：Applins：アプリンズ）

県内公共図書館等の相互貸借のためのインターネットシステムを管理・運用した。参加館は横断検索機能を用いて、各館の所蔵情報を相互に検索することができるほか、検索した資料について、予約や貸出の申込みから借受、返却までの情報管理を双方向的に行うことができる。また、掲示板機能により、参加館の様々な情報を共有した。

a 参加館

参加館	46館	うちデータ提供館	23館
-----	-----	----------	-----

b アプリンズを利用した貸出点数

県立図書館からの貸出点数	3,726点	県立図書館の借受点数	44点
--------------	--------	------------	-----

(イ) 協力用図書の一括貸出

a 「協力用図書」を約4万8千冊所蔵し、市町村立図書館等を対象に蔵書を支援する目的で貸出しを行った。（来館型）

貸出件数	65件	貸出点数	29,240点
------	-----	------	---------

b 新型コロナウイルス感染症下での児童・生徒の読書習慣の向上や学習支援に資するため、「協力用図書」の緊急貸出しを行った。（非来館型）

利用件数	19件	利用点数	1,213点
------	-----	------	--------

(ウ) 公立図書館長・公民館長会議、担当者会議

a 公立図書館長・公民館長会議をオンラインで開催し、県立図書館等の事業説明を実施した。

b 図書館相互協力事業等担当者会議をオンラインで開催し、市町村立図書館・公民館図書館等と県立図書館間の相互協力事業についての説明及び情報交換会を実施した。

(エ) 市町村立図書館等職員研修

a 図書館勤務概ね2年以内の市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象とし、図書館の役割や基本的なサービス等を理解するための講義と演習を行う市町村立図書館等職員初任者研修をオンラインで開催した。

b 市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象とし、図書館職員の資質向上のために特に重要なテーマ（著作権）について、外部講師による講義を行う市町村立図書館等職員基本研修をオンラインで開催した。

c 市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象とし、公共図書館等の学校図書館支援や学校図書館との連携に関し、外部講師による講義と実践報告を行う学校図書館支援研修をオンラインで開催した。

- d 図書館における司書等の力量を高めることを目的として、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の規定に基づき、文部科学省の委託を受けて7年ごとに本県で開催する図書館地区別（北日本）研修を開催し、情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題についての講義と演習を行った。
- e 青森県図書館情報システムの更新に伴う青森県立図書館情報ネットワークシステム（アプリンズ）の新システムの概要及び操作説明を行う青森県立図書館情報ネットワークシステム（アプリンズ）操作研修をオンラインで開催した。
- (4) 市町村立図書館等巡回訪問
- a 市町村立図書館等からの要請により、運営等について指導・助言及び情報提供等を行い、市町村立図書館等の振興と連携強化等を図るため、令和3年度は2回の訪問を行った。
- b 市町村立図書館等について、実態と課題を聴取して、今後の市町村支援の在り方を検討するため、令和3年度は7回の調査訪問を行った。
- c 図書館の新設等の事由により重点的に助言及び支援を行うため、令和3年度は14回の重点支援訪問を行った。
- (5) 定期資料搬送  
市町村立図書館等及び大学等図書館と資料を貸借するために、宅配便と公用車を利用した定期的な資料搬送を行った。  
具体的には、市町村立図書館等との相互貸借、オンライン貸出サービスの貸出・回収、遠隔地返却サービスの回収、大学等図書館との相互貸借及び大学等図書館返却サービスの回収を行った。
- エ 子どもの読書活動の支援
- (7) 子どもと本をつなげる催しの開催  
子どもたちが、さまざまなことに興味を持ち、関連した本に触れることによって、読書への興味を持つとともに、図書館の利用促進となるような催しを開催した。
- a おはなし会 毎月第2土曜日  
絵本の読み聞かせやブック・トークを行った。令和3年度の参加者総数は114人であった（9月・3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止）。
- b おしえて先生！知るしるする探検隊 毎月第4土曜日（12・3月を除く）  
科学やいろいろな仕事、スポーツなど、実験や交流体験を行った。令和3年度は6回開催し、参加者総数は71人であった（8月～9月、2月は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止）。
- (8) 児童閲覧室テーマ展示  
おはなし会のテーマや読書週間等と連動した本の展示・貸出のほか、年中行事による小展示を行った。

期間	展 示 テ ー マ	小 展 示
3月26日～4月21日	学校	ピクニック
4月23日～5月23日	月と太陽 ひかりとかけ	じゃがいも
5月28日～6月23日	たのしもう！ちず	まっしろ
6月25日～7月28日	ふたりはいっしょ！	おいしゃさん

期間	展 示 テ ー マ	小 展 示
7月30日～8月25日	ひみつにせまれ!	ひんやりつめたい
8月27日～10月27日	だいきがいっぱい どんなすきも、み～んなすてき!	パンツ
10月29日～11月24日	じゅげむじゅげむ 落語でござる	としよかん
11月26日～12月22日	よる	ほんであそぼう
12月24日～1月11日	とら	にほんしょく
4月11日～4月27日	2021 おはなし会・探検隊で紹介した本	ぞう

※9月は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止。

(ウ) セット貸出

a 市町村内巡回図書セット

小・中学校の朝の読書活動や幼稚園・保育所等の読み聞かせ活動を支援するため、協力用図書を利用して図書セットを作成し、市町村立図書館等に対し「市町村内巡回図書セット」として貸出を行った。借り受けた市町村立図書館等は管内の小学校等に配本した。

図書セットの内容	利用対象	前 期		後 期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
小 学 校	低 学 年	37	3,580	36	3,380
	中 学 年	36	3,320	36	3,340
	高 学 年	37	3,580	38	3,660
中 学 校	中 学 校	10	400	10	400
読 み 聞 かせ 絵 本 等 児 童 書	幼 稚 園 ・ 保 育 所 等	46	6,600	40	5,430
大 型 絵 本	幼 稚 園 ・ 保 育 所 等	61	1,940	48	1,515

b 学習支援セット

児童生徒の学習支援や読書活動の推進等を支援するため、協力用図書を利用して「学習支援セット」を作成し、希望する小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等へ貸出を行った。(小・中学校は市町村立図書館等を経由して貸出。)

利 用 対 象	前 期		後 期	
	配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等	19	932	7	299

c ミニセット

各図書館等での展示・貸出を支援するため、協力用図書を利用して全国的なイベント等に対応した「ミニセット」を作成し、希望する高等学校、市町村立図書館等へ貸出を行った。

利 用 対 象	前 期		後 期	
	配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
市町村立図書館等 (一部高等学校・特別支援学校を含む。)	23件	659冊	24件	706冊

(エ) 学校図書館アシスト事業プラス

小・中学校及び県立学校等を県立図書館職員が訪問し、学校図書館が抱える疑問などを解決するための具体的な助言や情報提供、学校図書館の活動に関する研修を行った。

また、必要に応じて追加の訪問や助言、情報を提供した。

訪問学校数	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他	計
	11校	4校	6校	1校	3校	25校

オ 関係機関との連携・協力

(ア) 国立国会図書館による図書館向けデジタル化資料送信サービス

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を公共図書館等で閲覧・複写できるサービスに参加館として加入し、県民への資料提供の充実を図った。

図書館向けデジタル化資料送信サービス	利用者数	38人
--------------------	------	-----

(イ) 歴史的音源（れきおん）サービス

歴史的音盤アーカイブ推進協議会（H i R A C）がデジタル化した、1900年当初から1950年頃までに制作されたSP盤及び金属原盤等に収録された音楽・演説等の音源を公共図書館等で視聴できるサービスに参加館として加入し、県民への資料提供の充実を図った。

歴史的音源（れきおん）サービス	利用者数	1人
-----------------	------	----

(ウ) 国立国会図書館及び県外公共図書館等との連携

県域を越えた図書館資料資源の共有化及び効率的利用の促進を目的とする、和図書の総合目録ネットワーク「国立国会図書館総合目録ネットワーク（ゆにかねっと）」にデータ提供館・参加館として加入し、全国的な図書館連携に協力するとともに、県民への資料提供の充実を図った。

他都道府県公共図書館との相互貸借	貸出点数	500点	借受点数	93点
------------------	------	------	------	-----

(エ) 大学等図書館との連携

平成21年度から県内大学等図書館と連携・協力に関する協定（覚書）を締結している。大学等図書館とは、横断検索システムを活用した相互貸借や県立図書館で借受けた資料を在籍する大学等図書館に返却できるサービスを行った。

大学等図書館との相互貸借	貸出点数	134点	借受点数	12点
--------------	------	------	------	-----

(オ) 行政支援サービス

県職員を対象に、政策立案や行政サービスの改善に資するため、業務に関するレファレンス（調査・相談）や資料及び関連図書リストの提供を行った。また、県が主催する様々なセミナー等の会場において、参加者を対象に関連図書の展示・貸出を行った。

レファレンスサービス件数	27件
業務に関する図書貸出点数	121点
セミナー等における図書貸出点数	145点
県立図書館施設利用人数	464人



(カ) 産業支援サービス

県民を対象に、幅広く産業やビジネスを支援するため、創業・起業や経営改善に関する情報、農林水産資源を活用した商品開発などに関する情報等の提供を行った。

また、創業・起業に関する相談会場等で、関連図書リストの提供を行った。

レファレンスサービス件数	13件
データベース情報検索件数	788件
相談会等におけるオーダーメイドリスト提供件数	8件

(2) 近代文学館

ア 資料の収集・保存

収集方針に基づき、佐藤紅緑・秋田雨雀・葛西善蔵・福士幸次郎・石坂洋次郎・北村小松・北畠八穂・高木恭造・太宰治・今官一・三浦哲郎・長部日出雄・寺山修司の13人の重点作家を中心とした本県ゆかりの作家の文学資料について、継続的に収集・整理・保存を行った。

令和3年度は、特別展「北村小松生誕120年特別展」、企画展「中津軽文学散歩」の開催を契機に、関連する資料の収集に力を注いだ。

受 入 数	1,795点	所 蔵 数	163,099点
-------	--------	-------	----------

イ 資料の展示

常設展示、企画展等の観覧者は9,156人であった。

※9月1日から9月30日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館。

※2月22日から4月10日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館。

開 館 日 数	235日	観 覧 者 数	9,156人
---------	------	---------	--------

(ア) 常設展示

常設展示室では、青森県を代表する13人の作家の図書、雑誌、原稿、書簡、書画、遺品等の資料を展示し、その作品と生涯を紹介しているほか、青森県ゆかりの作家33人をジャンルごとに紹介した。

常設展示作家・青森県ゆかりの作家たちからピックアップして拡大展示する「エクステンド常設展示」を開催。令和3年度は、平成・令和の時代に活躍している県人作家を紹介した。

(イ) 特別展・企画展の開催

企画展示室では、特定のテーマを設けて特別展・企画展を開催しており、開館以来、令和3年度までに計103回の特別展と企画展を開催した。

a 特別展「北村小松生誕120年特別展」

八戸町（現・八戸市）出身の北村小松は、明治から昭和にかけて劇作家・映画脚本家・小説家として活躍した。日本初の本格的トーキー映画「マダムと女房」の原作脚本を手掛けたことはもとより、「空とぶ円ばん」等のSF作品を生み出した業績でも知られている。生誕120年という節目に当たり、遺品や直筆資料等を多数展示し、「モダンボーイ」と呼ばれた多才な作家の足跡と素顔に迫る展示を開催。

b 企画展「中南津軽文学散歩」

青森県の南西部は、弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町及び田舎館村の三市二町二村で構成され、中南津軽地域と呼ばれている。明治以降に中南津軽地域（旧・浪岡町を含む）を描いた文学作品を紹介しながら、近代文学から見たこの地域の持つ魅力に迫る展示を開催。

(ウ) 各種展示・コーナーの設置

「近代文学ガイドコーナー」では、DVD（約18分）で、明治以降の青森県の文学の流れを解説しており、AVブースでは、青森県ゆかりの作家の業績や作品の世界、分野、地域、時代等特定のテーマで、1本15分～20分のDVD計37作品を鑑賞することができる。

また、展示ギャラリーには、13人の作家が青森県について語った文章と風景写真を組み合わせた「文学ギャラリー 作家が語る青森」パネルを展示した。

(エ) パネル展の開催

特別展・企画展の内容を再構成したパネル展を、文化施設や作家にゆかりの地域の高等学校など、延べ7か所で開催し、若い世代や遠隔地の県民に観覧の機会を提供した。

ウ 文学活動の環境づくり

(ア) 特別展 文学講座

特別展「北村小松生誕120年特別展」を記念して、作家遺族や研究者による文学講座を2回開催し、参加者は30人であった。

(イ) 日曜講座・朗読会の開催

a 日曜講座

特別展や企画展の開催に併せて、当館職員による日曜講座を開催し、出品資料や展示内容に対する理解を深めてもらう機会を提供した。令和3年度は、2回開催し、参加者は26人であった。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から1回中止とした。

b 「日曜午後の朗読会」

青森県を代表する13人の作家をテーマに、作家および作品の紹介を朗読を交えて4回実施し、参加者は7人であった。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2回中止とした。

(ウ) 出前講座

職員が依頼を受けて学校等に出向き、青森県の近代文学についての講義を行う出前講座を4会場で実施し、参加者は50人であった。

(エ) その他の取組

a 第20回青森県近代文学館川柳大会

平成14年の収蔵資料展「青森県の川柳誌」の開催をきっかけに始まった川柳大会を3月7日（日）に開催する予定であったが、次年度に延期した。

(3) 印刷物の発行

印刷物の名称	摘 要
要覧	令和2年度版
青森県の図書館	令和2年度版
青森県立図書館報	第40号～第42号（年3回発行）
青森県近代文学館 特別展図録	「北村小松生誕120年特別展」

(4) 分類別受入資料数 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

			0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	E	K	その他	計
			総記	哲学宗教	歴史紀行	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	絵本	紙芝居		
本館資料	図書資料	一般資料	313	207	515	2,382	1,079	1,104	627	854	105	1,750	0	0	0	8,936
		児童資料	61	13	36	59	182	49	38	41	14	352	732	51	0	1,628
		参考資料	16	5	15	74	18	17	22	18	5	4	0	0	0	194
		郷土資料	23	4	82	177	24	27	61	21	4	10	0	0	0	433
		個人文庫等資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	413	229	648	2,692	1,303	1,197	748	934	128	2,116	732	51	0	11,191
	書庫資料	一般資料	335	37	195	364	63	45	136	174	17	312	0	0	0	1,678
		児童資料	0	0	0	0	0	0	0	7	0	3	29	0	0	39
		参考資料	2	0	0	6	5	10	3	2	18	0	0	0	0	46
		郷土資料	200	40	145	452	215	64	112	144	5	992	0	0	0	2,369
		個人文庫等資料	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
		計	537	77	340	822	283	119	251	330	40	1,307	29	0	0	4,135
		図書資料計	950	306	988	3,514	1,586	1,316	999	1,264	168	3,423	761	51	0	15,326
	非図書資料	90	0	5	2	3	0	33	8	0	0	0	0	0	141	
	電子書籍	12	114	41	234	111	67	42	188	28	202	0	0	0	1,039	
	本館資料計	1,052	420	1,034	3,750	1,700	1,383	1,074	1,460	196	3,625	761	51	0	16,506	
	近代文学館資料															1,795
	協力用資料															6,560
	図書館資料計															24,861

(5) 分類別所蔵資料数 (令和4年3月31日現在)

			0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	E	K	その他	計
			総記	哲学宗教	歴史紀行	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	絵本	紙芝居		
本館資料	図書資料	一般資料	4,726	5,882	10,350	24,228	8,392	11,008	6,710	9,092	2,751	26,173	0	0	0	109,312
		児童資料	497	275	1,266	1,493	3,343	899	605	1,206	442	7,461	10,218	720	0	28,425
		参考資料	663	335	1,070	740	539	296	235	613	431	534	0	0	0	5,456
		郷土資料	739	105	2,719	2,184	399	532	821	616	59	227	0	0	0	8,401
		個人文庫等資料	626	4	104	24	13	9	11	604	0	2,195	0	0	0	3,590
		計	7,251	6,601	15,509	28,669	12,686	12,744	8,382	12,131	3,683	36,590	10,218	720	0	155,184
	書庫資料	一般資料	52,677	21,144	46,821	120,093	38,924	36,722	37,317	46,901	9,194	94,740	0	0	0	504,533
		児童資料	970	299	1,823	2,078	4,230	1,505	668	1,780	488	14,879	17,305	950	0	46,975
		参考資料	2,019	173	1,059	3,390	649	857	1,030	803	472	466	0	0	0	10,918
		郷土資料	16,865	1,984	13,510	44,204	6,789	6,505	18,192	10,546	451	36,812	0	0	0	155,858
		個人文庫等資料	6,579	2,453	10,425	14,260	1,041	466	6,983	1,779	1,717	6,933	1	0	9,302	61,939
		計	79,110	26,053	73,638	184,025	51,633	46,055	64,190	61,809	12,322	153,830	17,306	950	9,302	780,223
		図書資料計	86,361	32,654	89,147	212,694	64,319	58,799	72,572	73,940	16,005	190,420	27,524	1,670	9,302	935,407
	非図書資料	4,050	60	10,642	2,192	277	487	1,315	2,508	102	699	0	0	726	23,058	
	電子書籍	12	114	41	234	111	67	42	188	28	202	0	0	0	1,039	
	本館資料計	90,423	32,828	99,830	215,120	64,707	59,353	73,929	76,636	16,135	191,321	27,524	1,670	10,028	959,504	
	近代文学館資料															163,099
	協力用資料															48,083
	図書館資料計															1,170,686

## 4 令和3年度主催事業の実績

### 子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

#### 【趣 旨】

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に対して、幼児・児童・生徒用の図書セットを貸出する事業である。

#### 【概 要】

図書セットの内容		利用対象	前 期		後 期	
			配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 市町村 村内巡回 図書 セット	(1)小学校	低学年	37	3,580	36	3,380
		中学年	36	3,320	36	3,340
		高学年	37	3,580	38	3,660
	(2)中学校	中学校	10	400	10	400
	(3)読み聞かせ絵 本児童書等	幼稚園・保育所等	46	6,600	40	5,430
(4)大型絵本	幼稚園・保育所等	61	1,940	48	1,515	
2 学習支援セット		小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等	19	932	7	299
3 ミニセット		市町村立図書館等 (一部高等学校・特別支援学校を含む。)	23	659	24	706

### 県立図書館協力用図書緊急貸出事業

※令和2年度2月補正

#### 【趣 旨】

新型コロナウイルス感染症による児童・生徒の読書活動への影響が引き続き見込まれることから、子どもの居場所として開設される放課後児童クラブなどに参加する児童をはじめ、県内児童・生徒の読書習慣の向上や学習支援に資するため、一括貸出用として県立図書館が所蔵する資料（協力用図書）を貸出する事業である。

#### 【概 要】

利用件数	利用冊数
19	1,213

### 近代文学館 特別展開催

#### 【趣 旨】

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

#### 【概 要】

- (1) 特別展「北村小松生誕120年特別展」

○会期：7/10（土）～9/12（日）

※9月1日から9月30日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館としたことから、「北村小松生誕120年特別展」は8月31日で終了（当初の会期は7月10日から9月12日まで）。

○内容：八戸町（現・八戸市）出身の北村小松は、明治から昭和にかけて劇作家・映画脚本家・小説家として活躍した。日本初の本格的トーキー映画「マダムと女房」の原作脚本を手掛けたことはもとより、「空とぶ円ばん」等のSF作品を生み出した業績でも知られている。生誕120年という節目に当たり、遺品や直筆資料等を多数展示し、「モダンボーイ」と呼ばれた多才な作家の足跡と素顔に迫る展示を開催。

○展示資料数：185点

○来場者数：1,327名

(2) 第1回文学講座

○日時：7/25（日）

○場所：県総合社会教育センター大研修室

○内容：講演 「祖父・北村小松の思い出」

講師 北村 圭一（北村小松令孫）

講演 「子どもたちをUFOに乗せた男 ～北村小松が描いたSFおとぎ話～」

講師 井上 直哉（日本初期SF映像顕彰会代表）

○来場者数：18名

(3) 第2回文学講座

○日時：8/22（日）

○場所：県立図書館研修室

○内容：講演 「八戸が生んだモダンボーイ北村小松」

講師 滝尻 善英（八戸ペンクラブ副会長）

上映 北村小松旧蔵映像「尚武 神道無念流居合 北村益」

○来場者数：12名

(4) 日曜講座

9月1日から9月30日まで、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため臨時休館としたことから、日曜講座は中止（当初の日時は9月5日）。

## 近代文学館 企画展開催

### 【趣 旨】

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

### 【概 要】

企画展「中南津軽文学散歩」

○会期：10/16（土）～12/19（日）

○内容：青森県の南西部は、弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町及び田舎館村の三市二町二村で構成され、中南津軽地域と呼ばれている。明治以降に中南津軽地域（旧・浪岡町を含む）を描いた文学作品を紹介しながら、近代文学から見たこの地域の持つ魅力に迫る展示を開催。

○展示資料総数：100点

○来場者数：1,323名

## アウトリーチサービス推進事業

### 【趣 旨】

来館による図書館利用が困難な重度心身障害者や要介護高齢者等に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

### 【概 要】

- 登録者数：19名（うち新規登録者数2名）
- 貸 出：件数82件／冊数457点

## 県立図書館資料整備

### 【趣 旨】

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的として、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

### 【概 要】

- (1) 受入資料数（R3/4/1～R4/3/31）

区分	受入資料数
県立図書館（本館）	16,506冊
市町村等協力用	6,560冊
近代文学館	1,795冊
合 計	24,861冊

- (2) 図書館利用状況（R3/4/1～R4/3/31）

図書館利用者数	164,807名	
近代文学館利用者数	29,991名	
年間利用資料数	一般閲覧室	107,883冊
	児童閲覧室	36,596冊
	オンライン貸出	6,728冊
	新聞未合冊等	4,873冊
	アウトリーチ（全体の内数）	(457冊)
	市町村一括（協力）貸出等	43,656冊
	計	199,736冊
年間登録者数	新規登録者数	1,946名
	総登録者数	17,250名

※アウトリーチサービス：  
身障者等への配本サービス

※それぞれの登録者数には、  
アウトリーチ登録者数を含む。

- (3) 市町村図書館等への貸出の状況（R3/4/1～R4/3/31）

相互貸借 （県立図書館からの貸出）	県内市町村立図書館等	3,726冊
	県外公共図書館等	500冊
	計	4,226冊
団体一括貸出		29,240冊
集団読書用図書		100冊

## 電子図書館システム導入事業

※令和2年度2月補正

### 【趣 旨】

県立図書館における非接触・非来館サービスの充実のため、県民が自宅等にしながら電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入する。

### 【概 要】

電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入し、利用者が電子書籍を閲覧できる体制を整備した。

## 図書館地区別研修事業

### 【趣 旨】

図書館における司書等の力量を高めることを目的として、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の規定に基づき、情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題等について研修を実施する事業である。

### 【概 要】

- (1) 期 間 10/20（水）～10/22（金） 3日間
- (2) 場 所 県立図書館（オンライン（Zoom）とのハイブリッド方式）
- (3) 対 象 北日本図書館関係職員（勤務経験が概ね3年以上の司書等）
- (4) 内容等

内容	研修テーマ	講 師
基調講演	コロナ時代の図書館経営	京都橘大学文学部 教授 嶋田 学
講義①	図書館における電子書籍の現状と将来像 －調査に基づくwith/afterコロナの課題－	専修大学文学部 教授 植村 八潮
講義②	脳科学の視点から考える子どもの読書活動	東京大学大学院総合文化研究科 教授 酒井 邦嘉
講義③	読書バリアフリー法と図書館の障害者サービス	埼玉県立久喜図書館 主任専門員 佐藤 聖一
講義④	ネットワーク時代のレファレンスサービス	明治大学文学部 教授 齋藤 泰則
講義⑤	災害と図書館－災害への備え、災害時における図書館の役割について－	宮城県名取市図書館 司書 加藤 孔敬
講義⑥・演習	新しい生活様式と図書館施設	愛知工業大学工学部 教授 中井 孝幸
参加者 110名		

## 市町村立図書館等職員研修事業

### 〔趣 旨〕

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を図ることを目的として、市町村立図書館等職員研修を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために青森県立図書館事業等担当者会議を開催する事業である。

### 〔概 要〕

#### (1) 図書館相互協力事業等担当者会議

ア 開催日	5/19 (水)
イ 場 所	オンライン (Zoom)
ウ 参加者	市町村立図書館等職員33名
エ 内 容	県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明、情報交換会

#### (2) 初任者研修

ア 開催日	6/9 (水) ~6/10 (木)
イ 場 所	オンライン (Zoom)
ウ 対 象	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	1日目：市町村立図書館等職員32名、学校図書館業務担当職員6名 2日目：市町村立図書館等職員30名、学校図書館業務担当職員4名
オ 内 容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 1日目：「関係法規、公共図書館・学校図書館の現状と課題」 2日目：「資料管理、グループワーク」

#### (3) 基本研修

ア 開催日	7/14 (水)
イ 場 所	オンライン (Zoom)
ウ 対 象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員45名、学校図書館業務担当職員6名、その他4名
オ 内 容	テーマ「図書館サービスと著作権」
カ 講 師	公益社団法人日本図書館協会 著作権委員会委員長、調布市立図書館 主幹 小池 信彦

#### (4) 学校図書館支援研修

ア 開催日	9/15 (水)
イ 場 所	オンライン (Zoom)
ウ 対 象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員25名、学校図書館業務担当職員15名、その他9名
オ 内 容	テーマ「探究的な学びを支える学校図書館」
カ 講 師	放送大学 客員教授 堀川 照代



## 2章 県立少年自然の家

### 1節 梵珠少年自然の家

#### 1 施設・設備

##### (1) 施設

名 称	青森県立梵珠少年自然の家	
所 在 地	青森県五所川原市大字神山字殊ノ峰117-602	
設 置 年 月 日	昭和46年8月1日	
敷 地 面 積	6,514.42㎡	
建 物 面 積	2,196.35㎡	
構 造	鉄筋コンクリート2階建、体育館鉄骨平屋建	
収 容 人 員	160人	
屋 内 施 設	研 修 棟	研修室1 (60人)、研修室2 (60人)、和室、身体障害者用宿泊室兼医務室
	宿 泊 棟	宿泊室13 (14人用2室、12人用11室)、指導者室1 (5人用)
	体 育 館 (兼大研修室)	バレーボール (1面)、バスケットボール (1面)、バドミントン (2面)、卓球台 (4台)、研修 (160人)
屋 外 施 設	屋 外 施 設	キャンプセンター (120人)、キャンプ場、営火場、つどいの広場、星見の広場
	そ の 他	車庫

##### (2) 設備

視 聴 覚 用 具	液晶プロジェクター、ビデオデッキ、CDラジカセ、ポータブルアンテナ、テレビ、スクリーン
自 然 観 察 用 具	天体望遠鏡、双眼鏡等
野 外 活 動 用 具	スノーシュー、6人用ドームテント、タープテント、ロールマット、シュラフ、炊事用具一式、火起こし体験用具一式、無線機
レ ク リ エ ー シ ョ ン ス ポ ー ツ 等	バレーボール用具一式、バスケットボール用具、バドミントン用具一式、ユニホック用具一式、卓球用具一式、ディスクゴルフ用具、チャレンジ・ザ・ゲーム用具等

## 2 運営の方針と重点

### (1) 方針

少年たちが、恵まれた自然の中で、多様な体験活動を行うことにより、豊かな感性、社会性、創造性等を培い、自ら学び、考え、行動する、社会を生き抜く力の養成が図れるよう諸条件を整備し、魅力ある活動の場や機会の提供に努めます。

### (2) 重点

#### ① 利用の促進

##### ア 主催事業の充実

- ・魅力あるプログラムの開発と提供
- ・ボランティアの養成と活用

##### イ 受入事業の促進

- ・多様な利用体系への対応
- ・幼稚園・保育園・社会教育団体の利用促進

#### ② 支援体制の充実

##### ア 自然体験活動支援の充実

##### イ 指導者研修の充実

##### ウ ホームページ等による情報提供の充実

#### ③ 活動プログラムの充実

##### ア 発達段階に対応した活動プログラムの開発

##### イ 自然環境を活用した活動プログラムの開発

##### ウ 郷土の素材を活用した活動プログラムの開発

#### ④ 安全管理の徹底

##### ア 定期的な施設整備・活動エリアの安全点検の実施

##### イ 緊急時における適切な対応の徹底

##### ウ 給食における衛生管理の徹底

#### ⑤ 施設設備の充実

##### ア 施設設備の保守と計画的な整備

##### イ 活動エリアの保守と整備

### 3 令和3年度主催事業の実績

#### 看板事業

##### 【趣 旨】

年長児から中学生まで幅広い年代の「子ども」を対象に、豊かな自然環境の中で行う野営・野外炊事などの様々な自然体験活動を通して、基本的な生活習慣の確立や仲間と協力しようとする態度を育てていく事業である。

##### 【概 要】

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
夏の7daysキャンプ ～梵珠から西目屋へ 自転車と川下りで 移動する140km真 夏のチャレンジ!～	8/1 (日) ～7 (土)	小学5年生～中 学3年生の児童 生徒	20名	出合いのつどい、自転車隊 列移動、テント泊、野外炊 事、渓谷トレッキング、キャ ンプファイヤー、川遊び、ラ フティング体験、創作活動、 思い出クラフト、別れのつ どい
年長すくすくキャンプ	8/28 (土) ～29 (日)	年長児	新型コロナウイルス感染症拡大防止の ため中止	
9歳チャレンジキャンプ	9/18 (土) ～20 (日)	小学3・4年の 児童	新型コロナウイルス感染症拡大防止の ため中止	
7歳ワンツーカーキャンプ	1/22 (土) ～23 (日)	小学1・2年の 児童	新型コロナウイルス感染症拡大防止の ため中止	
冬の3daysキャンプ	2/11 (金) ～13 (日)	小学4年～中学 2年の児童生徒	新型コロナウイルス感染症拡大防止の ため中止	

#### 養成事業

##### 【趣 旨】

当施設利用団体の引率者や高校生、大学生、青少年教育団体の関係者を対象に、豊かな自然環境の中で行う活動プログラムや自然体験活動を安心・安全に実施するための研修やセミナー、講座等の開催を通して、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

##### 【概 要】

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
在学少年宿泊指導者研 修	(1回目) 4/20 (火) (2回目) 7/27 (火)	令和3年度利用予 定団体の引率者	(1回目) 49名 (2回目) 38名	講義(宿泊体験に臨むこと)、 説明(施設利用に当たっての 留意点及び食堂の利用、利 用料の支払いについて)、活動 プログラムデモンストレーション (新規活動プログラムの紹介 など)、演習(日課表作成) ※宿泊体験あり(前日から希望 者のみ)
自然体験活動ボラン ティア入門セミナー	5/22 (土)	高校生、大学生	41名	講義、野外活動、野外炊事、ア イスブレイク演習、自然体験に おける安全管理と応急処置に 関する演習、施設ボランティア 登録

<p>自然体験活動ボランティアセミナー</p> <p>【必修】</p> <p>(1)入門セミナー (2)ふりかえりセミナー (3)実践レポート</p> <p>【選択】</p> <p>(4)夏の7daysキャンプ (5)年長すくすくキャンプ (6)9歳チャレンジキャンプ (7)7歳ワンツーカーキャンプ (8)冬の3daysキャンプ</p>	<p>実施日は各事業を参照</p> <p>(1)5/22(土) (2)3/5(土)</p>	<p>高校生、大学生</p>	<p>(1)41名 (2)中止 (3)0名 (4)4名 (5)中止 (6)中止 (7)中止 (8)中止</p>	<p>自然体験活動ほんじゅボランティア入門セミナー対象事業の中から、興味関心や日程の都合に応じて参加し、梵珠少年自然の家ボランティアとして、自主企画の実践や子どもたちの活動を支援し、自己のスキルアップを図る。</p> <p>さらに、事後に企画及び運営に係るボランティアとしてのふりかえりを行い、次企画に向けた改善を図る。</p> <p>各事業は実施期間に応じて単位が付与されており、7単位以上取得した者は「ほんじゅマスターボランティア」、10単位以上取得した者は「指導補助員」としてそれぞれ認定する。</p> <p>【対象事業での活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管轄グループの活動支援、グループメンバーの体調管理及び安全管理</li> <li>・自主企画立案及と運営</li> <li>・キャンプ等野外活動における、基本的な知識や技術を習得するための研修や施設ボランティアとしての連携を深めるための実習など</li> </ul>
<p>指導者養成 ほんじゅ出前講座</p>	<p>11月～3月 【各回即日】 ※間接指導は随時</p>	<p>幼稚園・保育園（認定こども園含む）及び小・中学校、特別支援学校の小・中学部、PTA、青少年教育団体（子ども会、児童館、放課後子ども教室等）、公民館</p>	<p>925名</p>	<p>団体が開催する各種行事（事業）に出向き、自然の家が提供するプログラムの実施における直接指導と助言を行う。直接指導及び助言とは、指導者への指導法等の伝達及び助言、児童生徒への直接指導、指導者研修会等での指導及び助言や実地指導である。</p> <p>また、過去に出前講座を実施した団体については、用具の貸し出しや創作材料の提供及び指導方法の伝達のみを行う「間接指導」の利用を積極的に勧めていく。</p> <p>活動プログラムは、自然の家ホームページにて「指導者養成～ほんじゅ出前講座～」プログラム一覧参照</p>

## 親子事業

### 【趣 旨】

小・中学生を含む保護者とその家族、いわゆる「親子」を対象に、豊かな自然環境の中で行う自然に親しむための体験活動や創作活動を通して、家族のふれあいや絆を深める機会を提供する事業である。

### 【概 要】

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
春を楽しむサンday	4/29 (木・祝)	小・中学校の児童 生徒を含む保護者 とその家族	83名 (28家族)	野外活動「春の自然観察」、 野外炊事「春のホットサン ド」、創作活動「バードコ ール」
ファミリーキャンプday	①7/10(土) ※テント 泊を希望 した家族 のみ1泊2 日(～11日)		258名 (61家族)	体験ブース①～昼の部(野外 炊事体験、創作活動、遊び 体験) 体験ブース②～夜の部(ホ タル観察、星空観察、たき火 体験、暗闇ふれあいゲーム) ※テント泊希望の家族はテ ント設営・撤収、野外炊事を 体験
自然体験ほんじゅフェ スタ	10/24(日)		173名 (40家族)	ダッチオープン体験、ホット サンドメーカー体験、BBQコ ンロ体験、たき火・火起こし 体験、本格リース作り体験、 創作プログラム体験、昔の遊 び体験、QRゲーム体験、館 内食体験、セルフカフェ
冬をいろどるクラフトday	12/12(日)		139名 (41家族)	クラフト①「ミニ門松作り」 クラフト②「森の羽子板作り」 クラフト③「本格クリスマスリ ース作り」 クラフト④「ミニクリスマスツ リー作り」 ※その他、昼食提供やセルフカ フェの開設
冬を楽しむホワイトday	2/23 (水・祝)		新型コロナウイルス感染症拡大防止の ため中止	

## 2節 種差少年自然の家

### 1 施設・設備

#### (1) 施設

名 称	青森県立種差少年自然の家	
所 在 地	青森県八戸市大字鮫町字膳並平2-26	
設 置 年 月 日	昭和50年12月1日	
敷 地 面 積	65,976.73㎡	
建 物 面 積	3,487.71㎡	
構 造	鉄筋コンクリート2階建 但し体育館棟鉄骨平屋建	
収 容 人 員	200人	
屋内施設	研 修 棟	統括室、事務室、会議室、医務室、食堂、ホール、大ホール（大研修室、200人）、小ホール（小研修室、50人）、自然観察室（50人）
	宿 泊 棟	宿泊室26（車椅子利用者対応3人用2室、8人用24室）、リーダー室（2、和室）、浴室2、トイレ4、車椅子利用者対応トイレ1
	プレーホール （体 育 館）	バレーボール（1面）、バドミントン（2面）648.90㎡ 移動式バスケットゴール2
屋外施設	屋 外 施 設	キャンプセンター、炊事場、営火場（2）、うんどう広場、トイレ
	そ の 他	つどいの広場、あそびの広場、なかよし広場、自然観察林、常設テント（13張、5～10月）電気室、車庫、ライフジャケット乾燥室、活動資材置場、倉庫

#### (2) 設 備

視 聴 覚 用 具	C Dプレーヤー、MDプレーヤー、液晶プロジェクター、デジタルカメラ、ポータブルワイヤレスアンプ、実物投影機
自 然 観 察 用 具	顕微鏡、双眼実体顕微鏡、天体望遠鏡、双眼鏡、星座早見盤、クリノメーター、磯の生物観察用具、野山の生物観察用具、魚釣り用具、救命胴衣、懐中電灯、フィールドスコープ
体 育 用 具	卓球台、バレーボール用具、バドミントン用具、肋木、グラウンドゴルフ用具、デジタルタイマー
野 外 活 動 用 具	放送機、簡易無線機、テント、シュラフ、炊事用具
レ ク リ エ ー シ ョ ン ス ポ ー ツ 等	ソフトバレーボール用具一式、バドミントン用具一式、卓球用具一式、frisbeeゴルフ用具、昔遊び用具、ノルディックポール、フロアカーリング、キンボールスポーツ用具一式、室内用ベタンク2セット、ヒットだターゲット、バグジー、モルック2、ミニモルック1

## 2 運営の方針と重点

### (1) 基本方針

少年たちが、豊かな自然の中でのびのびと体験活動をするにより、自然と人間のかかわりを理解しながら、生きる力を養うことをめざす。

### (2) 重点事項

- ① 利用団体の主体的活動を促進するために、引率指導者との連携強化を図る。
- ② 活動プログラムの開発と見直しを推進する。
- ③ 主催事業の充実を図る。
- ④ 環境整備と安全確保に努める。
- ⑤ 学校・地域・教育関係団体・民間団体との連携強化を図る。
- ⑥ 学校・教育機関・団体・報道機関等への資料提供と積極的な広報活動に努め、利用の促進を図る。
- ⑦ 職員研修の充実を図る。

### 3 令和3年度事業の実績

#### 種差少年自然の家主催事業（自然と遊ぼう、子どもの祭典）

##### 【趣 旨】

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもを育てることを目的として、県立種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などを体験する学習機会の提供をする事業である。

##### 【概 要】

##### (1) 自然と遊ぼう

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/16 (日)	年長児・ 小・中 生とその 保護者	96名	春の自然を楽しもう ・潮風トレイルウォーク、創作活動 他
たねさしワールド 「エンジョイ！ 海遊び」①② ※2回開催	7/4 (日)		151名	海で思いっきり遊ぼう ・いかだやカヌー遊び、サンドクラ フト作り、磯遊び 他
	7/11 (日)		230名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/17 (日)		108名	秋の自然を楽しもう ・里山や海岸散策、創作活動 他
たねさしワールド 「冬の季節を感じて」 ※2回開催	12/4 (土)		52名	創作リースを作ろう ・クリスマスリースづくり
	12/5 (日)	62名		
たねさしワールド 「エンジョイ！ 雪遊び」①② ※2回開催	コロナ中止	4歳以上 の幼保・ 小・中学 生とその 保護者		冬の自然を楽しもう ・スノーチューブすべり、そりすべ り、せんべい焼き、たこ揚げ 他
たねさしワールド 「こども大作戦」①② ※2回開催	コロナ中止	小学3年 ～4年		子どもだけでとまってみよう ・仲間づくり、レクリエーション、 夜の森探検、創作活動 他
		小学1年 ～2年		

##### (2) 子どもの祭典

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプA	7/28 (水) ～29 (木)	小学5年 ～	64名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・キャンプファイヤー ・トートムボールづくり 他
		中学3年		
おいでよ！ サマーキャンプB	7/30 (金) ～31 (土)		78名	
わくわくどきどき ウィンターキャンプ	12/24 (金) ～26 (日)	小学5年 ～ 中学3年	69名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・耐寒！10キロウォーク ・ボンファイヤー 他



## 自然体験活動支援事業

### 【趣 旨】

学校や公民館、児童館、放課後児童クラブなどの身近な施設内外の活動場所で、子どもたちに自然体験活動やニュースポーツ活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に向いて自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の実地支援を行う。また、自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小中学校及び少年団体指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

### 【概 要】

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10月～3月 *6月～9月 は原則とし て実施なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童 館、公民館、放課後 児童クラブ、青少年 団体や成人団体 等	89団体 4,659人	・種差少年自然の家のプログラムの中 で出前対応可能なもの (せんべい焼き、ニュースポーツ、ミニ門 松、フォトフレーム、どんぐりアート、昔遊 び、しめ縄づくり 他)
自然体験活動 研修会	5/29(土) ～30(日)	幼・保・小・中学校教 員、高校・大学生、 児童館など関係機 関の指導者、その他 自然体験活動に興 味のある方	62名	・レクリエーション全般 ・ネイチャーゲーム ・アドベンチャーゲーム ・「いかだ遊び、磯遊び」の救助訓練 ・野外炊事 ・AEDの操作法

## 在学少年宿泊指導者研修

### 【趣 旨】

種差少年自然の家を利用する小・中学校及び特別支援学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

○期日：4/19(月)～20(火)

○場所：種差少年自然の家

○対象：令和3年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員 21名

### 【概 要】

○講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方

○実習：活動プログラムの実習（野外、自然、創作活動、夜の活動）、施設等の利用方法

○演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認事項

## 親子で学ぶ防災キャンプ事業

### 【趣 旨】

種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害に遭遇したときにおける実践的な防災力を育むことを目的として、小・中学生とその家族及び小・中学校の教員を対象に行う研修事業である。

### 【概 要】

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
「親子の絆」 防災キャンプ	10/30 (土) ～31 (日)	小・中学生と保護 者、小・中学校の 教員	13組 82名	親子キャンプで防災力、減災力を 身に付けよう ・テント泊による避難所体験 ・講話「防災さんぽ」 ・非常時の炊事体験 ・AED講習 ・防災グッズ作り 他

### 3章 青森県総合社会教育センター

#### 1 施設・設備

##### (1) 施設

所在地	青森市荒川字藤戸119-7
設置年月日	平成元年7月1日
敷地面積	16,815㎡
建物延床面積	7,053㎡
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階 塔屋1階
研修室	大研修室、第1研修室～第10研修室
実習室	和室、調理実習室、第1工作室、第2工作室、教材編集室、第1多目的研修室、第2多目的研修室、第1教材開発室、第2教材開発室、第3教材開発室
その他	ラーニングスペース、学習情報サービス室、学習相談室、保健室、ほのぼののルーム、団体連絡室、情報処理室、食堂、視聴覚ライブラリー

##### (2) 設備(主なもの)

学習情報サービス室(ありず)	ビデオ教材、DVD教材、インターネット端末
教材編集室	モニターテレビ、編集・調整機器一式、編集用パソコン、βカムVTR編集機、デジタルビデオ編集機、ダビング装置一式
第1教材開発室	プロジェクター、VTR、実物提示装置、モニターテレビ、DVDプレイヤー
第9研修室	パーソナルコンピュータ、プリンタ、サーバー
第10研修室	パーソナルコンピュータ、プリンタ、サーバー
視聴覚ライブラリー	16ミリ映写機、スライド映写機、モニターテレビ、16ミリフィルム教材
共用機器	テレビ、VTR、OHP、ビデオプロジェクター、アンプ、DVDプレイヤー、DVDレコーダー、ブルーレイプレイヤー、ブルーレイレコーダー
情報処理室	データベースサーバー、Webサーバー、ゲートウェイサーバー、ファイルサーバー、プリンタ、パーソナルコンピュータ
第1工作室	糸のこ盤、グラインダー、木工具
第2工作室	金工具、土練機、ろくろ、陶芸電気炉

## 2 運営の方針と重点

青森県総合社会教育センターは、社会教育の充実振興を図り、県民の生涯にわたる学習意欲の高揚と学習活動の進展に資するため、市町村及び関係機関・団体と連携しながら、次の事業を総合的に実施する。

### (1) 人 財 育 成

地域活動を通じて地域を支えていく人財の育成とネットワークを構築する。  
次代を担う青少年の育成とキャリア形成を支援する。

### (2) 教育活動支援

学校と地域の協働による教育活動の推進と充実を図る。  
家庭の教育力を向上させるための情報提供や支援者を育成する。  
地域全体で子どもを育むための仕組みづくりを進める。

### (3) 市町村・団体支援

市町村教育委員会、生涯学習・社会教育関係機関及び団体を支援する。  
社会教育及び生涯学習関係者の資質を向上させる。  
社会教育に関する情報の収集と提供を行う。  
生涯学習及び社会教育の推進に必要な調査研究を行う。

### (4) 生涯学習活動支援

県民の多様な学習活動を支援する。  
県民の社会参加活動を支援する。

### (5) 施 設 提 供

社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材を提供する。

## 3 事業内容

### (1) 概 況

センターは、人財育成、教育活動支援、市町村・団体支援、生涯学習活動支援の4区分により事業を実施した。

人財育成は、地域を支える人財や次代を担う青少年を育成するため、受講者の実践活動を含め専門的・実践的な研修を行った。

教育活動支援は、家庭や地域の教育力の向上を図るため、地域づくりや家庭教育支援の人財育成に関する専門的・実践的な研修を行った。

市町村・団体支援は、生涯学習・社会教育関係職員の資質向上及び社会参加活動を推進するため、生涯学習・社会教育に関する専門的な研修や社会参加活動支援機関の研修と情報交換を行った。

生涯学習活動支援は、県民の学習活動や社会参加活動を支援するため、生涯学習、社会教育に関する情報提供、学習相談を行うとともに、今日的課題や生涯の各時期における課題に対応した学習講座を行った。

## (2) 相 談 状 況

## ① 生涯学習相談

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数(計)		3	5	2	4	6	2	4	3	4	0	0	3	36
相談者	個人	0	5	1	4	6	2	4	1	3	0	0	1	27
	機関	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	6
	団体	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3
形態	窓口	1	3	1	3	6	0	1	1	1	0	0	0	17
	電話	1	2	1	1	0	2	3	2	3	0	0	3	18
	FAX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	郵便	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Eメール	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
分野別	人材	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
	学習機会	2	2	0	2	2	0	0	1	0	0	0	1	10
	施設	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	教材	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
	学習プログラム	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	団体サークル	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	資格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	調査研究	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	活動	1	1	1	1	2	1	2	2	3	0	0	0	14
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

## 分類別

	個人 27					機関 6					団体 3					総計 36										
	窓	電	F	郵	E	窓	電	F	郵	E	窓	電	F	郵	E	窓	電	F	郵	E	窓	電	F	郵	E	窓
計	口	話	A	便	メ	口	話	A	便	メ	口	話	A	便	メ	口	話	A	便	メ	口	話	A	便	メ	口
計	15	12	0	0	0	2	3	0	0	1	0	0	3	0	0	0	17	18	0	0	1	0	36			
人材	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3			
学習機会	5	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	0	0	0	0	10				
施設	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2				
教材	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3				
学習プログラム	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1				
団体サークル	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1				
資格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
調査研究	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1				
活動	6	4	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	7	6	0	0	1	0	14				
その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1				

② 家庭教育相談

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計				
電話・メール別		電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	面談	合計	
来所面談		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	19	0	62	
月別計		6	6	14	7	0	5	7	5	2	3	4	3					
相談者	父			2										0	2		2	
	母	4	2	4	2	8	3	2	3		5	6	1	5	1	1		54
	祖父母 その他					1									1	0		1
対象	乳幼児	1	1	3	1	1	1		2	5	4	1	1	4	19	7		26
	小学生	1	1	3	2							1			5	2		7
	小学生	1	2			1									1	1		2
	小学生														0	0		0
	小学生					1									1	0		1
	小学生									1					2	0		2
	小学生		2		1				1			1			2	2		4
	中学生					1			1						1	1		2
	中学生						1								0	1		1
	中学生						2		1						3	0		3
	高校生				2						1				3	1		4
	高校生		1												1	0		1
	高校生				1										1	0		1
その他(一般)				1	2	1	1		1				2	5	3		8	
食事	1 母乳・ミルク														0	0		0
	2 食事・離乳食													1	1	0		1
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0		1
	3 身体														0	0		0
	4 性格														0	0		0
	5 行動	1				1									1	1		2
	6 発達障害	1		1					3	2	1				8	0		8
	7 その他		1		1					1			1		3	2		5
	8 計	2	1	1	0	2	0	1	1	0	0	3	0	4	15	3		18
	9 しつけ・習慣	1			2					1	1				5	0		5
	10 睡眠														0	0		0
	11 排泄														0	0		0
12 その他								1	1					2	0		2	
計	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	7	0		7	
疾病等	13 疾病・異常														0	0		0
	14 けが														0	0		0
	15 予防接種														0	0		0
	16 その他(関係機関問合せ)														0	0		0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
対人関係	17 友達														0	0		0
	18 家族														0	0		0
	19 教師					1									1	0		1
	20 その他				1										1	0		1
計	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0		2	
問題行動	21 いじめ									1					1	0		1
	22 虐待														0	0		0
	23 不慮(引きこもり等)														0	0		0
	24 不登校				1		1					1			2	2		4
	25 非行・暴力		1												0	1		1
	26 反抗				2										0	2		2
	27 その他								1						1	0		1
計	0	1	0	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4	5		9	
学習・進路	28 態度					1									1	0		1
	29 不振					2									0	2		2
	30 勉強														0	0		0
	31 進学					1									1	0		1
	32 就職														0	0		0
33 その他														0	0		0	
計	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2		4	
性	34 男女交際														0	0		0
	35 性について					1									1	0		1
	計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1
	36 情緒不安定	1				1									1	2		3
心	37 神経症的反応											1			0	0		0
	38 心身症状														0	0		0
	39 その他														0	0		0
	計	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2		3
その他	40 園・学校等への要望												1		1	0		1
	41 相談者自身(一般)					1	2				1				3	2		5
	42 問い合わせ														0	0		0
	43 その他			3		1	1					1	2	1	7	4		11
計	0	0	3	0	1	2	1	1	0	0	0	0	2	11	6		17	

#### 4 施設利用状況

	研修室等利用								学習情報サービス室 (あります)		ロビー (ラウンジスペース)	総計	累計
	主催事業		個人		団体利用		計						
	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	人員	
4月	201	7	16	1	3,227	26	3,444	27	1,409	29	651	5,504	5,504
5月	298	12	22	2	2,271	26	2,591	27	1,475	30	826	4,892	10,396
6月	206	10	16	1	2,052	27	2,274	28	1,463	29	769	4,506	14,902
7月	321	19	28	3	2,734	28	3,083	29	1,706	30	985	5,774	20,676
8月	180	8	49	4	2,510	25	2,739	27	1,462	30	903	5,104	25,780
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,780
10月	367	15	27	2	1,282	22	1,676	26	1,071	30	539	3,286	29,066
11月	240	14	21	2	3,442	29	3,703	29	1,465	29	690	5,858	34,924
12月	318	11	62	2	2,750	27	3,130	27	1,038	27	484	4,652	39,576
1月	33	3	10	1	1,043	15	1,086	15	793	16	491	2,370	41,946
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41,946
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41,946
合計	2,164	99	251	18	21,311	225	23,726	235	11,882	250	6,338	41,946	
(昨年度)	(1,742)	(90)	(82)	(10)	(21,840)	(291)	(23,664)	(307)	(20,986)	(337)	(8,224)	(48,590)	

#### 団体利用内訳

	団体利用		内 訳													
			社会教育 団 体		学校教育 団 体		学校		大学等		モデル 団体等		公共団体		民間団体	
	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数
4月	3,227	26	1,085	17	1,283	17	0	0	0	0	0	0	344	6	515	10
5月	2,271	26	697	17	893	15	0	0	0	0	0	0	366	7	315	12
6月	2,052	27	349	15	764	19	0	0	0	0	20	1	405	12	514	15
7月	2,734	28	695	18	312	13	10	1	0	0	30	2	926	18	761	19
8月	2,510	25	317	17	981	17	0	0	0	0	15	1	650	1	547	14
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	1,282	22	457	17	272	8	68	3	0	0	0	0	334	9	151	7
11月	3,442	29	1,103	23	528	13	68	2	35	1	10	1	1,020	15	678	20
12月	2,750	27	985	23	717	15	0	0	0	0	30	1	612	15	406	11
1月	1,043	15	183	10	253	8	0	0	0	0	0	0	290	10	317	9
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	21,311	225	5,871	157	6,003	125	146	6	35	1	105	6	4,947	93	4,204	117
(昨年度)	(21,840)	(291)	(6,819)	(221)	(4,496)	(138)	(216)	(7)	(20)	(1)	(312)	(21)	(5,617)	(110)	(4,360)	(118)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月1日～9月30日、1月20日～4月10日まで、臨時休館とした。

## 5 令和3年度主催事業の実績

### (1) 人 財 育 成

#### ① 地域を支える人財の育成

#### パワフルAOMORI！創造塾

##### 【趣 旨】

新たな地域活動者の発掘・育成を行うとともに、仲間づくりの促進やネットワークの形成・強化、地域活動の活性化を図り、地域コミュニティを牽引する人財を育成する事業である。

##### 【概 要】

#### (1) 講座内容

	期日	内容・講師等
第1回	7/17(土) 18(日)	「見つめる」 【講義・演習】「チームビルディング」 NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長 高橋 由和
第2回	8/21(土)	「深める」 【講義・演習】「地域活性化に必要な条件整備」 イカす大畑カダル団 代表 長岡 俊成 【事例発表】「パワフルAOMORI！創造塾から得たもの」 第31期卒業生 江良 圭太 第32期卒業生 井上 陽菜子 【特別講義】「『選ばれる青森』へチャレンジ！」 青森県知事 三村 申吾 【演 習】「実践活動の実施に向けての話し合い」 進行 社会教育センター職員
第3回	9/18(土)	「広げる」 【講義・演習】「企画・立案の基本」「広報『伝える力』」 プラキオデザイン 代表 小野 康一郎
第4回	10/ 2(土)	「試みる」 【演 習】「実践活動の実施に向けての話し合い」 進行 社会教育センター職員
第5回	11/ 6(土)	「固める」 【講義・演習】「実践活動の振り返り」 「アクションプランに向けたアイデア創発」 ものがたり法人FireWorks 映画脚本家 栗山 宗大
第6回	12/ 4(土)	「繋げる」 【演習・発表会】「アクションプラン発表会」 講評 イカす大畑カダル団 代表 長岡 俊成

#### (2) 場所

県総合社会教育センター

#### (3) 参加者

塾生 20名 男性 9名、女性 11名（20歳代 8名、30歳代 9名、40歳代 3名）

#### 元気青森人を創造するeラーニング推進事業

##### 【趣 旨】

県民の誰もが、いつでも、どこでも、インターネットで手軽に学べるeラーニング教材を配信するため、各種学習教材の管理を行うとともに、配信に要するサーバ機器等を維持管理する事業



である。

#### 【概要】

インターネットによる学習教材の配信（eラーニング）

(1) 元気青森人PowerUpコンテンツ	計	116本	(アクセス件数：2,243件)
ア 公開講座		8本	
イ ワンポイントアドバイス		16本	
ウ はたらく心		92本	
(2) あおもり学インターネット講座	計	21本	(アクセス件数：4,038件)
ア あおもりエトセトラ		6本	
イ 青森県の先人		1本	
ウ 青森県の山		7本	
エ わがふるさと		7本	
(3) あおもり子育てネット	計	83本	(アクセス件数：18,074件)
ア 子育て動画		40本	
イ 子育て得情報		30本	
ウ 学習コーナー		13本	

#### ② 次代を担う青少年の育成

#### 青森で生きる未来人財育成事業

#### 【趣旨】

高校生・大学生を、地域で行われる子どものための活動に派遣して異年齢交流を図り、青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目指す事業である。

#### 【概要】

##### (1) ボランティアチーム養成講座の実施

異年齢交流実施のため、ボランティアやコミュニケーションについて扱う講座を実施。

	実施日時	内容・講師	受講者数
第1回	6/12（土） 14：00～15：00	「ナナメの関係による異年齢交流」 NPO法人日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹	44名
第2回	7/11（日） 14：00～15：00	「コミュニケーションについて学ぶ」 青森教育カウンセラー協会 理事 尾崎 洋子	29名
第3回	8/22（日） 14：00～15：00	「実践！レクリエーション」 青森県レクリエーション協会 顧問 塩谷 彰宏	28名

※受講者数は、講義視聴後アンケートを提出した者を指す。

##### (2) ボランティアチーム員の派遣

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、派遣は行わなかった。

## 大学生とカタル！キャリアサポート形成事業

### 【趣 旨】

規定の研修を修了した大学生が自身の体験談や生徒と直接対話するワークショッププログラムを企画・運営し、中学生・高校生には、今と将来の自分について考え、向き合う機会とすることで、互いに自らの夢や目標に向かう主体性が育まれるよう促し、キャリア形成を図る事業である。

### 【概 要】

(1) ワークショップ「キャリアサポ」(高校企画)、「J r.キャリアサポ」(中学校企画)の実施

- ア 実施高等学校 4校
- イ 参加生徒数 高校生375名
- ウ 延べ参加大学生数 236名

No.	期日	実施校	対象高校生	参加大学生
1	7/3(土)	県立鶴田高等学校	2・3学年 (2クラス38名)	25名
2	11/6(土)	県立浪岡高等学校	1学年 (2クラス 31名)	30名
3	11/13(土)	県立弘前南高等学校 ※オンライン実施	1学年 (6クラス185名)	49名
4	11/20(木)	県立北斗高等学校	中間年次 (11クラス121名)	38名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う中止

県立青森南高等学校、県立黒石高等学校、県立田名部高等学校、県立青森西高等学校、  
県立百石高等学校、県立大間高等学校、県立青森中央高等学校、県立七戸高等学校、  
八戸工業大学第二高等学校、大間町立大間中学校

(2) オンラインワークショップの実施

- ア オンライン企画Ⅰ 9/26 (日) 参加大学生39名
- イ オンライン企画Ⅱ 10/3 (日) 参加大学生38名
- ウ オンライン企画Ⅲ 11/27 (土) 参加大学生17名

※全員がオンラインで参加

(3) キャリア形成の支援

- ア 大学生会議 4回 (5/2 (日)、7/11 (日)、12/12 (日)、3/11 (金))
- イ 進路指導関係者研修会 (7/12(月)) 参加者18校 19名 (高校生スキルアッププログラム  
ムと共催)

講 演 「進化するキャリア教育からつながる進路実現と地方の未来」

講師 産業能率大学経営学部教授 株式会社Prima Pinguino代表取締役 藤岡 慎二

事例紹介 発表者 県立鶴田高等学校 教諭 瓜田 貴子

発表者 県立八戸西高等学校 教諭 西塚 洋平

ウ 大学生対象研修会の開催

- 基本研修 (計5回 ※オンライン実施1回) 受講者数155名
- ワークショップ演習 (計5回 ※オンライン実施1回) 受講者数129名
- 中学校対応研修 (計5回) 受講者数 30名
- 応用研修 (計3回) 受講者数 18名

## 高校生スキルアッププログラム推進事業

### 【趣 旨】

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

### 【概 要】

- (1) 高校生スキルアッププログラム（スキルアップ認定証・奨励証の交付）の運営
- (2) 進路指導関係者研修会の実施  
「進路指導関係者研修会」の開催（大学生とカタル！キャリア形成サポート事業と共催）  
ア 期日：7/12（月）  
イ 場所：県総合社会教育センター  
ウ 対象：県内高等学校教員及び高校生スキルアッププログラム担当者、参加を希望する高等学校教員  
エ 参加者：18校19名  
オ 事業説明・情報交換：県総合社会教育センター職員
- (3) 評価サービス

参加校・参加生徒数・奨励証および認定証交付者数

地区	参加校数	参加生徒数	認定証交付者数	奨励証交付者数
東青	7校	532名	19名	21名
西北	3校	313名	2名	0名
中南	2校	59名	0名	1名
上北	3校	14名	0名	2名
下北	2校	663名	0名	0名
三八	6校	1,610名	25名	1名
合計	23校	3,191名	46名	25名

- (4) 県民カレッジとの連携  
事業連携によるあおもり県民カレッジ新規入学者数 1,494名

## 青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

### 【趣 旨】

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組む方策の研究を目的として、高校生・大学生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

### 【概 要】

- (1) 団体募集（高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体）
- (2) 団体の指定

#### 【社会参加活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	L e s t a（レスタ）	高校 大学	異年齢交流、小・中・高校生へのキャリア形成支援等	23名

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
2	キャリアサポートクラブコンソーシアム(キャリアサポ連合)	大学	大学生とカタル！キャリア形成サポート事業へのボランティア参加、高校生及び大学生のキャリア形成支援	612名
3	学生団体LINDEAL	高校	地域活性化を目的とし、探究活動の場を企画・開催、校外活動運営支援等	12名

### 【創作活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	確原色	高校	市内高校生を主体とした合同文化イベントの企画・発表	12名

### (3) 団体支援

- ア 研修室等使用料の減免
- イ 運営会議・研修・作業等での教材開発室の使用承認
- ウ 発表の場の提供（生涯学習フェア等）
- エ 情報発信用の専用掲示スペースの設置
- オ 所報「響」やHP等での活動状況の紹介
- カ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- キ 地域活動団体、創作活動団体、教育活動団体等との連携に関する連絡調整
- ク 協力名義使用の承認（「協力 青森県総合社会教育センター」など）

### (2) 教育活動支援

#### ① 地域学校協働活動の促進

#### 教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

##### 【趣 旨】

新学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携することを目的として、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む目的と重要性を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

##### 【概 要】

- (1) 対 象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員等、市町村教育委員会職員
- (2) 場 所：県総合社会教育センター
- (3) 受講者数：40名
- (4) 事業内容

11/25（木） 9：20～15：00

【説明】「県内のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の現状」

県総合社会教育センター職員

【講義】「『社会に開かれた教育課程』の実現に向けて」

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動・本部が目指すもの～

講師 山口大学大学院教育学研究科 教授 霜川 正幸

【演習】「地域連携プログラムを構想する」

ナビゲーター 山口大学大学院教育学研究科 教授 霜川 正幸

② 家庭教育支援の充実

あおり家庭教育力向上事業

【趣 旨】

地域における家庭教育支援体制を整備することを目的として、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人財を「あおり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する事業である。

【概 要】

(1) あおり家庭教育アドバイザー養成講座

ア 場所：県内2地区 東青地区（県総合社会教育センター）

三八地区（八戸市視聴覚センター・児童科学館）

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため第4回はオンライン講座で実施。

イ 回数：東青地区6回、三八地区5回（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため第3回は中止）

ウ 受講者数（1回以上の受講者数）：25名（東青地区13名、三八地区12名）

エ あおり家庭教育アドバイザー登録者：15名（東青地区11名、三八地区4名）

オ 内容：家庭教育支援講座・演習（全6回：6～11月）

回	開催地区 開催日	内 容
1	東青地区 6/10(木)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
	三八地区 6/24(木)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
2	東青地区 7/7(水)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 青森県八戸児童相談所 こども相談第二課 課長 山田 憲子 演習 「あおり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
	三八地区 7/14(水)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 青森県八戸児童相談所 こども相談第二課 課長 山田 憲子 演習 「あおり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
3	東青地区 8/27(金)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 特定非営利法人子育て支援団体応援隊ココネットあおり 代表理事 沼田 久美
	三八地区 8/24(火)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 特定非営利法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

回	開催地区 開催日	内 容
4	東青地区 9/16(木)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
	三八地区 9/2(木)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
5	東青地区 10/24(日)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 青森中央短期大学 食物栄養学科 准教授 森山 洋美 演習 「あおもり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員
	三八地区 10/10(日)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 青森中央短期大学 食物栄養学科 准教授 森山 洋美 演習 「あおもり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員
6	東青地区 11/10(水)	演習 「あおもり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員
	三八地区 11/2(火)	演習 「あおもり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員

(2) あおもり家庭教育アドバイザースキルアップ講座

ア 実施方法：あおもり家庭教育アドバイザーを対象としたオンライン講座

イ 受講者数：11名

ウ 内 容：今日的な家庭教育支援の現状について、講義・演習形式で学ぶ。

10/3（日）9：30～12：15

講義「味覚を育む食育活動の展開」

講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子

演習「あおもり親楽プログラム」

進行役 あおもり家庭教育アドバイザー 工藤 清子

(3) あおもり親楽プログラム普及活動

「あおもり親楽プログラム」を活用した研修会等に、あおもり家庭教育アドバイザーを派遣する。

(4) あおもり家庭教育アドバイザー登録情報の管理

(5) あおもり家庭教育アドバイザーの活用

**家庭教育支援動画制作普及事業**

**【趣 旨】**

県内における家庭教育の充実を図ることを目的として、子育てに対する不安や悩みに対する解決の糸口となる子育て情報を動画により発信する事業である。

## 【概要】

- (1) 家庭教育支援動画の制作及びテレビ放映（動画は各5分、CMは15秒）  
家庭教育の重要性を広く普及するため、家庭や地域での様々な取組を紹介する。  
ア 「ねえ～ママ」「なあ～に？」 ～交流の大切さ～  
イ ユニバーサルデザイン（UD） ～わかるはできる！～  
ウ アンガーマネジメント ～怒りのコントロールと伝え方～  
エ 食卓の雰囲気プロデュースしよう ～孤食への工夫とコミュニケーション～  
オ 思春期のかかわり方 ～叱ること、マイナスな表現は逆効果？～  
カ 子どものSOSのサインに気づく親になろう ～頼ること・頼られることの大切さ～  
キ 「あおり子育てネット」CM
- (2) 委託業者選定審査会の実施  
7/6（火）9：30～12：00  
県総合社会教育センター第2教材開発室にて、以下の委員により審査  
【家庭教育支援動画制作普及委員会委員名簿】

No.	氏名	所属等
1	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 准教授
2	渡部 泰雄	青森県教育庁生涯学習課 課長
3	吉田 圭子	青森県子ども家庭支援センター（指定管理者 青森コミュニティビジネス株式会社） 部長
4	山子 泰典	青森県PTA連合会 会長
5	櫛引 志乃	あおり家庭教育アドバイザー

- (3) 家庭教育支援動画の配信

## 家庭教育相談事業

### 【趣旨】

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

### 【概要】

- (1) 対象：乳幼児から高校生までの子をもつ保護者やその家族
- (2) 実施方法：電話相談 週3回 月・水・木曜日（祝日・年末年始を除く）13：00～16：00  
メール相談 24時間受付
- (3) 場所：県総合社会教育センター電話相談室
- (4) 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について
- (5) 相談体制：家庭教育相談員、県総合社会教育センター教育活動支援課職員が対応
- (6) 相談件数：62件（電話相談43件、メール相談19件）

③ 地域によるキャリア教育支援の充実

**地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修**

**【趣 旨】**

学校・家庭・地域が連携・協働して地域の子どもを育むことを目的として、学校と地域住民・企業・NPO・各種団体等をつなぐコーディネーター等のスキルアップ及び人材の拡充を図るための研修を行う事業である。

**【概 要】**

- (1) 学校と地域・企業等をつなぐコーディネーターのスキルアップ研修の実施
  - ア 期日・場所：東青地区 6/17（木） 県総合社会教育センター  
上北地区 6/18（金） 県立三沢航空科学館
  - イ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員等（コーディネーター）、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等
  - ウ 講師：認定NPO法人キーパーソン21 代表理事 朝山 あつこ
  - エ 参加者数：東青地区17名 上北地区24名（両地区オンライン参加者含む）
- (2) 地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムの開催
  - ア 期日・場所：10/28（木） 県総合社会教育センター
  - イ 対象：教育支援活動推進員、学校支援コーディネーター、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等
  - ウ 講師：株式会社リクルート リクルートE d - t e c h 総研 所長 山下 真司
  - エ 参加者数：会場46名 オンライン25名
- (3) 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営
  - ア 教育支援プラットフォーム「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営
  - イ 新規登録事業所の登録手続き
  - ウ 学校からの依頼に対する仲介

(3) 市町村・団体支援

① 生涯学習・社会教育関係職員等の養成と資質向上

**生涯学習・社会教育関係職員研修講座**

**【趣 旨】**

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人材育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

**【概 要】**★のある研修については、オンライン研修として実施

(1) 新任職員研修

	実施日時	場所	内容・講師	受講者
前期	5/27(木) 10:00 ～13:00	県総合社会教育センター	講義・演習 「社会教育 きほんの『き』」 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英	22名
後期	10/12(火) 10:00 ～15:00		講義・演習 「生涯学習・社会教育関係職員の役割」 NPO法人日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹	18名



## (2) センター研修 (全3回)

	実施日	場所	内 容	受講者
第1回★	6/9(水) 10:00 ～15:00	県総合社会教育センター	事例発表 「オンライン講座の運営方法」 当センター教育活動支援課 職員 講義 「オンライン講座に必要な『権利の知識』について」 日本デジタルアーキビスト資格認定機構 理事 坂井 知志	20名
第2回	7/28(水) 10:00 ～15:00		事例発表 「青森県社会教育行政の取り組みとその成果について」 県生涯学習課職員・当センター職員 講義・演習 「『楽しい』講座を考える」 Mr.マサックこと 工藤 貴正	23名
第4回	11/17(水) 10:00 ～15:00		講義・演習 「地域づくり人財としての青少年と生涯学習・社会教育の役割について」 青森大学社会学部 教授 柏谷 至	14名

※第3回は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策に伴い中止

## (3) 地区研修

	実施日	場 所	内 容	受講者
東青★	7/8(木) 13:00 ～16:00	県総合社会教育センター	講義・演習 「地域の事業計画と評価・改善」 秋田大学大学院 教授 原 義彦	17名
西北★	9/17(金) 13:30 ～16:00	関係市町村教育委員会 他	講義 「CSマイスターから学ぶ『地域とともにある学校づくり』～コミュニティ・スクールを中心に～」 文部科学省 総合教育政策局 CSマイスター 今泉 良正	16名
中南★	10/21(木) 10:30 ～14:30	関係市町村教育委員会 他	講義 「現代の若者を地域参画・地域への担い手へと結ぶ方策」 山形大学地域教育文化学部 教授 安藤 耕己	65名
上北★	5/21(金) 14:00 ～16:00	県総合社会教育センター	講義 「地域課題への青年層を中心とした実践的取り組み」～持続可能な地域社会を創るために NPO法人 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹	動画再生回数 80回
下北★	9/29(水) 13:30 ～15:00	関係市町村教育委員会 他	講義 「地域と学校の連携協働活動」 岐阜県大野郡白川村教育委員会 事務局 社会教育主事 新谷 さゆり	19名、 動画再生回数 50回
三八★	7/13(火) 13:30 ～16:00	南部町楽楽ホール	講義 「地域・社会への主体的な参画と地域活性化」 一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人	20名

## (4) 社会教育主事等専門研修

	実施日	場所	内 容	受講者
★	4/28(水) 10:00 ～12:30	県総合社会教育センター	講義 「未来を切り拓く社会教育士への期待」 独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター センター長 清國 祐二	31名

## ボランティア関係機関職員養成講座

### 【趣 旨】

ボランティア関係者、実践活動者等の資質向上を目的として、本県の社会参加活動の推進及び充実に向けた対話・参加型のディスカッションを開催する事業である。

### 【概 要】

「ボランティアを取り巻く現状と今後の展望」をテーマとした講座の実施

- (1) 期 日：11/13（土） 10：00～12：30
- (2) 講 師：全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 興侶 寛
- (3) 開催方法：講師は、全国体験活動ボランティア活動総合推進センターよりオンライン講義を実施。オンラインまたは会場（県総合社会教育センター）にて受講。
- (4) 受講者数：オンライン受講28名、会場受講4名、計32名

### ② 学習情報等の充実

## 学習情報の収集・提供事業

### 【趣 旨】

県民の生涯学習活動を促進するために必要とされる各種情報を収集し、インターネットにより県民へ提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理し、ICT講座等を実施できる環境を整備する事業である。

### 【概 要】

#### (1) 学習情報の収集・提供

4情報（学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材）の収集・提供を行った。

・登録データ件数	学習機会情報	1,830件
	指導者人材情報	133件
	団体・サークル情報	143件
	視聴覚教材情報	6,142件
	計	8,248件

・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	1,803回
	指導者人材情報	555回
	団体・サークル情報	611回
	視聴覚教材情報	552回
	計	3,521回

・ありすネット検索回数	学習機会情報	969回
	指導者人材情報	141回
	団体・サークル情報	156回
	視聴覚教材情報	250回
	計	1,516回

#### (2) サーバ・パソコン機器等維持管理

青森県学習情報提供システム用サーバ・パソコン機器及び実習用機器の整備。

## 青森県視聴覚ライブラリー運営事業

### 【趣 旨】

16mmフィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

### 【概 要】

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 3本
- (5) 視聴覚教材のデジタル化業務 252本

#### (4) 生涯学習活動支援

##### ① 県民の学習活動への支援

## あおもり県民カレッジ運営業務

### 【趣 旨】

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

### 【概 要】

#### (1) あおもり県民カレッジの運営全般

##### ア 学生募集（ポスターやパンフレットの作成）

##### (ア) 各種講座・イベント・映画鑑賞会の開催時に募集

##### (イ) あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」による募集

##### イ 学生対応

##### (ア) 入学受付

(イ) あおもり県民カレッジ学生数 26,860名（新規1,695名）

・教養学習コース 22,418名（新規1,662名）

・子どもカレッジコース 4,442名（新規33名）

##### (ウ) 単位認定・評価サービス

・認定証交付数（教養学習コース 287名、子どもカレッジコース 82名）

・奨励賞交付数（教養学習コース 31名、子どもカレッジコース 38名）

※移行・退会の処理あり

##### ウ 学生会活動支援

##### エ あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化

##### (ア) 連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼

連携機関数：738機関（体験施設153か所を含む）

##### (イ) 訪問による新規連携機関勧誘活動を実施

##### (ウ) 講座開催における協力などを通して、関係強化を推進

(2) 普及啓発事業

ア 子ども向けイベント「夏休み子どもイベント2021」の開催（8/1（日）実施）

（ア）公開授業（社会・算数・理科）

（イ）選択授業（オリジナルトートバッグ作り・土器土偶作り）

参加者：54名

（ウ）「Christmasライブコンサート」の開催（12/25（土）実施）

生涯学習フェアの代替イベントとして、篠笛、J-POPカバー、フルート・ヴァイオリ  
ンデュオの演奏実施。

参加者：90名、ボランティア：5名

イ 県民カレッジ&生涯学習情報誌「てのひら」の制作発行（年6回）

ウ 映画鑑賞会開催（臨時休館月を除き毎月）

エ 生涯学習HPの作成

（ア）指定管理者の生涯学習情報サイト作成<<https://www.manabi-aomori.com>>

（イ）地域キャンパス講座、ボランティア自主講座等の情報掲載と更新

(3) 学習相談・学習情報提供事業

ア 学習相談の実施

窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付

イ 学習機会情報の収集及び提供

（ア）年間2,000件を目標に情報登録（1,792件登録済）

（イ）連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼

ウ メディア活用として「いきいき健やか事業」との連携によるテレビ番組内で講座情報や  
県民カレッジPRを放送。

エ 活動機会情報の収集及び提供

ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供

(4) 学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座（県内6地区）開催

（ア）開催数 東青8回、西北8回、中南5回、上北2回、下北5回、三八5回

（イ）受講者数 延べ889名

イ 社会参加活動支援

（ア）ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催

※講師登録数 118名

※講座数 63講座 受講者数 延べ567名

（イ）ボランティア活動証明書の発行

（ウ）各種講座やイベントにおける運営ボランティアの活用

活動者数：延べ45名

② 県民の社会参加活動への支援

インフォメーションプラザありすの運営

【趣 旨】

インフォメーションプラザありす（学習情報サービス室）は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービスを行う事業である。

【概 要】

- (1) 窓口対応 時間 9：00～19：00
- (2) 視聴覚教材貸出サービス
- (3) ポスター、チラシ、図書等の配架
- (4) 学習成果の展示
  - ア みんなのギャラリー、ギャラリーsha-se、画伯のたまごへの作品展示
  - イ 季節ごとの館内装飾と展示
- (5) コロナ禍においての座席の配置や消毒作業の徹底

## 4章 青森県総合学校教育センター

### 1 施設・設備

所在地 青森市大字大矢沢字野田80-2

敷地面積 40,000㎡ 建物敷地 11,484㎡ 多目的広場等 13,285㎡ その他 15,231㎡

建物 (鉄骨・鉄筋コンクリート造、4階建、他にピロティ及び塔屋)

延床面積 15,439㎡ (管理研修棟 10,210㎡ 大研修室棟 1,113㎡  
体育館棟 1,342㎡ 食堂・宿泊棟 2,774㎡)

管理研修棟 (10,210㎡)

ピロティ階 駐車場 (洪水時の遊水施設)

1 階 (2,837㎡)

[管理] 所長室、職員室、応接室、講師室、会議室等

[特別支援教育・管理] 相談室、プレイルーム、検査室、職員室等

2 階 (2,359㎡)

[研修・一般] 中研修室 (80人)、第1～第3研修室 (32人)、

第4～第6研修室 (30人)、第7研修室 (20人) 等

[共用] 図書資料室

[教育相談・管理] 相談室、プレイルーム、学びの部屋、職員室等

3 階 (2,351㎡)

[研修・情報教育] 応用技術研修室 (40人)、情報教育研修室1 (30人)、情報教育研

修室2 (32人)、情報教育研修室3 (24人)、CAD・CG研修室

(76人)、産業教育研修室 (76人) 等

4 階 (2,498㎡)

[研修・実験実習] 音楽・美術・技術・食物・被服・物理・化学・有機化学・生物・  
地学研修室、初等理科準備室等

プラネタリウム (26席+補助14席)

走査電子顕微鏡 (35～20万倍まで)

塔屋 (165㎡)

[研修・実験実習] 天体望遠鏡 (60cm反射望遠鏡)

大研修室棟 (1,113㎡)

大研修室座席 (410席)、控室、ロビー等

体育館棟 (1,342㎡)

アリーナ (バスケットボールコート2面又はバレーボールコート2面又はバドミントン

コート6面)、器具庫、更衣室 (男女別)、体育準備室等

食堂・宿泊棟 (2,774㎡)

[1階] 食堂 (収容椅子席133人、和室84人)

[2～4階] 宿泊室 (一般用84室、身障者用1室、ゲスト用1室)

多目的広場等 (13,285㎡)

駐車場

500台 (ピロティ階220台、屋外280台)

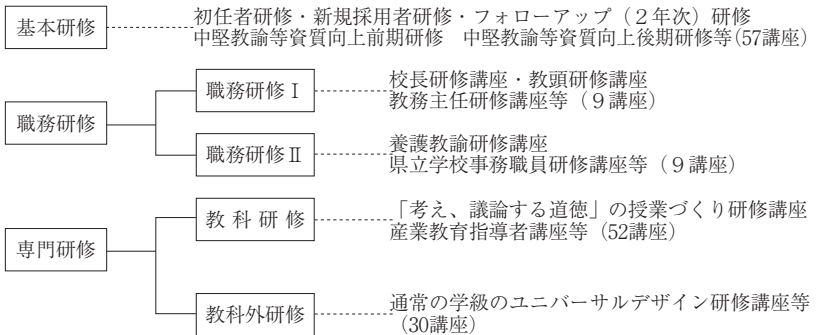
## 2 運営の方針

青森県総合学校教育センターは、子どもたちの未来を創るため、所員の心と力を結集して、学校を支援します。

## 3 研修事業

### (1) 概要

青森県教職員研修体系に基づき、教職員の専門性を高め、教育活動の充実に資する各種の研修を行った。



（計157講座）

### (2) 実績

#### ① 基本研修

##### ア 初任者研修

講座名	対象	修了人数	期日	内容
初任者研修 （小学校） 学級経営基礎講座Ⅰ	令和3年度初任者 研修（小学校）対 象教諭	小44	5/11～5/12	・初任者に期待する ・信頼関係を築き上げる学級経営への取組 ・望ましい集団へと変容を促す学級担任の取組 ・学級経営案から考えるこれまでとこれからの学級経営 ・ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営 ・社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子
初任者研修 （小学校） 学級経営基礎講座Ⅱ	令和3年度初任者 研修（小学校）対 象教諭	小44	9/2 オンライン参加	・小学校における生徒指導とは ・教育相談の進め方 ・教師のメンタルヘルスについて
初任者研修 （小学校） 学級経営基礎講座Ⅲ	令和3年度初任者 研修（小学校）対 象教諭	小44	1/20 オンライン参加	・学級経営の評価と改善 ・学級経営の評価と改善策 ～学級経営の評価と取組方～ ・2年目に期待すること

講座名	対象	修了人数	期日	内容
初任者研修 (小学校) 学習指導基礎講座Ⅰ	令和3年度初任者 研修(小学校)対 象教諭	小44	6/3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくりの基礎・基本</li> <li>・「主体的な学び」の授業を目指して</li> </ul>
初任者研修 (小学校) 学習指導基礎講座Ⅱ	令和3年度初任者 研修(小学校)対 象教諭	小44	11/2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が協力し、実践する学級活動の展開</li> <li>・情報モラルの指導について</li> <li>・児童がよりよく生きるための道徳科の展開</li> </ul>
初任者研修 (中学校) 学級経営基礎講座Ⅰ	令和3年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中27	5/6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者に期待する</li> <li>・学級経営の意義とねらい</li> <li>・学級活動を核とした学級経営</li> <li>・学級経営を支える「道徳科」の授業の在り方</li> <li>・道徳経営を核とした学級経営</li> <li>・生徒や保護者に応じた教育相談の進め方</li> </ul>
初任者研修 (中学校) 学級経営基礎講座Ⅱ	令和3年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中27	8/26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の進め方</li> <li>～生徒理解の深化のために～</li> <li>・一人一人を大切にできる学級経営</li> <li>～いじめ・不登校への対応～</li> <li>・一人一人を大切にできる学級経営</li> <li>～特別支援教育の視点から～</li> <li>・教師のメンタルヘルスについて</li> </ul>
初任者研修 (中学校) 教科等教育基礎講座Ⅰ	令和3年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中27	6/10～6/11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり</li> <li>・授業改善に向けて</li> <li>～2ヶ月の授業実践を振り返って～</li> <li>・社会人としてのビジネスマナー</li> <li>～魅力ある教師になるために～</li> <li>講師：オフィス円香</li> <li>代表 大坂 彰子</li> <li>・単元計画の作成</li> <li>～主体的・対話的で深い学びの視点～</li> <li>・単元計画の作成</li> <li>～指導の評価と改善および学習評価に関する工夫～</li> </ul>
初任者研修 (中学校) 教科等教育基礎講座Ⅱ	令和3年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中27	10/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の果たす役割</li> <li>・総合的な学習の時間の進め方</li> <li>・教科指導におけるICT活用</li> </ul>
初任者研修 (中学校) 教科等教育基礎講座Ⅲ	令和3年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中27	11/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルの指導</li> <li>・授業実践を振り返って</li> <li>～教科等教育基礎講座Ⅰの振り返り～</li> <li>・2年目に期待すること</li> </ul>
初任者研修 (高等学校) 教職基礎講座	令和3年度初任者 研修(高等学校)対 象教諭	高38	4/15～4/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の服務規律について</li> <li>・教職員のメンタルヘルス</li> <li>講師：弘前医療福祉大学</li> <li>教授 小玉 有子</li> <li>・社会人としてのマナー</li> <li>講師：Office Rinco</li> <li>代表 工藤 倫子</li> <li>・初任者研修ガイダンス</li> <li>・生徒理解への取組</li> <li>・温かい人間関係づくり</li> <li>・特別な配慮を要する生徒への対応</li> <li>・初任者に期待すること</li> </ul>
初任者研修 (高等学校) 教科教育基礎講座Ⅰ	令和3年度初任者 研修(高等学校)対 象教諭	高38	5/13～5/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で身に付けさせる資質・能力</li> <li>・資質・能力を育む授業づくり</li> <li>～単元指導評価計画の作成を通して～</li> </ul>



講座名	対象	修了人数	期日	内容
初任者研修 (高等学校) 教科教育基礎講座Ⅱ	令和3年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高38	6/17～6/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業づくり</li> <li>・ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり</li> <li>・主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり</li> <li>・資質・能力を育む授業の工夫</li> </ul>
初任者研修 (高等学校) 教科教育基礎講座Ⅲ	令和3年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高38	11/4～11/5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業の振り返り ～授業改善に向けて～</li> <li>・資質・能力を育む学習指導と評価の工夫</li> </ul>
初任者研修 (高等学校) 生徒理解基礎講座Ⅰ	令和2年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高38	7/29～7/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・不登校と問題行動への理解と対応</li> <li>・特別活動におけるホームルーム活動</li> <li>・ホームルーム担任としての在り方</li> <li>・ホームルーム経営目標の作成</li> </ul>
初任者研修 (高等学校) 協力校 研修	令和3年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高31	10/14.21.22. 28.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の授業について</li> <li>・参観授業について</li> </ul>
初任者研修 (特別支援 学校) 教職 基礎講座	令和3年度初任者 研修(特別支援学 校) 対象教諭・助 教諭	特33	4/15～4/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の服務規律について</li> <li>・教職員のメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子</li> <li>・社会人としてのマナー 講師：Office Rinko 代表 工藤 倫子</li> <li>・初任者に期待する</li> <li>・本県の教育課題及び特別支援教育</li> <li>・効果的な協議・発表の仕方</li> <li>・初任者研修を終えて</li> <li>・新たに教員になって</li> </ul>
初任者研修 (特別支援 学校) 特別 支援教育指 導法基礎講 座Ⅰ	令和3年度初任者 研修(特別支援学 校) 対象教諭・助 教諭	特33	5/27～5/28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校の教育課程</li> <li>・自立活動の基礎・基本</li> <li>・障害特性に応じた指導</li> <li>・個別の指導計画の作成と活用</li> <li>・障害のある幼児児童生徒の実態把握と目標 設定</li> </ul>
初任者研修 (特別支援 学校) 特別 支援教育指 導法基礎講 座Ⅱ	令和3年度初任者 研修(特別支援学 校) 対象教諭・助 教諭	特32	7/1～7/2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校における授業づくり ～教科指導・各教科等を合わせた指導の基 礎・基本～</li> <li>・子供が主体的・対話的で深い学びに向かう 授業づくり ～教科指導の基礎・基本～</li> <li>・特別支援学校における授業づくり ～ICTの活用～</li> <li>・特別支援学校における授業実践</li> <li>・一人一人のニーズに応じた指導① ～授業づくり～</li> </ul>
初任者研修 (特別支援 学校) 特別 支援教育指 導法基礎講 座Ⅲ	令和3年度初任者 研修(特別支援学 校) 対象教諭・助 教諭	特32	12/3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価の基本的な在り方</li> <li>・一人一人のニーズに応じた指導② ～評価と改善～</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
初任者研修 (特別支援 学校)他校 種研修	令和3年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭・助 教諭	特32	11/5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校概要説明</li> <li>・通常の学級、特別支援学級及び通級指導教室の授業参観</li> <li>・授業参観を通して学んだこと</li> <li>・通常の学級と特別支援学級及び通級指導教室の授業について</li> </ul>
初任者研修 (特別支援 学校)学級 経営基礎講 座	令和3年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭・助 教諭	特33	5/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営の基礎・基本</li> <li>・保護者との関係作り</li> <li>・学級経営で大切なこと</li> </ul>
初任者研修 (特別支援 学校)生徒 指導基礎講 座	令和3年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭・助 教諭	特32	6/10～6/11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達を踏まえた幼児児童生徒の理解</li> <li>・教育相談 ～生徒との関係作りと特別支援教育の教育相談～</li> <li>・生徒指導上の課題への対応 ～情報モラル～</li> <li>・生徒指導上の課題への対応 ～いじめ・不登校～</li> <li>・インクルーシブ教育システムの推進について</li> <li>・発達障害の理解と支援</li> <li>・青森県発達障害者支援センターの役割について 講師：青森県発達障害者支援センター センター長 町田 徳子</li> <li>・安心・安全な生活を支える児童相談所の機能 講師：青森県中央児童相談所 心理判定課長 石田 大地</li> <li>・地域社会との連携</li> </ul>
初任者研修 (高等学 校)まとめ 研修	令和3年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高38	1/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体で進める道徳教育</li> <li>・探究的な学びに向けて</li> <li>・学校において初任者に期待すること</li> <li>・1年間の研修を振り返る～学び続ける教員となるために～</li> </ul>
初任者研修 (特別支援 学校)まとめ 研修	令和3年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭・助 教諭	特32	1/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの教員に期待すること 講師：県立浪岡養護学校 前校長 鳥野 絵理子</li> <li>・1年間の研修を振り返って ～実地研修、校外研修をとおして～</li> </ul>

#### イ 新規採用者研修

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
新規採用養 護教諭研修 Ⅰ	令和2年度採用養 護教諭 令和3年度採用養 護教諭	小10 中2 高3 特1	5/26～5/27 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健の現状と課題</li> <li>・養護教諭に関する法規と職務内容</li> <li>・学校管理下における災害について</li> <li>・感染症・食中毒の知識</li> <li>・養護教諭が行う救急処置活動 講師：女子栄養大学 教授 遠藤 伸子</li> <li>・社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子</li> </ul>
新規採用養 護教諭研修 Ⅱ	令和2年度採用養 護教諭 令和3年度採用養 護教諭	小10 中2 高4 特1	7/29～7/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭が行う健康相談の考え方と進め方</li> <li>・スクールカウンセラーとの連携について</li> <li>・発達障害の理解と対応</li> <li>・保健室経営について</li> <li>・心肺蘇生法の理解と実習 ～様々な状況への対応～</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内容
新規採用養護教諭研修Ⅲ	令和2年度採用養護教諭 令和3年度採用養護教諭	小10 中2 高4 特1	12/21～12/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健教育の工夫</li> <li>・学校における健康教育の進め方 ～健康状態の評価、健康問題の原因と分析と対応、健康診断の事前・事後措置～</li> <li>・情報化への対応</li> <li>・保健室経営について ～学級（HR）担任との連携～</li> <li>・養護教諭のメンタルヘルス</li> </ul>
新規採用県立学校実習助手研修（前期） （後期）	令和3年度採用の県立学校実習助手	高2 特1	前期4/15 後期9/1 オンライン参加	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の服務規律について</li> <li>・教職員のメンタルヘルス</li> <li>講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子</li> <li>・社会人としてのマナー</li> <li>講師：Office Rinko 代表 工藤 倫子</li> <li>・実習助手の職務について</li> </ul> <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の視点に立った生徒理解への取組</li> <li>・実習助手の職務と課題について</li> <li>・学校における人間関係づくり・役割について</li> <li>・私の実践発表</li> <li>・実習時における安全管理について</li> </ul>
新規採用栄養教諭・学校栄養職員研修Ⅰ	令和2年度採用学校栄養職員 令和3年度採用栄養教諭	小1 特1	5/13～5/14 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の歴史</li> <li>・学校教育の中の栄養教諭及び学校栄養職員の役割と職務内容</li> <li>・栄養教諭及び学校栄養職員が行う食に関する指導</li> <li>・学校給食物資について</li> <li>・衛生管理の基本</li> <li>・栄養教諭及び学校栄養職員が行う食に関する指導の実際</li> <li>・職場のメンタルヘルス</li> </ul>
新規採用栄養教諭・学校栄養職員研修Ⅱ	令和2年度採用学校栄養職員 令和3年度採用栄養教諭	小1 特1	6/3～6/4 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における衛生管理</li> <li>・学校給食の管理と実務（1）</li> <li>・郷土食と学校給食</li> <li>・学校給食の管理と実務（2）</li> <li>・給食業務の実際</li> <li>・管理運営上の諸問題</li> <li>・食に関する指導を実際に考えてみよう</li> </ul>
新規採用栄養教諭・学校栄養職員研修Ⅲ	令和2年度採用学校栄養職員 令和3年度採用栄養教諭	小1 特1	7/29～7/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食施設の衛生管理</li> <li>講師：青森大学 教授 川村 仁</li> <li>・簡易検査法</li> <li>講師：青森大学 教授 川村 仁</li> <li>・掲示資料の作成</li> <li>・掲示資料の工夫</li> <li>・模擬授業とその検討会</li> <li>・これからの栄養教諭・学校栄養職員に求められるもの</li> </ul>
新規採用公立学校事務職員研修	令和3年度採用の公立学校事務職員（臨時事務職員を含む）	小2 中2 高7 特2	5/25～5/26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服務について</li> <li>・福利厚生制度について</li> <li>・社会人としてのマナー</li> <li>講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子</li> <li>・旅費制度について</li> <li>・給与制度について</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
幼児教育基礎講座Ⅰ	幼稚園教諭、保育教諭	その他 4	5/21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県の幼児教育</li> <li>講師：県教育庁学校教育課 指導主事 久慈 直子</li> <li>・特別な配慮を要する幼児との関わり方</li> <li>・健やかな成長のための環境と習慣づくり</li> <li>講師：千葉幼稚園 園長 岡本 潤子</li> </ul>
幼児教育基礎講座Ⅱ	幼稚園教諭、保育教諭	その他 8	10/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材に親しみ工夫して遊ぶためのつくる活動</li> <li>・幼児期における発達の違いと幼小連携</li> <li>・保育の展開と援助の在り方</li> <li>～教材づくりを通して～</li> </ul>

#### ウ 経験者研修

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
小・中学校フォローアップ(2年次)研修講座(前期)(後期)	令和2年度初任者研修(小学校)(中学校)対象教諭 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	小55 中28	前期6/1 後期12/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員2年目としての心構え</li> <li>～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～</li> <li>・学びと社会を関連付けるキャリア教育の実際</li> <li>・学習指導を振り返る</li> <li>～2年目の学習指導プラン作成～</li> <li>・実践を振り返って</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの実際</li> </ul>
高等学校フォローアップ(2年次)研修講座	令和2年度初任者研修(高等学校)対象教諭 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	高40	5/18～5/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力を引き出す教科指導</li> <li>～タブレットの活用～</li> <li>・創意を生かしたホームルーム経営</li> <li>・ホームルームにおける課題解決に向けて</li> <li>・ホームルーム担任のための教育相談</li> <li>～保護者との連携を深めるために～</li> <li>・学校安全と地域連携</li> <li>・防災教育と地域連携</li> </ul>
特別支援学校フォローアップ(2年次)研修講座	令和2年度初任者研修(特別支援学校)対象教諭・助教諭 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	特29	9/22 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善の方法</li> <li>・ICTを活用した授業づくり</li> <li>・これからの教員に求められること</li> </ul>
養護教諭フォローアップ(2年次)研修講座	前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	高1	10/29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自校の保健室経営について</li> </ul>
中堅教諭等資質向上前期研修(小・中学校)共通講座	令和3年度中堅教諭等資質向上研修(前期)対象者(小・中学校)	小46 中32	7/6～7/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめへの対応</li> <li>・特別の教科 道徳</li> <li>～学習指導要領と授業づくり～</li> <li>・特別の教科 道徳の授業づくり</li> <li>・不登校・保護者対応</li> <li>・特別な配慮を必要とする児童生徒への指導</li> <li>・後期中堅教諭までのライフプランを考える</li> <li>・前期中堅教諭に期待すること</li> </ul>
中堅教諭等資質向上前期研修(高等学校)共通講座Ⅰ	令和3年度中堅教諭等資質向上研修(前期)対象者(高等学校)	高44	5/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期中堅教諭に期待すること</li> <li>・社会に開かれた教育課程</li> <li>・いじめのない学校づくり</li> <li>～情報モラル教育～</li> <li>・いじめ・不登校のない学校づくり</li> <li>～温かいホームルームづくり～</li> <li>・保護者との連携について</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中堅教諭等 資質向上前期 研修(高等学校) 共通講座Ⅱ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (高等学校)	高43	9/14 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの学校教育を考える ～生徒の主体的・対話的で深い学びのため に～</li> <li>講師：文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点で行う 授業改善</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上前期 研修(特別支援学 校)共通講座Ⅰ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (特別支援学校)	特28	5/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期中堅教諭に期待すること ～本県教育の現状と課題をふまえて～</li> <li>・関係機関との連携</li> <li>・キャリア教育</li> <li>講師：弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上前期 研修(特別支援学 校)共通講座Ⅱ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (特別支援学校)	特28	6/16 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業をつくる</li> <li>講師：上越教育大学大学院 教授 村中 智彦</li> <li>・メインティーチャーとしてのティーム ティーチャング</li> <li>・授業を見直す</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上前期 研修(養護教諭) Ⅰ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (養護教諭) 令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (養護教諭)	小22 中18 高6 特3	6/24～6/25 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育の今日的課題</li> <li>・養護教諭に関する法規と職務内容</li> <li>・救急処置の実際</li> <li>・救急処置の理論・応用</li> <li>・保健教育の在り方/保健教育の実際</li> <li>講師：鎌倉女子大学 藤原 昌太</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上前期 研修(養護教諭) Ⅱ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (養護教諭) 令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (養護教諭)	小22 中18 高6 特3	11/25～11/26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校環境衛生と保健室における薬剤管理</li> <li>講師：青森大学 教授 川村 仁</li> <li>・中堅養護教諭の役割と資質能力の向上</li> <li>講師：神奈川県立保健福祉大学 准教授 高橋 佐和子</li> <li>・ネットトラブルへの対応</li> <li>・スクールソーシャルワーカーとの連携について</li> <li>・養護教諭として身につけたいマナー</li> <li>講師：Office Rinko 代表 工藤 倫子</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上前期 研修(栄養教諭・学 校栄養職員)Ⅰ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (栄養教諭・学校 栄養職員) 令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (栄養教諭・学 校栄養職員)	小5 中3 特1	6/24～6/25 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育の今日的課題</li> <li>・歯と口に関する基礎知識</li> <li>・衛生管理責任者の役割</li> <li>・保健教育の在り方/保健教育の実際</li> <li>講師：鎌倉女子大学 藤原 昌太</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上前期 研修(栄養教諭・学 校栄養職員)Ⅱ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (栄養教諭・学 校栄養職員) 令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (栄養教諭・学 校栄養職員)	小5 中3 特1	9/30～10/1 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する指導</li> <li>・栄養教諭・学校栄養職員の食に関する指導 の在り方と進め方</li> <li>・食に関する指導の充実</li> <li>・児童生徒の心理</li> <li>・給食業務の実際</li> <li>・アレルギー対応食の取組</li> <li>・健康教育と栄養教諭・学校栄養職員の役割</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中堅事務職員資質向上前期・後期研修(小・中学校)	平成22年度及び平成28年度に公立学校(小・中学校)の事務職員として採用された者受講を希望する公立学校(小・中学校)の事務職員(臨時事務職員を含む)	小8 中7	10/6～10/7 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校教職員の身分制度と服務</li> <li>・学校における情報公開と個人情報</li> <li>・これからの学校組織と事務職員の役割</li> <li>・保護者・教員との関係づくり</li> </ul>
中堅教諭等資質向上後期研修(小・中学校)スクールマネジメント講座	令和3年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(小・中学校)	小16 中29	7/8～7/9 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅教諭に必要なマネジメント意識</li> <li>・協働で取り組む職場のメンタルヘルス</li> <li>・協働で取り組む特別支援教育</li> <li>・協働で取り組む危機管理</li> <li>・協働で取り組む校務分掌</li> <li>・P D C A サイクルをもとにした授業実践に向けて</li> </ul>
中堅教諭等資質向上後期研修(小・中学校)授業実践力アップ講座	令和3年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(小・中学校)	小16 中29	12/14～12/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同僚性を発揮した授業改善のために</li> <li>・P D C A サイクルをもとにした授業改善に向けて</li> <li>・同僚性を高める実践に向けて</li> <li>～2年目教員との切磋琢磨を通して～</li> <li>・中堅後期研修後に向けたキャリアデザイン</li> <li>・中堅後期教員に期待すること</li> </ul>
中堅教諭等資質向上後期研修(高等学校)共通講座Ⅰ	令和3年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(高等学校)	高49	6/29～6/30 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの教育の担い手として</li> <li>～カリキュラム・マネジメント～</li> <li>講師：國學院大學 教授 田村 学</li> <li>・教職員の服務規律について</li> <li>・組織で取り組むメンタルヘルス</li> <li>講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子</li> <li>・学校改善に向けた組織的な取組</li> <li>講師：弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文 准教授 三和 聖徳 准教授 吉田 美穂</li> <li>・温かい人間関係づくり</li> <li>～保護者・同僚との接し方～</li> <li>・配慮を要する生徒への組織対応</li> </ul>
中堅教諭等資質向上後期研修(高等学校)共通講座Ⅱ	令和3年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(高等学校)	高48	8/27 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒を生かす学習指導</li> <li>講師：教育コンサルタント (元花巻北高等学校長) 下町 壽男</li> <li>・授業におけるICT活用</li> <li>・資質・能力を育む学習指導と評価の工夫</li> </ul>
中堅教諭等資質向上後期研修(高等学校)共通講座Ⅲ	令和3年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(高等学校)	高49	12/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に向けた取組</li> <li>・後期中堅教諭に期待すること</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
中堅教諭等 資質向上後 期研修(特 別支援学 校)共通講 座Ⅰ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (特別支援学校)	特29	6/29～6/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの教育の担い手として ～カリキュラム・マネジメント～ 講師：國學院大學 教授 田村 学</li> <li>・教職員の服務規律について</li> <li>・組織で取り組むメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子</li> <li>・学校改善に向けた組織的な取組 講師：弘前大学教職大学院 教 授 菊地 一文 准教授 三和 聖徳 准教授 吉田 美穂</li> <li>・組織的な授業改善の取組</li> <li>・本県特別支援教育の現状と課題</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上後 期研修(特 別支援学 校)共通講 座Ⅱ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (特別支援学校)	特29	9/9 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の充実に向けて ～授業改善をとおして～ 講師：北海道教育大学函館校 教授 北村 博幸</li> <li>・学校全体の授業についての課題の分析と具 体的改善策の検討</li> </ul>
中堅教諭等 資質向上後 期研修(特 別支援学 校)共通講 座Ⅲ	令和3年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (特別支援学校)	特29	12/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に出るということ 講師：青森藤チャレンジ就業・生活支援 センター 所長 長谷川 さとみ</li> <li>・関係機関との連携について考える</li> <li>・後期中堅教諭に期待すること</li> </ul>

## ② 職 務 研 修

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
校長研修講 座(前期) (後期) < 指定>	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校の新任校長 前年度までの受講 対象者のうち、本 研修を受講又は修 了していない者	小36 中17 高13 特3	前期4/27 後期7/27 一部 オンライン講義	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任校長に期待する</li> <li>・学校における情報公開・個人情報保護</li> <li>・私の学校経営(校種別)</li> <li>・学校課題への取組(校種別)</li> </ul> <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における新型コロナウイルス感染症対 策について ～特徴を知って、賢く対応しよう～ 講師：県立保健大学 特任教授 大西 基喜</li> <li>・子どもがより良く育つ学校づくり ～教師力・学校力の向上を目指して～ 講師：國學院大學 教授 杉田 洋</li> </ul>
教頭研修講 座(前期) (中期) (後期) < 指定>	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校の新任教頭 前年度までの受講 対象者のうち、本 研修を受講又は修 了していない者	小34 中17 高13 特4	前期5/10 後期8/30 オンライン講義	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教頭・新任事務長に望むこと</li> <li>・教育法規について</li> <li>・社会に開かれた教育課程</li> <li>・教頭の職務と役割</li> </ul> <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校組織を活性化させるためのマネジメント 講師：兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一</li> </ul>

講 座 名	対 象	修了人数	期 日	内 容
県立学校事務長研修講座<指定>	県立学校の新任事務長 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講していない者又は修了していない者	高9 特4	前期5/10 後期8/30 オンライン講義	前期 【資料提供】 ・新任教頭・新任事務長に望むこと ・教育法規について ・学校施設の管理について ・情報公開・個人情報保護について 後期 ・事務長の職務と役割について
教務主任研修講座<一部指定>	(指定) 新任教務主任 (希望) 教務主任	小20 中15 高12 特7	5/25	・教務主任に期待する ・教育活動と教育法規について ・教務主任の職務について (講義) ・教務主任の職務について (協議)
学年主任研修講座<一部指定>	(指定) 新任学年主任 (希望) 学年主任、その他学年経営の中核となる教員	小5 中26 高21 特4	5/19 一部 オンライン講義	・学年主任の役割とは ・組織経営とミドルリーダー 講師：日本大学 教授 藤平 敦
保健主事研修講座<一部指定>	(指定) 新任保健主事 (希望) 保健主事及び学校保健活動の中核となる教員	小12 中5 高11 特4	5/20	・保健主事の職務と役割 ・学校保健活動の実践 ～健康教育実践研究支援事業指定校として～ ・保健主事としての取組について
生徒指導主任・主事研修講座<一部指定>	(指定) 新任生徒指導主任・主事 (希望) 生徒指導主任・主事、その他生徒指導の中核となる教員	小17 中15 高18 特6	4/28	【資料提供・課題提出】 ・県内の生徒指導上の諸課題について ・児童虐待への対応 講師：青森県公認心理士・臨床心理士協会 顧問 関谷 道夫 ・生徒指導の役割連携の推進に向けて －生徒指導主事に求められる具体的な行動－
中学校進路指導担当者研修講座	中学校の進路指導主事及び進路指導に関わる教員	中17	5/28	・進路指導の考え方と進路指導主事の役割 ・自校における進路指導の課題と対策 ・自校における進路指導の進め方
校内研修担当者研修講座(前期)(後期)	小学校、中学校の 新任研修主任 特別支援学校の 新任研修担当教員 上記以外で希望する教員	小13 中15 特5	前期5/20 後期8/20 一部 オンライン講義	前期 ・研修主任の職務 ・校内研修の充実・活性化 ・本校の校内研修 後期 ・カリキュラム・マネジメントの視点ですすめる校内研修の在り方 講師：甲南女子大学 教授 村川 雅弘 ・1学期の評価と今後の対策
道徳教育推進教師研修講座	小学校、中学校の 新任道徳教育推進教師 特別支援学校の 新任道徳教育担当教員 上記以外で希望する教員	小6 中16 特8	6/22～6/23 一部 オンライン講義	・道徳教育推進教師の役割と取組 ～コーディネーター・アドバイザーとして～ ・我が校の道徳教育 ～学校全体で取り組む道徳教育の実際～ ・自校の特色を生かした道徳教育展開プランづくり ・学校の特色を生かした道徳教育 ～道徳教育をマネジメントする～ 講師：文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也



講座名	対象	修了人数	期日	内容
特別支援教育コーディネーター研修講座＜一部指定＞	(指定)教頭以外の新任特別支援教育コーディネーター(希望)新任以外の特別支援教育コーディネーター、特別支援教育コーディネーターの教頭	小10 中13 高4 特7 その他1	6/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターの役割</li> <li>特別支援教育コーディネーターの実践</li> <li>事例検討の進め方</li> </ul>
学校での食育推進のための研修講座＜一部指定＞	(指定)新任給食担当職員又は新任食育担当者(希望)教諭、養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員等	小5 中2	8/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動における食育の授業づくり</li> <li>食育推進のための取組例</li> <li>講師：県学校栄養士協議会 会長 佐藤 正子</li> <li>食に関する指導計画の見直しとリメイク</li> </ul>
養護教諭研修講座	養護教諭・養護助教諭	小3 高2	9/7～9/8 オンライン参加	<p>【資料提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央研修会伝達</li> </ul> <p>【オンライン講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症に伴う新しい保健室経営の在り方 講師：女子栄養大学 教授 大沼 久美子</li> <li>学校における子供の自殺予防 講師：東京家政大学 名誉教授 相馬 誠一</li> </ul>
栄養教諭・学校栄養職員研修講座	小学校、中学校、特別支援学校の栄養教諭・学校栄養職員	小2 中4	8/16 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動における食育の授業づくり</li> <li>子どもの食育活動の充実に向けて</li> <li>講師：宮城学院女子大学 教授 平本 福子</li> </ul>
県立学校事務職員研修講座	県立学校事務職員を(臨時事務職員を含む)	高16	10/5	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の勤務条件について</li> <li>学校における災害対応</li> <li>講師：日本赤十字社青森県支部 事業推進課長 山野内 博見</li> <li>就学支援金の手続きについて</li> </ul>
県立学校臨時講師等研修講座Ⅰ	令和3年度に採用された県立学校の臨時講師・臨時養護助教諭(本研修講座当日において勤務している者)	高16 特12	4/13～4/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の服務規律について</li> <li>学校安全について</li> <li>教職員としての心構え</li> <li>生徒理解について</li> <li>教職員として知っておきたいこと～情報セキュリティについて～</li> <li>～特別支援教育について～</li> <li>教科指導について</li> <li>教育課程・特別支援教育について</li> <li>各教科における指導について</li> <li>指導上の課題とその対応について</li> </ul>
県立学校臨時講師等研修講座Ⅱ	令和3年度に採用された県立学校の臨時講師・臨時養護助教諭(本研修講座当日において勤務している者)	高1 特9	10/12～10/13	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の服務規律について</li> <li>学校安全について</li> <li>教職員としての心構え</li> <li>生徒理解について</li> <li>教職員として知っておきたいこと～情報セキュリティについて～</li> <li>～特別支援教育について～</li> <li>教科指導について</li> <li>教育課程・特別支援教育について</li> <li>各教科における指導について</li> <li>指導上の課題とその対応について</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
寄宿舎指導員研修講座	寄宿舎指導員 臨時寄宿舎指導員	特15	7/27 一部 オンライン講義	・発達障害のある幼児児童生徒への生活指導 講師：北海道教育大学釧路校 教授 小野川 文子 ・寄宿舎指導員としての私の実践 ・寄宿舎における指導・支援

### ③ 専 門 研 修

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
「考え、議論する道徳」の授業づくり研修講座	小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教員	小6 中11 特3 その他 1	10/5～10/6 一部 オンライン講義	・「考え、議論する道徳」の実現に向けて ・「考え、議論する道徳」の授業づくり ・「特別の教科 道徳」の授業づくりと評価の在り方 講師：秋田公立美術大学 副学長（大学院教授）毛内 嘉威 ・「考え、議論する道徳」の授業づくりの実際 ・「考え、議論する道徳」の授業実践
小学校国語科授業づくり講座〔話す・聞く〕	小学校の教員及び特別支援学校の小学部・中学部・高等部（国語科担当）教員	小9 特2 その他 2	8/31～9/1 オンライン参加	・話す・聞く力を育てる授業改善 ・タブレット端末を活用した国語科の授業
中学校国語科授業づくり講座	中学校の国語科担当教員及び特別支援学校の中学部・高等部（国語科担当）教員	中19 特1 その他 1	6/15～6/16	・学習指導要領に基づいた「読むこと」指導の授業改善 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点で考えるこれからの国語授業～ ・付けたい力と「主体的・対話的で深い学び」を関連づけた国語科教育の実際 ・学習指導要領に基づいた「読むこと」指導の授業改善 講師：岩手大学 教授 藤井 知弘 ・付けたい力と「主体的・対話的で深い学び」を関連づけた「読むこと」「書くこと」指導の授業構想
主体的・対話的で深い学びを実現する高等学校国語科授業づくり講座	高等学校特別支援学校は高等部国語担当教員 臨時講師も対象	高13	6/21～6/22	・主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり 講師：横浜国立大学 名誉教授 高木 展郎 ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
主体的・対話的で深い学びを実現する国語科「言語活動」実践力アップ講座	小学校の教員及び中学校、高等学校の国語科担当教員 特別支援学校の小学部、中学部・高等部（国語科担当）教員	小2 中11 高1 特1	7/1～7/2	・主体的・対話的で深い学びにつなげる言語活動の実践 ・子どもの成長に応じた言語活動の実践 ・主体的・対話的で深い学びを実現する言語活動のモデルづくり〔話すこと・聞くこと〕 ・実生活で生きる言語能力 講師：デーリー東北新聞社 論説副委員長 粒来 和成 読者コミュニケーション部 次長 青山 友子 ・主体的・対話的で深い学びにつなげる言語活動のモデルづくり〔書くこと〕
考える力を高める小学校社会科教育講座	小学校及び特別支援学校（小学部）の教員	小8	9/9～9/10 オンライン参加	・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す問題解決的な学習の授業改善 ・思考力、判断力、表現力等を育てる社会科教育の実践 ・問いを重視した授業づくりと学習評価 講師：国士舘大学 教授 澤井 陽介

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中学校社会科学教育講座	中学校の社会科学担当教員及び特別支援学校（中学部）の社会科学担当教員	中16 特1	9/9～9/10 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力等の育成を図る社会科学科の授業</li> <li>・思考力・判断力・表現力等の育成を図る社会科学科の授業実践</li> <li>・単元を見通した授業づくりと学習評価</li> </ul> 講師：国士館大学 教授 澤井 陽介
社会科学教材開発講座	特別支援学校は中学校校部社会課担当教員、高等部地理歴史科及び公民科教員	中4 高1 特1	6/22～6/23 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民社会の問題としてのハンセン病問題</li> <li>講師：東北学院大学 准教授 黒坂 愛衣</li> <li>・資質・能力を育む授業づくりに向けて</li> <li>・ハンセン病問題と人権教育の教材化～国立ハンセン病資料館所蔵資料を活用して～</li> <li>・ハンセン病の歴史：ハンセン病を経験して</li> <li>講師：国立療養所松丘保養園 入所者自治会長 佐藤 勝</li> <li>・人権教育について</li> <li>・「社会的な見方・考え方」を働かせる教材と授業づくり</li> <li>～ハンセン病問題と人権教育の教材化～</li> </ul>
高等学校地理歴史科公民科教育講座	高等学校、特別支援学校（高等部）は地理歴史科、公民科担当教員	高15 特4 その他 1	8/24～8/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資質・能力を育む「公共」の授業づくりに向けて</li> <li>講師：文部科学省初等中等教育局 教科調査官 磯山 恭子</li> <li>・地理歴史科公民科における学習評価について</li> <li>・地理歴史科公民科における「問い」のデザイン</li> <li>講師：産業能率大学 准教授 皆川 雅樹</li> <li>・ICTを活用した授業改善の視点</li> <li>・資質・能力を育む授業づくりに向けて</li> </ul>
小学校算数科教育講座	小学校及び特別支援学校の教員	小17 特3	7/27 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の課題をもとにした授業づくりの視点</li> <li>・指導と評価の一体化に向けた授業の在り方</li> <li>講師：国立教育政策研究所 教育課程調査官 笠井 健一</li> </ul>
小学校算数科授業づくり講座	小学校及び特別支援学校の教員	小43 特5	8/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な見方・考え方を広げる授業づくり</li> <li>・タブレット端末を活用した算数科の授業</li> <li>・深い学びのある授業</li> <li>講師：弘前大学大学院教育研究科 教授 中野 博之</li> </ul>
中学校数学科教育講座	中学校及び特別支援学校（中学部）の数学担当教員	中18 特1 その他 1	6/30 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの資質・能力を育む授業</li> <li>講師：国立教育政策研究所 教育課程調査官 水谷 尚人</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業実践</li> </ul>
中・高等学校数学科授業づくり講座	中学校、高等学校及び特別支援学校（中学部、高等部）数学担当教員	中9 高9	8/24～8/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発見・解決の過程をイメージした授業づくり</li> <li>・思考力・判断力・表現力を問う素材（問題）構想</li> <li>・構想した素材を振り返る</li> <li>・ICT機器を効果的に活用した数学科の授業づくり</li> <li>・「付けさせたい力」を明確にした授業づくり</li> <li>・これからの授業づくりに向けて</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内容
高等学校数学科教育講座	特別支援学校は高等部数学科担当教員	高16 その他 1	9/1 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数学的な見方・考え方」を働かせた数学的活動の充実 講師：東京学芸大学大学院 教育学研究科 教授 西村 圭一</li> <li>・仮説検定の考え方 講師：東京学芸大学大学院 教育学研究科 教授 西村 圭一</li> <li>・数学的活動を取り入れた授業づくりに向けて</li> </ul>
小学校理科実践力向上研修講座	小学校及び特別支援学校（小学部）教員	小6	6/14～6/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の授業改善の視点</li> <li>・観察、実験の工夫～A物質・エネルギー～ ～B生命・地球～</li> <li>・問題解決の力を育む観察、実験</li> <li>・理科におけるプログラミング学習</li> </ul>
小・中学校理科授業づくり講座	小学校教員、中学校理科担当教員及び特別支援学校（小学部、中学部理科担当）教員	小2 中4	8/19～8/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の授業改善の視点</li> <li>・問題解決の力を育む観察、実験（中学校編）</li> <li>・問題解決の力を育む観察、実験（小学校編）</li> <li>・問題解決の力を育む授業づくり～評価計画と単元構想～</li> <li>・問題解決の力を育む授業づくり～指導計画～</li> <li>・問題解決の力を育む授業づくりの在り方</li> </ul>
中学校理科実験講座	中学校の理科担当教員及び特別支援学校（中学部理科担当）の教員	中13	6/22～6/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科授業改善の視点</li> <li>・授業で使える観察・実験の工夫（3年2分野の内容、1年2分野の内容、2年1分野の内容）</li> </ul>
高等学校理科研修講座 [物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎]	特別支援学校は高等部理科担当教員を対象 実習助手も対象	高6	6/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の見方・考え方を働かせる授業デザイン～観察・実験やICTの活用を通して～</li> <li>・観察・実験の方法 ～物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎</li> </ul>
学びを実感させる高等学校理科研修講座 [物理]	特別支援学校は高等部理科担当教員を対象 実習助手も対象	高5	8/31 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の見方・考え方を働かせる授業デザイン～観察・実験やICTの活用を通して～</li> <li>・興味・関心を引き出す観察・実験とその工夫</li> <li>・身近な素材を用いた観察・実験とその教材開発</li> </ul>
学びを実感させる高等学校理科研修講座 [化学]	特別支援学校は高等部理科担当教員を対象 実習教諭も対象	高5	8/24～8/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の見方・考え方を働かせる授業デザイン～観察・実験やICTの活用を通して～</li> <li>・興味・関心を引き出す観察・実験とその工夫</li> <li>・身近な素材を用いた観察・実験とその教材開発</li> <li>・単元を貫く観察・実験を取り入れた授業づくり～資質・能力をバランスよく育むために～</li> <li>・思考力・判断力・表現力を引き出す実践とその工夫</li> </ul>
学びを実感させる高等学校理科研修講座 [生物]	特別支援学校は高等部教員を対象 臨時講師、実習教諭等も対象	高4	9/7 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを実感させる授業・実験の工夫</li> <li>・観察・実験に関する指導の工夫</li> <li>・資質・能力の育成を意識した観察・実験への取組</li> </ul>
時間的・空間的な関係を探る理科野外実習講座 [地学]	理科教員または理科担当教員を対象 臨時講師、実習教諭等も対象	中3 特1	7/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外観察の方法</li> <li>・地域素材の活用方法</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内容
学びを実感させる理科実習講座 〔天体観察〕	理科教員または理科担当教員を対象 臨時講師、実習教諭等も対象	小2 中1 高1	10/18	・天体望遠鏡の基本操作 講師：星空案内人資格認定制度運営機構 副機構長 甲田 昌樹 ・天体観察の方法
気付きの質を高める小学校生活科講座	幼稚園等教職員、小学校教員及び特別支援学校(小学部)教員	小5	9/6～9/7 オンライン参加	・気付きの質を高める生活科の授業づくり 講師：千葉大学 教授 鈴木 隆司 ・身近な素材を通じた指導と評価の在り方 ・望ましい動物飼育の在り方 講師：県動物愛護センター 総括主幹 藤本 道志 【資料提供】 ・気付きの質を高める生活科の授業
感性を育む音楽科実践講座	中学校・特別支援学校(中学部)教員(臨時講師も含む)	小1 中6 特4	10/27	・鑑賞から広がるこれからの学び 講師：文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 志民 一成 ・資質・能力を育む鑑賞の授業づくり
豊かな表現力を育む音楽科講座	中学校・高等学校・特別支援学校(中学部・高等部)教員(臨時講師も含む)	中17 高1 特4	11/25	・音楽科における学習評価の改善について 講師：音楽教育推進協議会 理事 加藤 幸平 ・資質・能力を育む授業づくりについて
芸術系教科の資質・能力を育む授業づくり講座	中学校・高等学校・特別支援学校(中学部・高等部)教員(臨時講師も含む)	中3 高1 特2	6/23	・芸術科が育む資質・能力について ・資質・能力を育む授業づくり① ～単元・題材構成の工夫～ ・資質・能力を育む授業づくり② ～指導と評価の一体化について～
「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する！小学校図工・音楽科講座	特別支援学校対象は小学部	小6 特5	8/18～8/19 一部 オンライン講義	・図画工作科における指導と評価の一体化 講師：文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 小林 恭代 ・「造形的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する造形遊び ・「音楽的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する表現活動 ・造形と音楽のコラボレーション ・これからの図工と音楽の授業づくり
鑑賞の学びを考える！小学校図工・音楽科講座	特別支援学校対象は小学部	特2	10/26～10/27	・意味や価値をつくりだす鑑賞の学習 ・見方や感じ方を深める美術鑑賞の学び 講師：国立文化財機構文化財活用センター 研究員 小島 有紀子 ・感性を育むこれからの資質・能力 ・鑑賞から広がるこれからの学び ・資質・能力を育む鑑賞の授業づくり
創造活動を通じた学びを考える美術科教育講座	特別支援学校は中学部・高等部美術科担当教員	中3 高1 特2	9/22 オンライン参加	・指導の工夫改善につながる学習評価の在り方 講師：文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 平田 朝一 ・指導と評価の一体化を目指す美術の授業づくり
見方や感じ方を深める美術科教育講座〔鑑賞〕	特別支援学校は中学部・高等部美術科担当教員	中2 特4	10/26	・意味や価値をつくりだす鑑賞の学習 ・見方や感じ方を深める美術鑑賞の学び 講師：国立文化財機構文化財活用センター 研究員 小島 有紀子
家庭科教育講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校(家庭科担当)	小1 中3 高9 特3	10/20	・タブレットPCを活用した効果的な調理実習の授業づくり

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中学校技術・家庭科(家庭分野)・高等学校家庭科教育講座	中学校、高等学校、特別支援学校(中等部・高等部)家庭科担当教員	中1 高2 特2	9/7 オンライン参加	・住生活分野における中高家庭科の系統性 ・青森県住まい・住まい方読本の活用方法 ・防災を取り入れた中高家庭科の授業づくり 講師：日本災害医学会 災害セミナーインストラクター 吉川 靖之
中学校技術・家庭科教育講座 [材料と加工・生物育成]	中学校教員及び特別支援学校(中学部)教員	中1 特2	5/27～5/28	・技術・家庭科の学習指導の現状と課題 ・木材製品の設計・製作 ・技術の見方・考え方を働かせた授業づくり
中学校技術・家庭科教育講座 [情報]	中学校教員及び特別支援学校(中学部)教員	中4 その他 1	9/30～10/1	・技術・家庭科の学習指導の現状と課題 ・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツの設計・制作 ・計測・制御システムの設計・制作
中学校技術・家庭科教育講座 [エネルギー変換]	中学校教員及び特別支援学校(中学部)教員	中1 その他 1	7/28	・エネルギー変換の技術の指導内容と指導計画 ・電気機器の設計・製作
小学校体育科研修講座	特別支援学校は小学部	小10 特1 その他 1	10/25	・これからの保健授業づくり ・表現運動系の特性や魅力を生かした授業改善 講師：東海大学 准教授 田巻 以津香
小・中学校体育授業づくり研修講座	特別支援学校は小学部教員、中学部体育担当教員	小3 中7 特2 その他 1	9/27 オンライン参加	・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ・豊かなスポーツライフの基礎を築く共生体育の在り方 講師：横浜国立大学 教授 梅澤 秋久
豊かなスポーツライフを実現する保健体育授業研修講座	中学校・高等学校・特別支援学校(中学部・高等部)教員(臨時講師も含む)	中8 高12 特6	11/22	・体育授業における課題と工夫 ・新学習指導要領に基づいた体育授業づくり 講師：日本女子体育大学 教授 高橋 修一
中・高等学校保健体育科研修講座	中学校・高等学校・特別支援学校(中学部・高等部)教員(臨時講師も含む)	中11 高8 特2	10/27	・保健における課題と工夫 ・新学習指導要領に基づいた保健の授業づくり～保健におけるがん教育の進め方～ 講師：横浜国立大学 教授 物部 博文
体育授業ICT活用研修講座	小学校教員、中学校教員、高等学校教員	小9 中11 高2 その他 1	8/17 オンライン講義	・体育における主体的・対話的で深い学びを支えるICTの利活用 講師：東京学芸大学 准教授 鈴木 直樹
小学校外国語・外国語活動研修講座	小学校及び特別支援学校(小学部)の教員	小20 特5	6/15 一部 オンライン講義	・外国語・外国語活動の授業づくり ・外国語・外国語活動の指導の在り方 講師：東京学芸大学 教授 粕谷 恭子
中学校英語指導法研修講座	中学校の外国語(英語)科担当教員及び特別支援学校(中学部)の外国語(英語)科担当教員	中13 特1	9/24 オンライン参加	・中学校英語における課題と改善の方向性 ・中学校英語教師に求められる役割 講師：文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 山田 誠志

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中学校英語授業づくり研修講座	中学校の外国語（英語）科担当教員及び特別支援学校（中学部）の外国語（英語）科担当教員	中13特2	10/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の授業改善の視点</li> <li>即興で話すことができる生徒の育成に向けて</li> <li>子どもの資質・能力を高める授業づくり</li> </ul> 講師：信州大学学術研究院 教授 酒井 英樹
高等学校英語科言語活動実践講座	高等学校（英語科担当）教員	高8	6/15～6/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーキング活動の工夫と充実～はじめてのディベートとディスカッション～</li> <li>スピーキングタスクと評価</li> </ul> 講師：弘前大学 助教 横内 裕一郎 <ul style="list-style-type: none"> <li>スピーキングテストの実施に向けて</li> <li>スピーキングテストの実際</li> </ul>
高等学校英語指導法改善講座	高等学校（英語科担当）教員、特別支援学校（高等部英語科担当）教員	高12特3	8/31 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語指導法のさらなる改善に向けて</li> </ul> 講師：上智大学 教授 和泉 伸一 <ul style="list-style-type: none"> <li>統合的な言語活動を重視した授業づくり</li> </ul>
情報科教育講座	高等学校（情報科担当）教員、特別支援学校高等部（情報科担当）教員	高4特2	12/7～12/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報社会の問題解決について</li> <li>コミュニケーションと情報デザインについて</li> <li>情報通信ネットワークとデータの活用について</li> </ul>
高等学校プログラミング基礎講座	プログラミングを担当している高等学校教員、特別支援学校高等部教員	高7特1	9/28～9/29 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラミング教育と環境構築</li> <li>アルゴリズムと基本制御構文</li> <li>応用的プログラム</li> <li>プログラムの関数化</li> <li>ライブラリとWebAPIの活用</li> <li>モデル化とシミュレーション</li> </ul>
産業教育指導者講座（前期）（後期）	高等学校（農業・工業・商業・情報・家庭・水産等）で産業系の教科を担当している教諭または実習助手	高18	前期6/11 オンデマンド 後期9/15 オンライン参加	前期【資料提供・課題提出】 <ul style="list-style-type: none"> <li>青森県産業の現状と展望</li> </ul> 講師：地方独立行政法人青森県産業技術センター 弘前工業研究所技術支援部 総括研究管理員（部長事務取扱） 佐藤 健 後期 <ul style="list-style-type: none"> <li>探究する学習のデザイン</li> <li>学習活動の設計と評価</li> </ul> 講師：東北学院大学 教授 稲垣 忠
農業教育指導者講座	高等学校（農業科担当）教員、実習助手	高12	7/8～7/9 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領 教科「農業」について</li> <li>攻めの農林水産業の推進について</li> <li>高等学校における農業教育について</li> <li>新学習指導要領を踏まえた教科の実践</li> <li>りんご研究所における地域農業振興への取り組み</li> </ul> 講師：地方独立行政法人 青森県産業技術センター りんご研究所品種開発部 部長 後藤 聡 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域農業振興への取組</li> </ul> 講師：株式会社ヒロサキ 専務取締役 藤村 義美
工業教育指導者講座	高等学校（工業科担当）教員、実習助手 特別支援学校（工業科担当）教員、実習助手	高4	11/9～11/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領 教科「工業」について</li> <li>3Dプリンターの活用</li> <li>移動式ロボットRobotino®</li> <li>Arduino等プログラミング制御</li> </ul>

講座名	対象	修了人数	期日	内容
商業教育指導者講座	高等学校（商業科担当）教員、実習助手	高11	7/13～7/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領教科商業の趣旨の実現に向けた教科指導</li> <li>・過去の事例から学ぶビジネスモデル～利益を上げるしくみをBMCに描き、儲けどころを識る～</li> <li>・激変するビジネス環境のなか変えていくビジネスモデル～経営戦略をBMCから読み、次なる戦略を企てる～</li> <li>・顧客にとっての価値から企画する新ビジネス～顧客にフォーカスしたキャンパスVPCとの連携～</li> </ul> 講師：（一社）ビジネスモデルイノベーション協会 認定ジュニアコンサルタント 串原 憲和 <ul style="list-style-type: none"> <li>・BMCを活用した新科目「観光ビジネス」の指導</li> <li>～観光ビジネスをBMCに描く～</li> </ul>

### イ 教科外研修

講座名	対象	修了人数	期日	内容
総合的な学習の時間研修講座	小学校、中学校、及び特別支援学校の教員	小4 中2 特1 その他 3	7/13～7/14 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の役割</li> <li>・置かれた場所で夢を叶える方法</li> </ul> 講師：有限会社 リンゴミュージック 代表取締役 樋川 新一 <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究のプロセスで学ぶ総合的な学習の時間</li> <li>・探究的に学ぶ総合的な学習の時間の実践</li> <li>・探究的な学習の過程で取り組む総合的な学習の時間</li> </ul> 講師：山形大学学術研究院 教授 野口 徹
高等学校総合的な探究の時間研修講座	高等学校教員及び特別支援学校（高等部）の教員	高30 特3	9/15 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究する学習のデザイン・学習活動の設計と評価</li> </ul> 講師：東北学院大学 教授 稲垣 忠
小・中学校特別活動研修講座	小学校、中学校及び特別支援学校（小学部、中学部）の教員	小19 中19 その他 3	8/30	<b>【資料提供・課題提出】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的・実践的な態度を育てる学級活動の指導の工夫</li> </ul> <b>【資料提供・課題提出】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる力の育成と特別活動の役割</li> </ul> 講師：文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 安部 恭子
教育活動全体をつなぐキャリア教育研修講座	小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小2 中15 高11 特4 その他 1	9/3 オンライン参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いま、なぜキャリア教育なのか？～学校教育におけるキャリア教育の役割～</li> </ul> 講師：筑波大学人間系 教授 藤田 晃之
高等学校における道徳教育講座	特別支援学校は高等部教員	高53 特4	6/14 一部 オンライン講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校における道徳教育の推進</li> </ul> 講師：文部科学省初等中等教育局 教科調査官 飯塚 秀彦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の推進に向けて</li> </ul>
高等学校における特別支援教育講座	高等学校教員	高8	10/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校における特別支援教育</li> <li>・高等学校における特別支援教育の実践に向けて</li> <li>・高等学校における特別支援教育～個別の指導計画の作成に向けて～</li> </ul>



講座名	対象	修了人数	期日	内容
「気になる子供」のかわり方研修講座	幼稚園教員、保育所（園）職員、認定こども園職員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小13 中15 高10 特10 その他2	10/6	・「気になる子供」の視点から保育や授業を見直す 講師：教育心理支援教室・研究所ガジュマルつがる 代表 松本 敏治 弘前大学医学部心理支援科学科 弘前大学大学院保健学研究科 教授 栗林 理人
子供への緊急対応研修講座	小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小4 中7 高9 特5 その他4	9/8 オンライン参加	・学校における子供の自殺予防 講師：東京家政大学 名誉教授 相馬 誠一
今日から始めるいじめ対策研修講座（一部指定）	（指定）新任ハートフルリーダー（希望）小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小6 中5 高16 特8 その他3	5/13 一部 オンライン講義	・いじめについての認識と理解 ・いじめの理解といじめ防止のための取組 講師：東京理科大学 教授 中村 豊
今日から始める保護者対応研修講座	幼稚園教員、保育所（園）職員、認定こども園職員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員、寄宿舎指導員	小2 中7 高20 特11 その他3	7/2 オンライン講義	・保護者理解と信頼関係を築くための対応 講師：神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男
今日から始める学級（HR）集団づくり研修講座	小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小9 中12 高4 特5 その他4	7/15 一部 オンライン講義	・教育相談アプローチによる学級経営実践 ・より良い学級（HR）集団づくり 講師：文教大学 教授 会沢 信彦
今日から始めるグループ・アプローチ研修講座	幼稚園教員、保育所（園）職員、認定こども園職員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小1 高2 特4 その他3	8/18 一部 オンライン講義	・グループ・アプローチについて 講師：聖徳大学 教授 鈴木 由美
今日から始める不登校対策研修講座	幼稚園教員、保育所（園）職員、認定こども園職員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小11 中13 高13 特10 その他5	7/28	・不登校の理解と対応 講師：F R教育臨床研究所 所長 花輪 敏男
今日から始める教育相談研修講座	幼稚園教員、保育所（園）職員、認定こども園職員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小6 中15 高9 特8 その他2	9/15 オンライン参加	・教育相談の理論と実際 講師：明治大学 教授 諸富 祥彦

講座名	対象	修了人数	期日	内容
特別支援教育新担当教員研修講座〔知的・通級コース〕	特別支援学級（知的障害）及び通級指導教室新担当教員	小30 中15	前期5/17 後期11/17	（前期） ・教育課程と個別の教育支援計画・個別の指導計画について ・保護者との関係作り ・障害特性に応じた指導 （後期） ・特別支援教育の推進 ・特別支援学級、通級指導教室児童生徒の進路 ・障害特性に応じた指導 ～授業改善と評価～
特別支援教育新担当教員研修講座〔自・情、弱視、難聴、肢体、病弱コース〕	特別支援学級（知的障害を除く）新担当教員	小26 中20	前期5/21 後期11/19	（前期） ・教育課程と個別の教育支援計画・個別の指導計画について ・保護者との関係づくり ・障害特性に応じた指導 （後期） ・特別支援教育の推進 ・特別支援学級、通級指導教室児童生徒の進路 ・障害特性に応じた指導 ～授業改善と評価～
特別支援学級授業づくり研修講座	特別支援学級新担当教員研修講座を受講した教員で、特別支援学級2～6年目担当教員	小2	前期7/28 後期9～12月 から1日	（前期） ・特別支援学級における授業づくり ・授業をつくる （後期） ・現地研修（授業参観、助言）
自立活動研修講座	特別な配慮を必要とする幼児児童生徒にかかわる教員	小7 中8 特7	7/8 一部 オンライン講義	・自立活動の指導の基本的理解 講師：国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 北川 貴章 ・自立活動の指導の充実に向けて
ICTを活用した授業づくり（特別支援教育）研修講座	特別な配慮を必要とする幼児児童生徒にかかわる教員	小2 中1 高1 特16	8/26 一部 オンライン講義	・特別支援学校におけるICTを活用した授業づくりの推進 講師：東北福祉大学 准教授 杉浦 徹 ・特別支援学校におけるICTを活用した実践 ・ICTを活用した授業を考える
教育相談（特別支援教育）研修講座	寄宿舎指導員を含む	小4 中5 高3 特7 その他 1	9/16 オンライン参加	・保護者の思いによりそう教育相談 講師：弘前大学教職大学院 教授 敦川 真樹 ・学校における教育相談の実際 ・保護者との面談
通常の学級のユニバーサルデザイン研修講座	小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小15 中18 高13 特8 その他 3	10/12 一部 オンライン講義	・通常の学級における教育のユニバーサルデザイン 講師：星槎大学大学院 教授 阿部 利彦 ・通常の学級における実践 ・学級全体でできる支援を考える
発達支援と教材教具研修講座	・小学校は、特別支援学級及び通級指導教室担当教員 ・障害の程度の重い児童生徒の初期の発達について学びたい教員	小1 中1 特11	10/29 一部収録済み 動画を使用した講義	・発達支援と教材教具 講師：杉並区立済美養護学校 教諭 大高 正樹 ・発達を促す授業の検討
子供たちの学びを止めない！オンライン授業実践講座	小学校教職員、中学校教職員、高等学校教職員、特別支援学校教職員	小3 中7 高7 特3	5/26	・「公正に個別最適化された学びの実現」とオンライン授業 ・オンライン授業における著作権 ・TV会議システムを活用したオンライン授業 ・動画共有サービスを活用したオンライン授業 ・クラウドサービスを活用したオンライン授業

講座名	対象	修了人数	期日	内容
校内LAN講座〔はじめてのネットワーク環境設定〕	初めて校内LANの管理をされる方、これからグループウェアの導入をお考えの方	小1 中2 高3 特3 その他 1	5/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IPアドレスとネットワーク機器</li> <li>・PCのネットワーク設定</li> <li>・無線LANルーターの設定</li> <li>・グループウェアの構築</li> </ul>
校内LAN講座〔はじめてのネットワーク環境設定〕	高等学校教職員、特別支援学校教職員	高8 特3	7/27～7/28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザー・グループの管理</li> <li>・アクセス権の設定</li> <li>・バックアップとリストア</li> <li>・グループポリシーの適用</li> <li>・WSUSの構築</li> </ul>
ゼロから学ぶ！iPad初心者講座	iPadの使用経験がない方	小1 中4 高5 特2 その他 1	5/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本操作</li> <li>・標準アプリの使い方</li> <li>・大型提示装置との接続</li> <li>・授業支援アプリの活用</li> </ul>
ゼロから学ぶ！Windowsタブレット初心者講座	Windowsタブレットの使用経験がない方	小3 中3 高3	5/31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「基本操作・標準アプリの使い方」</li> <li>・「接続と拡大投影・授業支援への活用」</li> </ul>
ゼロから学ぶ！Chromebook初心者講座	Chromebookの使用経験がない方	小2 中9 高2 特1	6/2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Chromebookの基本操作</li> <li>・電子黒板との接続</li> <li>・Google Workspace for Educationの活用</li> </ul>
Net Commons活用講座	高等学校教員、特別支援学校教員	高5 特6	6/22～6/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルに関する基礎知識</li> <li>・Net Commons環境構築</li> <li>・管理と権限</li> <li>・Net CommonsによるWebサイトの作成</li> <li>・管理系モジュールとその利用</li> <li>・ルーム管理</li> <li>・FTPファイル転送について</li> </ul>
小学校プログラミング教育研修講座	小学校教員、中学校教員、特別支援学校（小・中学部）教員	小4 特7 その他 5	8/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校段階におけるプログラミング教育の在り方</li> <li>講師：岩手県立大学 准教授 高木 正則</li> <li>・自校におけるプログラミング教育</li> <li>・プログラミングツールの演習</li> </ul>

## 4 研究事業

本県学校教育の諸課題について調査研究を行い、その成果を公表及び提供します。

- 学校への還元を第一とし、教育活動に役立つ実践的・先導的な研究を行います。
- 学校での活用を進めるため、研究報告書、実践の手引き、指導資料等を作成して学校に提供します。
- 研究成果や研究過程を、Web上へ掲載し、広く県民に理解いただくとともに、全国に向け発信します。

### (1) 研究の種類

#### ① センター研究

本県学校教育の課題解決や学校支援に資する実践的・先導的な研究として、「学校におけるICTの効果的な利活用」をテーマとして、全指導主事が研究にあたり、成果物等をWebページに掲載した。

#### 2021 センター研究 第Ⅰ期（令和3年度～令和4年度）

グループ名	おもな研究内容
国語	国語科の学習指導におけるICTの効果的な利活用に関する研究
社会、地理歴史、公民	1人1台端末を活用した社会的事象等について調べまとめる技能を育む社会的・地理歴史科・公民科の授業開発研究
算数、数学	小中高の学びを体系的に考えるICTを活用した算数・数学科教育の研究
理科、物理、化学、生物、地学	ICTを活用した理科、物理、化学、生物、地学の授業づくり
音楽、図画工作、美術	ICTを活用した音楽、図画工作、美術科の授業づくり
体育、保健体育	体育科、保健体育科の学習指導における1人1台端末の活用
家庭、技術・家庭	家庭、技術・家庭科の指導におけるICT活用に関する研究
外国語	オンライン／対面授業の長所を取り入れたハイブリッドな学びとその評価方法について
特別活動	小・中学校特別活動の学級活動における、情報端末を用いた指導に関する研究
特別支援教育	特別な支援を要する児童生徒への機能代替アプローチによるICT活用の理解啓発に関する研究

※令和5年度～令和6年度は第Ⅱ期とし、第Ⅰ期末に方向性を検討

#### ② 研究員研究（2年間）

義務教育課、産業教育課、特別支援教育課、教育相談課に所属する研究員が、所属課の領域に関する研究主題を設定して、個人研究を行い、研究論文を作成し、Web上に掲載した。

### (2) 「あおり教育研究発表会2021」について

2年目研究員の研究発表、センター研究の発表、県内の学校からの実践発表、外部講師による講演会等を行った。

## 5 教育相談事業

幼児・児童及び生徒の教育に関する諸問題の解決に向け、医師等の専門相談員の指導助言を受けながら、本人、保護者及び教育関係者の相談に応じた。

### 相談件数

相談件数(件)		電話(件)	来所(件)
2,408	①教育相談課	2,176	1,202
	②特別支援教育課	232	89
			974
			143

## 6 資料・情報の収集・提供の事業

学校教育に関する資料及び情報を収集・整理し、これを保存するとともに、研修、研究その他に活用できるように提供した。

〈所蔵資料数〉

図書	24,623冊
資料(教科等関係)	3,999冊
視聴覚教材	425本

## 7 その他の事業

### (1) 広報事業

センターの事業について理解を得、周知徹底を図るため、刊行物・Webページ等により広報事業を進めた。

主な内容は次のとおりである。

要覧の発行

研修講座等のWebページ公開

「教育相談のご案内」等のリーフレットの配布

「教育広報おもしろけん」(教育庁教育政策課発行)等への記事提供

「センターだより」の発行とWebページ公開(年6回)

「開催した講座の様子」のWebページ公開

### (2) 情報化の推進

学校教育の情報化推進に関する相談や情報通信ネットワークについての技術支援をした。

#### ①「教育の情報化」支援

学習用タブレットや電子黒板等のICT機器の整備や活用法など教育の情報化に関わる技術の提供。

#### ②教育情報の提供

ア 教育の情報化に向けたICTサポート状況や「WEB授業動画配信」など授業で役立つ情報の提供。

イ 青森県教育ネットワーク(ASN)に関わる技術支援及び情報の提供。

(3) 校内研修等講師派遣事業

学校が抱える教育課題等の解決に向けて、教員の資質・能力の向上を目指して行う校内研修等に講師として指導主事を派遣し、研修の活性化を図るとともに教育活動を支援する。

① 申込方法

当センターWebページの「Web申込みフォーム」から申し込む。

② 研修までの流れ

日時が決定し、文書が通知された後、担当者間で詳細な打合せを行う。

(4) 教科指導等サポート事業

県内教員から寄せられる教科指導等の質問に対して的確な情報を提供し、サポートする。

① 利用方法

当センターWebページの「質問入力フォーム」から利用する。

② サポートの方法

当センター指導主事が、電話、電子メール、オンライン（Web会議システム）等により情報を提供してサポートする。

(5) 青森県総合学校教育センター センターセミナー（年2回）

教育の今日的課題や学校を取り巻く喫緊の課題についての理解を深めるため、県内外の著名な講師を迎えセミナーを開催した。

① センターセミナーⅠ

「令和の日本型学校教育～個別最適な学び、協働的な学び、ハイブリッドな学び～」

参加者：76名

学校法人桐蔭学園理事長 桐蔭横浜大学学長・教授 トランジションセンター所長 溝上 慎一氏を講師に迎え、「新たな日常」に応じた、新しい学びの在り方について御講義いただいた。全ての子供たちの学びを確実に保障し、個別最適化された学びを実現するためにはどのような方策があるのか、「新しい時代の学びの環境の姿」はどうあるべきなのかについて理解を深めた。

② センターセミナーⅡ →新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

「『手』でつながる、『手』が伝え合う～みんなで知る手話の世界～」

手話落語家 デファー福氏（中山 伸二氏）

## 5章 青森県営体育施設

### [1] 施設の概要

#### 1 新青森県総合運動公園

- (1) 所在地 青森市大字宮田字高瀬22の2  
(2) 設置年月日 平成15年1月8日  
(3) 敷地面積 626,000㎡  
(4) 施設 ①～③の総合体育館には、「マエダアリーナ」、⑦の陸上競技場には、「カクヒログループアスレチックスタジアム」の特定呼称が付与されています。

#### ① メインアリーナ・サブアリーナ

構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造及び一部鉄骨造  
競技施設

(メインアリーナ) 面積2,944㎡ (64m×46m)

バレーボール4、バスケットボール3、テニス3、ハンドボール2、卓球24、バドミントン14、柔道、体操、その他  
観覧席 5,348人

(固定席3,368人、移動席1,980人)

(サブアリーナ) 面積1,472㎡ (46m×32m)

バレーボール3、バスケットボール2、テニス2、ハンドボール1、卓球12、バドミントン6、柔道、その他  
(その他) シャワー室、ロッカー室、研修室等

#### ② 室内プール 25m 8 コース

#### ③ 合宿所

構造 鉄筋コンクリート造

面積 3,700㎡

収容人数等 145名

部屋タイプ：シングル20、ツイン28、トリプル3、和室(15畳)6  
食堂約100名収容、談話室、ランドリールーム、浴室、その他

#### ④ テニスコート (平成23年7月23日サブコート供用開始)

面積 20,800㎡

競技施設 砂入人工芝24面(内4面サブコート)、一部ナイター照明有

観覧席 4,213席

その他 クラブハウス(トイレ、ロッカー室、シャワー室、休憩ラウンジ)、  
かべ打ちテニスコート

#### ⑤ 多目的運動場

面積 21,150㎡

競技施設 天然芝

#### ⑥ 球技場 (平成24年6月23日供用開始)

面積 フィールド11,620㎡ (140m×83m)

競技施設 天然芝、ナイター照明完備、電光掲示板

観覧席 3,300席(固定席1,500席、芝生席1,800席)

そ の 他 本部棟（本部室、放送室、審判控室、事務室、介護室）  
更衣室・トイレ棟（更衣室2チーム分、トイレ、シャワー室）  
トイレ棟  
倉庫

- ⑦ 陸上競技場（令和元年9月1日供用開始）  
面 積 43,438.1㎡  
競技施設 トラック1周400m、直線140m、9コース、フィールド(天然芝)、走幅跳・三段跳砂場6、棒高跳6、走高跳7、砲丸投3、やり投2、円盤投・ハンマー投2  
観 客 席 20,809席
- ⑧ 補助陸上競技場（令和元年9月1日供用開始）  
面 積 22,802.4㎡  
競技施設 トラック1周400m、8コース、フィールド(天然芝)、走幅跳・三段跳砂場6、棒高跳6、走高跳7、砲丸投3、やり投2、円盤投・ハンマー投2  
観 客 数 320席
- ⑨ 投てき・アーチェリー場（令和元年9月1日供用開始）  
面 積 23,394.9㎡  
競技施設 フィールド(天然芝)、砲丸投3、円盤投・ハンマー投1、やり投1
- ⑩ スポーツ科学センター  
面 積 3,089.21㎡  
施設内容 トレーニングルーム、体力測定室、メンタルトレーニング室、カウンセリング室、スポーツ科学研究室、スタジオ、リコンディショニング室、キッズルーム
- ⑪ 遊具広場  
面 積 11,000㎡  
整備施設 複合遊具 2基（児童用 1基、幼児用 1基）  
跳躍遊具 2基（児童用 1基、幼児用 1基）  
単体遊具 16基（児童用 14基、幼児用 2基）  
健康遊具 10基（大人用）  
監視カメラ 1台  
四 阿 3基  
ベ ン チ 3基

## 2 青森県総合運動公園

- (1) 所在地 青森市大字安田字近野234の7  
(2) 設置年月日 昭和41年6月5日  
(3) 敷地面積 171,000㎡  
(4) 競技施設
- ① 野球場  
グラウンド 本塁・センター間121m 両翼93m  
観 覧 席 21,016人



メインスタンド 1,492人  
内野スタンド 3,524人  
外野スタンド 16,000人

② 水泳場

競技施設 屋外プール(50m・日本水泳連盟公認)・屋内プール(25m)、徒渉プール  
(変形)・深水プール

観覧席 800人

※屋内プールは休止中

(5) 公園施設

① 中央広場

② 展望広場 面積 1,052.2㎡

③ 旧陸上競技場(旧主競技場及び旧補助競技場)

※令和2年7月17日園地として一般開放

3 盛運輸アリーナ(青森県営スケート場)

(1) 所在地 青森市大字浜田字豊田地内

(2) 設置年月日 昭和60年11月1日

(3) 敷地面積 42,913.815㎡

(4) 建築面積 11,884.208㎡

(5) 施設規模

① 屋内施設

(ア) スケートリンク 冬期間はアイススケートリンク、夏期間はインラインスケートリンク  
1周250mスピードリンク1面、ホッケーリンク1面  
(30m×60m)

(イ) スポーツライミング施設 ボルダリング壁 高さ 約5.3m 幅 約18m  
リード壁 高さ 約13.7m 幅 約12m

(ウ) 観覧席 2,028席  
固定席 1,058席  
電動移動席 970席

(エ) 事務室、会議室、選手控室、食堂、ロッカー室、貸靴コーナー、採暖室他

(オ) 機械室(空調、ボイラー、電気室等)

② 屋外施設

(ア) 運動広場 3,900㎡

(イ) ジョギングコース 1周860m

#### 4 青森県武道館

- (1) 所在地 弘前市大字豊田2丁目3番  
(2) 設置年月日 平成12年5月1日  
(3) 敷地面積 22,810㎡  
(4) 施設

##### ① 武道館

構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造

競技施設

(主競技場) 面積2,265㎡ (47.6m×47.6m)、相撲1 (移動式土俵)、柔道8、  
剣道9、バスケットボール2、バレーボール2、卓球20、  
バドミントン10、テニス2、体操、その他  
観覧席5,000人

(固定席1,700人、移動式席640人、移動椅子席2,660人)

(補助競技場) 面積 419㎡、各種競技の練習等の多目的利用

(柔道場) 面積 529㎡、2面

(剣道場) 面積 529㎡、2面

(相撲場) 面積 777㎡、常設土俵1、支度部屋、観覧席480人 (ます席)

(近的弓道場) 面積 1,344㎡、射場12人立、射程28m、観覧席100人

(トレーニング室)、(会議室)、(軽食・喫茶室)

##### ② 合宿棟

構造 鉄筋コンクリート造

面積 1,626.9㎡

宿泊人員等 宿泊100人程度、和室16室 (1～4階)、ミーティングルーム兼食堂

##### ③ 遠的弓道場

構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造

競技施設 射場 6人立、射程 60m

観覧席 100人程度 (固定席)

## 〔2〕 事 業

### 1 指定管理者による各施設の管理・運営

- ・新総合運動公園  
指定管理者 スポーツ青い森グループ
- ・総合運動公園  
指定管理者 スポーツ青い森グループ
- ・盛運輸アリーナ（県営スケート場）  
指定管理者 豊産管理(株)
- ・県武道館  
指定管理者 （公財）弘前市スポーツ協会

令和3年度に新総合運動公園(マエダアリーナ、カクヒログループアスレチックスタジアム等)、総合運動公園、盛運輸アリーナ(県営スケート場)及び県武道館で行われた主な大会等は、次の表のとおりである。

#### (1) 施設の利用状況

##### ① 主な大会等

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	・マエダアリーナ(メイン/サブ)	
	東日本剣道伝達講習会	4月10日
	県中学校春季剣道選手権大会	4月17日
	令和3年度第21回青森県春季高等学校卓球選手権大会東青地区予選会	4月17日
	青森県特別支援学校技能検定・発表会第1回ワーキングチーム会議	4月22日
	B.LEAGUE青森ワッツホームゲーム 青森ワッツVS福島ファイヤーボンズ	4月23日～25日
	青森県中学校春季バドミントン選手権大会	5月1日～2日
	令和3年度青森県高等学校春季バスケットボール大会	5月7日～10日
	大型得点揭示機器保守点検及び取扱講習会	5月13日～14日
	令和3年度青森県高等学校新体操春季大会	5月14日
	令和3年度青森市小学生バレーボール錬成大会	5月16日
	UAゼンセン青森県支部第7回フットサル大会	5月19日
	青森県高体連卓球東青地区予選会	5月22日
	青森市社会人卓球リーグ(前期)	5月23日
	青森県フットサルリーグ兼チャレンジマッチ	5月23日
	第3回AOMORI VENUS CUP	5月29日
	第74回青森県高等学校総合体育大会/バレーボール競技	6月4日～7日
	青森県特別支援学校技能検定・発表会運営協議会及び伝達講習会	6月10日
	青森県高等学校体育連盟定通制総体卓球競技	6月12日
県下小学生剣道錬成会及び青麗杯・玄妙杯	6月13日	
青森県フットサルリーグ	6月13日	
令和3年度第72回青森市中学校体育大会夏季大会バスケットボール競技	6月19日～21日	
令和3年度第72回青森市中学校体育大会夏季大会卓球競技	6月19日～21日	
(株)トークス青森支社社員研修会	6月23日	

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県	第14回青森県民スポーツ・レクリエーション祭エアロビック競技	7月3日～4日
	第14回青森県民スポーツ・レクリエーション祭トランポリン競技	7月3日
	令和3年度天皇杯皇后杯全日本バレーボール選手権大会青森県予選会	7月10日
	青森県フットサルリーグ	7月11日
	ハンブーカップ	7月13日
	新日本プロレスSUMMER STRUGGLE 2021	7月13日
	青森県特別支援学校技能検定・発表会第2回ワーキングチーム会議	7月14日
	令和3年度第72回青森県中学校体育大会夏季大会バレーボール競技	7月16日～18日
	第2回「盲導犬育成支援 ASKカップミニバスケットボール大会」	7月22日～23日
	青森県私立高等学校バレーボール選手権大会兼東北私立高等学校バレーボール選手権大会青森県予選会	7月22日～24日
	第36回青森県トランポリン競技選手権大会	7月24日
	青森県フットサルリーグ	7月25日
	第9回未来ひらめき創造塾	7月28日～29日
	あおもりスポーツアカデミー事業「第1回育成プログラム及び認定証交付式」	7月30日～31日
県 総 合 運 動 公 園	第41回 全日本バレーボール小学生大会 青森県大会	8月1日
	第32回全国産業教育フェア青森大会「第2回生徒実行委員会」	8月4日～5日
	令和3年度第50回東北中学校ハンドボール大会	8月7日～9日
	JFA全日本U-15フットサル選手権大会青森県大会	8月14日～15日
	バスケット大会夏	8月21日
	青森スポーツクリエイション株式会社	9月6日
	社会福祉法人和幸園大運動園	9月11日
	東北・北海道ブロックジュニア武術太極拳代表選考会	9月11日～12日
	JFA全日本U-15女子フットサル選手権大会青森県大会	9月11日～12日
	青森県特別支援学校技能検定・発表会第3回ワーキングチーム会議	9月15日
令和3年度第72回青森市中学校体育大会秋季大会バスケットボール競技	9月17日～20日	
令和3年度第72回青森市中学校体育大会秋季大会卓球競技	9月17日～19日	
JFA全日本フットサル選手権大会青森県大会	9月20日	
第29回青森県障害者スポーツ大会バレーボール競技の部	9月23日	
東北地区支部設立56周年記念式講演会	9月24日～25日	
第23回あおもりシニアフェスティバル「スポーツイベント」ラージボール卓球・なぎなた・剣道交流大会	9月26日	
第23回あおもりシニアフェスティバル「スポーツイベント」バウンドテニス交流大会	9月26日	
第14回青森県スポーツ・レクリエーション祭ユニバーサルホッケー競技	10月3日	
Aリーグ	10月10日	
第39回全国ジュニア新体操選手権大会東北ブロック予選会	10月16日～17日	
天皇杯・皇后杯2022年全国卓球選手権大会(ジュニアの部)青森県予選会	10月23日	
第71回青森県高等学校秋季ハンドボール選手権大会	10月29日～31日	
あおもりフットサルリーグ2021	10月31日	
社会福祉法人和幸園大運動会	11月2日	
第40回秋季選抜小学生バレーボール青森大会	11月3日	
第32回ナガセ杯東北レディースインドア大会県予選	11月4日	
第4回全日本社会人バスケットボール選手権大会東北ブロック予選	11月5日～7日	
令和3年度青森県一般男女6人制秋季バレーボール選手権大会	11月6日	

区分	行 事 名	期 間
新	あおりスポーツアカデミー事業「育成プログラム」(第2回)	11月7日
	B.LEAGUE青森ワッツホームゲーム 青森ワッツVS山形ワイヴァンズ・ファイティングイーグルス名古屋	11月9日～14日
	第24回青森県ユニバーサルホッケー選手権大会	11月14日
	第32回全国産業教育フェア青森大会フラワーアレンジメントコンテストプレ大会	11月17日
	令和3年度青森県高等学校新人バドミントン大会	11月19日～22日
	青森県フットサルリーグ	11月21日
	JFA全日本U-15フットサル選手権大会東北大会	11月27日～28日
	令和3年度あおりスポーツアカデミー事業 発掘プログラム(一次選考会)	11月27日～28日
	Aリーグ	11月28日
	第63回NHK杯青森県卓球選手権大会	12月3日～5日
青	第19回青森県スポーツ少年団フェスティバルバレーボール競技会	12月11日
	JFAバーモンドカップ第3回全日本U-12フットサル選手権大会青森地区予選会	12月11日
	東京卓球選手権大会青森県予選会	12月18日～19日
	令和3年度 あおりスポーツアカデミー第3回育成プログラム【ラグビーフットボール】	12月18日
	青森国体ジュニア強化合宿	12月24日～25日
	B.LEAGUE青森ワッツホームゲーム 青森ワッツVS佐賀バルーンナース	12月24日～26日
	あおりフットサルリーグ2021	12月26日
	第57回青森県高等学校ソフトテニスインドア大会	12月26日～28日
	県下高校室内テニス大会	12月29日～30日
	令和3年度東青地区高等学校ソフトテニスインドア大会	1月6日～7日
森	第23回全国中学選抜卓球大会	1月8日
	JFAバーモンドカップ第3回全日本U-12フットサル選手権大会青森地区予選会	1月8日
	あおりフットサルリーグ2021	1月9日
	青森県室内ダブルステニス大会	1月16日
	第21回青森県選抜中学校インドアソフトテニス大会	2月5日～6日
	B.LEAGUE青森ワッツホームゲーム 青森ワッツVS香川ファイブアローズ	2月11日～13日
	あおりスポーツアカデミー事業「育成プログラム」(第5回)	2月11日
	JFAファミリーフットサルフェスティバル2021	2月12日
	青森市ジュニア卓球選手権大会及び青森市カブ・バンビ卓球大会	2月23日
	東青地区小・中学校ソフトテニス講習会(STEP1地域講習会)	2月23日
県	TAKUリーグ2021バスケットボール大会(2月)	2月27日
	B.LEAGUE青森ワッツホームゲーム 青森ワッツVS山形ワイヴァンズ	3月22日～26日
	・ テニスコート	
	令和3年度東青地区高等学校ソフトテニス春季大会	4月17日
	青森県シングルスソフトテニス選手権大会	4月18日
	青森県下高校春季テニス選手権大会中央地区予選会	4月24日～25日
	青森市民春季ソフトテニス大会	4月29日
	青森県ジュニア選手権	5月3日～5日
	第71回青森県高等学校ソフトテニス春季大会	5月7日～10日
	カトレア杯	5月12日
総	青森県マスターズテニス協会春季大会	5月13日
合		
運		
動		
公		
園		

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県	青森県小・中学生選手権	5月15日
	青森県ソフトテニス選手権大会	5月16日
	青森県春季シングルス選手権(男子A予選・本選)	5月16日
	青森県春季シングルス選手権(男女A・ベテラン男女本戦)	5月23日
	第16回青森県春季中学生ソフトテニス選手権大会	5月29日～30日
	桑名杯レディーステニス大会及びD杯	6月2日
	第43回全日本レディース青森県大会	6月3日
	第74回青森県高等学校総合体育大会 ソフトテニス競技	6月5日～8日
	prinselレディーストーナメント2021	6月9日
	第71回青森県高等学校定時制通信制総合体育大会 ソフトテニス競技	6月12日～13日
	令和3年度第72回青森市中学校体育大会 夏季大会	6月19日～22日
	第17回青森県レディースミズノカップ大会	6月24日
	青森県少年国体選手選考会 ダンロップジュニア選手権	7月3日～4日
	第14回青森県民スポーツレクリエーション祭 テニス・ソフトテニス競技	7月4日
	2021年度第8回よつばのクローバー大会(団体戦)	7月7日
	県 総 合 運 動 公 園	青森県国スポ最終予選会
第16回青森県ミックスダブルス・ソフトテニス大会		7月11日
ふれあい大会		7月12日
ピンクリボンレディーステニス大会		7月14日
第35回東北レディース県団体対抗戦第21回青森県予選会		7月18日～19日
青森オープンジュニアテニス大会		7月22日～23日
第16回青森県ジュニア・オープンソフトテニス大会		7月24日～25日
ファミリーエンジョイテニス		7月28日
青森県サマーカップジュニアテニス大会 U15		7月28日～29日
第19回北東北小学生選抜ソフトテニス研修大会		7月31日
第15回競技者育成プログラムStep3東北ブロック最終選考会	8月1日	
青森県ヨネックスカップジュニアテニス選手権	8月6日～7日	
北海道・北東北高校テニス選手権大会	8月8日～9日	
令和3年度青森市サマーカップ新人テニス大会	8月11日	
青森市シングルス・ソフトテニス大会	8月14日	
第71回東奥日報杯県下総合ソフトテニス選手権大会	8月15日	
青森県ジュニア夏季強化練習会	8月18日～19日	
第8回競技者育成プログラムU14シングルス・ソフトテニス大会 20面	8月21日	
青森市民クラブ対抗ソフトテニス大会	8月22日	
東北DUNLOP SRIXON県予選	8月22日	
ソニー生命カップ全国レディース青森県大会	10月6日	
第43回県下レディースルーセント杯選手権大会(団体戦)	10月7日	
東北春季ジュニア県予選	10月9日～10日	
青森県高等学校新人テニス選手権大会	10月13日～15日	
東北インドアジュニアダブルス選手権	10月16日～17日	
東北インドアダブルス選手権	10月17日	

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	・多目的運動場（旧アーチェリー場）	
	第51回 青森県少年サッカー大会 青森地区大会	5月15日～5月16日
	青森県あすなろリーグ 青森地区大会	6月5日
	青森県あすなろリーグ 青森地区大会	6月20日
	サッカー大会夏	8月29日
	・球技場	
	第23回日本フットボールリーグ（ホーム戦）	5月4～5日
	東北社会人サッカーリーグ	5月16日
	第23回日本フットボールリーグ（ホーム戦）	5月29日～30日
	第23回日本フットボールリーグ（ホーム戦）	6月12日～13日
	第23回日本フットボールリーグ（ホーム戦）	7月24日～25日
	第23回日本フットボールリーグ（ホーム戦）	9月3日～4日
	第14回青森県民スポーツ・レクリエーション祭 ターゲット・バードゴルフ	9月11日～12日
第23回あおりシニアフェスティバル「スポーツイベント」ターゲットバードゴルフ交流大会	9月25日～26日	
令和3年度第1回青森県特別支援学校総合スポーツ大会	9月27日～28日	
第101回全国高等学校ラグビーフットボール大会青森県予選会	10月20日～21日	
第23回日本フットボールリーグ（ホーム戦）	11月6日～7日	
・室内プール		
令和3年度青森県消防学校消防職員初任教育水難救助訓練	6月30日～7月1日	
青森県警察学校水難救助訓練	8月27日	
令和3年度青森県公立学校教員採用候補者選考試験第二次試験	9月25日	
・陸上競技場（主/補助）		
青森県春季陸上競技選手権大会	5月7日～9日	
第68回青森市小学校体育デーに係る実施要項説明会及びダンスねぶた講習会	5月11日	
青森工業高校徒歩遠足	5月20日	
第35回東青地区中学校春季陸上競技選手権大会	5月22日～23日	
第74回青森県高等学校総合体育大会兼第71回青森県高等学校校定時制・通信制総合体育大会陸上競技大会	5月27日～30日	
2021第23回JFLラインメール青森FCホーム戦	6月8日～9日	
全国障害者スポーツ大会陸上競技強化練習会	6月13日	
令和3年度第72回青森市中学校体育大会夏季大会陸上競技	6月19日～20日	
2021第23回JFLラインメール青森FCホーム戦	6月25日～26日	
JTU認定記録会スイムラン2021東北ブロック青森会場	6月26日	
全国小学生陸上競技交流大会青森県予選会	6月27日	
令和3年度青森県立青森工業高等学校運動会	7月2日	
全日本中学通信陸上競技青森県大会	7月3日～4日	
建設ICT施工講習会	7月6日～7日	
第23回日本フットボールリーグ（ホーム戦）	7月10日～11日	
全国障害者スポーツ大会陸上競技強化練習会	7月11日	
東奥学園高等学校体育祭	7月14日	

区分	行 事 名	期 間					
新	令和3年度第72回青森県中学校体育大会夏季大会陸上競技	7月17日～18日					
	令和3年度公益財団法人青森県スポーツ協会総合選手強化対策事業一般財団法人青森陸上競技協会2021年度中学校・高校合同夏季県内選抜強化合宿	7月21日～23日					
	第12回東青地区陸上競技選手権大会兼第40回青森県小学生交流陸上競技大会東青ブロック予選	7月24日～25日					
	全国障害者スポーツ大会陸上競技強化練習会	8月15日					
	2021年第23回JFLラインメール青森FCホーム戦	8月21日～22日					
	全国障害者スポーツ大会陸上競技強化練習会	8月22日					
	青森東高校体育祭	9月3日					
	青森県高等学校新人陸上競技選手権大会	9月10日～12日					
	令和3年度第72回青森市中学校体育大会秋季大会陸上競技	9月18日～19日					
	第23回あおもりシニアフェスティバル「スポーツイベント」グラウンド・ゴルフ交流大会	9月25日～26日					
青	2021年第23回JFLラインメール青森FCホーム戦	10月9日～10日					
	青森県立青森南高等学校運動会	10月15日					
	第101回全国高等学校ラグビーフットボール大会青森県予選会	10月20日～21日					
	青の煌めきあおもり国スポのダンス映像撮影	10月27日					
	青森県秋季陸上競技選手権大会	10月29日～11月1日					
	第100回全国高等学校サッカー選手権大会青森県大会準決勝および代表決定戦	11月2～3、6～7日					
	JAAFアスリート育成プロジェクトU13クリニック	11月3日					
	コトブキシーティング株式会社(撮影)	11月9日					
	田中家フォトウェディング撮影	11月10日					
	2021年第23回JFLラインメール青森FCホーム戦	11月13日～14日					
森	国体に向けた長距離強化練習会	11月27日～28日					
	青森ディスタンス冬季トライアル(国体強化長距離記録会)	12月11日					
	国体に向けた長距離強化練習会	12月12、18～19日					
	2021年度第1回冬季県内選抜強化練習会	12月18日～19日					
	青森県中体連陸上競技選抜練習会	12月26日					
	国体に向けた長距離強化練習会	1月8日					
	青森県中体連陸上競技選抜練習会	1月9日					
	2021年度第2回冬季県内選抜強化練習会	1月15日～16日					
	青森ディスタンス冬季トライアル(国体強化長距離記録会)	1月29日					
	2021年度第3回冬季県内選抜強化練習会	1月30日					
県	青森県中体連陸上競技選抜練習会	2月13日					
	青森ディスタンス冬季トライアル(国体強化長距離記録会)	2月19日					
	2021年度第4回冬季県内選抜強化練習会	2月26日～27日					
	青森ディスタンス冬季トライアル(国体強化長距離記録会)	3月19日					
	青森県中体連陸上競技選抜練習会	3月27日					
	・投てき、アーチェリー場						
	青森県春季陸上競技選手権大会	5月7日～9日					
	青森工業高校徒歩遠足	5月20日					
	第74回青森県高等学校総合体育大会兼第71回青森県高等学校定時制・通信制総合体育大会陸上競技大会	5月27日～30日					
	第74回青森県高等学校総合体育大会アーチェリー競技	6月4日～6日					
総	国民体育大会アーチェリー競技青森県予選会兼青森県アーチェリー記録会	7月3日～4日					
	合						
		運					
			動				
				公			
					園		



区分	行 事 名	期 間
新青森県総合運動公園	令和3年度公益財団法人青森県スポーツ協会総合選手強化対策事業一校財団法人青森陸上競技協会2021年度中学校・高校合同夏季県内選抜強化合宿	7月21日～23日
	青森県アーチェリー協会強化練習	7月24日～25日
	全国高等学校アーチェリー選抜大会第1回青森県予選会	7月29日～30日
	アーチェリー夏季選手強化講習会	7月31日～8月1日
	第29回青森県障害者スポーツ大会アーチェリー競技の部	9月4日
	青森県高等学校新人陸上競技選手権大会	9月10日～12日
	第23回あおもりシニアフェスティバル「スポーツイベント」グラウンド・ゴルフ交流大会	9月25日～26日
	全国高等学校アーチェリー選抜大会第2回青森県予選会	10月8日～9日
	青森県アーチェリー選手権大会	10月10日
	青森県秋季陸上競技選手権大会	10月29日～11月1日
青森県総合運動公園	・ 野球場	
	令和3年度青森地区高等学校野球大会	4月17日・24日・25日・29日
	北東北大学野球春季リーグ戦(主管大学:青森中央学院大学)	5月1日・3日
	令和3年度春季高等学校野球選手権大会 五所川原地区予選会	5月4日～5日
	令和3年度春季青森県高等学校野球選手権大会 青森地区予選	5月6日～9日
	第14回 青森県古希軟式野球大会	5月12日・6月9日・7月7日・21日
	北東北大学野球春季リーグ戦(主管大学:青森大学)	5月15日～17日
	第55回全国軟式野球大会青森県予選会	5月30日
	第38回 全日本少年軟式野球大会 青森県予選	6月5日～6日
	第34回JABA青森市長旗争奪野球大会	6月12日～13日
	令和3年度 第72回 青森市中学校体育大会 夏季大会 野球競技	6月19日
	令和3年度JA全農東北地区野球大会	7月1日～3日
	第52回 青森県軟式野球大会(小学生の部)青森支部予選会	7月3日
	第3回 青森県スーパーエイジ野球大会	7月5日
	エービッツ旗学童親善野球大会	7月10日～11日
	第52回 青森県少年軟式野球大会(中学生の部)青森県大会	7月24日～25日
	文部科学大臣杯第13回全日本少年春季軟式野球大会兼第19回東北少年軟式野球新人大会青森支部予選会	7月31日・8月1日
	令和3年度 秋季青森地区高等学校野球大会	8月8日・9日・14日・15日・19日・20日
	北東北大学野球秋季リーグ戦(主管大学:青森大学)	8月21日～23日
	令和3年度秋季青森県高等学校野球選手権大会 青森地区予選	8月27日～30日
	令和3年度秋季青森県高等学校野球選手権大会 五所川原地区予選	9月1日～2日
	令和3年度秋季青森県高等学校野球選手権大会 青森地区予選	9月3日～6日
	令和3年度秋季青森県高等学校野球選手権大会 青森県大会	9月11日～16日
	令和3年度第1回E・J旗争奪学童野球大会	9月18日～20日
	青森市審判クラブ旗野球大会	9月23日・25日・10月2日
	中学3年NAXTチャレンジカップ	9月26日
	令和3年度 秋季青森県高等学校野球選手権大会 五所川原地区予選	10月4日～6日
2021MLBドリームカップ全国軟式野球大会東北大会	10月9日～10日	
令和3年度青森地区高等学校野球連盟新人研修会青森地区大会	10月16日～17日	
第5回 CBS少年軟式野球「6年生選抜」青森県予選会	10月30日～31日	
青森市軟式野球連盟理事長杯争奪少年軟式野球大会	10月24日・11月3日	

区分	行 事 名	期 間
青森県総合運動公園	令和3年度 青森地区高等学校野球連盟 親善野球大会	11月6日
	・水泳場	
	第74回青森県高等学校選手権水泳競技大会・第69回東北高等学校選手権水泳競技大会県予選会	6月18日～20日
	青森県選手権水球競技大会	6月26日～27日
	令和3年度第72回青森県中学校体育大会夏季大会水泳競技 青森県選手権水泳競技大会	7月16日～18日 7月31日・8月1日
盛運輪アリーナ（県営スケート場）	インラインスケートリンクオープン・オープンイベント	4月24日～25日
	第76回国民体育大会スポーツクライミング競技青森県予選大会	4月25日
	スポーツクライミングリード講習認定会	4月～8月
	ジュニアインラインホッケー教室（自主事業）	4月～8月
	インラインホッケー大会	4月～8月
	インラインスケート短期スクール全8コース	5月～8月
	ボルダリング初心者講習会・チャレンジカップ	7月31日
	Housan Cup インラインホッケー大会	8月4日～12日
	インラインスケートフェスタ	8月22日
	THE RAMPAGE from EXILE TRIBE	8月26日～29日
	アイススケートリンクオープン	11月13日
	スポーツクライミングデー（自主事業）	11月13日
	アイススケートリンクオープンイベント	11月14日
	Housan Cup アイスホッケー大会	11月23日～27日
	ジュニアアイスホッケー教室（自主事業）	11月～1月
	アイススケートスクール全10コース	12月
	第36回市内クラブ対抗アイスホッケーリーグ戦	12月7日～22日
クリスマスイベント	12月25日	
中・長距離陸上教室（自主事業）	12月～1月	
新年オープンイベント（自主事業）	1月2日～3日	
第71回全国高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会 フィギュアスケート競技	1月17日～21日	
青森県武道館	弘前地区防犯協会（弘前地区春の安全・安心まちづくり推進大会）	4月20日
	弘前卓球協会(全日本卓球選手権大会ホープス・カップ・パンピの部弘前地区予選会)	4月25日
	青森県空手道連盟（第46回青森県少年空手道大会、第21回全日本少年少女県予選会、第28回全国中学校大会県予選会)	5月1日～2日
	弘前卓球協会（全国ホープス卓球大会弘前地区予選会）	5月3日
	弘前市バスケットボール協会中学校（U15）部会(令和3年度弘前地区中学校春季バスケットボール大会)	5月4日～5日
	青森県高体連弓道専門部中弘南黒地区（令和3年度春季県下高等学校弓道大会)	5月8日～9日
	青森県バレーボール協会専門部（令和3年度青森県高等学校春季バレーボール選手権大会)	5月8日～10日
	青森県高等学校体育連盟（第74回青森県高等学校総合体育大会相撲競技)	6月4日～6日
	青森県高等学校体育連盟（令和3年度青森県高等学校総合体育大会バドミントン競技)	6月4日～7日
	青森県高体連弓道専門部（令和3年度青森県高等学校総合体育大会弓道競技)	6月4日～7日
	弘前地区中学校体育連盟（令和3年度第75回弘前地区中学校体育大会夏季大会バスケットボール競技)	6月12日～13日
弘前公共職業安定所（令和4年3月新規高等学校卒業予定者企業説明会)	7月8日	

区分	行 事 名	期 間
青 森 県 武 道 館	県大会実行委員会（県中体連）（第72回青森県中学校体育大会夏季大会バドミントン競技）	7月16日～18日
	青森県体協協会（令和3年度青森県ジュニア新体操選手権大会兼全日本ジュニア新体操選手権大会東北ブロック青森県予選会）	7月24日～25日
	青森県小学校バドミントン連盟（第22回青森県小学校バドミントン選手権大会）	7月31日～8月1日
	青森県立八戸工業高等学校（令和3年度青森県競技力向上対策本部強化拠点校活動支援事業（卓球競技））	8月2日～3日
	青森県中学校体育連盟（第42回東北中学校バドミントン大会）	8月7日～9日
	青森県教育庁スポーツ健康課（楽しさアップ！子供の健康づくり事業体育の楽しさアップ研修会）	8月16日
	株式会社マイナビ（あおもり新・農業者フェア）	8月20日
	青森県卓球連盟（JOCジュニアオリンピック2021年全国卓球選手権大会（カデットの部））	8月27日～28日
	弘前卓球協会（青森県小学校卓球選手権大会弘前地区予選）	8月29日
	弘前市中学校長会（青森県U15バスケットボールリーグ2021-22[弘前・南地区リーグ]）	10月15日～17日
	青森県高体連弓道専門部（令和3年度秋季県下高等学校弓道大会）	10月22日～23日
	青森県競技力向上対策本部（令和3年度あおもりスポーツアカデミー事業「発掘プログラム」）	10月23日～24日
	青森県高体連弓道専門部（令和3年度秋季県下高等学校弓道大会）	10月23日～24日
	ディー・テック・プロモーション（新日本プロレス（Road to POWER STRUGGLE））	10月29日
	全日本幼児教育連盟（幼児音体フェスティバル2021弘前会場）	11月2日
	青森県高体連空手道専門部（令和3年度青森県高体連空手道専門部秋季大会）	11月6日～7日
	青森県総務学事課（「オールあおもり」進学相談フェア）	11月9日
	青森県バスケットボール協会（令和3年度青森県高等学校新人バスケットボール大会）	11月12日～14日
	青森県高等学校体育連盟相撲専門部（第74回青森県高等学校相撲新人大会）	11月13日～14日
	青森県武道館（令和3年度第11回青森県武道館小・中学生相撲大会）	11月20日
青森県柔道連盟（第50回青森県中学校新人柔道大会）	11月22日～23日	
小学生クラブ対抗実行委員会（青森県小学生クラブ対抗バドミントン大会）	11月29日	
青森県教育委員会（みんなが主役！スポーツで健康づくり事業 高齢者とのスポレク交流会）	12月6日	
弘前バレーボール協会（令和3年度弘前選抜小学生バレーボール大会）	12月12日	
青森県教育委員会（みんなが主役！スポーツで健康づくり事業高齢者とのスポレク交流会）	12月13日	

② 利用者数

(ア) 新総合運動公園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
メインアリーナ	3,150	7,262	7,747	3,668	2,740	0	2,541	8,940	10,284	2,636	150	300	49,418
サブアリーナ	2,605	4,994	7,434	4,678	2,373	0	2,486	4,251	7,930	1,562	0	0	38,313
プール	4,110	4,274	5,051	6,058	5,784	0	4,605	4,448	5,663	3,327	0	0	43,320
トレーニングルーム	4,681	4,843	5,477	5,043	5,345	0	4,397	4,795	5,726	3,609	0	0	43,916
庭球場	3,531	11,445	8,365	9,273	7,493	0	4,867	0	0	0	0	0	44,974
アーチェリー場	0	400	405	90	130	0	0	0	0	0	0	0	1,025
球技場	150	350	250	157	60	150	307	156	0	0	0	0	1,580
合宿所	151	596	257	484	520	68	80	205	166	138	0	0	2,665
陸上競技場	639	14,570	4,221	7,857	1,479	0	6,119	2,389	960	556	0	0	38,790
室内練習場	733	236	68	138	315	0	442	339	1,278	905	0	0	4,454
周回走路	765	452	403	202	359	0	346	680	1,778	1,226	0	0	6,211
陸上競技場 トレーニングルーム	446	463	466	387	555	0	484	423	699	367	0	0	4,290
補助競技場	154	11,585	2,456	6,708	889	0	4,313	1,479	0	0	0	0	27,584
投てき・ アーチェリー場	77	2,253	811	1,156	371	0	1,614	366	0	0	0	0	6,648
観客・見学	4,750	3,260	7,300	8,460	3,155	0	5,290	11,720	14,500	100	3,000	1,500	63,035
計	25,942	66,983	50,711	54,359	31,568	218	37,891	40,191	48,984	14,426	3,150	1,800	376,223

(イ) 総合運動公園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
陸上競技場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補助競技場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野球場	600	2,412	1,956	2,865	2,395	0	1,664	400	0	0	0	0	12,292
水泳場	0	0	1,231	3,126	2,091	0	0	0	0	0	0	0	6,448
計	600	2,412	3,187	5,991	4,486	0	1,664	400	0	0	0	0	18,740

## (ウ) 県営スケート場

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計	762	3,195	1,897	1,808	13,004	48	80	5,878	10,177	9,269	0	13	46,131

## (エ) 県武道館

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
主競技場	3,320	3,897	3,514	3,602	3,280	0	2,820	4,139	5,229	1,411	0	0	31,212
補助競技場	1,051	940	733	954	916	0	801	644	776	411	0	0	7,226
柔道場	931	877	569	760	833	0	708	913	888	477	0	0	6,956
剣道場	320	461	404	586	405	0	520	648	492	133	0	0	3,969
相撲場	0	0	125	3	1	0	0	227	10	0	0	0	366
近的弓道場	305	722	1,143	209	572	0	1,249	526	886	176	0	0	5,788
遠的弓道場	57	192	100	156	98	0	303	75	126	24	0	0	1,131
会議室	836	395	559	714	375	0	676	936	909	280	0	0	5,680
トレーニングルーム	1,868	1,840	1,782	1,923	1,859	0	1,569	1,710	1,681	780	0	0	15,012
合宿所	0	22	46	28	97	0	0	0	0	0	0	0	193
館内見学	0	0	35	26	0	0	0	0	0	0	0	0	61
計	8,688	9,346	9,010	8,961	8,436	0	8,646	9,818	10,997	3,692	0	0	77,594

## (オ) 過去3年間の利用状況

施設名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新総合運動公園	582,849	427,318	376,223
総合運動公園	97,215	12,707	18,740
県営スケート場	93,089	49,691	46,131
県武道館	120,419	84,319	77,594

## 2 スポーツ事業

### (1) 県民スポーツ関連事業

多様化するスポーツ・レクリエーション活動に対する県民ニーズに的確に対応し、「いつでも、どこでも、だれでも」が気軽に楽しめる生涯スポーツの普及振興を図るため、各種事業を実施した。

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
第14回青森県民スポーツ・レクリエーション祭	6月～11月	県内 7市5町1村	・対象 種目別大会参加者 ・内容 30種目別大会の開催	参加者 2,531名 関係役員 407名

※青森県民駅伝競技大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止

### (2) 競技スポーツ関連事業

本県競技力向上を図ることを目的として、指導者の資質向上やジュニア層の育成強化、県内外での強化合宿等をはじめとする各種競技力向上対策事業を実施した。

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
総合選手強化	通 年	国 内	・対象 国体正式41競技団体 ・内容 関係競技団体が実施する、国内における合宿に対する補助金交付	4,413名
中学生強化	通 年	県 内 外	・対象 中体連、関係競技団体 ・内容 中体連が実施する県内外における強化合宿に対する補助金交付	656名
高校生強化	通 年	国 内	・対象 高体連、指定高校及び関係競技団体 ・内容 高体連が実施する国内における強化合宿に対する補助金交付	1,218名
あおもりスポーツアカデミー事業	・発掘プログラム 10～11月 ・育成プログラム 年3回 ・選択プログラム 年1回	・発掘プログラム 県内3会場(青森市、弘前市、八戸市) ・育成プログラム マエダアリーナ ・選択プログラム 八戸市東体育館 青森県武道館 マエダアリーナ	①発掘プログラム ・対象 新体力テストA判定の小学4、6年生 ・内容 運動能力が高く優れた素質を有する選手を発掘するため、選考会を実施 ②育成プログラム ・対象 あおもりスポーツアカデミー生 174名(小5:40名、小6:33名、中1:32名、中2:35名、中3:34名) ・内容 スポーツ医・科学やトップアスリートを活用した講義、発達段階や競技特性に応じたトレーニングの実施 ③選択プログラム ・対象 小6・中3のアカデミー生 ・内容 中学校・高等学校進学以降にトップアスリートを目指す可能性のある最適な競技種目を選択できるように、選手・保護者との面談を実施	・発掘プログラム 219名 ・育成プログラム 延べ223名 ・選択プログラム 延べ9名

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
第 48 回 東 北 総 合 体 育 大 会	8月20日 ～22日 (主会期)	山 形 県 他	・対象 青森県代表選手・監督・本部役員 ・内容 代表選手・監督・役員を派遣する競 技団体等への補助金交付 ※一部競技が新型コロナウイルス感染症 の影響により中止	役員・ 監督・選手 548名
第 77 回 国 民 体 育 大 会 ( 冬 季 )	スケート・ アイスホッ ケー競技会 1月24日 ～30日	栃 木 県	・対象 代表選手・監督・役員 ・内容 代表選手・監督・役員を派遣する競 技団体等への補助金交付	役員・ 監督・選手 85名
	スキー競技会 2月17日 ～20日	秋 田 県		役員・ 監督・選手 65名
コ ー チ ス キ ル ア ッ プ 事 業	通 年	県 内 外	・対象 国体正式41競技団体 ・内容 若手指導者の育成と資質向上を図 るための指導者派遣事業、招聘事 業並びに公認資格の取得支援を行 う競技団体への補助金交付	指導者派遣 129名 トップレベル コーチ招聘 1,709名 資格取得支援 35名

※第76回国民体育大会（本大会）は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止

### (3) スポーツ科学関連事業

県民の健康・体力の増進、本県競技力の向上及び体育・スポーツ指導者の資質の向上を図ることを目的として、各種事業を実施した。

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
アスリート プログラム サ ー ビ ス	通 年	県スポーツ 学 科 セ ン タ ー ほ か	・対象 県民一般、県内外競技者 ・内容 体力、筋力、運動能力等の測定 運動フォームの撮影と動作分析 リコンディショニング 心理サポート	体力測定 1,509名 動作分析 671名 リコンディショニング 1,781名 心理サポート 1,156名
チ ャ ーム サ ポ ー ト 事 業	通 年	県 内	・対象 青森県高等学校体育連盟専門部から推薦を受けた高等学校の運動部 (24チーム) ・内容 ①体力測定分野からのサポート(6チーム) ・定期的な体力測定と測定データの 評価 ・評価に基づいたトレーニングプ ログラムの作成 ・作成プログラムによるトレーニ ング指導 ②動作分析分野からのサポート(6チーム) ・定期的・継続的なフォームの撮影と 動作分析 ・分析結果に基づく技術改善のため の情報提供	体力測定分野 6校 41回 延べ 436名 動作分析分野 6校 35回 延べ 386名 リコンディショニング分野 6校 49回 延べ 337名 心理サポート分野 6校 47回 延べ 694名

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
チ ャーム サポ ート 事 業	通 年	県 内	<ul style="list-style-type: none"> <li>③リコンディショニング分野からのサポート（6チーム） <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ傷害予防プログラムの作成と実施指導</li> <li>・テーピング・ボディケア等の指導</li> <li>・試合時におけるリコンディショニング指導</li> </ul> </li> <li>④心理サポート分野からのサポート（6チーム） <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定技法の実施と設定目標の見直し方の指導</li> <li>・リラクゼーション技法の講義と実習</li> <li>・イメージ技法の講義と実習</li> </ul> </li> </ul>	
ス ポーツ 科学センター チ ャーム サポ ート 指 導 懇 談 者 会	第1回 (7月8日) 第2回 (動画提供)	県スポーツ 科学センター ほか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象 チームサポート対象校顧問</li> <li>・内容 チームサポート事業におけるサポート内容の確認及び今後のサポートに向けた課題等についての意見交換</li> </ul>	第1回 25名 第2回 -名



## 6章 青森県立郷土館

### 〔1〕 施設・設備

(1) 所在地	青森市本町二丁目8番地14
(2) 敷地面積	3,847.64㎡
(3) 主要施設	
旧「青森銀行本店」部分	鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 1,123.40㎡
増築部分	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造） 地上3階、地下1階、塔屋2階 延床面積 6,483.43㎡
延床面積合計	7,606.83㎡
(4) 主要各室床面積	
展示室	常設展示室 8室 2,514㎡ 特別展示室 1室 487㎡
小ホール	1室 119㎡
収蔵庫	10室 853㎡
エントランスホール	267㎡
事務室等	3,366.83㎡

### 〔2〕 運営方針

#### 青森県立郷土館基本的運営方針

青森県立郷土館は、昭和48年に「ふるさとの過去を語り現在を考え未来を展望する」総合博物館として設置され、以来長きにわたり、県民が郷土に誇りをもち、夢や希望を感じられるよう、郷土に根ざした活動を行ってきました。

総合博物館としての当館の使命は、社会教育施設として資料収集・保存、展示、調査研究、教育普及などの活動を通して、本県の歴史や自然、文化などについて誰もが幅広い理解を得られるように支援することにあります。今後も広く県民の意見を取り入れ、経営資源を最大限に生かしながら、未来に向け、下記の博物館活動の充実に努めてまいります。

#### 1 資料の収集・保存

当館は、開館以来、一貫して郷土の歴史、民俗、産業、自然などに関する資料の収集・保存に努めています。県民・国民共有の財産である貴重な資料の収集・整理に努め、良好な状態で次の世代に継承していきます。

#### 2 展示

- (1) 収蔵資料の中からテーマごとに精選した資料を展示する常設展示室は、観覧者が分かりやすいよう資料や解説パネルを効果的に展示します。
- (2) 常設展示室に解説員を配置し、展示資料について分かりやすい解説や、説明資料の配布により、来館者の学習活動を支援します。

- (3) 調査研究の成果や県民の関心の高いテーマに関する資料を展示する特別展、民間事業者と連携した共催展など、多彩な展示活動を実施します。
- 3 調査研究  
収集資料に関する館内研究や館外調査を実施するほか、教育普及活動を一層充実させるための研究を進めます。
- 4 教育普及
- (1) 郷土館資料及び郷土についての講演会・講習会、観察会、体験活動などを実施します。
  - (2) 郷土館資料及び郷土に係るレファレンスサービスを行います。
  - (3) 学校の学習活動を支援する活動のほか、公共施設や福祉施設等を支援する活動も実施します。
- 5 連携・交流・情報発信
- (1) 県内外の博物館及び図書館等の社会教育施設、民間事業者等と積極的に連携・協力し、社会の要請に応える博物館として総合力を高めます。
  - (2) 国外の博物館や研究者との連携、訪日外国人旅行者の受入体制の整備など、博物館としての国際交流活動の充実を図ります。
  - (3) 郷土館の利用機会の拡大や調査研究の成果の普及に資するパンフレット、年報、展示図録、研究紀要等を作成し、県民の郷土理解の促進を図ります。
  - (4) 様々な広報・情報媒体を積極的に活用して郷土の歴史や文化を県内外に広く発信し、郷土館が行う博物館活動への一層の理解の促進を図ります。
- 6 施設管理
- (1) 来館者が安全・快適に利用できるよう、施設・設備の整備と管理を行います。
  - (2) 公共的な施設として、地震等の自然災害や火災等に備え、防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。
  - (3) ライフサイクルコストを勘案し、施設・設備の効率的維持管理を行います。

## 〔3〕 事 業

### 1 資料の収集・保存

調査研究・展示・教育普及に必要な資料を収集した。令和3年度は299点の増加となり、年度末時点における資料総数は99,805点となった。増加分を分野別にみると次のとおりである。

考古	増分	91点	(土器・石器・鉄製品資料)
歴史	増分	12点	(絵・版画資料)
自然	増分	196点	(コケ植物・はく製標本)

### 2 展示

令和2年10月から休館中のため、巡回展など館外での展示活動を行った。

#### (1) 巡回展

休館中における新たな取組として、県内各地を巡回して所蔵資料を紹介する巡回展「ふるさとの宝物―県立郷土館コレクション―」を開催した。

◇6月26日～7月25日 ごのへ郷土館(五戸町)

- ◇7月31日～8月29日 三沢市先人記念館（三沢市）
- ◇9月4日～9月26日予定（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）  
つがる市生涯学習交流センター「松の館」（つがる市）
- ◇10月2日～10月31日 六ヶ所村立郷土館（六ヶ所村）
- ◇12月3日～12月23日 平川市文化センター（平川市）

## (2) 連携展

県内博物館・資料館など館外の施設を会場として、郷土の歴史・文化・自然をテーマとした展示を次のとおり行った。

- ◇県民福祉プラザ（青森市）における連携展
  - 写真展「津軽の鬼たちの系譜」（5月1日～6月27日）
  - 写真展「連絡船の思い出」（2月1日～3月27日予定（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止））
- ◇常盤ふるさと資料館あすか（藤崎町）における連携展  
「岩木山と神々」（7月2日～8月1日）

## 3 調査研究

分野ごとに設定したテーマに基づき調査を実施した。

- (1) 考古分野「青森県出土考古資料の所在調査」（5年計画2年次目）  
県内外に所在する青森県ゆかりの考古資料について、文献等の記録類の調査を行った。
- (2) 自然分野「中南地域自然調査の補助調査」（2年計画1年次目）  
青森県中南津軽地域において、生物の分布状況や自然史の解明のための資料を得る目的で3年間行った「中南地域自然調査」の補充調査を計画し、同調査で得られた植物標本の整理作業を行った。
- (3) 歴史分野「青森県の交通史の調査」（5年計画4年次目）  
青森県を中心とした近世・近現代の交通の様相について、文献や実物資料等の関連資料の調査を行った。
- (4) 民俗分野「近現代における儀礼・習俗等の変容調査」（5年計画1年次目）  
近代の社会変化と現代の消費文化、観光などの社会的需要が民間の儀礼や習俗にどのような影響を与え、現在の形態を形成したのかについて調査を行った。
- (5) 美術分野「昭和から平成期の青森県関係の美術作品及び資料に関する調査研究」（5年計画1年次目）  
青森県の美術作品について、昭和・平成期の作品、作家、関連資料の調査を行った。
- (6) 産業・先人分野「産業・先人調査」  
青森県ゆかりの先人とりんご栽培について、資料調査及び情報収集を行った。
- (7) 教育普及分野「教育普及事業の調査研究」  
移動博物館や出前授業の内容の充実を図るため、教材研究やワークシート作成を行った。

## 4 教育普及

県民の郷土に対する理解を深めるため、各種講座・講演会などの実施と研究紀要・資料冊子などの刊行を行った。

- (1) 土曜セミナー  
一般を対象に、歴史・文化・自然に関わるテーマについて、ゲストキュレーターと当館職員が講演を行った。（実施回数4回）

(2) 体験教室・講演会等

参加型の体験教室や、巡回展の関連事業としての講演会などを開催した。

① 土曜セミナー特別講座「青森の達人」

第1回 ワークショップ「プリザーブドモスで作るテラリウム」

ハンドメイド作家 神幸代氏（8月7日）

第2回 ワークショップ「レッツトライ！ 津軽こぎん刺し」

こぎん刺し作家 佐藤陽子氏（9月25日予定（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止））

第3回 ワークショップ「あけび蔓細工の魅力」 あけび蔓工芸作家 竹内啓子氏

（2月12日予定（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止））

② 巡回展関連事業

講演「木村秀政とヒコークイ人生」（6月26日）

講演「三沢の大地の成り立ちと氷河時代の動物化石」（8月7日）

ワークショップ「化石レプリカ作り」（8月21日）

講演「松木満史の描いた軌跡」（9月11日予定（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止））

講演「亀ヶ岡遺跡出土品」（9月11日予定（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止））

体験活動「遮光器土偶レプリカに触ろう」（9月11日予定（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止））

講演「六ヶ所村年中行事—お盆の習俗—」（10月23日）

体験活動「手形足形付土製品レプリカに触ろう」（10月23日）

ワークショップ「ミニチュア土器・土偶づくり」（12月4日）

講演「はじめての忍者—津軽の忍びの実像を求めて—」（12月18日）

(3) 講師派遣事業

当館の学芸員を、各分野に関する講演会・学習会などへ講師として派遣した。（実施件数10件）

(4) 移動博物館

郷土館が収蔵している資料を県内の公共施設などに運び、展示・解説を行った。（実施件数7件）

(5) 自然観察会

一般を対象に、大地のつくりや動植物の観察などを通じて、自然界の不思議や仕組みについて考え、自然に親しみ、自然のすばらしさを学ぶ「自然観察会」を行った。

① 夏の自然観察会（7月18日）

五戸町 小渡平公園

② 秋の自然観察会（10月17日）

六ヶ所村 鷹架野鳥の里森林公園、猿子沢地内の露頭

(6) あおもり街かど探偵団

地域の歴史的建造物や街並みの歴史を探る街歩きツアーを実施した。

第1回 「青森市長島・古川地域と旧線路通り周辺の歴史」（7月3日）

第2回 「木造の街の歴史」（9月18日予定（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止））

(7) 博物館の仕事普及啓発事業

博物館活動や博物館資料への理解を深めるため、県内博物館職員を対象に3Dプリンタの活用事例などに関する講演会をオンラインで開催するとともに、当館の活動や資料解説などを掲載した小冊子を作成し関係機関に配布した。

(8) 出前授業

郷土館が収蔵している資料を県内の学校に運び、授業の中で実物資料の展示・解説を行った。(実施件数30件)

(9) こどものくに

夏休み・冬休み中の子どもの学習を支援し、博物館に対する興味関心を深めるため、体験活動やものづくりを中心としたイベントを実施した。

① 夏休みこどものくに

講義「縄文時代の青森の人々の暮らし」(8月1日)

ワークショップ「ミニチュア土器&土偶作り」(8月1日)

② 冬休みこどものくに

「冬休みづくりまわし大会」(1月9日)

〈出版物〉

『青森県立郷土館報』通巻48号

『青森県立郷土館研究紀要』第46号

『青森県立郷土館だより』第52巻1～2号(通巻180～181号)

『郷土館のモノ語り』No.9

巡回展「ふるさとの宝物—県立郷土館コレクション—」観覧のしおり

## 5 連携・交流・情報発信

(1) 東北地区博物館実務担当者会議

東北地区の6県立博物館が実務上の課題について意見交換する場として持ち回りで開催している担当者会議を、幹事館として開催した。

会議は、博物館活動においてオンライン会議システムを活用する場合の利点や課題を洗い出す趣旨から、オンライン開催とし、中泊町の旧家「宮越家」のオンライン視察も実施した。

(2) キョドチャンネル

在宅のままでも郷土館所蔵資料について楽しみながら知ることができるよう、動画投稿サイト・ユーチューブに開設している公式チャンネル「キョドチャンネル」に、新たに動画コンテンツを2本追加した。

キョドチャンネルでは、その特別編として、前年度に制作したショートドラマも期間限定で公開した。

## 6 施設管理

施設設備の現状を踏まえた老朽化対策の方策について、博物館としての機能、施設利用者の利便性、長期的な視点での経済性などの観点から総合的に検討した。

## [4] 利用状況

令和3年度利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	
開館日数		0	0	0	0	0	
展 示 事 業	常設展・特別展・移動展	小・中学生	0	0	0	0	0
		前年度	5	12	52	117	105
		対前年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		高校・大学生	0	0	0	0	0
		前年度	0	3	10	22	39
		対前年度	-	0.0	0.0	0.0	0.0
		一般	0	4,484	4,757	840	447
		前年度	29	35	196	350	433
		対前年度	0.0	12,811.4	2,427.0	240.0	103.2
	観覧者合計	0	4,484	4,757	840	447	
	前年度	34	50	258	489	577	
	対前年度	0.0	8,968.0	1,843.8	171.8	77.5	
	1日当たり観覧者数	-	-	-	-	-	
教 育 普 及 ・ ホ ー ル 利 用 事 業	教育普及事業	資料の調査研究利用	0	0	0	0	0
		レファレンス利用	57	53	50	55	57
		講演会等への参加	0	0	10	63	50
		出前授業等の館外活動	12	0	32	84	49
		計	69	53	92	202	156
	ホール利用	展示の観覧	0	0	0	0	0
		講習会等の参加	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0
	合計	69	53	92	202	156	
	前年度	52	44	103	232	159	
対前年度	132.7	120.5	89.3	87.1	98.1		
利 用 合 計	利用者合計	69	4,537	4,849	1,042	603	
	前年度	86	94	361	721	736	
	対前年度	80.2	4,826.6	1,343.2	144.5	81.9	
	1日当たり利用者数	-	-	-	-	-	

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
243	300	0	0	0	0	0	834
0.0	0.0	-	-	-	-	-	0.0
0	0	0	0	0	0	0	0
55	8	0	0	0	0	0	137
0.0	0.0	-	-	-	-	-	0.0
0	531	0	506	0	0	0	11,565
1,266	1,193	1,833	2,974	3,918	3,725	2,324	18,276
0.0	44.5	0.0	17.0	0.0	0.0	0.0	63.3
0	531	0	506	0	0	0	11,565
1,564	1,501	1,833	2,974	3,918	3,725	2,324	19,247
0.0	35.4	0.0	17.0	0.0	0.0	0.0	60.1
-	-	-	-	-	-	-	-
0	0	0	0	0	0	0	0
40	37	56	42	43	32	37	559
0	18	0	29	46	0	0	216
0	498	475	572	76	13	13	1,824
40	553	531	643	165	45	50	2,599
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
40	553	531	643	165	45	50	2,599
594	658	246	770	579	1,069	386	4,892
6.7	84.0	215.9	83.5	28.5	4.2	13.0	53.1
40	1,084	531	1,149	165	45	50	14,164
2,158	2,159	2,079	3,744	4,497	4,794	2,710	24,139
1.9	50.2	25.5	30.7	3.7	0.9	1.8	58.7
-	-	-	-	-	-	-	-

## 7章 青森県埋蔵文化財調査センター

### 〔1〕 施設

#### 1 埋蔵文化財調査センター

- (1) 所在地 青森市大字新城字天田内152-15
- (2) 敷地面積 17,955.29㎡
- (3) 主要施設
  - ア 新館 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 3,969.98㎡  
収蔵・展示室、第1-第4整理室、写場、図書閲覧室、多目的室等
  - イ 本館 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 1,819.56㎡  
一般収蔵庫、水洗い室、PEG含浸室、木製品前処理室、木製品・金属製品保管室、種子等保管・分析室、樹脂含浸錆び落し室、脱塩処理室、注記室、写真・スライド保管室、ネガアルバム保管室、実測図保管室等
  - ウ 体育館収蔵庫 鉄骨造 地上1階 床延面積 846.90㎡
  - エ 遺物乾燥室 軽量鉄骨造 地上2階 延床面積 129.60㎡

#### 2 六ヶ所収蔵庫

- (1) 所在地 六ヶ所村大字倉内字笹崎1066-1
- (2) 敷地面積 13,224.48㎡
- (3) 収蔵庫 木造 地上1階 延床面積 162.00㎡

#### 3 七戸収蔵庫

- (1) 所在地 七戸町舟場向川久保243-1
- (2) 敷地面積 8,760.00㎡
- (3) 収蔵庫
  - ア 南棟 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 2,386.00㎡
  - イ 西棟 鉄骨造 地上2階 延床面積 1,157.71㎡
  - ウ 東棟 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 668.70㎡
  - エ その他 機械室、物置

#### 4 大鰐収蔵庫

- (1) 所在地 大鰐町大字虹貝字中熊沢10-4
- (2) 敷地面積 17,128.00㎡
- (3) 収蔵庫
  - ア 南棟 鉄筋コンクリート造 地上5階 延床面積 3,591.85㎡
  - イ 西棟 鉄骨造 地上2階 延床面積 1,211.23㎡
  - ウ その他 受水槽室、倉庫



## 〔2〕 事 業

### 1 埋蔵文化財発掘調査

#### (1) 国道279号むつ南バイパス道路改築事業

◎むつ市 酪農(3)遺跡

〔所在地〕青森県むつ市大宇田名部字内田地区

〔調査期間〕令和3年6月15日(火)～令和3年11月26日(金)

〔調査面積〕1,500㎡

〔委託者〕青森県県土整備部(道路課)

〔調査結果〕検出遺構 縄文

環状列石1、捨て場1、配石遺構2、竪穴建物跡7、土坑80、  
焼土跡8、掘立柱建物跡の柱穴を含むピット356基等

出土遺物 縄文

土器、石器、土製品、石製品等 段ボール箱392箱

#### (2) 国道279号横浜北バイパス道路改築事業

◎横浜町 林ノ脇遺跡

〔所在地〕上北郡横浜町字太郎須田地区

〔調査期間〕令和3年5月11日(火)～令和3年10月8日(金)

〔調査面積〕2,000㎡

〔委託者〕青森県県土整備部(道路課)

〔調査結果〕検出遺構 縄文・平安

溝状土坑5、竪穴建物跡1、溝跡1

出土遺物 縄文・平安

石器、土師器、須恵器、鉄製品、鉄滓等 段ボール箱5箱

#### (3) 道の駅よこはまエリア地方創生拠点事業

◎横浜町 林ノ脇遺跡

〔所在地〕上北郡横浜町字太郎須田地区

〔調査期間〕令和3年5月11日(火)～令和3年6月30日(火)

〔調査面積〕1,500㎡

〔委託者〕青森県県土整備部(道路課)

〔調査結果〕検出遺構 縄文

溝状土坑4

出土遺物 縄文・平安

土器、土師器 段ボール箱1箱

#### (4) 常海橋銀線道路改築事業

◎青森市 樽沢村元(3)遺跡

〔所在地〕青森市浪岡大字樽沢字村元地区

〔調査期間〕令和3年5月11日(火)～令和3年7月16日(金)

〔調査面積〕 1,700㎡

〔委託者〕 青森県県土整備部（道路課）

〔調査結果〕 検出遺構 平安・平安以降

竪穴建物跡1、溝跡4、土坑1、柱穴28

出土遺物 縄文・平安

土器、石器、須恵器、土師器、鉄滓 段ボール箱1箱

## (5) 県道青森五所川原線道路改築事業

◎五所川原市 石田(2)遺跡

〔所在地〕 五所川原市大字飯詰字石田地内

〔調査期間〕 令和3年7月6日(火)～令和3年10月29日(金)

〔調査面積〕 1,500㎡

〔委託者〕 青森県県土整備部（道路課）

〔調査結果〕 検出遺構 平安

竪穴建物跡10、土坑19、井戸跡1、溝跡10、焼土遺構2、ピット62

出土遺物 平安

土師器、須恵器、金属製品、木製品 段ボール箱58箱

## (6) 新青森県総合運動公園整備事業

◎青森市 米山(2)遺跡

〔所在地〕 青森市大字宮田字米山地内

〔調査期間〕 令和3年5月11日(火)～令和3年8月20日(金)

〔調査面積〕 4,000㎡

〔委託者〕 青森県県土整備部（都市計画課）

〔調査結果〕 検出遺構 縄文・中世

竪穴建物跡4、竪穴遺構3、カマド状遺構5、

井戸跡を含む土坑44、溝跡3、溝状土坑2、

掘立柱建物跡を数棟含む柱穴群

出土遺物 縄文・中世

土器、石器、陶磁器、木製品等 段ボール箱46箱

## 2 刊行物

- (1) 舟場向川久保(2)遺跡 (青森県埋蔵文化財調査報告書第625集)
- (2) 焼畑(2)遺跡 (青森県埋蔵文化財調査報告書第626集)
- (3) 上野平遺跡 (青森県埋蔵文化財調査報告書第627集)
- (4) 吹越(2)遺跡 (青森県埋蔵文化財調査報告書第628集)
- (5) 法霊林遺跡 (青森県埋蔵文化財調査報告書第629集)
- (6) 米山(2)遺跡Ⅹ (青森県埋蔵文化財調査報告書第630集)
- (7) 研究紀要第27号

## 8章 三内丸山遺跡センター

### 〔1〕 施 設

特別史跡三内丸山遺跡と青森県総合運動公園の公園センターである縄文時遊館を合わせて教育機関「三内丸山遺跡センター」として平成31年4月に設置された。

- 1 所在地 青森市三内字丸山305
- 2 遺跡・ゾーン 42.2ha（開園面積33.3ha）うち、特別史跡範囲25.2ha
- 3 縄文時遊館
  - (1) 延床面積 10,385.37㎡（地階 1,464.71㎡、1階 8,474.82㎡、2階 445.84㎡）
  - (2) 構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建地下1階建
  - (3) 既存部分
    - ア 延床面積 7,347.96㎡
    - イ 主要各室
      - (ア) 1階 さんまるミュージアム(875㎡、約1,700点（うち重要文化財約500点）展示）、縄文シアター、体験工房等
      - (イ) 2階 会議室
  - (4) 増築部分
    - ア 延床面積 3,037.41㎡
    - イ 主要各室
      - (ア) 1階 企画展示室（245.91㎡）、展示準備室（70.04㎡）、ギャラリー（269.91㎡）、整理作業室（404.44㎡）等
      - (イ) 地階 一般収蔵庫（680.84㎡）、特別収蔵庫（194.19㎡）、撮影室等

### 〔2〕 運 営 方 針

#### 三内丸山遺跡センター基本的運営方針

三内丸山遺跡では、平成6年に保存・活用が決定されてから、発掘調査や研究を継続するとともに、遺跡の公開・活用に努めてきました。平成31年度（令和元年度）からは、県総合運動公園遺跡区域と埋蔵文化財センター縄文時遊館とで構成する教育機関「三内丸山遺跡センター」として設置され、遺跡の保存・管理体制が強化されることから、これまで以上に国内外から多くの人々が遺跡を訪れ、縄文の「むら」のたたずまいの中で、縄文文化を知り、体感し、親しむことができるよう、遺跡に関する調査・研究、保存、展示、教育普及などの活動の充実に努めて参ります。

#### 1 保存

- (1) 縄文時代における集落の全体像や生活、自然環境等とその変遷を具体的に解明することができる、日本を代表する縄文遺跡として評価され、特別史跡に指定された三内丸山遺跡を、次世代へ着実に継承するため、遺跡の適切な保存管理を実施します。
- (2) 質・量ともに豊富な三内丸山遺跡出土品は、縄文人の生活を理解する上で貴重な資料であり、適切な環境の下で保存します。

## 2 調査・研究

三内丸山遺跡の全体像の解明、保存・活用、整備の推進のため、遺跡の発掘調査や遺跡に関連する縄文文化の調査、遺跡や出土品、遺跡に関連する縄文文化等に関する研究を継続して実施します。

## 3 展示

- (1) 三内丸山遺跡及び縄文文化の価値や魅力の理解につなげるため、遺跡と展示室を一体として、それぞれの機能に応じた展示を行います。
- (2) 遺跡区域における復元建物や露出遺構等について、縄文のむらのたたずまいを体感・体験できる場として公開します。
- (3) 三内丸山遺跡出土品から精選した資料により、縄文人のこころや生活を体感できる常設展示（さんまるミュージアム）を行います。
- (4) 三内丸山遺跡や縄文文化に関わる県民の関心の高いテーマについて、各方面から資料を集めて展示する特別展など、多彩な展示活動を実施します。
- (5) これらの展示についての理解を深めるために、解説業務を実施します。

## 4 教育普及

三内丸山遺跡や縄文文化に関する体験学習や講座、出前講座、発掘調査報告会、縄文文化の体感・体験イベントなどを実施します。

## 5 情報発信

- (1) 三内丸山遺跡の価値や魅力の積極的な情報発信のため、リーフレット、展示図録、年報等を作成・配布します。
- (2) 様々な媒体を積極的に活用し、三内丸山遺跡及び縄文文化に関する理解の促進を図ります。

## 6 管理運営

- (1) 来場者が安全・快適に利用できるよう、施設・設備の整備と管理運営を行います。
- (2) 公共的な施設として、地震等の自然災害や火災等に備え、防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。
- (3) ライフサイクルコストを勘案し、施設・設備の効率的な維持管理を行います。

### 〔3〕 事 業

#### 1 調査研究

##### (1) 発掘調査（第45次調査）

ア 調査期間 令和3年5月11日～11月2日

イ 調査面積 約591㎡（遺跡北側287㎡、南の谷北側304㎡）

ウ 調査結果

第45次発掘調査は、第3期発掘調査計画の6か年目であり、以下の2点を課題として調査を実施。

○遺跡北側地区における2条の溝状遺構の規模、構造の詳細な把握

○南の谷北側の遺構分布状況の確認

〈検出遺構〉

遺跡北側では、溝状遺構の延伸部を確認するとともに、縄文時代と古代以降の土坑2基及びピット33基、古代以降の溝跡3条、埋設土器3基、性格不明遺構2基を検出。

南の谷北側では、古代の竪穴建物跡の壁溝2条、土坑4基、ピット17基、溝跡1条、掘立柱建物跡1基を検出。

〈出土遺物〉

段ボール箱約34箱分の縄文土器・石器・土製品・石製品等が出土。

##### (2) 関連遺跡調査

世界遺産「縄文遺跡群」の構成資産である、御所野縄文遺跡の調査を実施。

ア 調査期間 令和3年12月17日

イ 調査地 御所野縄文公園（岩手県一戸町）

ウ 調査成果等

・史跡整備

漆・クリなど縄文時代と共通する植生を残し、漆の利用や伐採実験などで活用している。遺構は、夏季は実物を露出展示しているが、冬季は土で埋め戻して養生している。史跡周囲はスギが生えているが、広葉樹の生長とともに徐々に伐採する予定である。

・展示

焼失家屋を床下に展示し、映像とともに、調査内容を紹介し、土屋根と判断した過程がわかるようにしている。館内では映像を多用し、プロジェクションマッピングも併用し、御所野のムラの四季等を表現している。

##### (3) 三内丸山遺跡特別研究推進事業

遺跡の全体像解明並びに円筒土器文化及び縄文文化に関する調査・研究を推進するため、三内丸山遺跡センターが実施する共同研究のほか、研究の公募を実施。

ア 共同研究

「円筒土器文化における集落の実態をさぐる」

特定非営利活動法人 三内丸山縄文発信の会

(ア) 第1回研究会議（令和4年1月8日）

北海道、青森県、秋田県、岩手県の遺跡から抽出した土坑墓及び埋設土器の属性から、時期と土坑墓の形態の傾向をまとめ、地域ごとの比較検討。

- (イ) 第2回研究会議（令和4年2月19日）  
円筒土器文化圏内の土抗墓及び埋設土器について地域ごとの比較検討。
- (ウ) 第3回研究会議（令和4年3月19日）  
今年度の成果及び次年度以降の研究テーマについて意見交換。

イ 個人研究

応募4件（採択0件）

(4) 遺跡環境調査

露出展示遺構の長期的な保存・公開に向けて、その具体的な対応を検討するための基礎的な資料として、覆屋内の気温・湿度等について定期的にデータを収集。

また、北の谷において有機質遺物の保全のため、地下水位と水質を測定。

(5) 三内丸山遺跡発掘調査委員会

遺跡に関する学術的な解明や継続的な発掘調査計画等の検討のため、専門家による委員会を開催。

ア 第1回発掘調査委員会（令和3年7月19日）

開催場所 三内丸山遺跡センター 2階会議室（第2回まで同じ）

検討内容 ・発掘調査について  
・特別研究推進事業について

イ 第2回発掘調査委員会（令和3年9月27日）

検討内容 ・発掘調査について  
・特別研究推進事業について  
・第4期発掘調査計画について

ウ 第3回発掘調査委員会（令和4年3月3日）

開催形式 オンライン開催

検討内容 ・発掘調査について  
・遺跡北端部の発掘調査成果について  
・特別研究推進事業について  
・第4期発掘調査計画について

(6) 発掘調査報告書の刊行

平成28年度から令和元年度まで発掘調査を行った遺跡北端部東側部分（第40次～43次発掘調査）について発掘調査報告書（三内丸山遺跡45）を刊行。

## 2 保存

(1) 遺構等の維持管理

公開している遺構の清掃を年16回実施し適切な維持・管理を行った。また、大人の墓の露出展示遺構面の保存処理を実施。

(2) 重要文化財修理事業

三内丸山遺跡の出土品で重要文化財に指定されたもののうち、貸出し回数の多いものについて専門的技術による保存修理を実施。（土器6点、骨角器6点）

(3) 三内丸山遺跡長寿命化事業

大型掘立柱建物長寿命化工事及び高床建物28号長寿命化工事、高床建物29号改修設計を実施。

- (4) 三内丸山遺跡保存活用推進協議会（令和4年3月17日）  
 開催場所 三内丸山遺跡センター 2階会議室  
 検討内容 ・令和3年度資産の保存・管理及び緩衝地帯の保全について  
 ・令和4年度資産の保全・管理及び緩衝地帯の保全（予定）について  
 ・保存・活用の取組について

### 3 展示

- (1) 三内丸山遺跡史跡整備事業  
 令和2年度に策定した「特別史跡三内丸山遺跡史跡整備基本設計」に基づき、環状配石墓・大人の墓・子供の墓等の実施設計及び北の谷・南の谷の整備工事を実施。
- (2) 三内丸山遺跡史跡整備検討委員会  
 ア 第1回三内丸山遺跡史跡整備検討委員会（令和3年7月9日）  
 開催場所 三内丸山遺跡センター 2階会議室（第2回も同じ）  
 検討内容 ・大人の墓、子供の墓の実施設計について  
 ・北の谷・南の谷の植栽整備について  
 イ 第2回三内丸山遺跡史跡整備検討委員会（令和3年9月22日）  
 検討内容 ・大人の墓、子供の墓の実施設計について  
 ・今後の植栽整備について
- (3) 常設展示事業  
 優品を展示している「縄文人のこころ」のコーナー（常設展示室内）のクロス張替を実施。

### 4 普及啓発

#### (1) 縄文体験学習

体験学習名	内 容	開催日	参加人数
発掘をしてみよう	遺跡で発掘調査を体験しました。	7月30日	15人
縄文のムラの箱庭を作ってみよう	ガラスの器の中に縄文のムラの箱庭を作りました。	8月21日	9人
釣り針を作ろう	鹿の角を使って釣り針を作り、魚を釣りました。	10月9日	9人
土偶のレプリカ作り	本物の土偶を使って、石膏でレプリカを作りました。	10月30日	7人
土器を作ろう	粘土を使って土器を作りました。	11月14日	10人

#### (2) 縄文学講座

内 容	講 師	開催日	参加人数
豊かな精神文化への発展、洗練された精神文化	岩 田 安 之（青森県教育委員会）	8月8日	17人
絆を強める交易	小笠原 雅 行（三内丸山遺跡センター）	10月2日	11人
自然資源の利用（森林資源）	能 城 修 一 （明治大学黒耀石研究センター）	10月16日	11人
縄文一万年史	根 岸 洋（東京大学大学院）	11月13日	15人
自然資源の利用（水産資源）	斉 藤 慶 吏（文化庁文化財第二課）	11月21日	26人

- (3) 特別史跡三内丸山遺跡報告会  
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、オンラインで動画を公開。  
(令和4年3月12日から三内丸山遺跡センター公式YouTubeサイトで公開)
- (4) 企画展
- ア 「イミテーション・ワールド」  
(ア) 開催期間 令和3年1月23日～5月30日  
(イ) 内 容 三内丸山遺跡の出土品をとおして縄文人のまねる行為を紹介。
- イ 「縄文人と数」  
(ア) 開催期間 令和4年1月22日～4月3日  
※1月24日～4月3日までは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催中止。  
(イ) 内 容 三内丸山遺跡の縄文人が、数をどのように考え、利用していたかを紹介。
- (5) 特別展「あおもりの縄文世界」
- ア 開催期間 令和3年7月17日～11月28日  
※9月1日～30日までは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催中止。
- イ 内 容 世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」から青森県の8遺跡を中心に縄文文化をわかりやすく紹介。
- 5 三内丸山遺跡の魅力に関する情報発信
- (1) 刊行物
- ア 三内丸山通信第74号、第75号  
遺跡に関する情報発信紙
- イ 特別史跡三内丸山遺跡研究紀要3  
令和2年度の成果を中心とした調査・研究の報告
- ウ 特別展「あおもりの縄文世界」ガイドブック  
特別展「あおもりの縄文世界」の展示内容解説
- エ 企画展「縄文人と数」パンフレット  
企画展「縄文人と数」の展示内容解説
- オ 特別史跡三内丸山遺跡リーフレット  
三内丸山遺跡・縄文時遊館観覧の案内
- カ 三内丸山遺跡ガイドブック  
三内丸山遺跡とその出土品について解説
- (2) 縄文体験イベント等の実施
- ア 縄文まつり  
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催中止。
- イ 出土品のレプリカ、縄文服及び写真貸出  
(ア) 出土品のレプリカ、縄文服  
延べ28件を貸出（出土品のレプリカ8件、縄文服24件）。  
(イ) 写真  
159件を貸出。
- ウ その他イベント  
・縄文ファッションショー  
令和4年3月13日(日) 三内丸山遺跡センター公式YouTubeサイトでLive配信。



(3) 三内丸山遺跡センター運営協議会

ア 第1回三内丸山遺跡センター運営協議会（令和3年6月23日）

開催場所 三内丸山遺跡センター 1階体験工房3（第2回も同じ）

検討内容 ・令和2年度事業実績等について  
・令和3年度事業計画等について

イ 第2回三内丸山遺跡センター運営協議会（令和4年3月17日）

検討内容 ・令和3年度事業実績等について  
・令和4年度事業計画（案）等について

6 縄文遺跡群の世界文化遺産登録に関連する取組

世界遺産登録関連の取組として、以下の事業の開催及び協力。

(1) 主催事業

ア 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録記念式典

日時 令和3年7月28日(木)

場所 三内丸山遺跡センター

内容 関係者によるくす玉開披及び近隣の小・中・高校生による横断幕の除幕を実施。

イ 世界文化遺産登録記念シンポジウム「世界遺産登録から未来へ～これからの三内丸山～」

日時 令和3年11月20日(土)

場所 ホテル青森

内容 ・基調講演「青森県の構成資産とその価値～三内丸山遺跡を中心に～」

青森県世界文化遺産登録推進室専門監 岡田 康博

・取組事例の紹介『世界遺産登録後の「百舌鳥・古市古墳群の取組」』

大阪府藤井寺市教育委員会文化財調査員 福田 英人

・パネルディスカッション「世界遺産登録から未来へ～これからの三内丸山～」

コーディネーター 青森県世界文化遺産登録推進室専門監 岡田 康博

パネリスト 文化庁文化資源活用課文化財調査官 鈴木 地平

文化庁文化財第二課文化財調査官 齊藤 慶史

大阪府藤井寺市教育委員会文化財調査員 福田 英人

三内丸山遺跡センター保存活用課長 小笠原雅行

・参加者 120人

ウ 三内丸山遺跡マスコットキャラクター「さんまる」世界文化遺産登録記念版

応募資格 県内の小中学生

応募総数 7,681点（小学生の部5,623点 中学生の部2,058点）



八戸市立柏崎小学校6年  
松浦 歩さんの作品



青森市立南中学校3年  
穂元 藍斗さんの作品

最優秀作品 小学生の部 八戸市立柏崎小学校 6年 松浦 歩さん  
中学生の部 青森市立南中学校 3年 穂元 藍斗さん

エ 三内丸山遺跡に係る世界遺産一覧表記載認定書（レプリカ）の設置

設置日時 令和3年12月17日(金)

設置場所 三内丸山遺跡センター常設展示室出口付近

内容 11月22日(月)、文化庁で各構成資産、各自治体へ世界遺産一覧表記載認定書（レプリカ）授与のためのオンライン記念式典を開催。

11月26日(金)、世界文化遺産登録推進室から受け取り、設置。

(2) 協力事業

世界遺産登録に向けて、企画政策部世界文化遺産登録推進室が開催している「縄文”体感”世界遺産講座」に当センター職員も参加。また、当センターから出土品を貸出。（全14回）

(3) 史跡境界標打設

特別史跡指定範囲を明示する史跡境界標を26本打設。

7 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、以下の取組を実施。

(1) リスク評価

「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン（令和2年5月14日付け公益財団法人日本博物館協作成）」に基づき、令和2年5月22日付けで作成した「三内丸山遺跡センターのリスク評価」を一部改正。

(2) 接触感染及び飛沫感染防止のための取組

ア 令和2年度から継続している取組

- ・館内への手指消毒液及び授乳室への除菌シートを設置
- ・清掃業者及び職員による館内・備品等の消毒を毎日実施
- ・職員・解説員のマスク・フェイスシールド等の着用及びボランティアガイドへのマスク・フェイスシールド等の着用を依頼
- ・アンケート、「ギネスに挑戦」テーブルの撤去、土器ハンズオンの中止
- ・休憩用椅子等の数量調整と間隔を保って利用することを表示
- ・既存のITガイドシステムのコンテンツの拡充及びアプリの導入
- ・券売機等へのキャッシュレス決済導入
- ・常設展示室内、企画展示室内、券売機前等への待機位置等及び進行方向を示すフロアマーカーを設置
- ・2次元コード（QRコード）を利用した展示解説の動画を提供
- ・各案内カウンター及び机上用アクリルパーテーションの設置

イ 令和3年度から変更した取組

- ・記念スタンプ、常設展示室内縄文服コーナー及び縄文ライブラリーの復活
- ・常設展示室の定時ガイド再開

(3) 集客施設としての対応

ア 来館者への体調管理、手指消毒、マスク着用等をお願い

イ ホームページ及び館内への注意事項掲示及びサイン表示

ウ 来館者及び職員への検温実施（赤外線カメラ、非接触式体温計の導入）

エ イベント参加者の連絡先等記録

オ 「COCOA」アプリインストールへの協力依頼の掲示

カ 団体等の適正人数での鑑賞のための取組（予約時の調整、ミュージアム等での誘導調整等）

#### 8 縄文時遊館の長寿命化

三内丸山遺跡外周柵、縄文時遊館らせん階段や縄文時遊館照明設備等の改修を実施。

### [4] 来館者数

令和3年度の来館者数は、93,327人である。

新型コロナウイルス感染症に関する青森県対処方針（青森県危機対策本部）を踏まえた臨時休館期間 令和3年9月1日～同年9月30日、令和4年1月24日～同年4月10日

展覧会等	来館者数
常設展等の来館者数	91,432人
内、常設展以外の各展覧会等の来館者数	
1 企画展「イミテーション・ワールド」 令和3年1月23日から5月30日まで（来館者数は4/1～5/30分）	11,572人
2 特別展「あおもりの縄文世界」 令和3年7月17日から11月28日まで	27,089人
3 企画展「縄文人と数」 令和4年1月22日から4月3日まで（来館者数は1/22、23分）	242人
4 縄文体験学習 令和3年7月、8月、10月（2回）、11月 計5回	50人
5 縄文学講座 令和3年8月、10月（2回）、11月（2回） 計5回	80人
視察等来館者数	1,895人
合 計	93,327人



---

---

**青森県の教育** ー令和3年度の実績ー

令和4年10月発行

編集 青森県教育庁教育政策課

発行者 青森県教育委員会

印刷所 ワタナベサービス(株)

---

---





